

# 宮前川流域の遺跡

南江戸桑田

大峰ヶ台6次・8次

北斎院

—本文編—

2005

松山市教育委員会

財団法人松山市生涯学習振興財團

埋蔵文化財センター

みやまえがわりゆういき  
**宮前川流域の遺跡**

みなみえんどうくわいた  
南江戸桑田  
おおみねがだい  
大峰ヶ台6次・8次  
きたぼくさいがん  
北斎院

—本文編—



2005

松山市教育委員会  
財団法人松山市生涯学習振興財団  
埋蔵文化財センター

## 序

本書は、昭和50年度から平成元年度までに、松山平野西部の大峰ヶ台丘陵と宮前川流域とで実施した4遺跡の埋蔵文化財の発掘調査報告書です。

大峰ヶ台丘陵南側の宮前川流域には、日本で初めて発見された大規模水利施設「堰」をもつ古照遺跡、水辺の祭祀巨木と多量の外来系土器を出土した宮前川遺跡など、川や海に関係する遺跡が多くみられます。また、宮前川の河口には、三津浜港があり、瀬戸内海の各地を結んでいます。

このように、宮前川流域の地域は、古代より松山平野の海の玄関口として役割を果たしてきています。

今回報告します南江戸桑田遺跡からは近世の墳墓群が発見され、さらに辻遺跡では二度調査を行い、中近世の集落跡を確認しました。これらの調査結果のなかで注目されるのは、多くの近世墓の検出で、桶棺の埋葬方法からは松山の地域色が認められました。

また、北斎院遺跡からは宮前川遺跡と同様な古墳時代初頭の外来系土器が出土し、宮前川遺跡が斎院地区に広く展開することが明らかになってきました。

こうした成果をあげることができたのは、関係各位の埋蔵文化財行政に対する深いご理解とご協力のたまものであり、厚く感謝申し上げますとともに、本書が、埋蔵文化財の調査研究の一助となり、ひいては文化財保護、生涯教育の向上に寄与できることを願っております。

平成17年3月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団  
理事長 中村時広

## 例　　言

1. 本書は、松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターおよび財団法人松山市生涯学習振興財团埋蔵文化財センターが、昭和50年・昭和63年・平成7年に松山市北斎院町・南江戸5丁目・朝日ヶ丘1丁目で実施した埋蔵文化財調査の報告書である。  
なお、報告は本文編と写真図版・分析編とに二分冊し、今回は本文編の一分冊目となる。
2. 本文中では遺構の呼称を記号化して記述した。竪穴式住居址：S B、土坑：S K、溝：S D、井戸：S E、柱穴：S P、性格不明遺構：S Xである。
3. 遺構の製図と遺物の実測・製図等は、栗田茂敏と梅木謙一の指示のもと、水口あをい、山下満佐子、平岡直美、大西陽子、西本三枝、丹生谷道代、多知川富美子、矢野久子、平岡華美、吉岡智美が行った。
4. 掲図の縮尺は縮尺値をスケール下に記した。測量図等の方位は磁北である。
5. 写真図版は、遺構の撮影は担当者と大西朋子が、遺物の撮影は大西朋子が担当し、図版作成は担当者と協議のうえ大西朋子が行った。
6. 本書にかかわる資料は、松山市埋蔵文化財センターで収納・保管している。
7. 本書の執筆は、栗田茂敏・梅木謙一・宮内慎一が行った。執筆に際しては、西尾幸則・田城武志・栗田正芳の各氏に多くの助言をうけた。  
また、松下孝幸先生（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長）には人骨の鑑定と修復を委託依頼した。その結果は、一部を第6章中に掲載し、詳細は二分冊目の写真図版・分析編で行う。紙上にて、感謝申し上げます。
8. 編集は、梅木謙一が行い、水口あをいが補助した。
9. 報告書作成データーは下記である。

印刷	オフセット印刷	175線	
用紙	本文	マットカラー	110kg
折込	90kg		
製本	アジロ綴じ		

## 本文目次

第1章 はじめに.....	[梅木] .....	1	
1. 調査・刊行に至る経緯	2. 刊行組織	3. 境界	
第2章 南江戸桑田遺跡.....	[梅木] .....	5	
1. 調査の経過	2. 1区の調査	3. 2区の調査	4. 小結
第3章 大峰ヶ台遺跡6次調査地.....	[栗田] .....	25	
1. 試掘調査	2. 遺構と遺物	3. 小結	
第4章 大峰ヶ台遺跡8次調査地.....	[梅木] .....	135	
1. 調査の経過	2. 層位	3. A区の遺構と遺物	
4. B区の遺構と遺物	5. 小結		
第5章 北斎院遺跡.....	[梅木・宮内] .....	149	
1. 調査の経過	2. 層位	3. 遺構と遺物	4. 小結
第6章 調査の成果と課題.....	[梅木] .....	175	
1. 大峰ヶ台丘陵東麓域での成果	2. 宮前川下流域での成果		

## 挿 図 目 次

第1章 はじめに	
第1図 調査地周辺の遺跡分布図（縮尺1：50,000）	3
第2章 南江戸桑田遺跡	
第2図 調査地位置図（縮尺1：1,000）	5
第3図 造構配置図（縮尺1：400）	6
第4図 1区土層図（縮尺1：80）	7
第5図 1区造構配置図（縮尺1：80）	8
第6図 1～4号墓測量図（縮尺1：20）	10
第7図 5・6号墓測量図（縮尺1：20）	11
第8図 7・8号墓測量図（縮尺1：20）	13
第9図 9・10号墓測量図（縮尺1：20）	14
第10図 11・12号墓測量図（縮尺1：20）	16
第11図 13～15号墓測量図（縮尺1：20）	17
第12図 墓出土遺物実測図（縮尺1：3）	18
第13図 墓出土銭貨拓本（縮尺1：2）	19
第14図 1区出土遺物実測図（縮尺1：3）	20
第15図 2区造構配置図・土層図（縮尺1：80）	21
第3章 大峰ヶ台遺跡6次調査地	
第16図 調査地位置図	26
第17図 試掘調査トレンチ配置図（縮尺1：1,000）	27
第18図 試掘調査出土遺物実測図(1)（縮尺1：2）	29
第19図 試掘調査出土遺物実測図(2)（縮尺1：3）	30
第20図 B調査区全測図（縮尺1：200）	31
第21図 B1区東西断面土層図（縮尺1：100）	33
第22図 B1区南北断面土層図（縮尺1：100）	34
第23図 B2区土層図（縮尺1：100）	35
第24図 B1区遺物出土状況（縮尺1：40）	37
第25図 B2区谷部遺物出土状況（縮尺1：40）	39
第26図 B1区第5層出土遺物実測図(1)（縮尺1：3・1：2）	43
第27図 B1区第5層出土遺物実測図(2)（縮尺1：3）	44
第28図 B1区第6層出土遺物実測図（縮尺1：3）	45
第29図 B1区第7層出土遺物実測図(1)（縮尺1：3）	46
第30図 B1区第7層出土遺物実測図(2)（縮尺1：3）	47

第31図	B 1区第7層出土遺物実測図(3) (縮尺1:3)	48
第32図	B 1区第7層出土遺物実測図(4) (縮尺1:3)	49
第33図	B 1区第7層出土遺物実測図(5) (縮尺1:3)	50
第34図	B 1区第7層出土遺物実測図(6) (縮尺1:3)	51
第35図	B 1区第7層出土遺物実測図(7) (縮尺1:3)	52
第36図	B 1区第7層出土遺物実測図(8) (縮尺1:3)	53
第37図	B 1区第7層出土遺物実測図(9) (縮尺1:3)	54
第38図	B 1区第7層出土遺物実測図(10) (縮尺1:3)	55
第39図	B 1区第7層出土遺物実測図(11) (縮尺1:3)	56
第40図	B 1区第7層出土遺物実測図(12) (縮尺1:3)	57
第41図	B 1区第7層出土遺物実測図(13) (縮尺1:3)	58
第42図	B 1区第7層出土遺物実測図(14) (縮尺1:3)	59
第43図	B 1区第7層出土遺物実測図(15) (縮尺1:3)	60
第44図	B 1区第7層出土遺物実測図(16) (縮尺1:3)	61
第45図	B 1区第7層出土遺物実測図(17) (縮尺1:3)	62
第46図	B 1区第7層出土遺物実測図(18) (縮尺1:3)	63
第47図	B 1区第7層出土遺物実測図(19) (縮尺1:3)	64
第48図	B 1区第7層出土遺物実測図(20) (縮尺1:3)	65
第49図	B 1区第7層出土遺物実測図(21) (縮尺1:3)	66
第50図	B 1区第7層出土遺物実測図(22) (縮尺1:3)	67
第51図	B 1区第7層出土遺物実測図(23) (縮尺1:3)	68
第52図	B 1区第7層出土遺物実測図(24) (縮尺1:3)	69
第53図	B 1区第7層出土遺物実測図(25) (縮尺1:3)	70
第54図	B 1区第7層出土遺物実測図(26) (縮尺1:3)	71
第55図	B 1区第7層出土遺物実測図(27) (縮尺1:3)	72
第56図	B 1区第7層出土遺物実測図(28) (縮尺1:2)	73
第57図	B 1区第7層出土遺物実測図(29) (縮尺1:2)	74
第58図	B 1区第6・7層出土遺物実測図 (縮尺1:3)	75
第59図	B 1区第9層出土遺物実測図(1) (縮尺1:3)	76
第60図	B 1区第9層出土遺物実測図(2) (縮尺1:3)	77
第61図	B 1区第9層出土遺物実測図(3) (縮尺1:3・1:2)	78
第62図	B 1区第7・8・9層出土遺物実測図 (縮尺1:3)	79
第63図	B 1区第9・10層出土遺物実測図(1) (縮尺1:3)	80
第64図	B 1区第9・10層出土遺物実測図(2) (縮尺1:3・1:2)	81
第65図	B 1区第11層出土遺物実測図(1) (縮尺1:3)	82
第66図	B 1区第11層出土遺物実測図(2) (縮尺1:3)	83
第67図	B 1区第11層出土遺物実測図(3) (縮尺1:2)	84
第68図	B 1区出土地点不明遺物実測図(1) (縮尺1:3)	85

第69図	B 1 区出土地点不明遺物実測図(2) (縮尺 1 : 3)	86
第70図	B 1 区出土地点不明遺物実測図(3) (縮尺 1 : 2)	87
第71図	B 2 区第9層出土遺物実測図(1) (縮尺 1 : 3)	88
第72図	B 2 区第9層出土遺物実測図(2) (縮尺 1 : 3)	89
第73図	B 2 区第9層出土遺物実測図(3) (縮尺 1 : 3)	90
第74図	B 2 区第9層出土遺物実測図(4) (縮尺 1 : 3)	91
第75図	B 2 区第9層出土遺物実測図(5) (縮尺 1 : 3)	92
第76図	B 2 区第9層出土遺物実測図(6) (縮尺 1 : 3)	93
第77図	B 2 区第9層出土遺物実測図(7) (縮尺 1 : 3)	94
第78図	B 2 区第9層出土遺物実測図(8) (縮尺 1 : 3)	95
第79図	B 2 区第9層出土遺物実測図(9) (縮尺 1 : 3)	96
第80図	B 2 区第9層出土遺物実測図(10) (縮尺 1 : 3)	97
第81図	B 2 区第9層出土遺物実測図(11) (縮尺 1 : 3・1 : 2)	98
第82図	B 2 区第9層出土遺物実測図(12) (縮尺 1 : 2)	99
第83図	B 2 区第9層出土遺物実測図(13) (縮尺 1 : 2)	100
第84図	B 2 区 S X 1・2 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	101
第85図	B 2 区 S X 3 出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3・1 : 2)	102
第86図	B 2 区出土地点不明遺物実測図(1) (縮尺 1 : 3)	103
第87図	B 2 区出土地点不明遺物実測図(2) (縮尺 1 : 3)	104
第88図	B 2 区出土地点不明遺物実測図(3) (縮尺 1 : 3・1 : 2)	105
第89図	C 調査区出土遺物実測図(1) (縮尺 1 : 3)	106
第90図	C 調査区出土遺物実測図(2) (縮尺 1 : 3)	107
第91図	C 調査区出土遺物実測図(3) (縮尺 1 : 3)	108
第92図	C 調査区出土遺物実測図(4) (縮尺 1 : 3)	109
第93図	C 調査区出土遺物実測図(5) (縮尺 1 : 2)	110
第94図	C 調査区出土遺物実測図(6) (縮尺 1 : 2)	111

#### 第4章 大峰ヶ台遺跡8次調査地

第95図	調査位置図 (縮尺 1 : 1,000)	136
第96図	A・B区土壙図 (縮尺 1 : 50)	137
第97図	A・B区遺構配置図 (縮尺 1 : 200)	139
第98図	A区遺構配置図 (縮尺 1 : 120)	140
第99図	掘立1測量図・出土遺物実測図 (縮尺 1 : 50・1 : 3)	141
第100図	掘立2測量図 (縮尺 1 : 50)	142
第101図	1・2号墓測量図・出土遺物実測図 (縮尺 1 : 20・1 : 3)	143
第102図	出土地点不明遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	
第103図	B区遺構配置図 (縮尺 1 : 120)	145
第104図	B区出土遺物実測図 (縮尺 1 : 3)	146

第5章 北斎院遺跡	
第105図 調査地位置図（縮尺1：1,000）	149
第106図 遺構配置図・遺物出土状況（縮尺1：100）	151
第107図 土層図（縮尺1：50）	
第108図 出土遺物実測図(1)（縮尺1：4）	153
第109図 出土遺物実測図(2)（縮尺1：4）	154
第110図 出土遺物実測図(3)（縮尺1：3）	157
第111図 出土遺物実測図(4)（縮尺1：3）	158
第112図 出土遺物実測図(5)（縮尺1：3）	159
第113図 出土遺物実測図(6)（縮尺1：3）	160
第114図 出土遺物実測図(7)（縮尺1：3）	161
第115図 出土遺物実測図(8)（縮尺1：3）	162
第116図 出土遺物実測図(9)（縮尺1：3）	164
第117図 出土遺物実測図(10)（縮尺1：3）	165

## 表 目 次

第1章 はじめに	
表1 調査地一覧	4
第2章 南江戸桑田遺跡	
表2 墓一覧	22
表3 墓出土遺物観察表 土製品・木製品	23
表4 墓出土遺物観察表 銭貨	24
表5 SE01出土遺物観察表 石製品	
表6 1区出土遺物観察表 土製品	
第3章 大峰ヶ台遺跡6次調査地	
表7 試掘調査出土遺物観察表 鉄製品	112
表8 試掘調査出土遺物観察表 土製品	
表9 B1区包含層出土遺物観察表 土製品	
表10 B1区包含層出土遺物観察表 石製品	
表11 B1区包含層出土遺物観察表 土製品	113
表12 B1区包含層出土遺物観察表 石製品	122
表13 B1区包含層出土遺物観察表 土製品	
表14 B1区包含層出土遺物観察表 石製品	123

表15	B 1 区包含層出土遺物觀察表 土製品	124
表16	B 1 区包含層出土遺物觀察表 石製品	125
表17	B 1 区包含層出土遺物觀察表 土製品	
表18	B 1 区包含層出土遺物觀察表 石製品	
表19	B 1 区出土地点不明遺物觀察表 土製品	
表20	B 1 区出土地点不明遺物觀察表 石製品	126
表21	B 2 区第 9 層出土遺物觀察表 土製品	
表22	B 2 区第 9 層出土遺物觀察表 石製品	131
表23	B 2 区 S X 出土遺物觀察表 土製品	
表24	B 2 区 S X 3 出土遺物觀察表 石製品	
表25	B 2 区出土地点不明遺物觀察表 土製品	
表26	B 2 区出土地点不明遺物觀察表 石製品	132
表27	C 調査区出土遺物觀察表 土製品	
表28	C 調査区出土遺物觀察表 石製品	134
第 4 章 大峰ヶ台遺跡 8 次調査地		
表29	掘立柱建物址一覧	147
表30	墓一覧	
表31	溝一覧	
表32	A 区出土遺物觀察表 土製品	148
表33	A 区出土遺物觀察表 石製品	
表34	B 区出土遺物觀察表 土製品	
第 5 章 北斎院遺跡		
表35	出土遺物觀察表 土製品	166
表36	出土遺物觀察表 石製品	174

# 第1章 はじめに

## 1. 調査・刊行に至る経緯

松山市教育委員会文化教育課（現、文化財課）は昭和50年度に北斎院町、昭和63年度と平成元年度に南江戸で宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。また、松山市総合公園建設に伴う事前調査を昭和63年度に行なった。発掘調査に至るまでの詳細は第2章以降の各調査報告で行い、ここでは遺跡名称について若干の解説をする。

昭和63年度に調査した大峰ヶ台遺跡6次調査地は調査時に「辻遺跡」、平成元年度調査の大峰ヶ台遺跡8次調査地は「辻遺跡2次調査」としていたが、両地点は埋蔵文化財包蔵地「33 大峰ヶ台弥生遺跡B・大峰ヶ台古墳群B」内にあり、既に包含地内で本格調査が行われ、遺跡名が決められていたので、今回の本報告では遺跡名称を先のように変更している。この件については、先に刊行された『大峰ヶ台遺跡II』（1998）のP4～5に遺跡一覧と位置図があり、参照していただきたい。

野外調査以降は、各調査担当者が整理作業を行い、平成16年度には本格的な報告書作成作業を実施した。この間では松山市教育委員会文化教育課、同文化財課、松山市立埋蔵文化財センターならびに財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターは互いに協力・支援し、作業の円滑化に努めた。

## 【文 献】

高尾和長編 1998 『大峰ヶ台遺跡II－9次調査－』 松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター

## 2. 刊行組織（平成17年3月31日現在）

松 山 市 教 育 委 員 会	教 育 長	土居 貴美
事 務 局	局 長	久保 浩二
企 画 官	石丸 修	
企 画 官	丹生谷博一	
企 画 官	仙波 和典	
文 化 財 課	課 長	篠原 忠人
（助）松山市生涯学習振興財團	理 事 長	中村 時広
事 務 局	局 長	三宅 泰生
事 務 局	次 長	石丸 允良
事 務 局	次 長	池田 政勝
埋蔵文化財センター	所 長	杉田 久憲
	専門監兼学芸係長	早瀬 忠幸
	次長兼調査係長	西尾 幸則
	管 理 係 長	岸本 照修
	調 査 員	栗田 茂敏
	調 査 員	梅木 謙一
	調 査 員	宮内 慎一
	調 査 員	大西 朋子（写真担当）

### 3. 環 境

#### (1) 立 地

松山市は、四国北西部、愛媛県の中央に位置し、西は瀬戸内海の瀬灘・伊予灘、北は高縄山塊（高縄半島）、南東部は四国山地に囲まれている。松山平野は、東西約20km、南北約17kmの広さをもつ三角状の沖積地帯である。平野中央には重信川・小野川、北には右手川・久万川・宮前川等が流れ、その流域には浸食と堆積による肥沃な土地が形成されている。また、平野には北から中央部に弁天山・岩子山・大峰ヶ台・土龜山・天山・星ヶ岡山などの独立丘陵がある。地質は、平野の南部に中央構造線がはしり、領家花崗岩類・変成岩類と和泉層群等が分布する（松山市 1992）。

今回報告する大峰ヶ台遺跡は平野の北西部にある独立丘陵に立地し、西方の伊予灘までは約3.5kmである。南江戸桑田遺跡と北斎院遺跡は大峰ヶ台丘陵の南を流れ、伊予灘の三津湾にそそぐ宮前川の中・下流域にあたり、沖積低地に立地する遺跡である。

#### (2) 歴史的環境（第1図）

大峰ヶ台丘陵と宮前川流域には多くの遺跡が存在している。低地部には集落跡、丘陵部には古墳群が展開する。

##### 先土器時代～繩文時代

これまでに、先土器時代の遺構・遺物は発見されていない。繩文時代資料は、遺構は未だ検出がないが、古照遺跡（栗山正芳 1996）の包含層で後期～晩期土器の出土が見られる。

##### 弥生時代

**前期：**前期末～中期初頭には、西側の弁天山丘陵上に環壕集落を形成する斎院鳥山遺跡（梅木 1994・作田 1998）がある。遺跡が立地する丘陵部分は、昭和の前半期に大きく削り取られ、遺構の一部を検出したにとどまる。

**中期：**斎院鳥山遺跡の直後、中期初頭～前葉には、斎院鳥山遺跡北東450mの宮前川遺跡別府地区（大滝雅嗣 1987）に集落が形成される。遺構は稀薄だが、出土品には分銅形土製品1点がみられる。同時期の集落資料は、松山平野でも数が少ない。中葉～後葉は、大峰ヶ台丘陵の山頂部で集落が形成され、いわゆる高地性集落に比定されている。分銅形土製品や土製勾玉等の出土がある。

**後期～古墳時代初頭：**終末期までの資料は明確でない。終末期になると、低地部の宮前川遺跡や津田中学校構内遺跡一円に集落が形成され、古墳時代初頭および前期まで継続する。宮前川遺跡の集落は北斎院地区と西山地区（西尾・栗田 1986）、および斎院鳥山遺跡（作田一耕 1998）からなり、これまでに住居址・溝・土器棺が検出されている。出土品は膨大で、多量の土器、骨角器、獸魚骨等があり、土器には近畿・吉備からの搬入品や近畿・山陰地方の土器を真似たものが数多くある。

##### 古墳時代

集落：4～5世紀には埋造構で著名な古照遺跡（松山市 1974）がある。古照遺跡で課題なのは、居住区域の発見である。6世紀代には弁天山丘陵裾部の津田中学校構内遺跡と、岩子山丘陵裾部の岩子山遺跡（作田一耕 1998）とに住居址があり、集落の形成が認められる。

墳墓：大峰ヶ台丘陵では前期～後期までの古墳が周囲を巡らす。前期初頭には北丘陵に朝日谷2号墳（梅木 1993）があり、前期後半～中期には西の丘陵頂部に大池東3・4・5号墳（高尾 1998）がある。後期には丘陵の多くの部分で古墳群が形成されている。

境 境



- 南江戸桑田遺跡
- 大峰ヶ台遺跡 6 次
- 大峰ヶ台遺跡 8 次
- 北斎院遺跡
- 宮前川遺跡別府地区
- 弁天山古墳群
- 斎院鳥山遺跡
- 岩子山古墳群
- 朝日谷 2 号墳
- 古賀遺跡

第1図 調査地周辺の遺跡分布図 (S = 1 : 50,000)

一方、宮前川の下流域にあたる弁天山丘陵上にも古墳が築造されている。前半期には、工事中発見・調査した弁天山古墳があり、箱式石棺を主体部にもち、石棺からは青銅鏡が2面出土している。なお、墳形は確認できていない。津田山古墳（西田栄 1986）からも箱式石棺と青銅鏡1面が検出されている。なお、この時期と目されている古墳に弁天山0号墳があるが、調査は踏査にとどまっている。後半期は、宮前川下流域の東西丘陵に御産所古墳群（森 光晴ほか 1976）・岩子山古墳群（名本二六雄 1975）・弁天山古墳群が形成され、岩子山古墳からは人物埴輪や馬形埴輪等が出土している。

### 古代～中世

古代には、大峰ヶ台丘陵の東麓に平安時代の澤庵寺がある。

中世には、北斎院地内遺跡（武正 1994）で15～16世紀の集落が展開し、区画溝・墓等が検出され、中世集落の状況が明らかになってきている。また、南斎院居北遺跡（中野良一 2004）では、50メートル四方の区画溝が検出され、当該期の居住構造の分かれる貴重な資料がある。

以上、大峰ヶ台丘陵と宮前川中・下流域の遺跡について簡単に触れたが、この地域には沖積低地が多く、調査数が少ないこともあり、各時代で判明しないことが多くある。

### 【文 献】

- 松山市 1992 『松山市史 第一巻』松山市史編集委員会  
 萩田正芳 1996 『古照遺跡 第8・9次調査』松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター  
 梅木謙一 1994 『斎院鳥山遺跡』『斎院の遺跡』松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター  
 作田一耕 1998 『斎院・古照』『愛媛県埋蔵文化財調査センター』  
 大滝智嗣 1987 『宮前川遺跡』『愛媛県埋蔵文化財調査センター』  
 西尾幸則・萩田茂敏 1986 『宮前川遺跡』松山市教育委員会  
 松山市 1974 『古照遺跡』古照遺跡調査本部・松山市教育委員会  
 西田 栄 1986 『津田山古墳』『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会  
 森 光亮・西尾幸則・沖野新一 1976 『御産所1号古墳』『雁成文化財発掘調査報告』松山市教育委員会  
 名本二六雄 1975 『岩子山古墳』松山市教育委員会  
 武正良浩 1994 『北斎院地内遺跡』『斎院の遺跡』松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター  
 中野良一 2004 『南斎院居北遺跡・東江戸薬師遺跡(2次調査)』『愛媛県埋蔵文化財調査センター』

表1 調査地一覧

遺跡名	現住所(松山市)	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間
南江戸桑田	南江戸5丁目770他・766他	2,881	1988年8月9日～同年10月12日
大峰ヶ台6次	朝日ヶ丘1丁目1376他	3,000	1988年5月11日～1990年2月28日
大峰ヶ台8次	南江戸5丁目1544-1他	1,096	1989年7月15日～同年7月31日
北斎院	北斎院町379-1・379-2	600	1975年6月18日～同年7月17日

## 第2章 南江戸桑田遺跡

### 1. 調査の経過

#### (1) 調査・報告の経緯 (第2図)

本調査は、駐車場建設に伴う事前の緊急調査である。対象地は複数の土地所有者からなり、2度に分けられて埋蔵文化財の確認願いが申請された。まず1988(昭和63)年5月に南江戸五丁目766番他の申請が松山市教育委員会文化教育課(以下、「文化財課」)に提出され、つぎに同年8月に南江戸五丁目770番他の申請が文化財課に提出された。申請地はいずれも松山市が指定する埋蔵文化財包蔵地『33 大峰ヶ台弥生遺跡A 大峰ヶ台古墳群A』と『34 朝美町遺跡(遺物包含地)(住居址)』内にあたり、周知の遺跡であり、遺跡の遺存やその範囲を確認するために試掘調査を実施した。その結果、申請地内には遺跡が遺存しており、文化財課は申請者と協議の上、遺跡の消失する範囲に対して本格的な発掘調査を行うこととした。



第2図 調査地位置図 ( $S = 1 : 1,000$ )

本格調査は昭和63年8月～同年10月に実施し、本格的な整理作業および報告書の作成は平成16年度に行った。なお、調査は複数の申請地と調査工程上から2区画に分け実施し、5月申請分を2区、8月申請分を1区と呼称し、報告においても個別に記載した。

## (2) 調査組織

調査地 松山市南江戸五丁目770、765-1、744-1、766、767-1

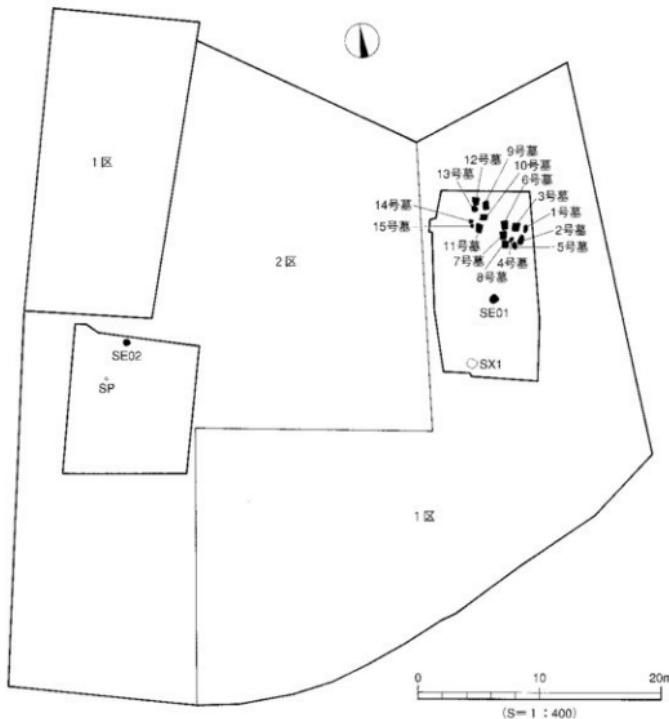
遺跡名 南江戸桑田遺跡

調査期間 昭和63年8月9日～同年10月12日

調査面積 2,881m<sup>2</sup>

調査担当 重松佳久（現、松山市公園緑地課）・丹下道一（退職）

調査協力 (有)寿企画計算センター・栗林慎八・和田信之・和田清重

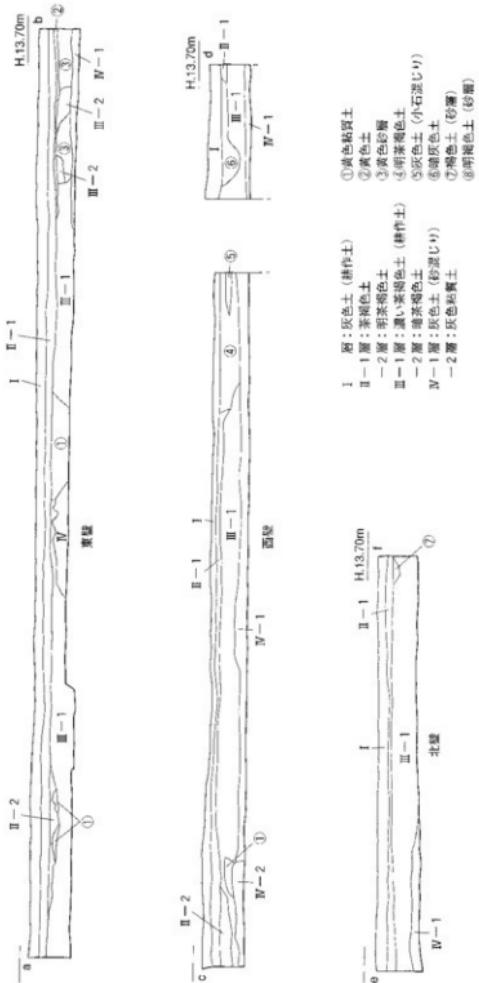


第3図 遺構配置図

## 2. 1区の調査

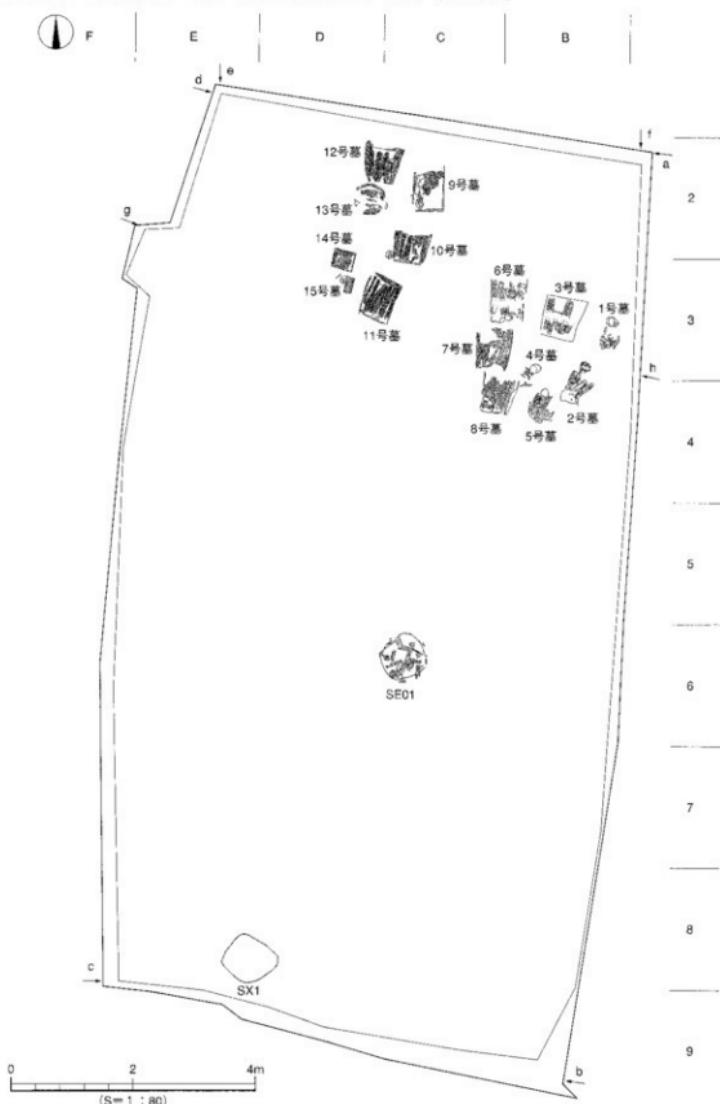
### (1) 層位 (第4図)

調査地は大峰ヶ台丘陵の南東麓にあり、標高13mに立地する。1区の基本層位はI層灰色土、II層茶褐色土、III層濃茶褐色土、IV層灰色土であり、II～IV層は色調や粘性で細分される。また、部分的に各種の土壤が堆積し、層位の複雑さは近接する宮前川の氾濫に起因する。



## (2) 遺構と遺物

検出遺構は墓15基、井戸1基、性格不明遺構1基である（第5図）。



第5図 1区遺構配置図

1) 墓：墓は調査区の北半部に集中しており、15基のうち12基で木棺が検出されている（表2）。

#### 1号墓（第6図、図版1・2）

1号墓は調査区の北東、グリッドB 3 にあり、遺存状況が悪い。検出入骨の長軸は頭位が北を指し、規模は長軸が51cm、短軸は30cmである。人骨は屈葬の状況にあり、漆器が出土している（第6図左最上段）。木棺・墓坑は未検出だが、当初からいかは定かでない。

#### 2号墓（第6図、図版2）

2号墓は調査区の北東、グリッドB 3～B 4 にある。棺材は遺存が悪いが、人骨は良好である。検出入骨の長軸は南北方位をとり、頭位は北東を指し、顔面が東を向く。規模は長軸が67cm、短軸は45cmである。人骨は屈葬の状況にあり、木棺痕跡と上師器片1点（第12図1）が出土している（第6図左中段）。墓坑は未検出であったが、当初からいかは定かでない。

#### 3号墓（第6図、図版3・4）

3号墓は調査区の北東、グリッドB 3 にある。棺材と人骨の遺存は良い。棺の長軸は南北方位をとり、人骨の頭位は北東を指し、顔面が西を向く。規模は長さ57cmで直径の長軸が57cm、短軸は44cm、土坑の深さは10cmである。人骨は屈葬の状況にあり、漆器（椀）、土師器片1点（第12図2）が出土している。第6図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

#### 4号墓（第6図）

4号墓は調査区の北西、グリッドB 3 にあり、遺存状況が極めて悪い。検出位置からは8号墓や5号墓と切り合い関係があると見られる。検出入骨の長軸は南北方位をとり、頭位は北東を指す。規模は長軸が34cm、短軸は33cmである（第6図左下段）。木棺は未検出だが、当初からいかは定かでない。

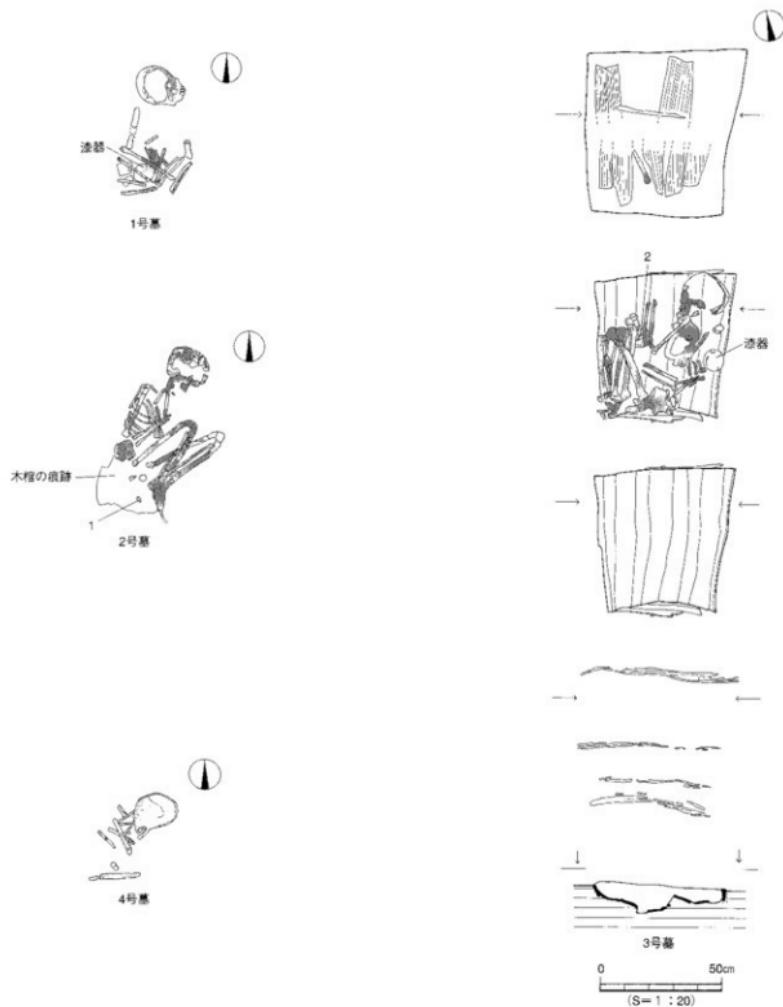
#### 5号墓（第7図、図版4～6）

5号墓は調査区の北西、グリッドB 4 にある。棺材と人骨は北半分の遺存が悪い。棺の長軸は南北方位をとり、人骨の長軸は頭位が北東を指し、（顔面が西を向く？）。規模は長さ40cmで直径の長軸が55cm、短軸は42cm、土坑の深さ13cmである。人骨は屈葬の状況にあったと見られ、漆器（椀）1点（図版5～2）が出土している。第7図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに入骨、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

#### 6号墓（第7図、図版6・7）

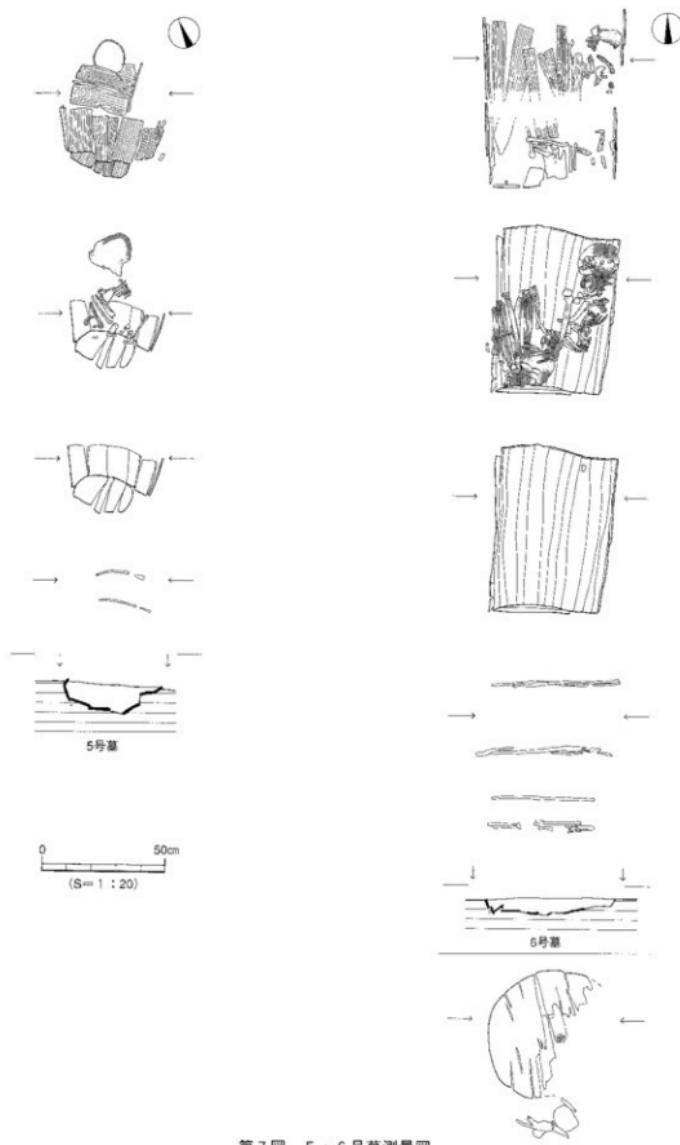
6号墓は調査区の北西、グリッドB 3 にある。棺材と人骨の遺存は良い。棺の長軸は南北方位をとり、人骨の長軸は頭位が北東を指し、顔面が西を向く。規模は長さ63cmで直径の長軸が57cm、短軸は50cm、土坑の深さは7cmである。人骨は屈葬の状況にあり、土師器片1点（第12図3）が出土してい

る。第7図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに入骨、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。最下図は桶棺の蓋とみられる木製品の出土状況である（検出順番不明）。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。



第6図 1～4号墓測量図

1区の調査



第7図 5・6号墓測量図

## 7号墓（第8図、図版7・8）

7号墓は調査区の北西、グリッドB 3～C 3にある。棺材の遺存は比較的良いが、人骨は乱れがある。棺の長軸は南北方位をとり、頭位は北を指し、顔面の向きは不明。規模は長さ62cmで直径の長軸が57cm、短軸は48cm、土坑の深さは7cmである。人骨は屈葬の状況にあり、土師器片2点（第12図4・5）、漆器（楕）（巻頭図版2-1）、銭貨6点（第13図24～29）、櫛が出土し、土師器は棺外で、それ以外は棺内出土である。銭貨は全て寛永通宝で、24・27の裏面には「文」が見られる。第8図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・漆器・楕、つづいて銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

## 8号墓（第8図、図版9・10）

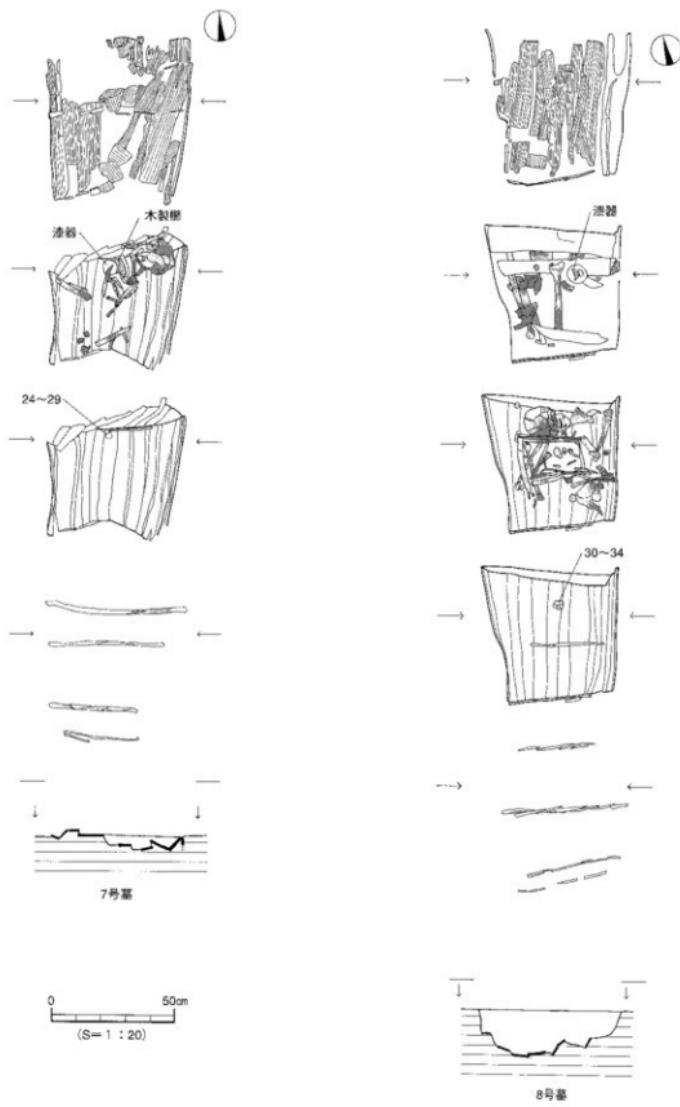
8号墓は調査区の北東、グリッドB 4～C 4にある。棺材と人骨の遺存は良いが、人骨に乱れがある。棺の長軸は南北方位をとり、頭位が北を指し、顔面が東を向く。規模は長さ57cmで直径の長軸が55cm、短軸は43cm、土坑の深さは19cmである。人骨は屈葬の状況にあり、漆器（楕）1点（巻頭図版2-2）、銭貨5点（第13図30～34）が出土し、遺物は全て棺内である。銭貨は寛永通宝4点、水楽通宝1点がある。第8図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに漆器・人骨、つづいて人骨、さらに銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

## 9号墓（第9図、図版10・11）

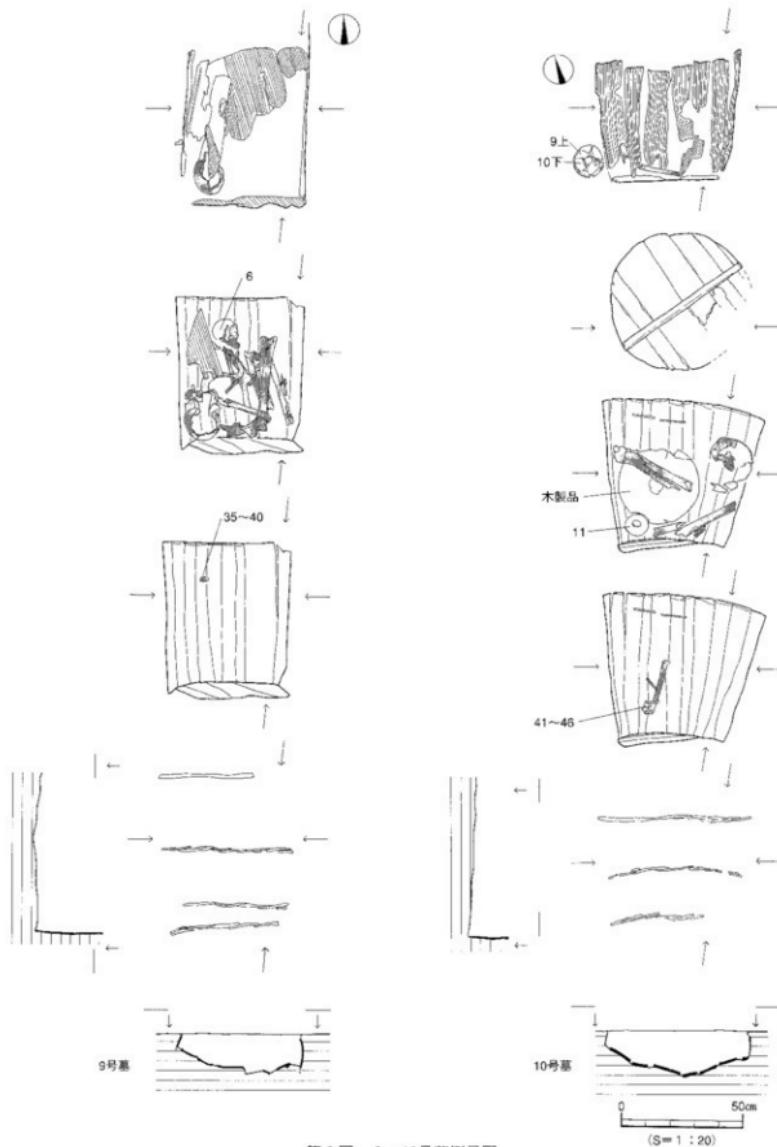
9号墓は調査区の北、グリッドC 2にある。棺材と人骨の遺存は良いが、頭蓋は動いている。棺の長軸は南北方位をとる。規模は長さ62cmで直径の長軸が53cm、短軸は47cm、土坑の深さは29cmである。人骨は屈葬の状況にあるが、頭蓋と体部骨が分かれて検出されている。体部の状況からは、頭蓋が南に動いたものと見られる。出土品は土器3点（第12図6～8）、銭貨6点（第13図35～40）があり、土器3点のうち完形の土師器皿6は棺内、7・8は破片で棺外から出土している。第9図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・土師皿、つづいて銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

## 10号墓（第9図、図版11・12）

10号墓は調査区の北、グリッドC 2～C 3にある。棺材の遺存はよいが、人骨の遺存は悪い。棺の長軸は南北方位をとる。顔面は検出時で西を向いている。規模は長さ60cmで直径の長軸が66cm、短軸は45cm、土坑の深さは28cmである。人骨は屈葬の状況にあるが、多くの体部骨がない。出土品は土器2点（第12図9・10）、漆器1点（第12図11）、木製品1点、銭貨6点（第13図41～46）があり、土器2点は棺外で、残りは棺内である。第9図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材と土師器、つぎに桶棺の蓋、つづいて人骨・漆器楕・盆状木製品、さらに銭貨・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。



第8図 7・8号基測量図



第9図 9・10号墓測量図

## 11号墓（第10図、図版13・14）

11号墓は調査区の北、グリッドC 3～D 3にある。棺材と人骨の遺存はよい。棺の長軸は南北方位をとり（やや東を向き）、顔面は西を向いている。規模は長さ62cmで直径の長軸が55cm、短軸は50cm、土坑の深さは30cmである。人骨は屈葬の状況にある。出土品は土器1点（第12図12）・漆器1点・木製品1点（巻頭図版2-3）があり、土器1点は棺外で、残りは棺内である。第10図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・漆器椀・円形木製品、つづいて桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

## 12号墓（第10図、図版14～16）

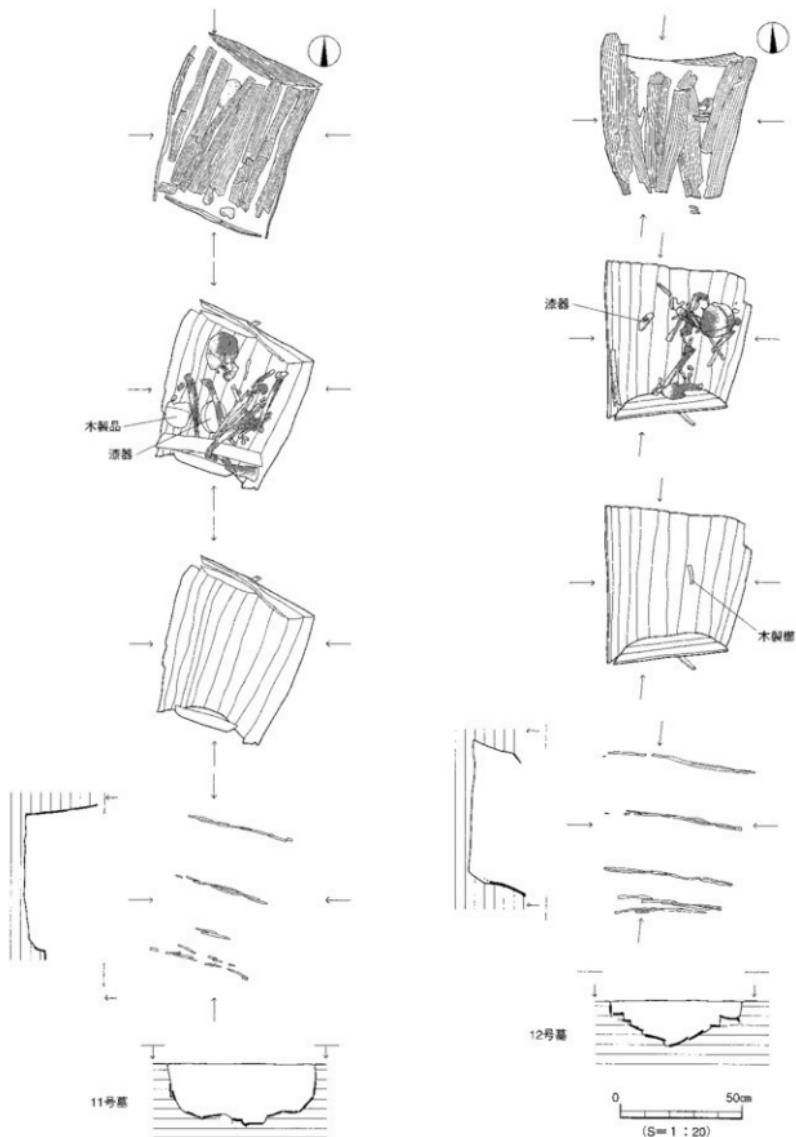
12号墓は調査区の北、グリッドC 2～D 2にある。棺材の遺存はよいが、人骨は乱れがある。棺の長軸は南北方位をとり、頭蓋は移動の可能性がある。規模は長さ65cmで直径の長軸が60cm、短軸は48cm、土坑の深さは25cmである。人骨は屈葬の状況にあると見られる。出土品は漆器1点・木製櫛1点（巻頭図版3-1・2）・銭貨6点（第13図47～52）があり、遺物は全て棺内である。銭貨は全て寛永通宝で、47の裏面に「文」が見られる。第10図右の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材、つぎに人骨・漆器椀、つづいて木製櫛・桶棺材、最後に桶棺のタガ材を検出している。この状況からは桶棺が横転して埋設されたことが復元される。

## 13号墓（第11図、図版16・17）

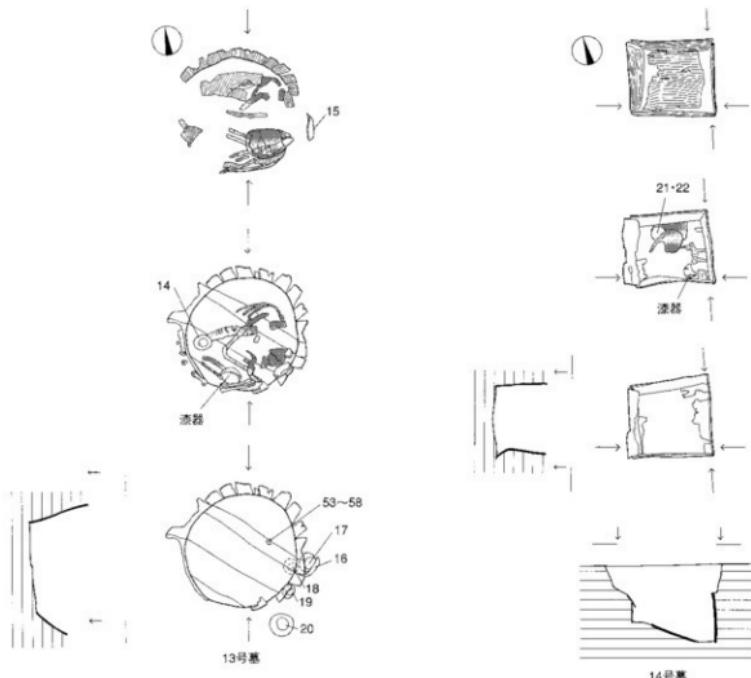
13号墓は調査区の北、グリッドC 2～D 2にある。棺材・人骨共に比較的遺存はよいが、人骨は乱れがある。検出の平面形状は円形で、顔面は西を向いて検出されている。規模は径45cm、土坑の深さは25cm（残存高）である。人骨は屈葬の状況にあると見られる。出土品は土師器8点（第12図13～20）・木製櫛1点・漆器1点・銭貨6点（第13図53～58）があり、このうち土師器片13は棺上、上師器14・木製櫛・漆器・銭貨は棺内、土師器15～20は棺外で出土している。銭貨は全て寛永通宝である。第11図左の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに桶棺材・人骨、つぎに人骨・土師器・漆器椀、最後に桶棺の底材・棺外土師器を検出している。この状況からは桶棺が立てられて埋設されたことが復元される。

## 14号墓（第11図、図版17・18）

14号墓は調査区の北、グリッドD 2～D 3にある。棺材は比較的遺存がよいが、人骨は遺存が悪い。検出の平面形状は正方形状で、規模は東西35cm、南北30cm、土坑の深さは32cmである。人骨の埋葬状況は分からぬ。出土品は土師器2点（第12図21・22）・漆器椀（巻頭図版3-3）があり、遺物は棺内で出土している。第11図右上段の検出状況図は最上段から調査の推移を示したもので、はじめに蓋を含む桶棺材、つぎに人骨・漆器椀・土師器、最後に桶棺の底材を検出している。この状況からは桶棺が埋設されたことが復元される。



第10図 11・12号墓測量図

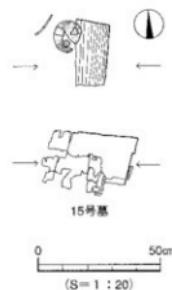


15号墓 (第11図、図版18)

15号墓は調査区の北、グリッドD 3にある。棺材・人骨共に遺存が悪く、南と西は試掘トレンチで削平されている。検出の平面形状は四角形状で、規模は東西35cm、南北27cmである(掘り方未検出)。人骨は頭蓋骨が検出されたに過ぎない。棺材と人骨以外に出土品はない。第11図右下段の検出状況図は上から調査の進移を示したもので、はじめに桶棺材・(人骨)、つぎに桶棺の底材を検出している。最終時検出の棺材にはタガの痕が見られるため、桶棺は横転して埋設されたことが復元される。

なお、第12図の23は墓出土の土師器であるが、整理段階でどの墓のものかが判断できなかつた資料である。

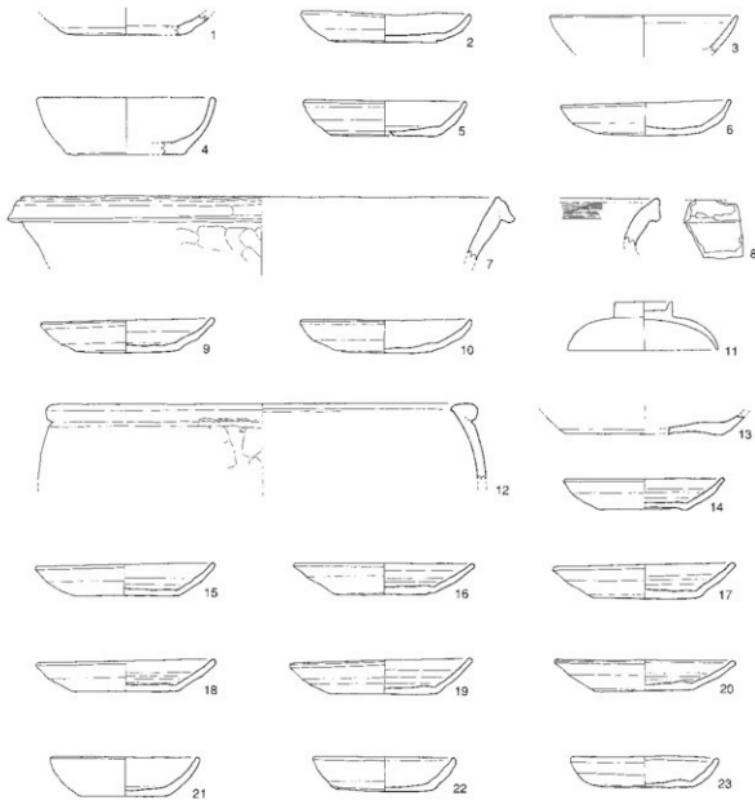
第11図 13~15号墓測量図



## 2) 井戸：井戸1基を検出している。

SE01(第5図、図版19)

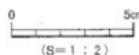
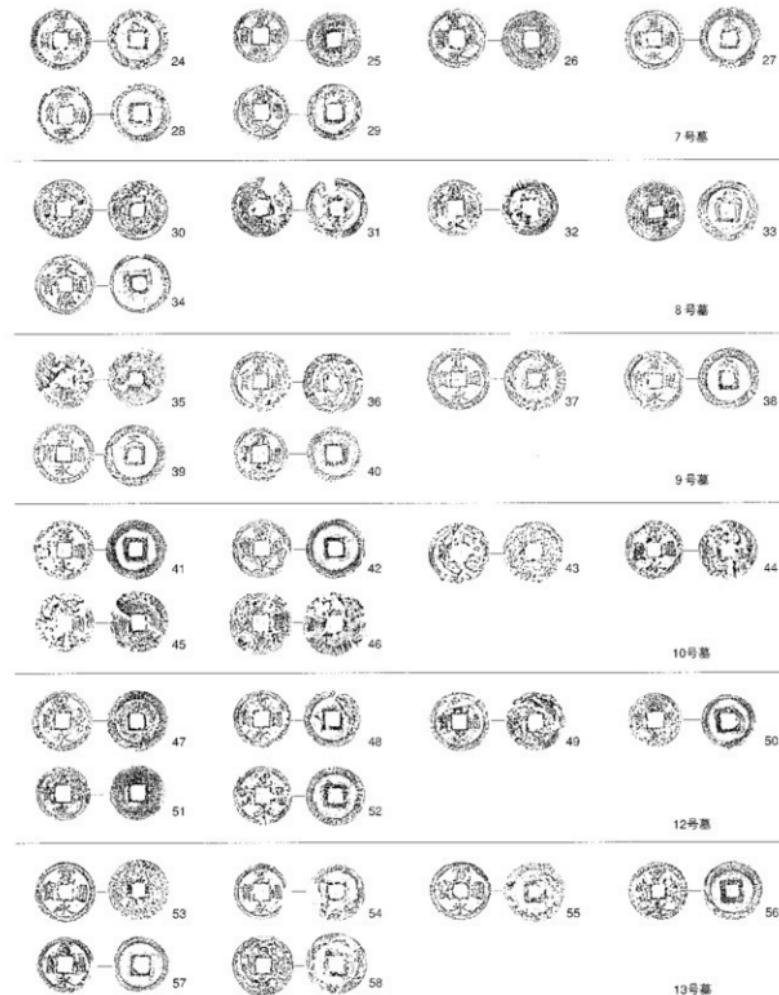
SE01は調査区の中央、グリッドC 6にある。平面形状は円形で、規模は径0.74×0.7mである。本質が散乱して検出されている。出土遺物は第14図59・60があり、59は緑色片岩製の男根状石製品である。60は陶磁器片で壺の肩部片である。時期は出土品から近世以降になる。



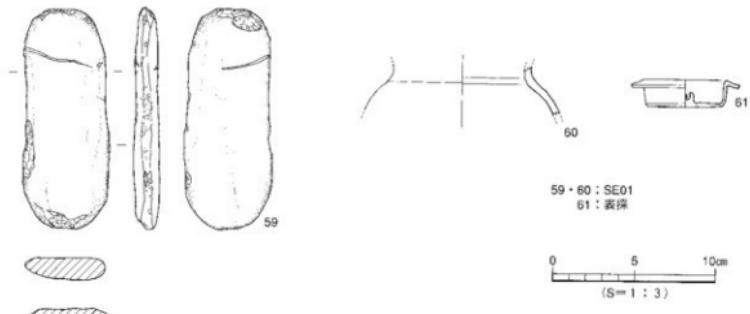
- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1 : 2号墓内      | 11 : 10号墓内     |
| 2 : 3号墓内      | 12 : 11号墓棺上    |
| 3 : 6号墓内      | 13 : 13号墓棺上    |
| 4・5 : 7号墓棺外   | 14 : 13号墓内     |
| 6 : 9号墓内      | 15~20 : 13号墓棺外 |
| 7・8 : 9号墓棺上   | 21・22 : 14号墓内  |
| 9・10 : 10号墓棺外 | 23 : 墓内(基部不明)  |

第12図 墓出土遺物実測図

1 区の調査



第13図 墓出土銭貨拓本



第14図 1区出土遺物実測図

3) 性格不明遺構：性格付けできない遺構を1基検出している。

S X 1 (第5図、図版20)

S X 1は調査区の南、グリッドD 8～E 8にある。平面形状は隅丸四角形で、規模は長軸0.9m、短軸0.8mである。遺構は木片が散乱状況で検出されている。時期判断できる資料はない。

4) その他の遺物：1区のトレンチからは第14図61の陶磁器の蓋が出土している。日本産で、近世以降のものであろう。

### 3. 2区の調査

#### (1) 層位 (第15図)

調査地2区は調査地1区の西20mの（やや高い）位置にあり、標高13.4mに立地する。2区の基本層位はⅠ層灰色土、Ⅱ層茶褐色土混じりの灰色土、Ⅲ層灰色土からなり、Ⅱ層では部分的にその下部に茶褐色土が見られる。なお、1区との対応関係はつかめなかった。

#### (2) 遺構と遺物

検出遺構は井戸1基、ピット1基である（第15図、図版20）。

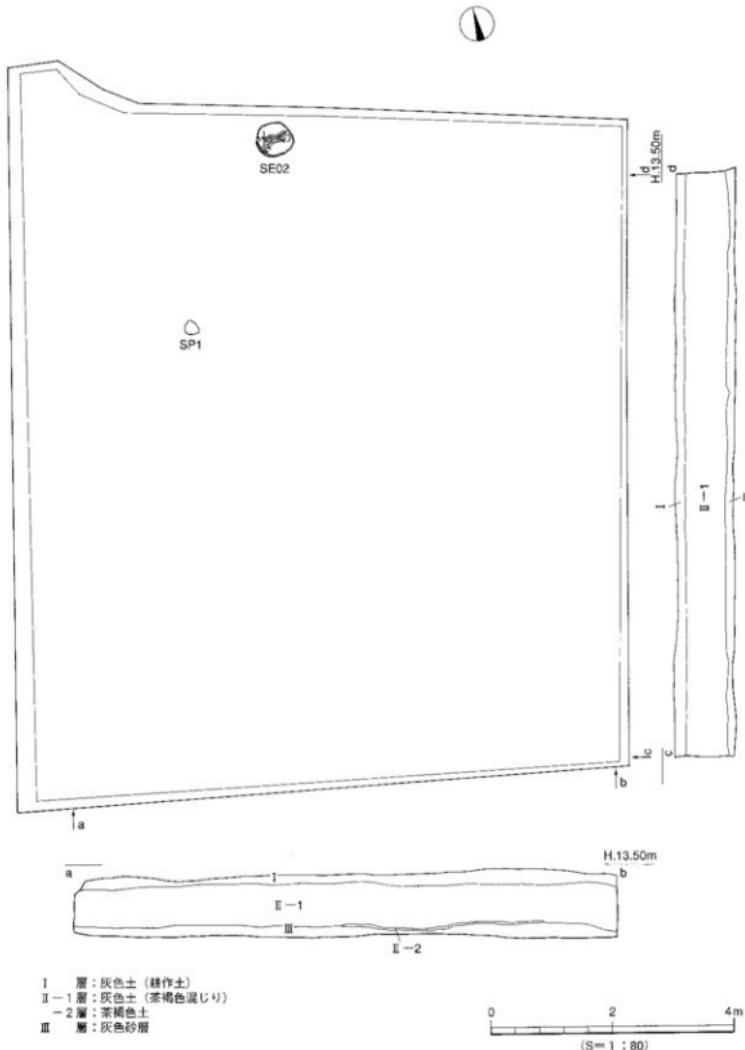
##### 1) 井戸：S E02

S E02は調査区北中央にある。平面形状は円形で、規模は径0.6～0.5mである。井戸枠とその部材が散乱して検出されている。出土遺物は須恵器片1点がある。時期は特定できないが、中～近世とみられる。

##### 2) ピット：S P 1

S P 1は調査区中央のやや北西よりの地点にある。平面形状は概ね円形である。出土遺物はなく、時期は不明である。

2区の調査



第15図 2区遺構配置図・土層図

## 4. 小 結

今回の調査では近世墓と井戸等を確認した。ここでは調査の主体になった墓を取り上げ、まとめたい。

近世墓群：今回の調査ではおよそ7.5m<sup>2</sup>の中に15基の墓を検出した。中近世墓は周囲の松環古照遺跡（岡田 1993）や古照ゴウラ遺跡5次調査地（河野 1996）に見られ、墳墓群を形成することは珍しくはない。ただし、今回は遺存の良好な墓が多く、棺構造や副葬形態等が詳しく明らかになった点で注目される。

棺構造は桶棺（I）・箱式棺（II）・不明（III）に3大別され、桶棺が11基・箱式棺が1基・不明が3基あり、その大多数を桶棺が占めるのである。さらに桶棺11基には埋設に違いが見られ、棺を横転させるもの（I a）と、垂直に立たせるもの（I b）とがあり、前者が10基で9割を占め、後者は1基で極めて少ない。桶棺を横転させ埋設する事例は県下でも稀であり、地域性も考えられ継続調査としたい。

方位では、桶棺は棺蓋と頭位とが基本的に一致を見せ概ね北方位をとり、箱棺・不明も判明しているものは北であり、施設の差なく、頭位の北方位指向は明らかである。埋納方法では、遺体はいずれも屈葬であり、顔面が東西のいずれかを向き、東が3基、西が6基で、西が優位である。顔面の西向き傾向の理由は定かでない。

副葬品は土師器・銭貨・漆器・木製品があり、土師器は皿ないし壺が15基中10基で検出され、土師器副葬が基調と言える。また、銭貨も6基で見られ、貨幣種による副葬枚数の違いが認められ、寛永通宝で占められるものは6枚一組が基本になり、永樂通宝が入るものは総数が5枚と少ない量となる。出土土師器と銭貨からは墳墓群の時期が比定でき、墳墓群は18世紀代に形成されたと考えられる。また、漆器椀と木器は遺存の善し悪しが出土を左右するが、今回は9基で出土を見ており、より詳しい副葬形態を知る資料が得られている。

さて、人骨については土井ヶ浜人類学ミュージアムに整理と調査を委託依頼し、年齢・性別等の情報を抽出した。結果の説明は、別冊『宮前川流域の遺跡II 分析・写真図版編』に掲載するが、本資料は近世における松山平野の古人骨の基礎的資料になった。

以上から、今回検出の墳墓群は18世紀における松山平野西部の墳墓形態を知る良好な資料と言えるだろう。

岡田敏彦 1993 『一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書 I』 御愛媛県埋蔵文化財調査センター  
河野史知 1996 「古照ゴウラ遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅳ』 松山市教育委員会、御愛媛県埋蔵文化財センター

表2 墓一覧

番号	分類	規模 (cm)	頭位	顔面方向	出土品	備考	図版
1	III	51×30	北	東	土加(破片)・漆器(1)		1・2
2	III	67×45	北東	東	土加(破片)	木棺帆迷?	2
3	I a	直径57×44・長さ57・深さ10	北東	西	土加(1)・漆器(1)		3・4
4	III	34×33	北東				
5	I a	直径55×42・長さ40・深さ13	北東	西?	漆器(1)		4~6
6	I a	直径57×50・長さ36・深さ7	北東	西	土加(破片)		6・7
7	I a	直径57×48・長さ62・深さ7	北		土加(2外)・漆器・銭貨(6)・桶		7・8
8	I a	直径55×43・長さ57・深さ19	北	東	漆器(1)・銭貨(5)		9・10
9	I a	直径53×47・長さ62・深さ29			土加(内1・外2)・銭貨(6)		10・11
10	I a	直径66×45・長さ60・深さ28	西		土加(9.2)・漆器(1)・木器・銭貨(6)		11・12
11	I a	直径55×50・長さ62・深さ30	西		土加(外)・漆器・木器		13・14
12	I a	直径60×48・長さ65・深さ25	西		漆器(1)・桶・銭貨(6)		14~16
13	I b	×45・深さ25			土加(内1・外7)・銭貨(6)		16・17
14	II	35×30・深さ32			土加(2)・漆器		17・18
15	I a	35×27				損傷著しい	18

## 遺物観察表

表3 墓出土遺物観察表 土製品・木製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				外面	内面				
1	皿	底径(7.0) 残高1.2	小片。	回転ナデ	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石(1) ◎	2号墓内	
2	皿	口径10.1 器高1.9 底径6.4	完形品。内溝して、上外方に立ち上がる口縁部。	⑤回転ナデ ⑥回転糸切り	回転ナデ	淡茶色 淡茶色	石・長(1) 金◎	3号墓内	21
3	皿	口径(10.7) 残高2.4	打削黒か。	回転ナデ (マメツ)	回転ナデ	淡茶色 淡茶色	石・長(1) 金◎	6号墓内 漆付着	
4	坏	口径(10.6) 器高3.5 底径(6.5)	内溝して、上方に立ち上がる口縁部。	⑦回転ナデ ⑧回転糸切り	回転ナデ	淡灰茶色 淡灰茶色	青金◎	7号墓外 漆付着	
5	皿	口径(10.0) 器高2.2 底径(6.6)	2分の1残存。口縁部直下のナデ凹み強し。	⑨回転ナデ ⑩糸切り痕	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) ◎	7号墓外	
6	皿	口径10.4 器高2.3 底径6.5	完形品。口縁端部は面をなす。	⑪回転ナデ ⑫回転糸切り	回転ナデ	淡乳桜色 淡乳桜色	石・長(1~3) 金◎	9号墓内	21
7	鉢	口径(28.8) 残高3.8	口縁外端部に接して粘土層を貼り付ける。	⑬ヨコナデ ⑭ナデ	ナデ	暗灰褐色 暗灰褐色	石・長(1~2) 金◎	9号墓上	
8	甕	残高20	口縁端部は下方拡張で、ナデ付む。	ヨコナデ	ハケ	暗灰色 暗灰色	石・長(1~3) 金◎	9号墓上	
9	皿	口径10.5 器高2.1 底径6.3	口縁端部はあいまいな面をなす。	⑮回転ナデ ⑯回転糸切り	回転ナデ	乳茶色 黄褐色	長(1) 金◎	10号墓外	
10	皿	口径10.3 器高2.1 底径6.7	完形品。口縁端部は丸い。	⑰回転ナデ ⑱回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 明褐色	石・長(1~3) 金◎	10号墓外	21
11	甕	口径9.1 器高2.0 底径3.4	蓋の可能性あり。	漆塗	漆塗	黑色 黑色	木製品	10号墓内	21 22
12	壺	口径(26.2) 残高4.6	口縁外端部に接して、粘土層を貼り付ける。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1) ◎	11号墓上	
13	壺	底径(9.6) 残高1.2	底部3分の1残存。	⑲回転ナデ ⑳糸切り→すのこ根	回転ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石(1~2) 金◎	13号墓上	
14	皿	口径9.8 器高2.0 底径5.3	打削黒か。口縁端部はあいまいな面をなす。	⑪回転ナデ ⑫回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~2) 金◎	13号墓内 漆付着	21
15	皿	口径10.8 器高2.0 底径6.3	完形品。口縁端部は面をなす。	⑬回転ナデ ⑭回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1) ◎	13号墓外	21
16	皿	口径11.0 器高2.0 底径6.0	完形品。口縁端部は面をなす。	⑮回転ナデ ⑯回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1) 金◎	13号墓外	21
17	皿	口径11.1 器高2.4 底径6.3	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	⑰回転ナデ ⑱回転糸切り	回転ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) ◎	13号墓外	21
18	皿	口径10.6 器高2.0 底径6.4	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	⑲回転ナデ ⑳回転糸切り	回転ナデ	明茶色 明茶色	石・共(1~2) 金◎	13号墓外	21
19	皿	口径11.1 器高2.3 底径6.5	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	⑪回転ナデ ⑫回転糸切り	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1) 金◎	13号墓外	21
20	皿	口径11.0 器高2.0 底径6.0	完形品。口縁端部はあいまいな面をなす。	⑬回転ナデ ⑭回転糸切り	回転ナデ	漆褐色 漆褐色	長(1~3) ◎	13号墓外	21
21	皿	口径9.1 器高2.5 底径5.3	完形品。口縁部は内溝して上方に立ち上がる。	⑮回転ナデ ⑯回転糸切り	回転ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1) 金◎	14号墓内	21
22	重	口径8.4 器高2.2 底径5.8	完形品。口縁部は内溝して上方に立ち上がる。	⑰回転ナデ ⑱回転糸切り	回転ナデ	淡茶色 淡茶色	石・共(1~2) 金◎	14号墓内	21
23	重	口径9.1 器高1.9 底径6.1	完形品。口縁部は内溝して上方に立ち上がる。	⑲回転ナデ ⑳回転糸切り	回転ナデ	淡乳褐色 淡乳褐色	石・長(1) ◎	墓不明	21

表4 墓出土遺物観察表 銭寶

番号	貨銭名	背文字	法量			備考	図版
			外径(cm)	内径(cm)	重さ(g)		
24	寛永通寶	文	25	0.6	3.13	7号墓	22
25	寛永通寶		22	0.6	2.46	7号墓	22
26	寛永通寶		25	0.7	2.39	7号墓	22
27	寛永通寶	文	26	0.6	3.48	7号墓	22
28	寛永通寶		24	0.6	2.79	7号墓	22
29	寛永通寶		23	0.6	1.96	7号墓	22
30	寛永通寶		24	0.6	3.33	8号墓・文字不明瞭	22
31	寛永通寶		25	0.6	2.21	8号墓・一部欠損	22
32	寛永通寶		23	0.6	1.92	8号墓	22
33	寛永通寶		25	0.7	3.08	8号墓	22
34	永樂通寶		25	0.6	3.46	8号墓	22
35	不 明		23	0.6	2.43	9号墓	22
36	寛永通寶		25	0.6	3.66	9号墓	22
37	寛永通寶		25	0.6	4.94	9号墓	22
38	寛永通寶	文	26	0.6	3.69	9号墓	22
39	寛永通寶	文	25	0.6	3.39	9号墓	22
40	寛永通寶		22	0.6	2.79	9号墓	22
41	寛永通寶		25	0.5	3.07	10号墓	22
42	寛永通寶		25	0.6	2.13	10号墓	22
43	寛永通寶		25	0.6	3.41	10号墓・文字不明瞭	22
44	寛永通寶		25	0.6	2.78	10号墓	22
45	寛永通寶		25	0.6	2.06	10号墓	22
46	寛永通寶		26	0.6	2.60	10号墓	22
47	寛永通寶	文	25	0.6	2.80	12号墓	22
48	寛永通寶		23	0.6	2.97	12号墓	22
49	寛永通寶		23	0.6	1.93	12号墓	22
50	寛永通寶		22	0.6	2.12	12号墓	22
51	寛永通寶		23	0.6	1.88	12号墓	22
52	寛永通寶		25	0.6	3.01	12号墓	22
53	寛永通寶		25	0.6	3.85	13号墓	22
54	寛永通寶		22	0.6	1.74	13号墓	22
55	寛永通寶		24	0.5	3.43	13号墓	22
56	寛永通寶		24	0.5	3.44	13号墓	22
57	寛永通寶		22	0.6	3.14	13号墓	22
58	寛永通寶		25	0.6	2.49	13号墓	22

表5 SEO1出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
59	男根状石器	完存	緑色片岩	13.4	5.0	1.5	210		

表6 1区出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整		色調(外面) 内面)	胎 土 燒	備 考	図版
				外 面	内 面				
60	壺	殘高 2.9 底径 1.7 口径 4.6	小片。	施文	回転ナデ ④施文 ⑤回転ナデ ⑥回転糸切り	暗褐色 灰褐色	吉 ○	SEO1 陶磁器	22
61	壺	5.0 1.7 4.6	宍形品。つまみは小さく、中央部が凹む。	施文	回転 糸切り	灰色 灰色	吉 ○	陶磁器	22

## 第3章 大峰ヶ台遺跡 6次調査地

### 1. 試掘調査

#### (1) 概要 (第16・17図)

松山総合公園整備に伴う調査である。この公園整備にあたっては、1985（昭和60）年以降、大峰ヶ台丘陵上の各所において調査が行われたが、本調査は1988（昭和63）年、メインエントランス建設予定地において実施された調査である。調査は、まず、同年5月から7月の間、第17図に記された範囲に合計18本のトレンチを設定して遺跡の有無を確認するところから始めた。対象地は仮にA調査区～C調査区の3区にわけて確認を行った。T 1～T 5を設定したエリアがA調査区、その西のT 6・7を設定した部分がB調査区、さらにその北のT 8～T 18による確認範囲がC調査区となっている。これらのトレンチのうち、A調査区に設定された5本のトレンチでは、第18図に示された刀装具をT 2表土中から出土した以外は、僅かな陶磁器片が採集されたのみで、顯著な遺構も存在しなかった。B調査区においては主に弥生土器を包含する土層が設定されたトレンチのいずれにおいても確認されたため、この部分については本格調査が必要と判断された。また、C調査区でもほとんどのトレンチは無遺物であったが、唯一T 15において主として弥生土器を包含する黒色シルトの溜まりが検出されたので、このトレンチ周辺を拡張して調査を行うこととした。それぞれのトレンチにおける試掘時の出土遺物は第18・19図に示している。

#### (2) 試掘調査出土遺物 (第18・19図、図版45)

##### T 2 出土遺物

鍔（1） A調査区に設定したトレンチT 2表土近くからの採集品である。倒卵形を呈する鉄製の鍔で、櫛孔は小柄と茎櫛孔のみである。表面に大小の円形や隅丸三角形を基調とした文様が施されている。

##### T 6 出土遺物

弥生土器（2～7） 2、4はそれぞれ中期の高壺と甕、その他は後期の高壺、壺、甕である。

土師器壺（8） 底部ヘラ切りの円盤高台壺底部片。

##### T 7 出土遺物

弥生土器（9・10） いずれも中期中葉の土器。9は大型壺の頸部で、多重の断面三角形突帯に棒状浮文を組み合わせたもの、10は鋸先状を呈する高壺口縁部で、端部に刻み目を持つ。上面から斜め下方に穿孔されている。

須恵器壺蓋（11） 天井部と口縁部境に稜を持つ蓋、口端部は丸く收める。

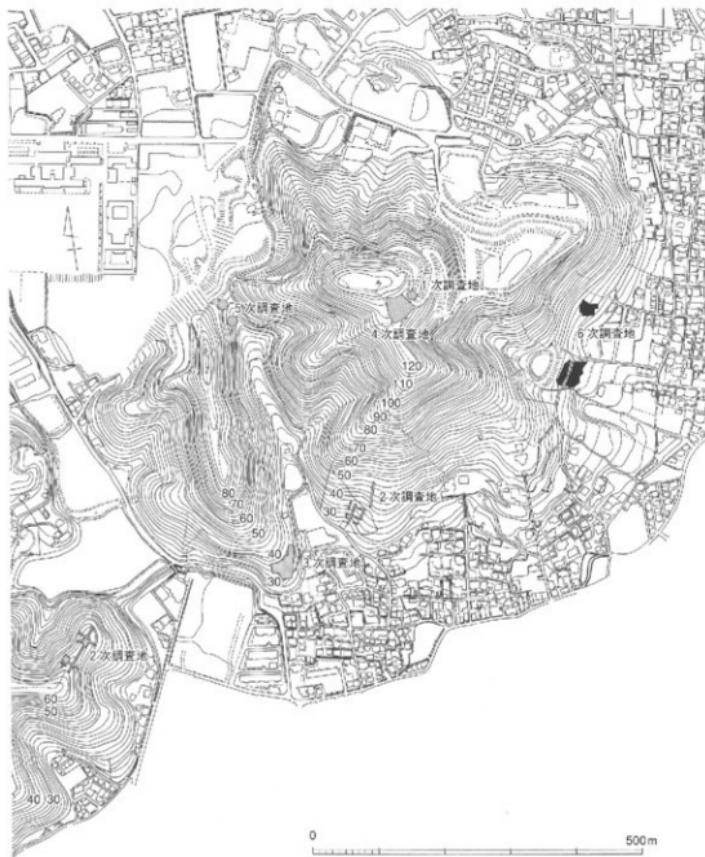
##### T 15 出土遺物

弥生土器（12～15） 12、13は、それぞれ中期中葉の高壺口縁部とジョッキ形土器底部片。14、15は後期の壺と甕の底部片である。

## 2. 遺構と遺物

### (1) B調査区の調査 (第17図)

調査地は、大峰ヶ台丘陵の東麓斜面にあたり、東西方向に長い谷状地形を呈している。この谷地形を利用して、江戸時代末期の弘化2年には土盛りによる堤を築いて溜め池が構築されており、堤構築に伴う紀年銘入りの石碑が現在も残されている。調査地は、この堤直下の水田地で、その現況は、南



第16図 調査地位置図



第17図 試掘調査トレチ配置図

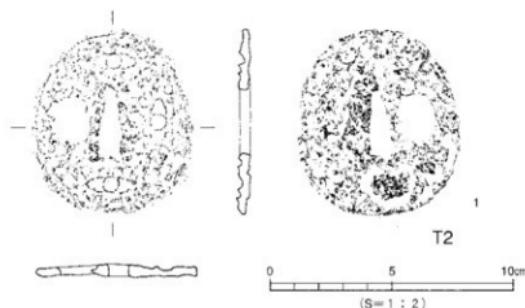
北方向に走る生活道路によって東西に二分され、段状に造成された二枚の水田となっている。この二枚の水田は、道路により平面距離でおおよそ6m隔てられ、また耕作面のレベルで2mの比高差がある。調査は、この調査区を含めたエントランス予定地の造成工事と併行で行われたため、造成工期とのかねあいから、西側の高い一枚をB1区として先に完了して工事に明け渡した後、低い東側の一枚をB2区として引き続き行った。なお、生活道路は調査中も生き続けたため、この部分の掘削は行い得なかった。したがって、両調査区を通じた土層断面は観察不能ということになり、以下の報告で、それぞれの調査区の層名は第何層として同じであっても、あくまで土色・土質によって決定しているのみであって、厳密には両調査区を通じてつながった同一層であるとの確証があるわけではない。しかし、出土遺物の時期、上下層との層位関係からみれば、きわめて整合性は高いものと考えている。いずれの調査区でも、谷に溜まった状態で弥生土器を中心とした遺物が出土した。

### 1) B1区の調査 (第20~22図・図版23~29)

西側水田の調査で、遺構として柱穴が数基検出されたほかは、包含層に伴う遺物の調査である。先述のように、調査区中央部には西方向から東方向へ開く谷が存在し、何枚かの水田面の下層に弥生遺物を包含する黒色系のシルトが溜まっているといった状況である。第1~5・13層は水田耕作土や床上で、当然のことながら水平基調の層であり、第6層以下の層は、特に谷中央付近の縦断面B~B'でみると斜面上方の西方向から流下した堆積であることがわかる。斜面下方東側部分では地山面まで掘りきれない部分が残ったが、横断面D~D'では一応トレンチを掘り抜いて地山面を確認している。B~B'の最東端の下層に第11層として不自然に盛り上がったように見える層は、堆積の過程で形成された北西から南東に走る溝の埋土、暗褐色~黒色の砂であり、この溝は横断面D~D'で確認することができる。以下、各層からの出土遺物について解説する。

### 第5層出土の遺物 (第26・27図)

第5層は、現在の水田下面にかつて存在した水田の耕作土で、耕作の際に下層から混入した遺物が若干出土している。

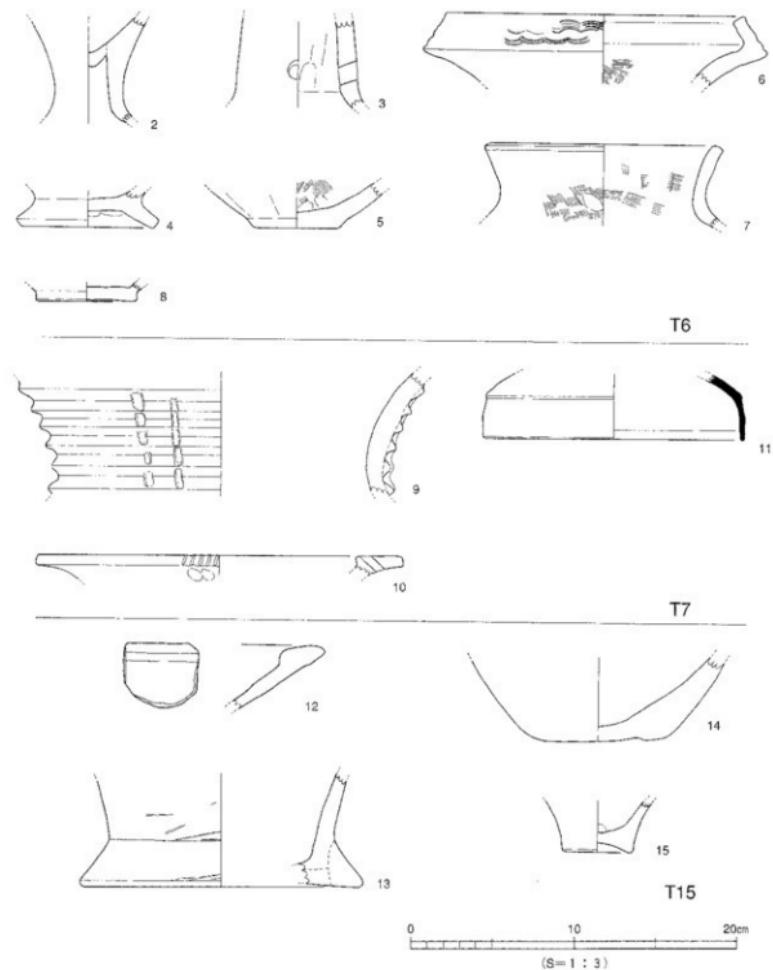


第18図 試掘調査出土遺物実測図(1)

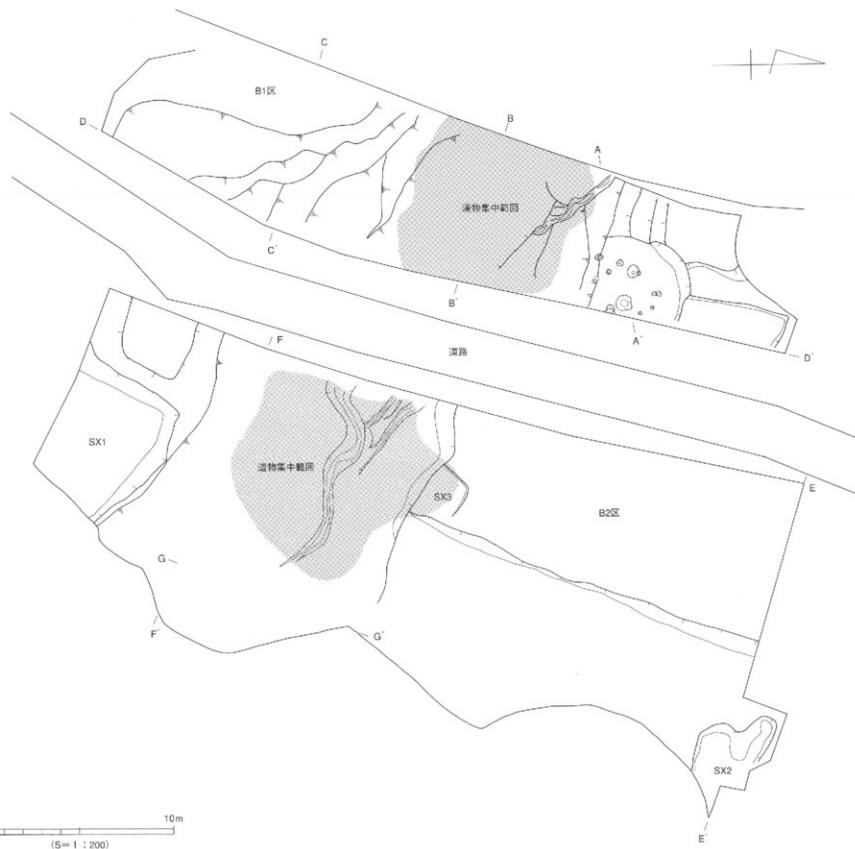
## 弥生土器（第26図）

壺（16・17） 16、17は中期中葉の壺口縁部、16は口端面の上下端に刻み目を持つ。17の内面には渦紋状の突帯が巡っている。

壺・鉢（18~21） 18は後期の壺口縁部、19、20は後期の壺底部、21は鉢底部か。



第19図 試掘調査出土遺物実測図(2)



第20図 B調査区全測図

## 石製品

敲 石 (22) 砂岩の円錐を敲石として利用しており、複数の箇所に使用痕が確認できる。

石 鎏 (23) 小型の凹基三角形鎔で、赤色チャートを素材としている。僅かに尖端を欠き、現況で重量0.57 g を量る。縄文石鎔か。

## 須恵器 (第27図)

蓋 (24) 壱もしくは短頭壺の蓋と考えられる片、天井部から鈍い稜を持って屈曲し、外反気味の口縁部が続く。

壺 (25) 断面三角形の低く薄い高台を持つ小型壺の底部片。

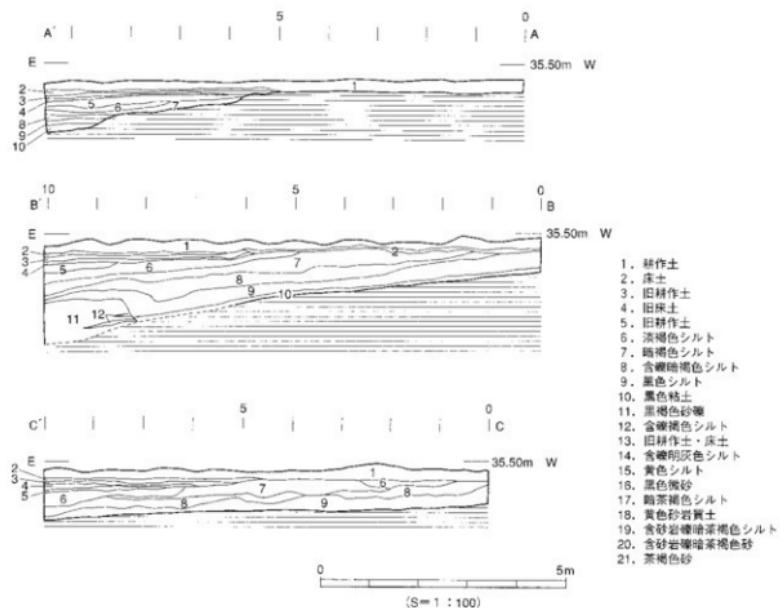
## 陶 器

壺 (26) 直立気味の短い口頭部、端部を外反させ若干肥厚して丸く收めるが玉縁状というほどにはならない。焼きは須恵器とかわらない。

擂 鉢 (27) 僧前焼擂鉢口縁部の片。上方に立ち上がった口縁部を持ち、体部内面には太い擂り目が2条まで確認できる。

## 第6層出土の遺物 (第28図)

B調査区の調査で弥生後期の遺物を大量に出土したのは後述する第7層であるが、その上位の第6



第21図 B 1区東西断面土層図 (A~A'、B~B'、C~C')

層からも僅かながら後期の土器を出土している。

#### 弥生土器

壺（28～33） 28～30は複合口縁壺の口縁部片である。28には粗い櫛歯状工具による波状文、30には多重沈線が施されている。31は広口・短頸壺の口頭部、32は小型直口壺の底部と思われる。

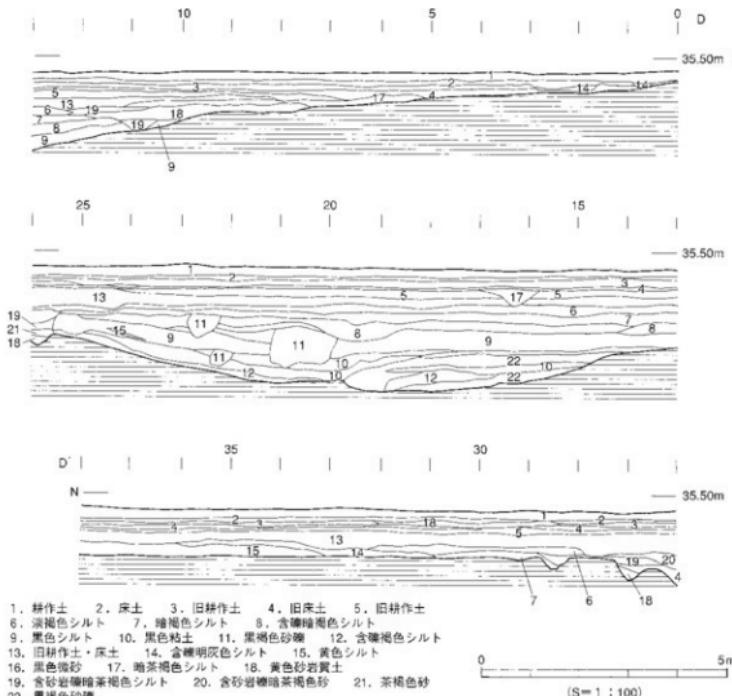
支脚（34） 中空筒状の支脚の裾部片。

#### 第7層出土の遺物

第7層の遺物には弥生時代後期のものが多いが、一部中期のものも含まれている。

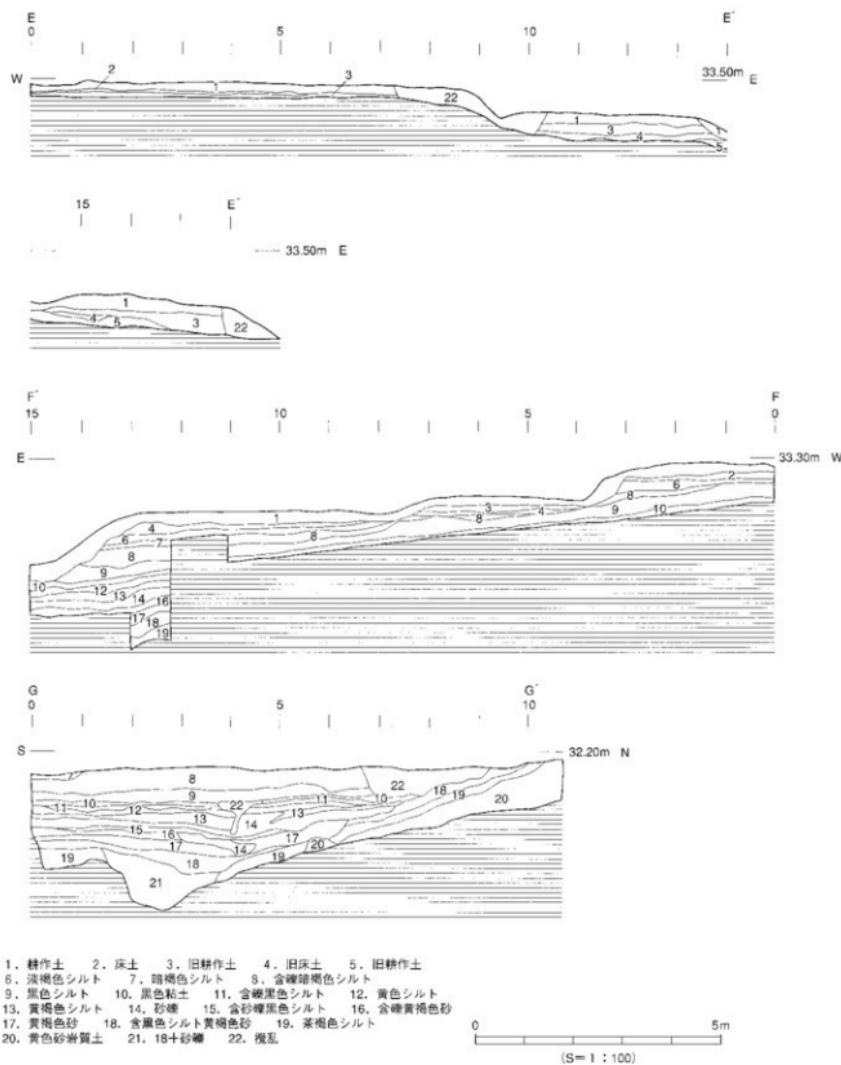
#### 弥生後期の土器（第29～55図、図版33～38）

壺（35～85） 35～40は、口頭部から胴部上位間での片で、多くのものが内面に稜を持って屈曲し、口端面に平坦な面を有している。内外面の調整には刷毛目を多用している。41～43は口頭部付近から底部まで的小型のものである。43では判然としないが、41や42では上述の口頭部同様、内面に稜を持って頸部で屈曲し、また43も含めて調整に刷毛目を多用するところも同様である。底部は41のように



第22図 B 1 区南北断面土層図 (D~D')

遺構と遺物



第23図 B 2 区土層図 (E~E'、F~F'、G~G')

シャープさのない平底、42のように小さな平底、43ではほとんど丸底に近い平底となっている。44~85は胴部以下から底部の破片である。底部形態にはいくつかのタイプがあり、44~48にみられるような、コイン大の平底を呈するもの、49~51に代表されるような比較的しっかりした平底になるもの、74~76のようにほとんど丸底に近い平底のもの、あるいは77~85のようなやや突出した形状の平底もしくは窪み底になるものがある。

鉢（86~111） やや器高の低い壺状の形態の86~91のようなものを含めて鉢としている。これらは、器面調整も基本的には壺と同様である。92や93は、当初から鉢という器種を意識して製作されたもので内面に磨きを施す点でも、他のものとは異なっている。底部では、ややくびれを持った窪み底状を呈するものをはじめとして、94~109のような底部を鉢のものとして扱っている。その他、110のような単純な器型のもの、111のようなミニチュア土器も鉢としてここで扱った。

壺（112~220） 112~131は複合口縁壺の口頭部。112を代表して口縁部外面のタガが発達せず、直線的に口縁が立ち上がるものの、116にみられるように内湾気味に立ち上がるもの、また、120のように外反しながら立ち上がるものがある。123~130は屈曲部外面のタガが発達しこの部分に面を持つもので、これらのうちにも口縁の立ち上がりには3とおりのものがある。131では短い口縁が直上に立ち上がっている。口縁部外面上に施文を有するものでは、櫛歯状工具による波状文やこれに沈線を組み合わせたものが多い。頭部突唇を持つものはヘラ書きによる斜格子文を施している。132・133は口縁端でやや開くが、直口気味の壺口頭部。134・135は大型長頸壺である。両者とも口縁がラッパ状に大きく開き、134では口端部を外下方に折り曲げている。頭部には断面三角形の、無文の細い突帯が巡る。135の口端面には2段の竹管文が巡り、さらに小判状の浮文を数ヶ所に配している。頭部には斜格子を刻んだ突帯を持ち、その上位に4条のヘラ書き沈線が巡る。こういった、大型・中型壺の底部は、基本的には142~179にみられるような、立ち上がりの鈍い平底であるが、180~185のように、若干突出した小さな平底になるものもある。また、191~198のようにほとんど丸底に近いものもあり、底部形態のバリエーションとしては壺に通じるところがある。

200~205は、小型の直口もしくは広口壺で、206~214はその底部と考えられるものである。コイン大の平底にやや長脛の胴部を持つ。底部のみでは小型の壺と区別がつきにくいが、外面の調整が比較的入念なものを壺として取り扱った。215~219は、扁球形の胴部を持つ中・小型品で、薄く小さな円板を貼り付けたような底部形態をなすものが多い。

器 台（221~229） 円孔を穿たれた円柱状の胴部から受部・裾部が聞く形態のもので、228のような小製品から中製品、225のような比較的大型のものがある。大型品の227では円孔と多重沈線を組み合わせている。

高 壕（230~249） 230はエンタシス状の柱部を持つ形態の高壺と考えられるもので、上下方、特に下方に拡張された端面には、棒状工具による1条の沈線と波状文を組み合わせた施文がなされている。その他の壺部は、外面に稜を持って口縁部が強く外反するものである。脚部には236~239のような比較的底脚のものと、その他の円孔を持った高い柱状になるものがある。

支 脚（250~268） 大きく3とおりの形態のものがある。250は小型のもので、低い円柱の上面の一端をつまみ上げたような形態のものである。257~265は中空の円柱をU字状に切り欠いて受部としたもの、266~268は角状の受部を持つものである。



第24図 B 1区遺物出土状況



第25図 B2区谷部遺物出土状況

## 弥生中期の土器（第53～55図、図版37・38）

壺（269～298） 269～271は、内面に稜をもって口縁部を強く折り曲げるもので、頸部突帯や口端部刻み目などの施文を持たないものである。272～278は、頸部に刻み目突帯を持つもので、なおかつ口端部にも刻み目を施される274・275がある。278の二段の突帯のうち上位の刻み目は爪形のように小さく、下位のものは押圧による大きな刻み目と、上下で異なっている。底部には稜をもってシャープに立ち上がる平底と、くびれの上げ底になるものとのふたとおりがある。

壺（299～311） 口縁部には端面有文のものと無文のものがある。301と303が有文で、端部を下方にやや拡張し、ヘラ描きの斜格子文を施す。無文のもののうち、300は大きく開いた口縁部内面に円形浮文を貼り付けられている。底部は、シャープな平底あるいは僅かな窪み底で、外面をよく磨かれるものが多い。

## 石器・石製品（第56・57図、図版38）

窪み石（312） 扁平な砂岩の円礫の両面に敲打による深い窪みがみられる。また、側面の一部に敲打痕を認めることができる。

敲石・磨石（313・314） 313は、円柱状の砂岩転石を敲打に使用したもので、両側端をはじめとする各所に敲打痕跡がみられる。重量464 gを量る。314の磨石は花崗岩製である。

石 繖（315） 尖端部を欠くが、現況重量2.49 gを量る比較的大型の凹基打製繖、サヌカイト製。

石 斧（316） 緑泥片岩を素材とする磨製石斧片。柱状片刃石斧の一部と考えられる。

砥 石（317・318） 317は方柱状の蛇紋岩を砥石として利用したもの、破損しているが、2面に砥面が確認できる。318は砂岩の砥石片で、通常の砥面のほか側面に筋砥石として利用された痕跡が残っている。

## 第6・7層出土の遺物（第58図）

第6～7層出土であることは確実であるが、どちらに属するとも判定できない弥生土器が若干あるので、ここで取り扱う。

壺（319～323） 319は中期の底部、その他は後期の壺底部と考えられる。

壺・鉢（324～331） 中期後半あるいは後期初頭と思われる、くびれの上げ底の壺底部325を除いた、頸部324や底部はすべて後期のものである。330・331は鉢の底部であろう。

高 坏（332） 後期の高坏脚部片。互い違いに配された2段の円孔を持つ。

## 第9層出土の遺物

第9層からの出土遺物は弥生時代中期中葉を主とした遺物群である。

## 弥生土器（第59～61図、図版39）

壺（333～348） 口頸部には、無文のもの333、頸部突帯のみを持つもの334・335、頸部突帯と口端部刻み目を持つもの336・337がある。頸部突帯は、いずれも押圧による大きな刻み目、口端部刻み目は細かい刻みとなっている。底部には、くびれの上げ底となる338～345と346～348のような平底のふたとおりがある。

壺（349～365） 口頸部には、垂下して拡張した端面に、細い櫛歯状工具で斜格子文を施す349のようなものや、短く開く口縁部と断面三角形の頸部突帯を持つ351や、押圧による刻み目突帯を持つ

354などがあり、これらよりやや下って凹線文を持つ中期後半の353がある。底部は通常の平底と、やや突出した平底のふたとおりがある。胴部中位まで確認できる355は、安定感のある平底に、算盤玉のように胴部中位で強く屈曲する特異な形態をなしている。

高 壱 (366・367) 口縁部、柱部ともに小破片で、特に366の口縁部には口径に不安があるが、形態としては口端部を内外に拡張して水平面をつくるタイプである。

石器・石製品 (第61図、図版39)

石 斧 (368) 緑泥片岩製扁平片刃石斧の基部片、各面ともに入念に磨かれている。

剥 片 (369) サヌカイトの横長剥片。

#### 第7～9層出土の遺物 (第62図)

第7層から9層までの間の出土で、層位の特定ができない土器群である。所属する層位から、弥生時代中期のものと後期のものが混在している。

弥生中期の土器 (370～376) 370～374は壺、口縁部370は端部をやや拡張した無文のもの、底部は平底もしくはくびれの上げ底である。

弥生後期の土器 (377～382) 壺377～379のうち、口頭部377は、短い筒状の頸部から短い口縁部が開く、やや特異な形をなす。底部379は、7層の200～205のような小型の直口もしくは広口壺のものである。380～382の壺底部には、小さな平底のものと低い上げ底、窪み底のものがある。

#### 第9～10層出土の遺物 (第63・64図)

第9層も含めてこれ以下の層から出土する遺物は、基本的に弥生中期のものである。

弥生土器

壺 (383～387) 383・384は無文のもの。口縁部は、内面に稜を持って強く折り曲げられる。385～387は圧痕文突帯を持つもので、うち、385、387は口端部刻み目を施されている。

壺 (388～400) 口縁部388～392は、端部を下方に拡張するもので、有文のものにはヘラ描斜格子文や山形文を端面に持つもの、また、端面は無文で、端部上端を刻む392のようなものがある。胴部片には、円形浮文を貼り付けた大型壺の肩部396や、これもまた大型壺で、刻み目を持った断面三角形の多重突帯を持つ胴部などがある。

ジョッキ形土器 (401) 内面に幅広の肥厚帯を持ったジョッキの口縁部片。

石器・石製品

石 錫 (402) 全長3.6cm、最大幅1.5cm、重量2.75gを量る凸基打製錫、サヌカイト製。

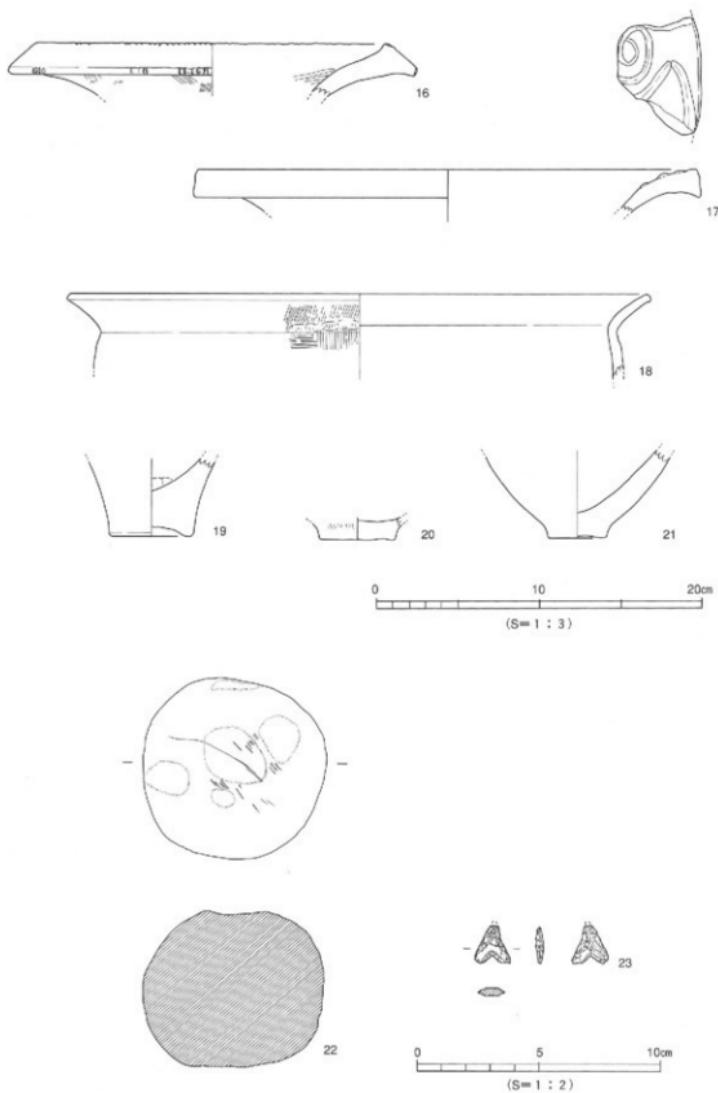
剥 片 (403) サヌカイトの剥片、石錫未製品か。

#### 第11層出土の遺物 (第65～67図、図版40)

8層の下位で、9層やそれ以下の層を切り、東西に走る3条の溝状に検出された砂層を11層として扱っている。出土するものは、以下のような弥生時代中期中葉のものがすべてであり、このことからすると8層以下の層は、この11層も含めてかなり短期間に堆積したものと考えられる。

弥生土器

壺 (404～408) 口頭部には無文のものと頸部突帯を持つものとがある。2点ある底部は、両者と



第26図 B1区第5層出土遺物実測図(1)

もくびれの上げ底である。

壺 (409~419) 壺口縁部にも無文のものと有文のものがあり、有文のものは下方に拡張した端面にヘラ描山水文を施したり端面は無文であるが、端部上端を刻む410のようなものがある。

高 坏 (420) 浅い椀型の坏部、口端部は拡張はされないが上端に水平な面を持つ。

ジョッキ形土器 (421) 中実の把手片、一端の接合部が遺存している。

石器・石製品 (第67図、図版40)

崖み石 (422・423) ともに砂岩の転石の両面を用いている。

石 斧 (424・425) 424は柱状片刃石斧の基部付近の片、425は石庖丁を扁平片刃石斧に転用したものである。いずれも緑泥片岩を素材としている。

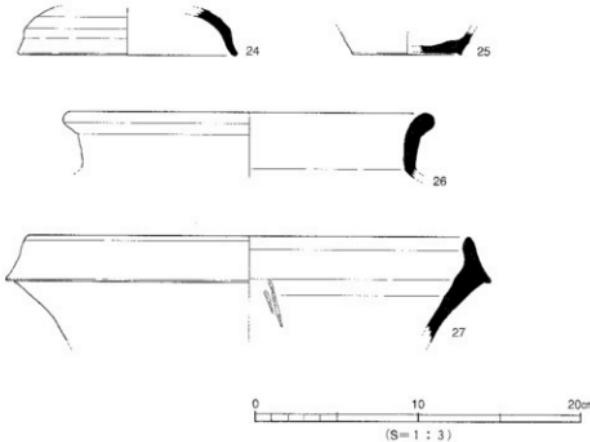
#### 表採・出土層位不明遺物 (第68~70図)

表採品、あるいは整理中に所属層位が不明になった弥生土器、石製品が若干ある。

甕・鉢 (426~435) 426~430は中期のもの、431~434は後期の甕である。中期のものの口縁部は内面に稜を持って強く折り曲げられるが、後期のものの折り曲げは弱い。中期の底部はくびれの上げ底、後期は小さめの平底である。435は、後期の鉢底部と思われる。

壺 (436~446) 436~441は中期のもの、442~446が後期のものである。中期の有文の口縁部のうち、437・438には内面突帯が貼り付けられている。後期の壺には442のような複合口縁のものと443の直口のものがあり、底部は中期のものに比べると小さい平底もしくは崖み底である。

高坏・ジョッキ形土器 (447・448) 高坏447は脚部上端の、またジョッキ形土器は把手のそれぞれ小片である。



第27図 B1区第5層出土遺物実測図(2)

## 石器・石製品（第70図）

石斧（449・450）449は、緑泥片岩を素材とする柱状片刃石斧の片、450は黒色片岩製扁平片刃石斧。刃部付近を欠損している。

剝片（451）サヌカイトの剝片である。

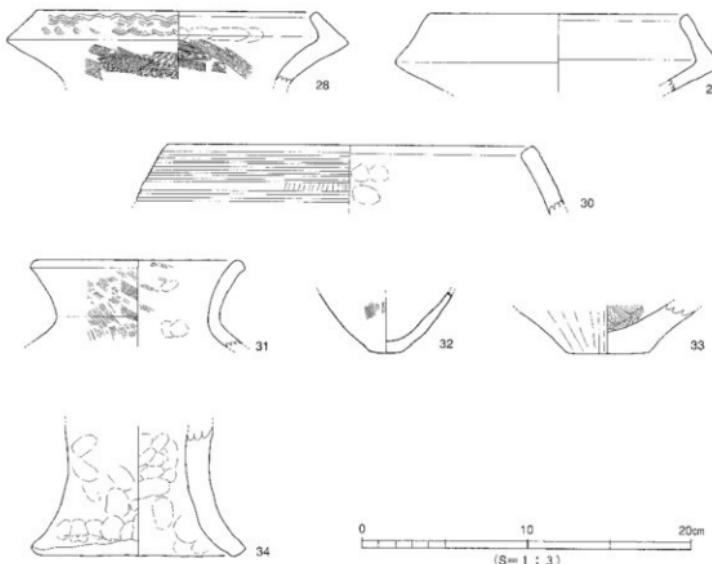
## 2) B 2 区の調査（第20・23・25図、図版30～32）

B 1 区の調査後に、この部分を耕土置き場に実施した東側水田の調査である。この調査区でも 1 区から続く谷が検出されたが、1 区に比べて一段低い水田であるため、後期の遺物を包含する 1 区第 7 層相当の土層は存在せず、1 区第 9 層と層位的には同等と考えられる第 9 層からの出土がほとんどを占める。また、谷の外の部分で比較的新しい上層で埋まった窪みや平坦面が検出され、S X 1 ～ 3 として遺物を採り上げているが、これらは扱いとしては搅乱として扱うべきものである。

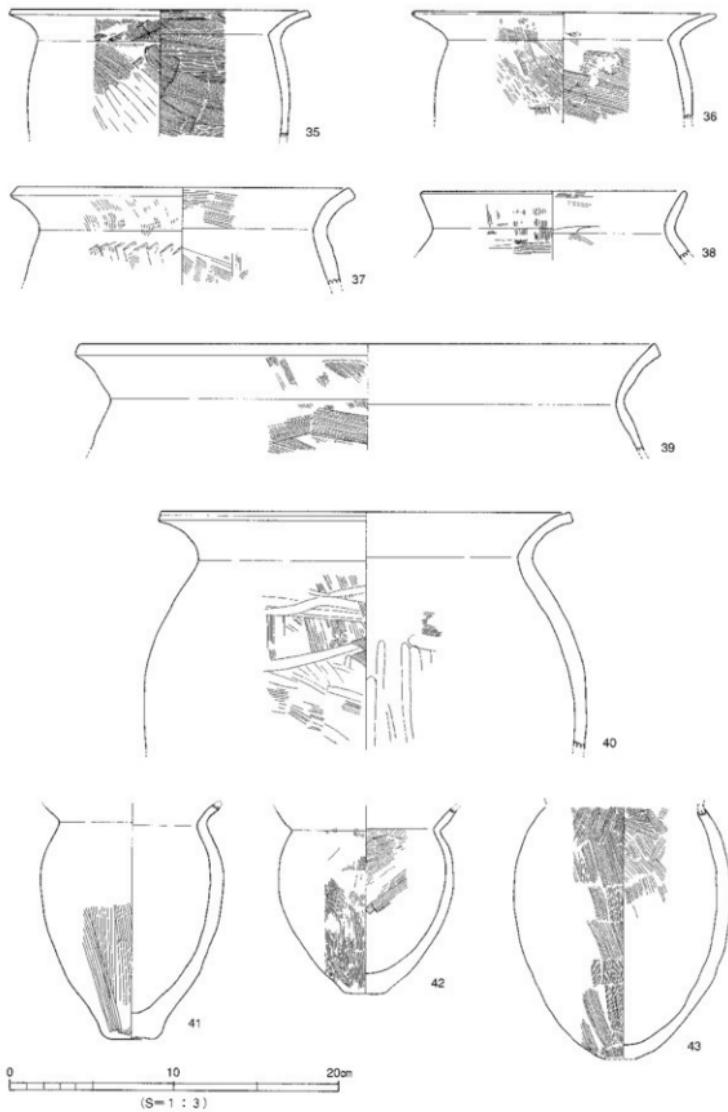
## 第 9 層出土の遺物

## 弥生土器（第71～81図、図版41～44）

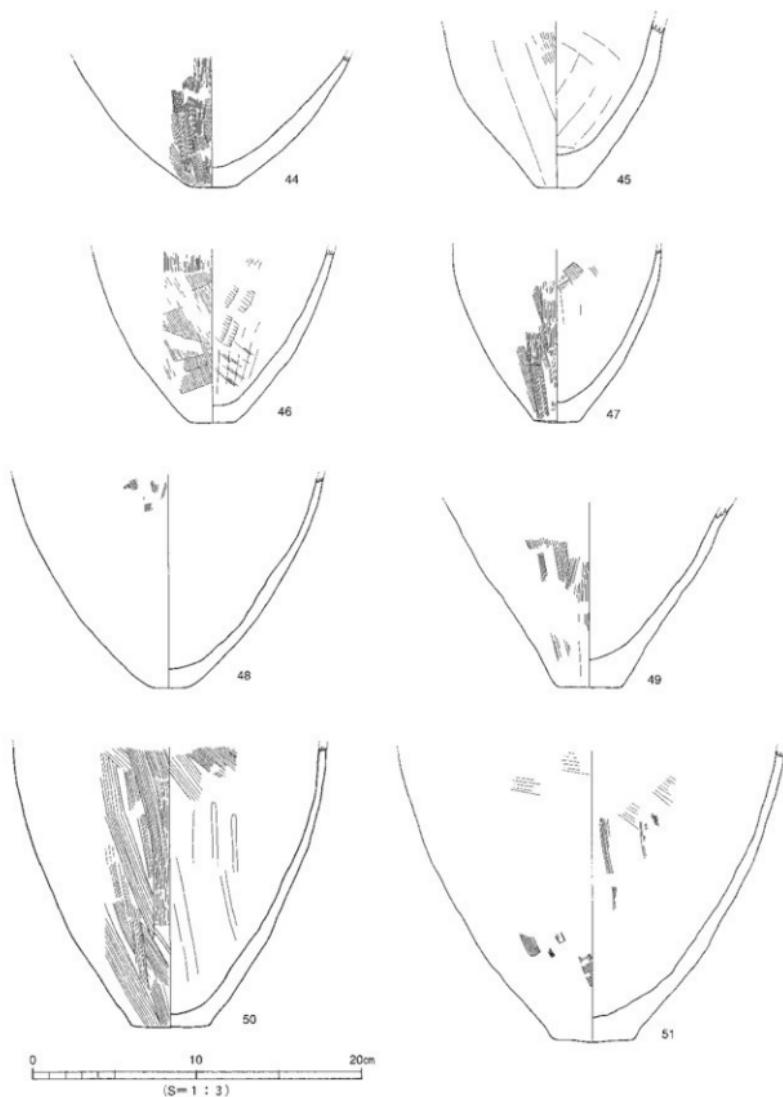
壺（452～505）有文のもののうち、452、453、455は口端部を著しく拡張はせず、端面にヘラ描による施文、頸部に圧痕文突帯を巻かれるもので、454や456・457も同様の器型になるものと思われ



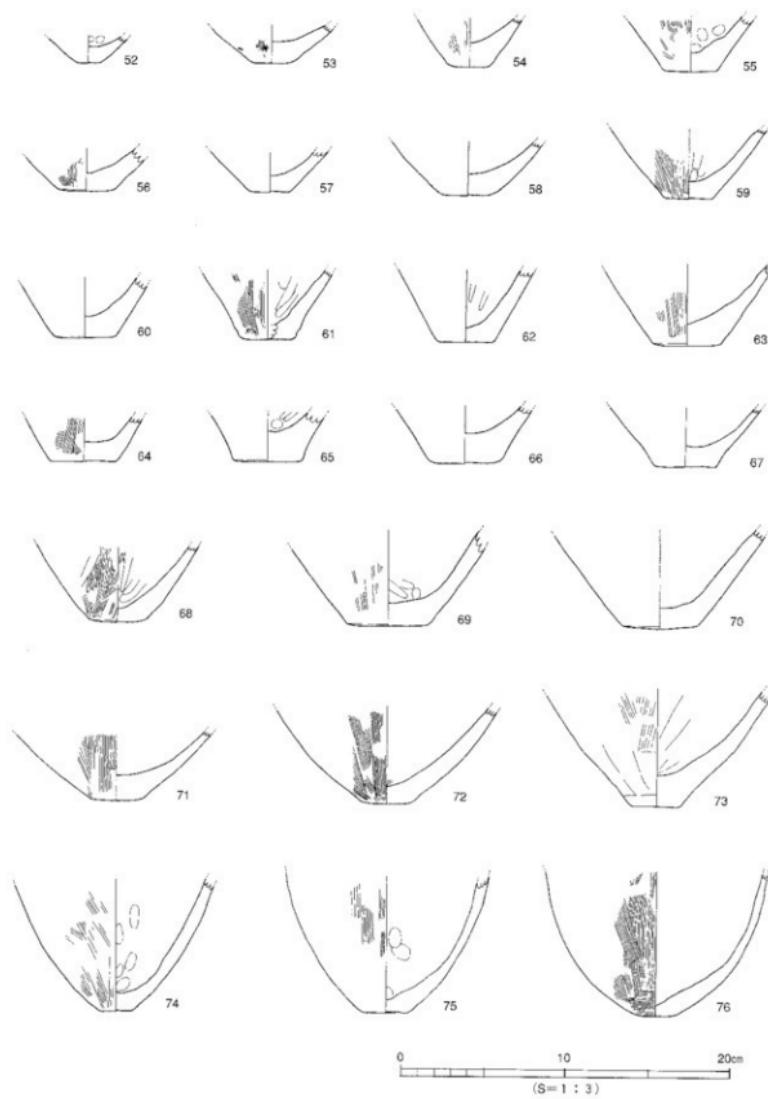
第28図 B 1 区第 6 層出土遺物実測図



第29図 B1区第7層出土遺物実測図(1)



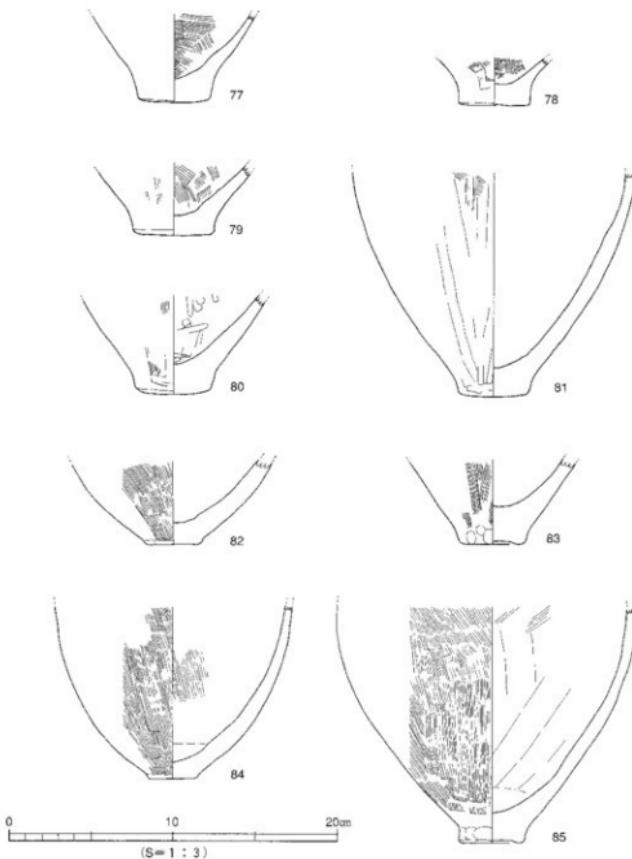
第30図 B1区第7層出土遺物実測図(2)



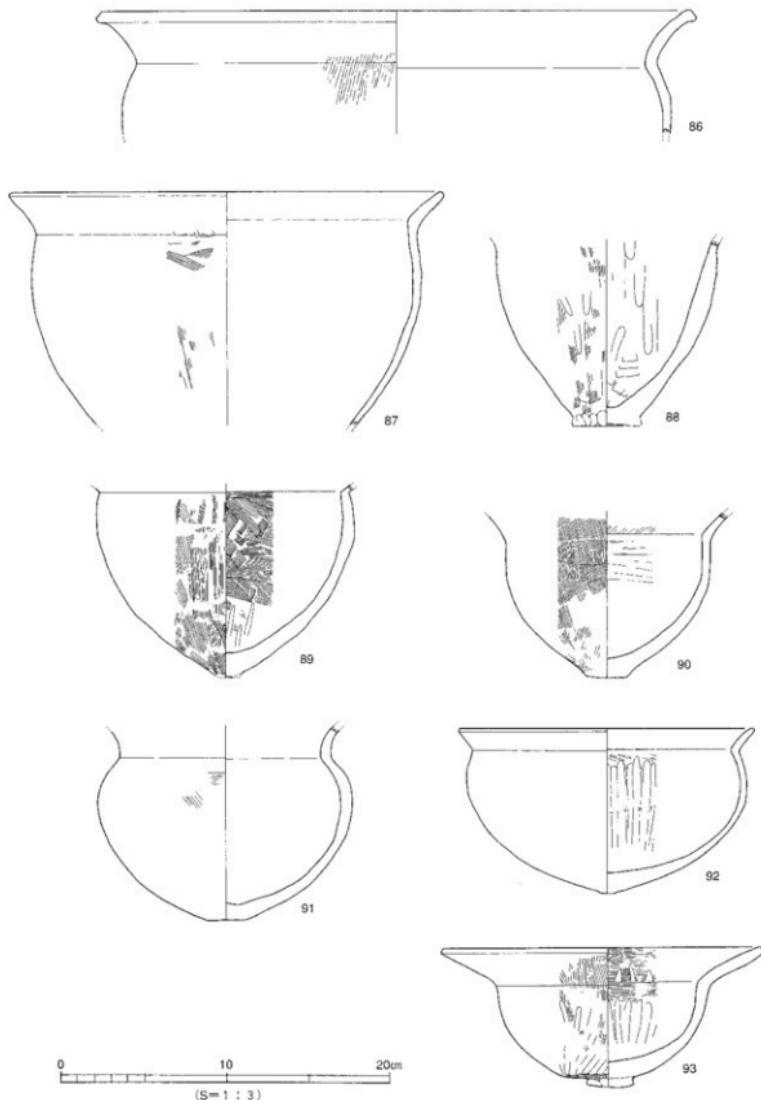
第31図 B 1区第7層出土遺物実測図(3)

る。その他の端面施文を施されるもの多くは459～462のように端部を下方に大きく拡張し、端面に施文を行うものである。口端面が無文のものには472～478のように、口端部の拡張が小さく頸部に断面三角形の突帯を巻かれるものがあり、464や465も同様の壺口縁部と考えられる。頸部突帯は1条に限られることなく、474や476のように複数条となるものもある。この断面三角形突帯を持つもののうちには、475のような口端部が鋸先状になるものと、478の太い頸部に短く開く口縁と壺に近い形状と、多くのものに比べて異なった形態をとるものもある。

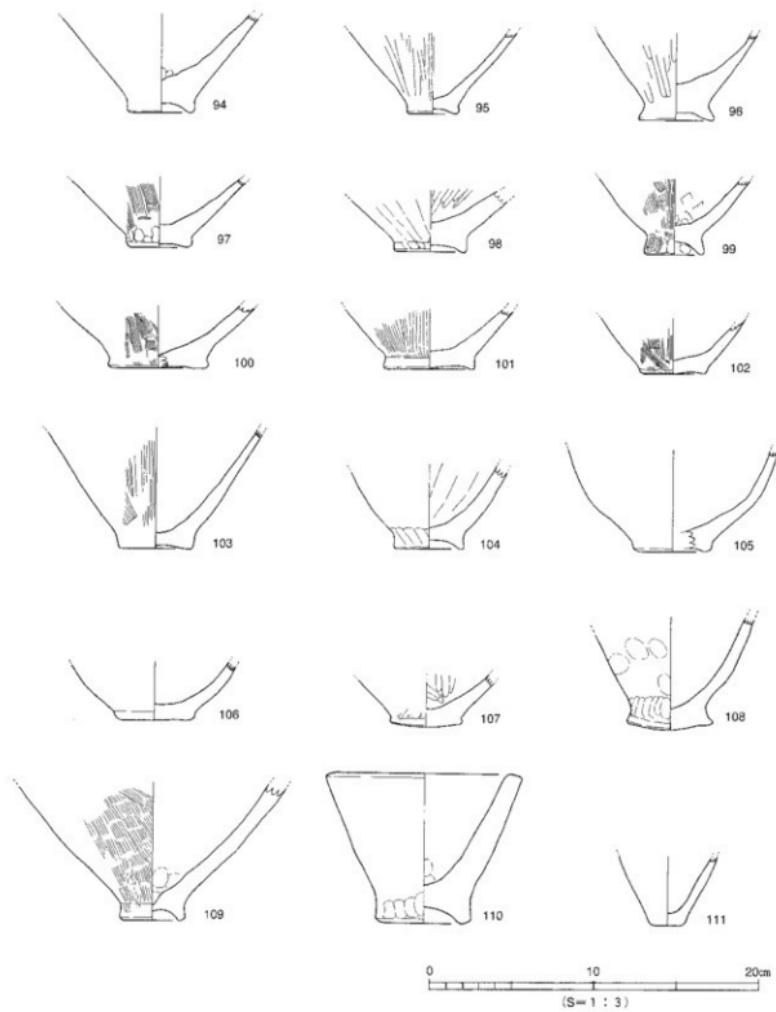
以上の壺口頸部は中期中業の壺の特徴を備えたものであるが、479はこれらより降るもので、中期



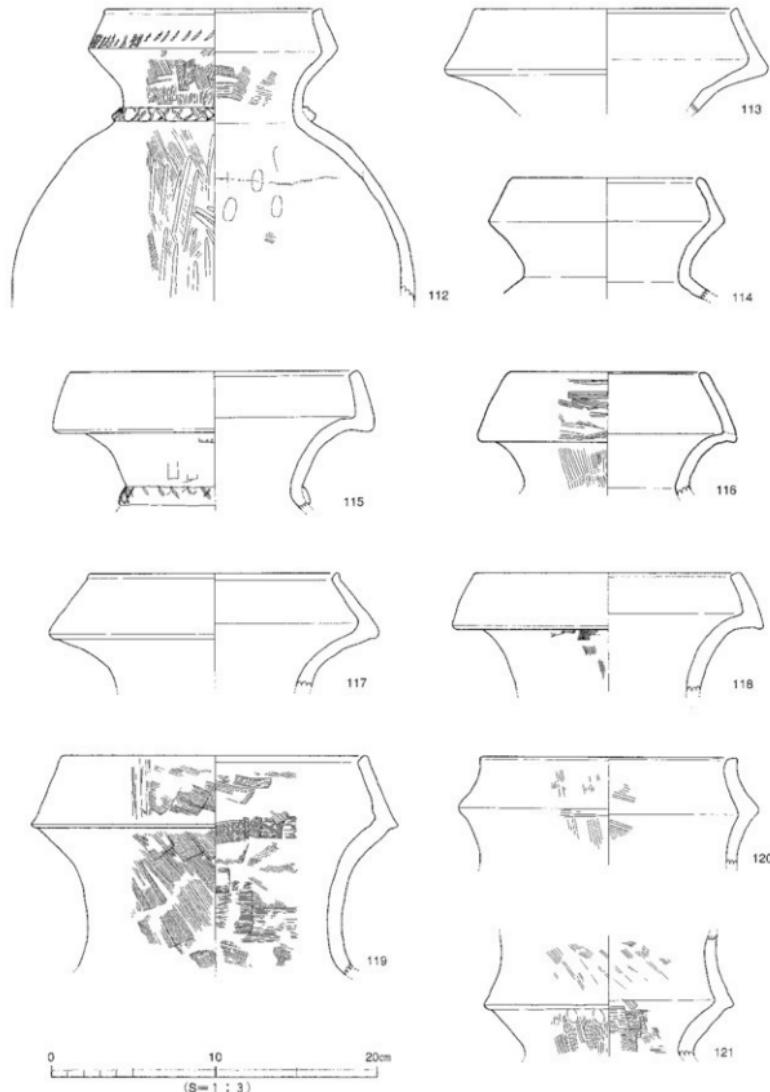
第32図 B 1 区第7層出土遺物実測図(4)



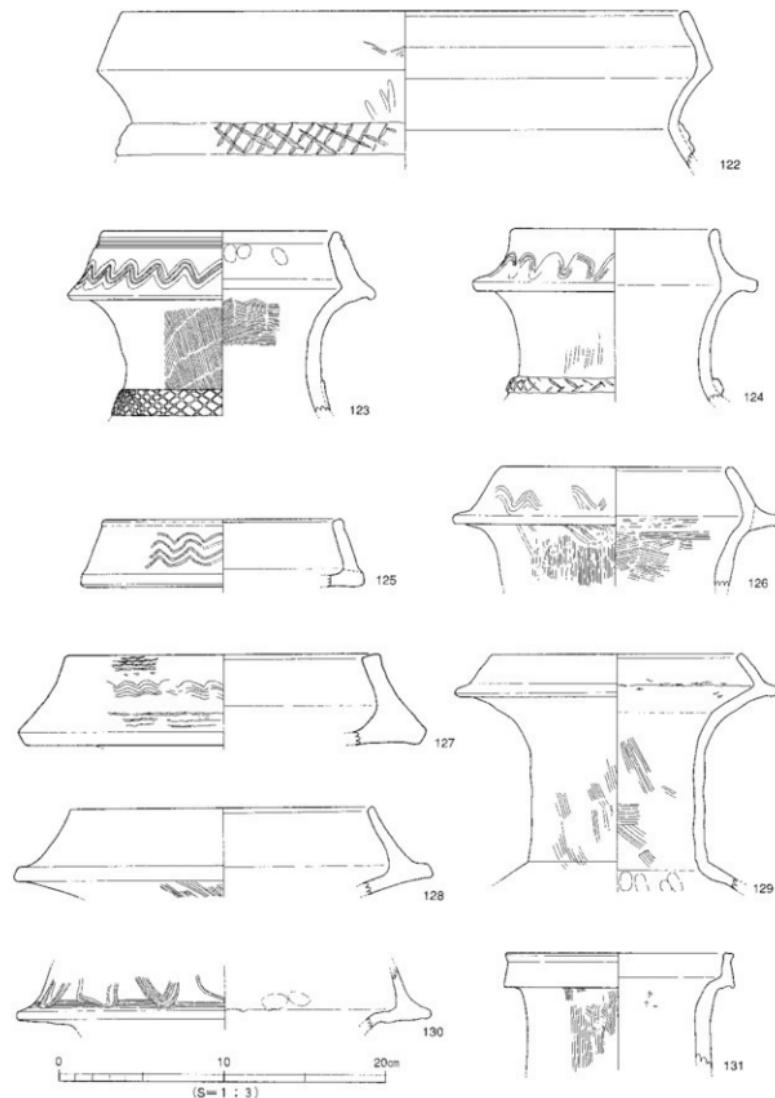
第33図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(5)



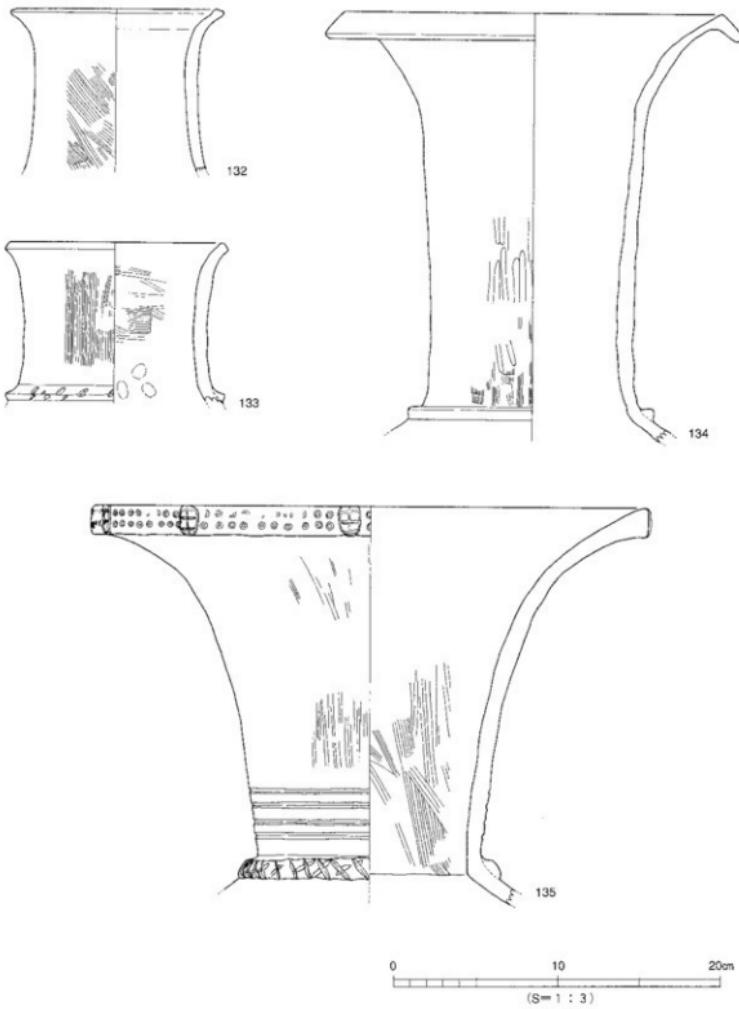
第34図 B1区第7層出土遺物実測図(6)



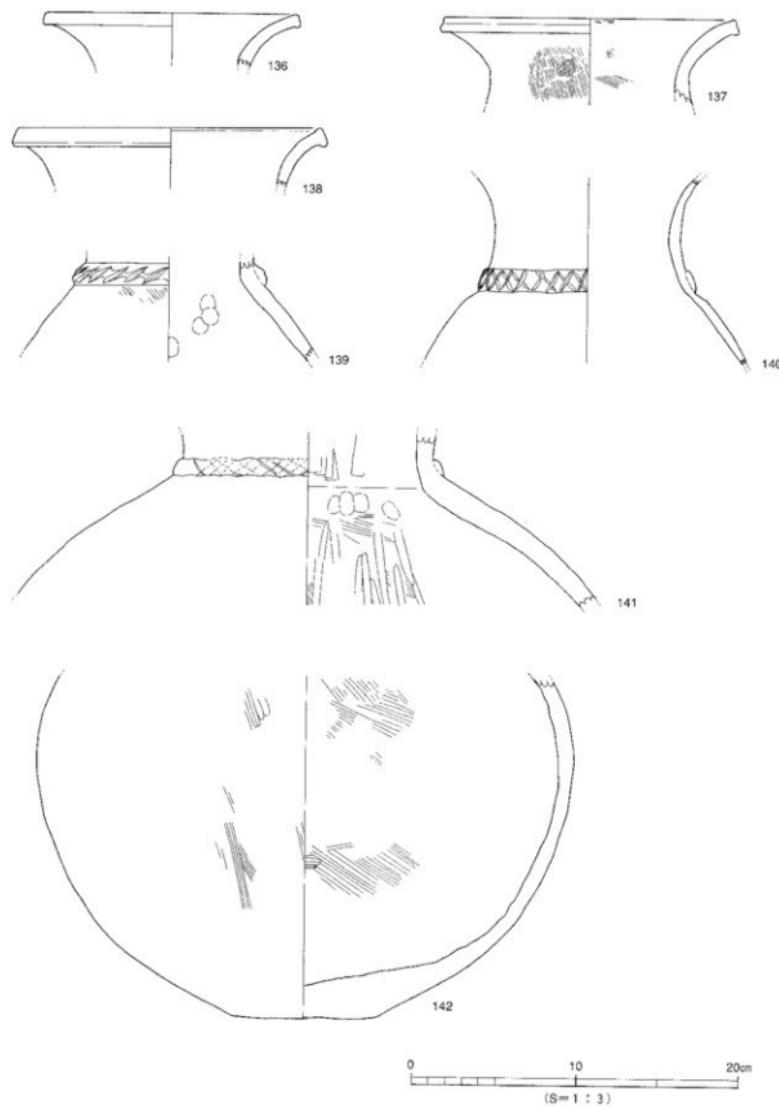
第35図 B1区第7層出土遺物実測図(7)



第36図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(8)

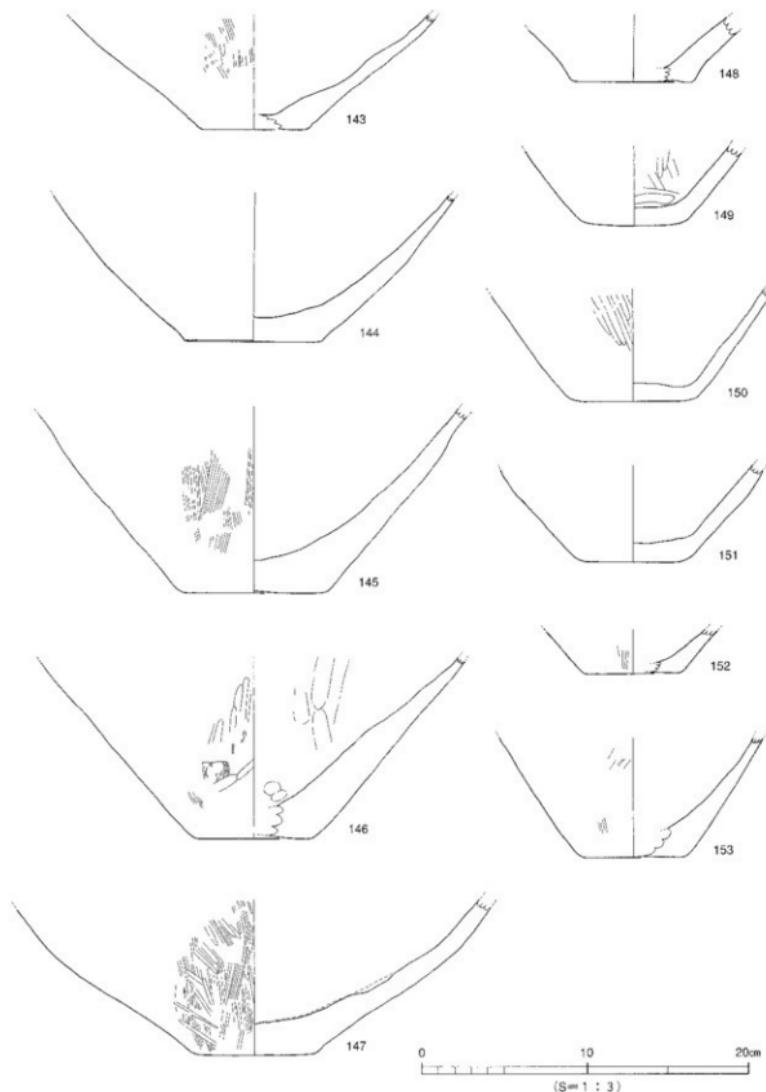


第37図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(9)

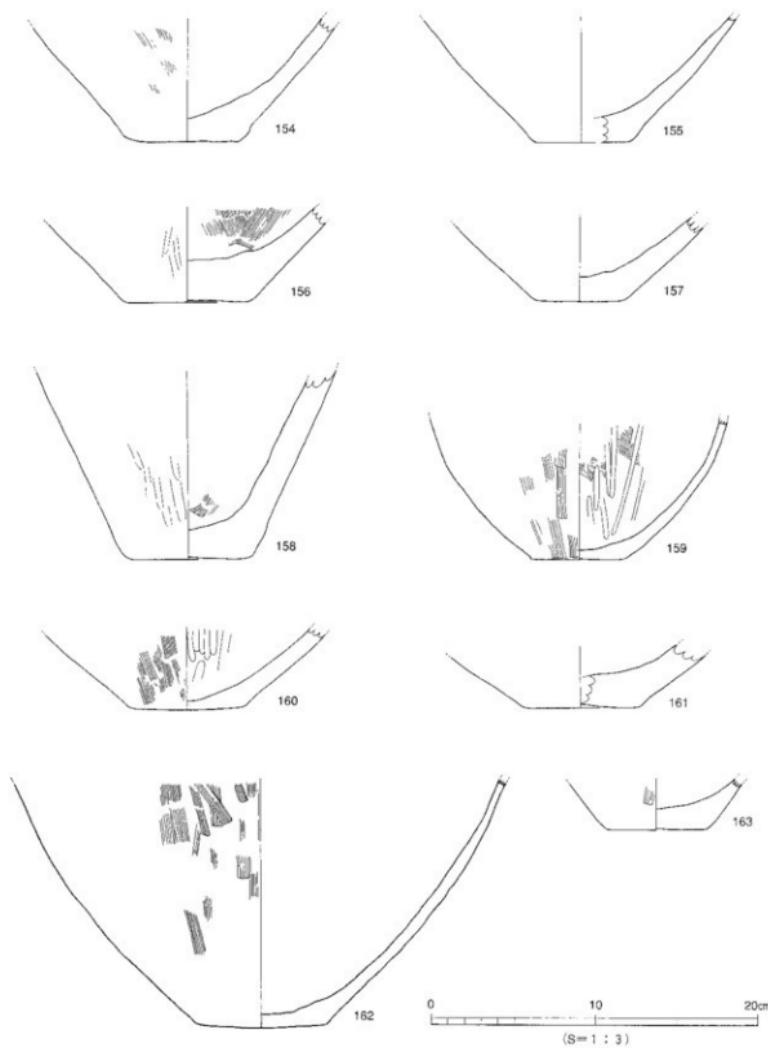


第38図 B 1区第7層出土遺物実測図(10)

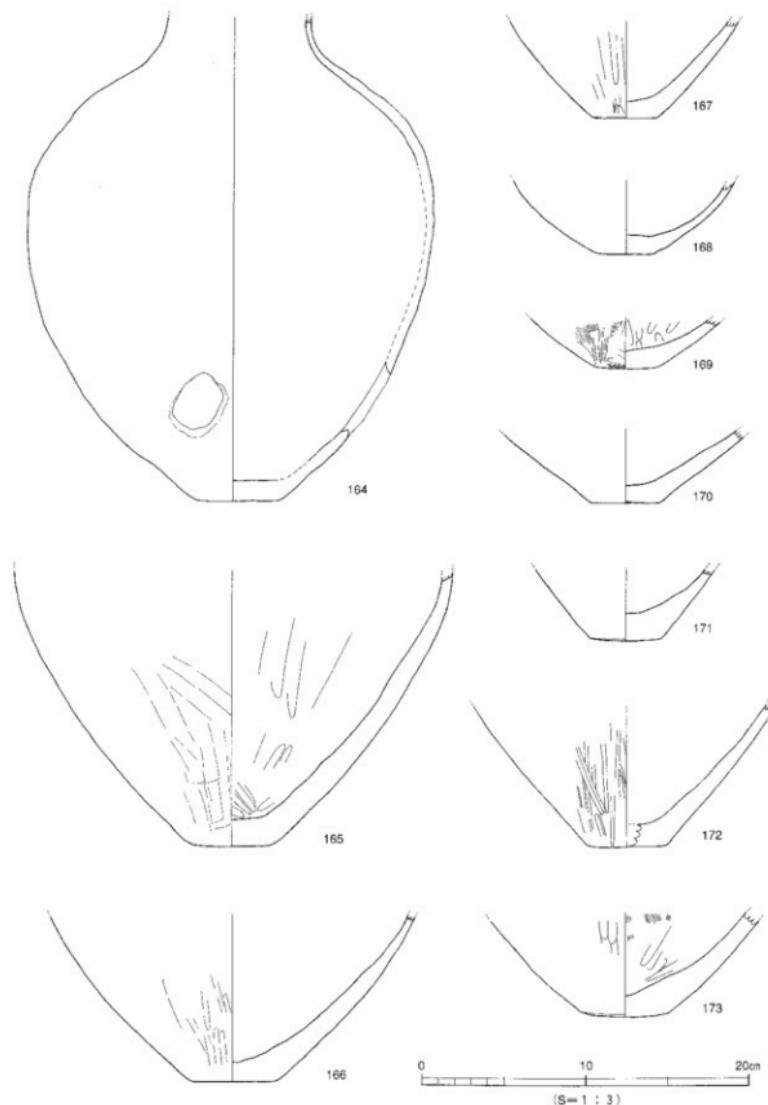
大蔵ヶ台遺跡 6 次調査地



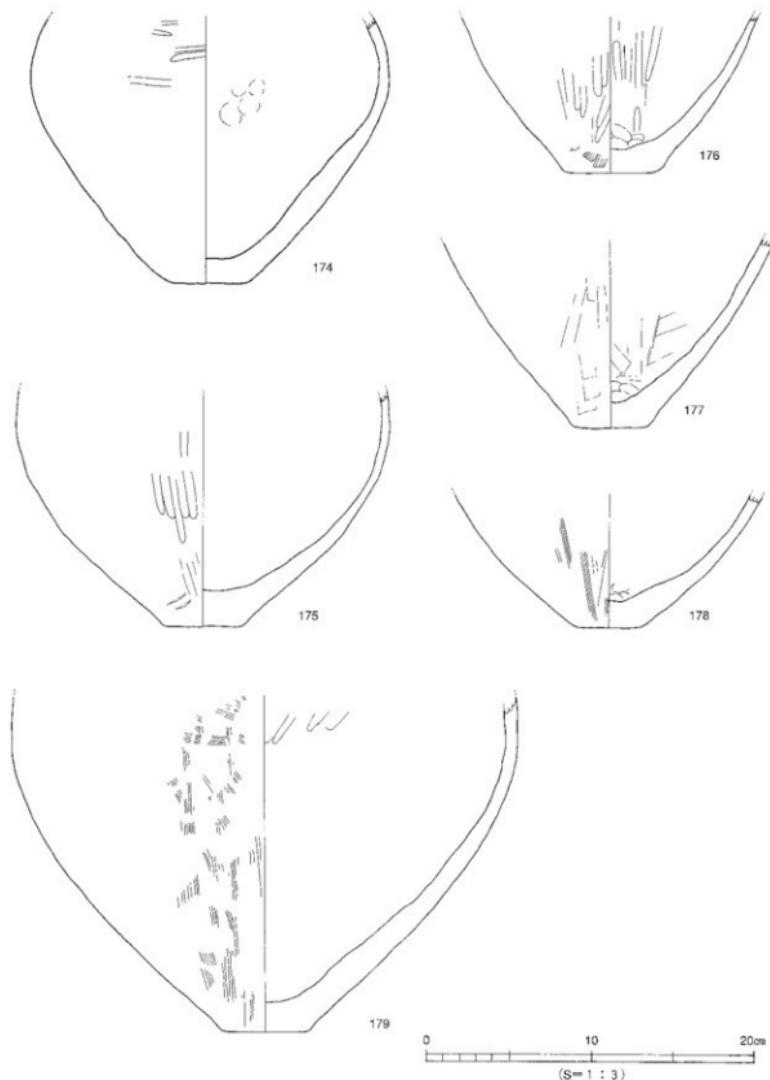
第39図 B1区第7層出土遺物実測図(1)



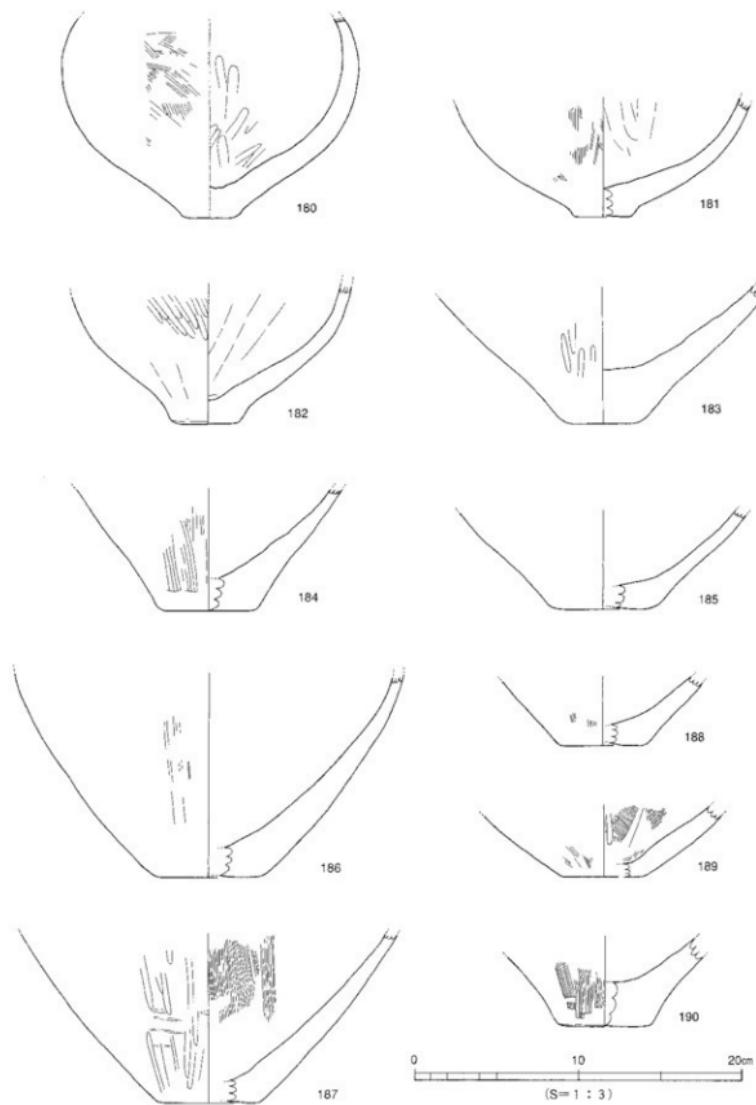
第40図 B 1区第7層出土遺物実測図(2)



第41図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(13)



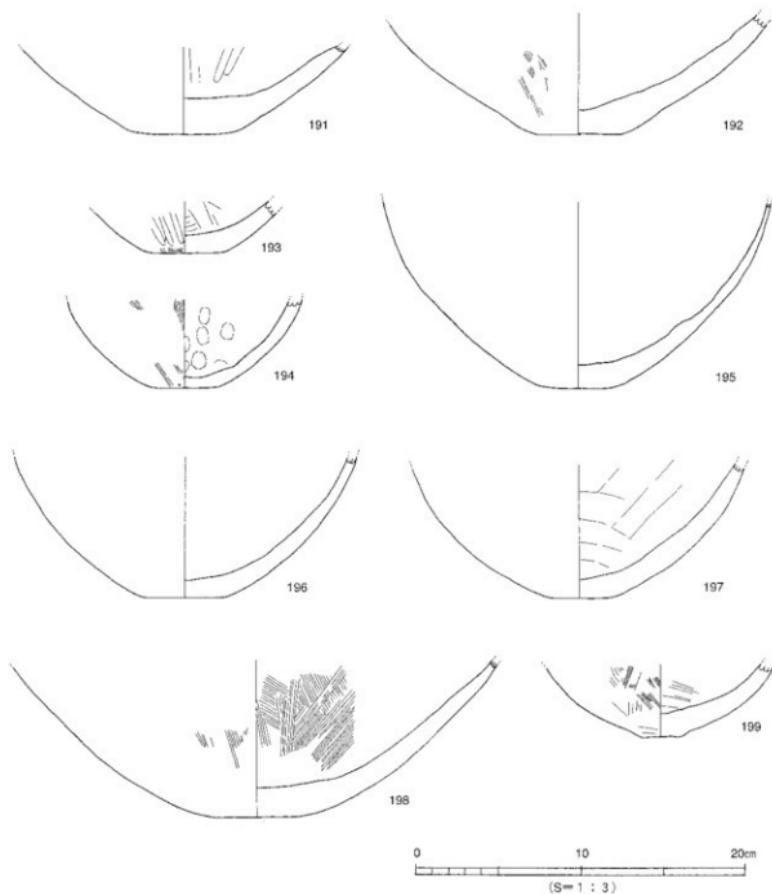
第42図 B1区第7層出土遺物実測図(14)



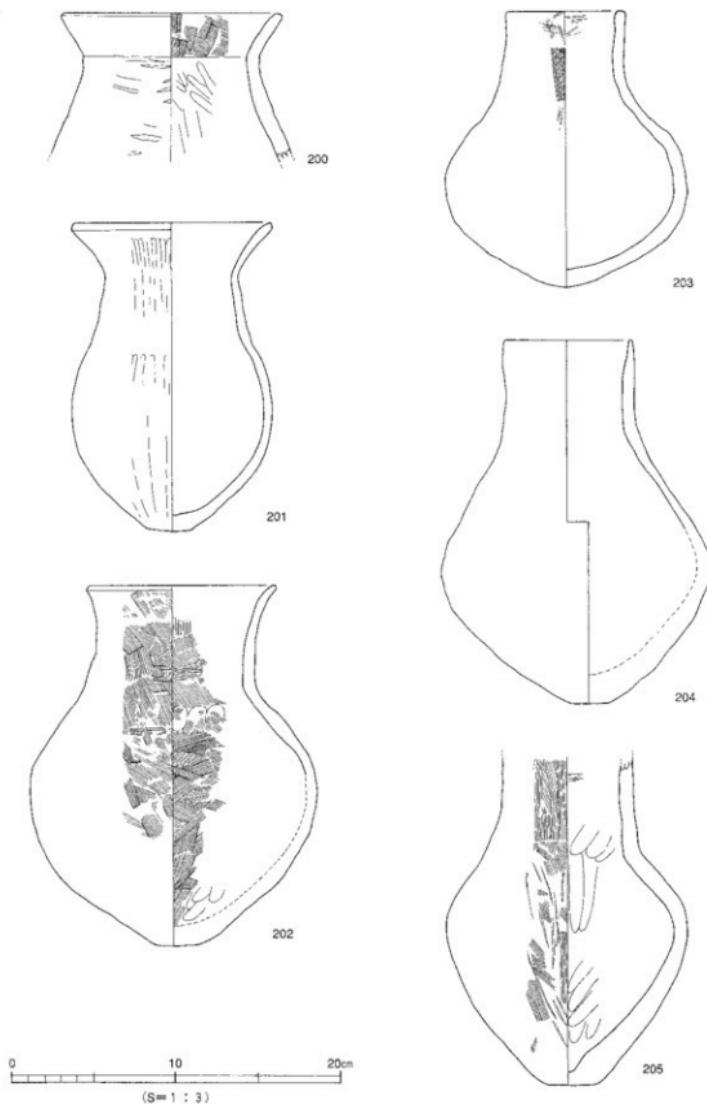
第43図 B 1 区第7層出土遺物実測図(15)

後葉の凹線文系の小型壺である。器高18.8cm、口径6.5cm、底径6.4cmを測る。胴張りを胸部中位に持ち、その最大径17.6cmを測る。外面に肥厚した口端部には3条の凹線、頸部下位には「ノ」の字状の列点文を施されている。器面は荒れているが、胸部の上下位の磨きをそれぞれ縱、横方向に磨きわけているのが観察できる。

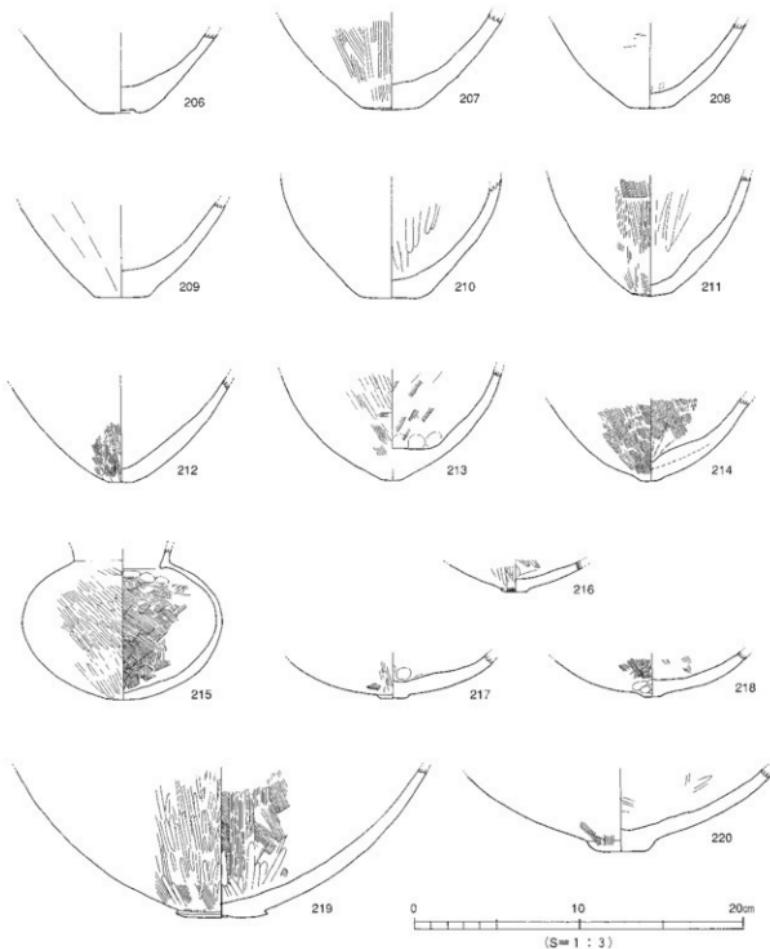
底部には、平底、僅かな窪み底状を呈するものがあり、そのいずれもが比較的安定感のある形態となっている。



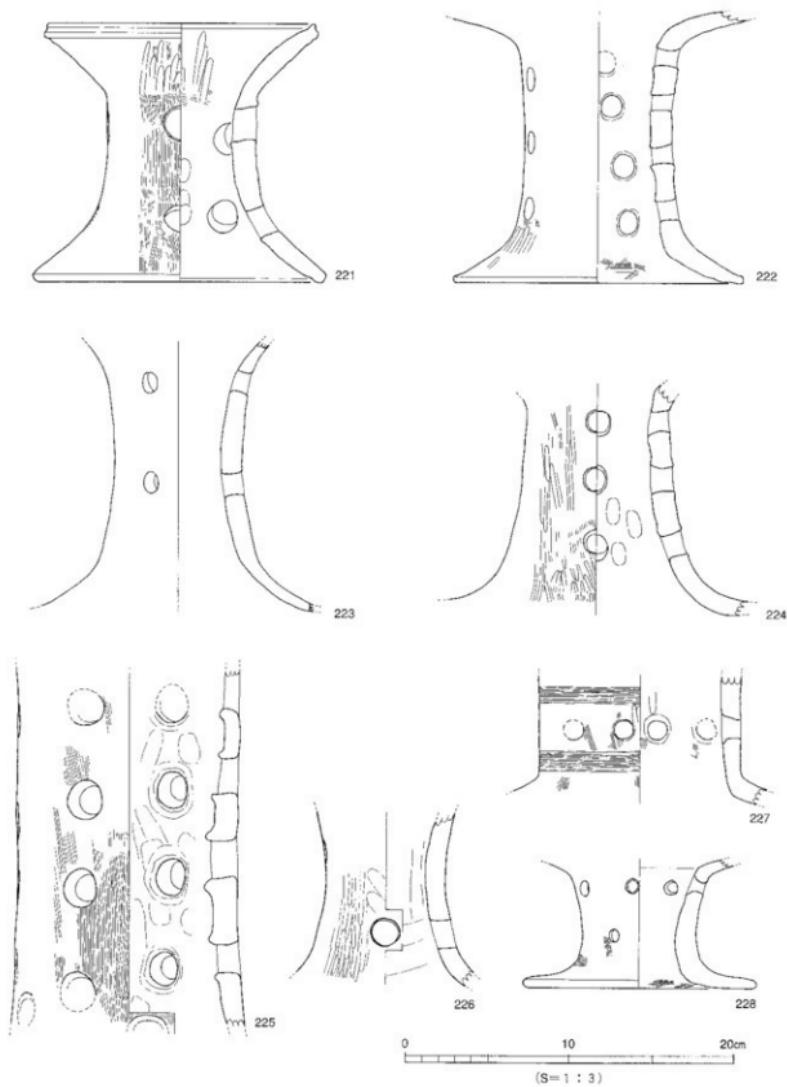
第44図 B1区第7層出土遺物実測図(16)



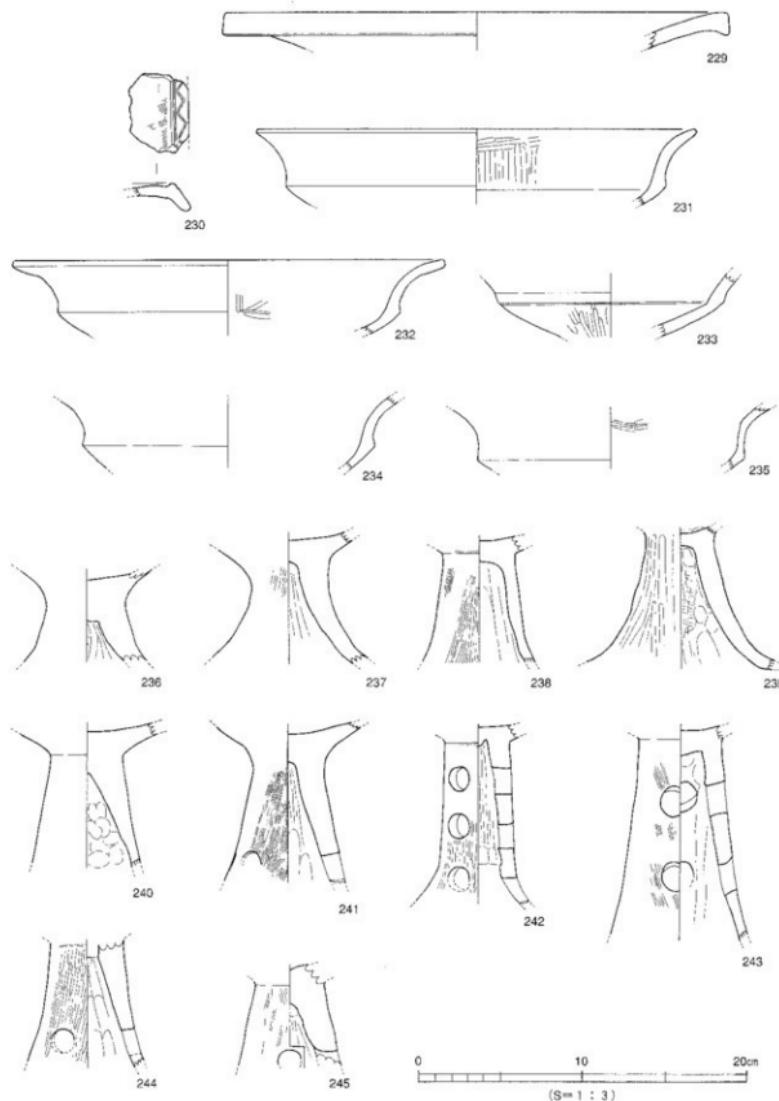
第45図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(17)



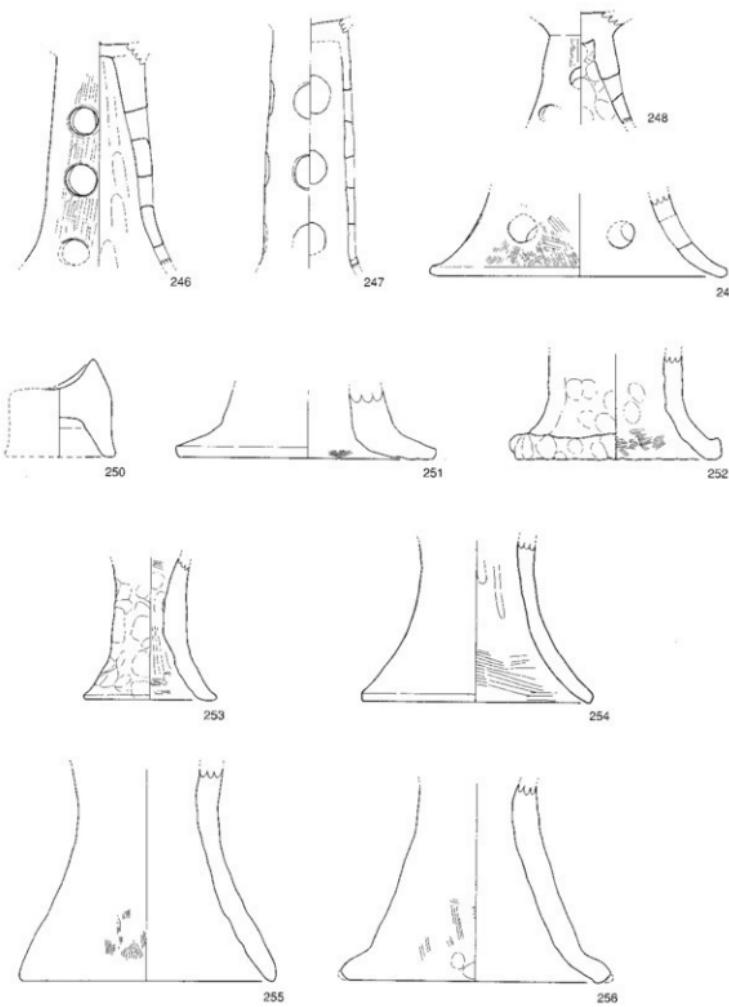
第46図 B1区第7層出土遺物実測図(18)



第47図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図19



第48図 B1区第7層出土遺物実測図(2)

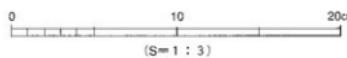
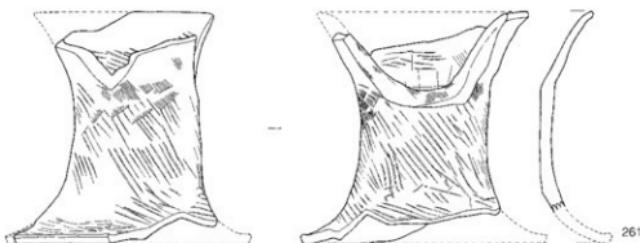
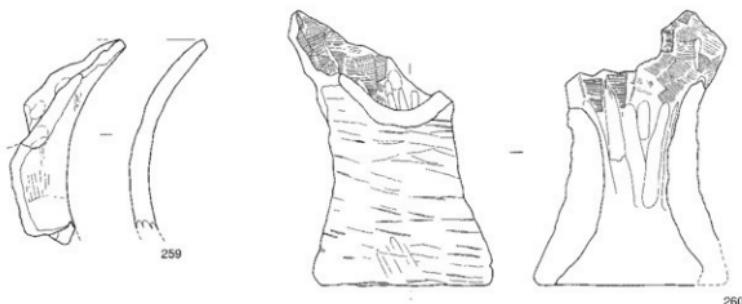


0 10 20cm  
(S=1:3)

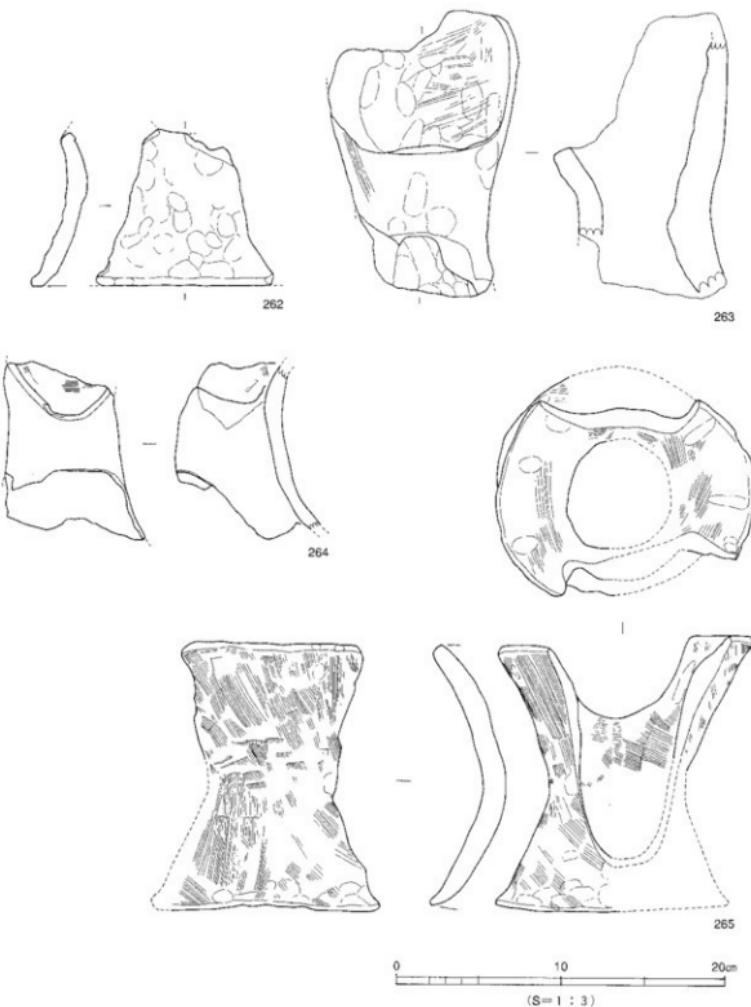
第49図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(2)

## 縄文土器

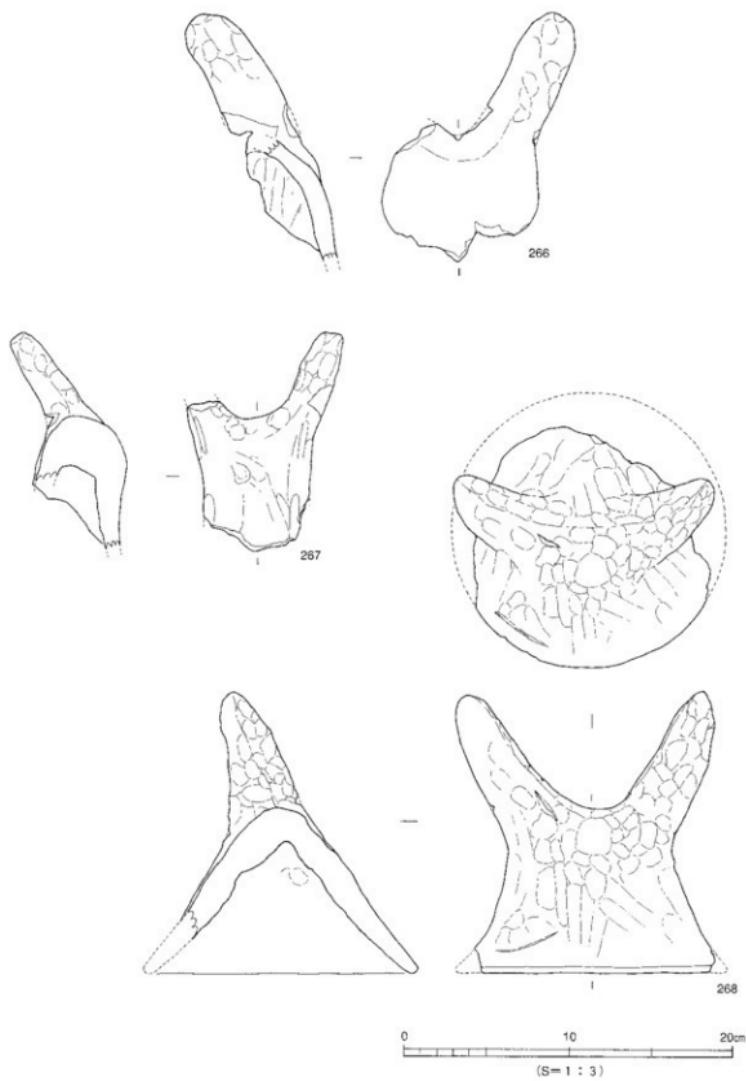
深鉢（506） 外反する口頭部の外面に平行斜線文、端部に浅い刻み目を施されるものである。



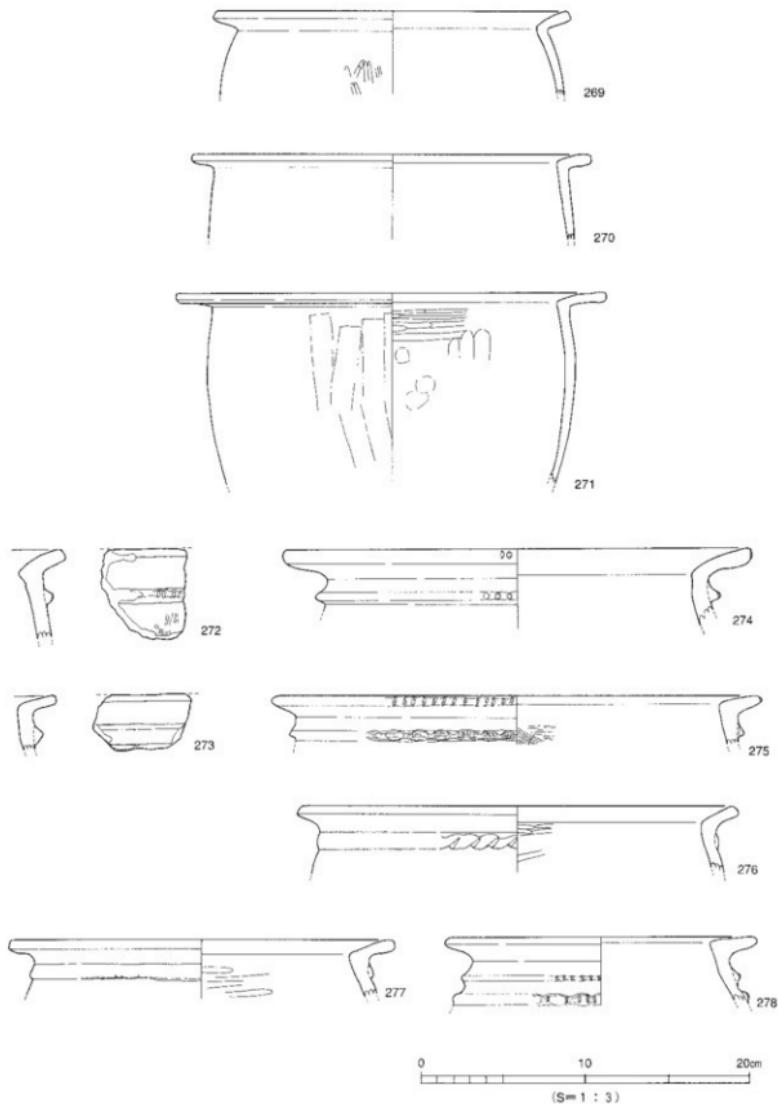
第50図 B 1区第7層出土遺物実測図(2)



第51図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図(2)



第52図 B 1 区第7層出土遺物実測図24

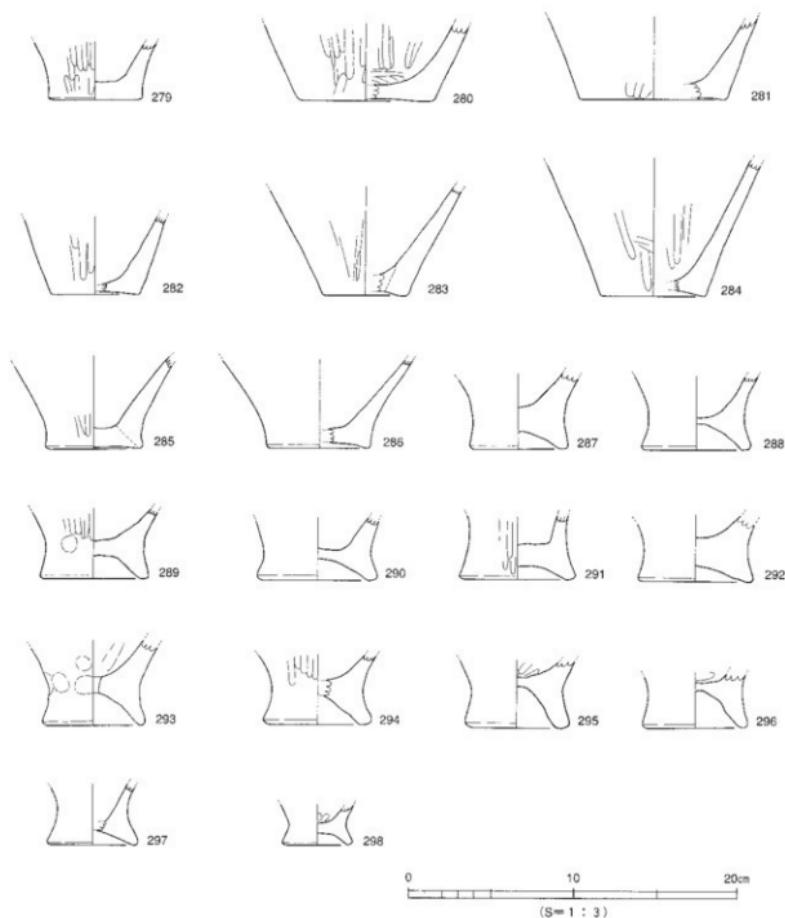


第53図 B1区第7層出土遺物実測図25

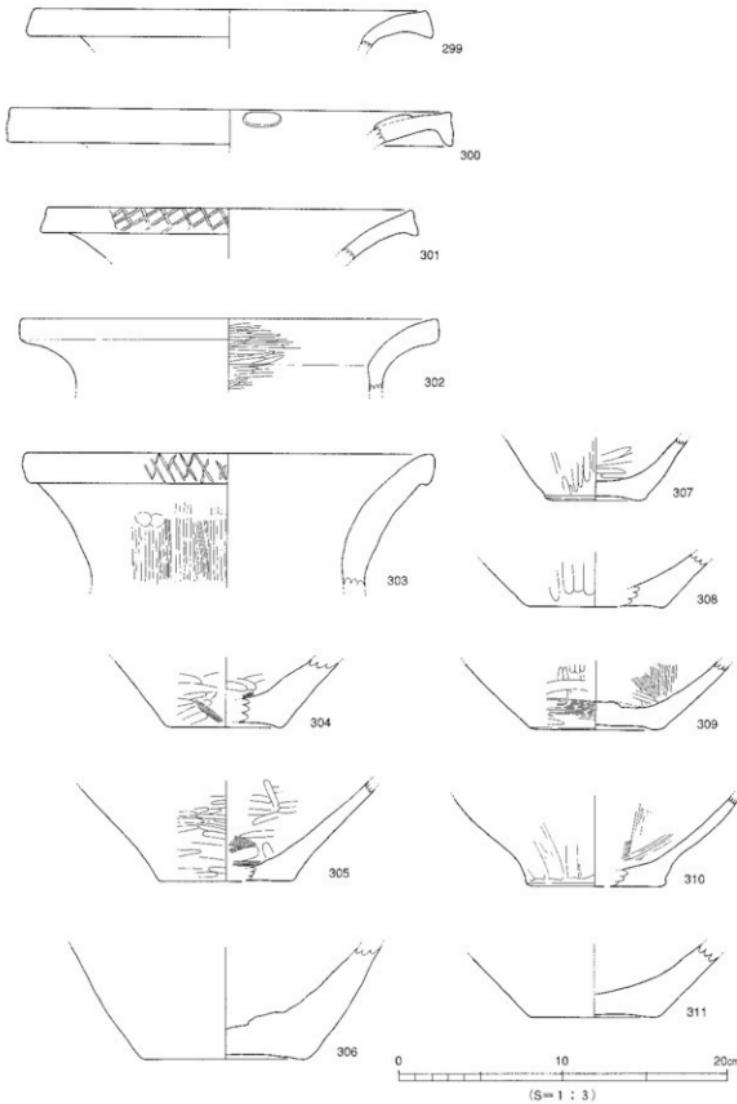
## 弥生土器

甕 (507~569) 507は、前期後半の口頭部で、弱く折り曲げられた口縁部とやや張りを持った肩部形態をなす。頭部には2条の平行沈線、口端部の僅かに生きている部分には刻み目が1点だけ観察できる。

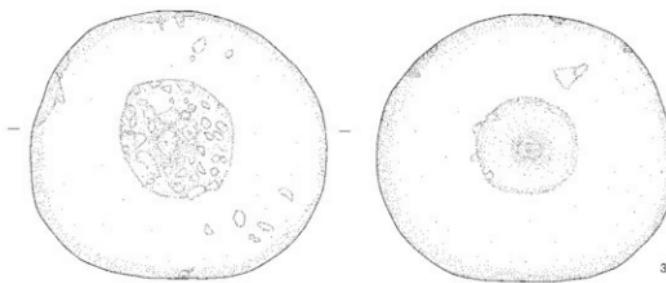
508~564は、中期の甕である。B 1 区第9層出土の甕と同様、無文のものと有文のものがある。無



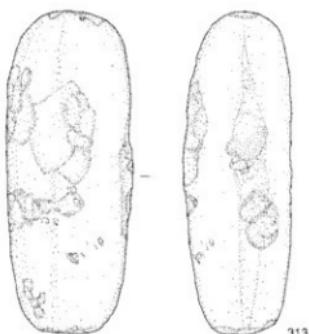
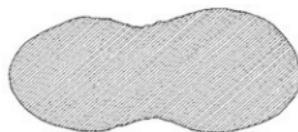
第54図 B 1 区第7層出土遺物実測図(26)



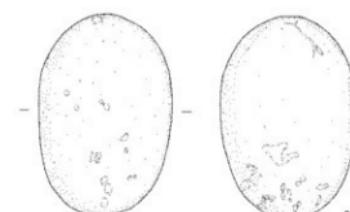
第55図 B1区第7層出土遺物実測図(2)



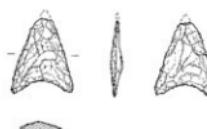
312



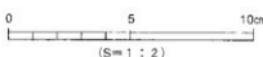
313



314



315



第56図 B 1 区第 7 層出土遺物実測図28

文のものの口縁部は、508～518のように水平に近いところまで強く折り曲げられ、胴部径が口径より小さくなるものと、これらよりも折り曲げの度合いが弱く、外上方に聞く519～527のようなものとがある。これらのうちには525や526のように口縁部が内済気味に聞くものもある。有文のもの多くは圧痕文突帯を持ち、口端部に刻み目を施されるものと口端部無文のものとがあるのもB1区と同様である。底部は538・539のような、顕著なくびれを持たず僅かな上げ底になるものと所謂くびれの上げ底状になるものとがある。

565～569は上記の底部よりも降る中期後半もしくは後期に属すると考えられる壺底部である。

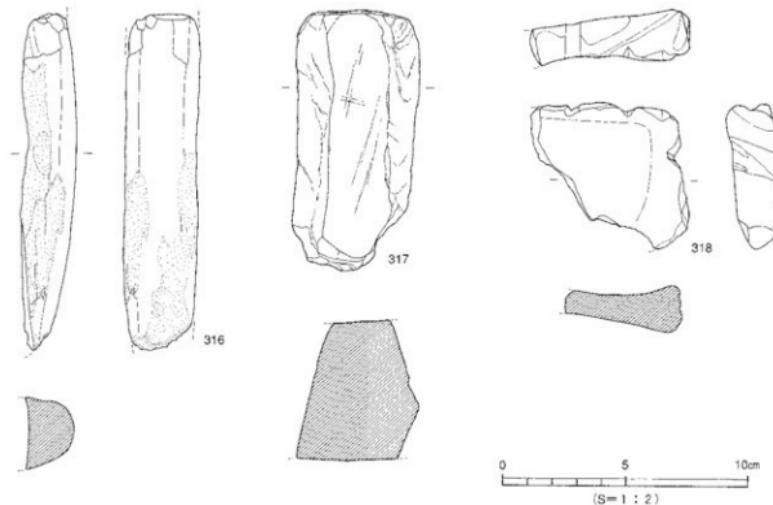
**高 壺 (570～580)** 高環口縁部570～572は、楕状の環口縁端を内面に肥厚させ、上端に水平な面をつくり、外端部に刻みを施すものである。脚部には、その上端部に貫通する円孔を穿つもの573・574、あるいは折部やや上位に貫通する三角形透孔を施すもの578・580、その他無文のものがあり、いずれも中期中葉のものと考えられる。

**鉢・その他の土器 (581～584)** 581・582は手捏ねによる小型の鉢、582は二次的に火熱を受けている。583は台付きの異形の上器で、器種不明のものである。上端部に円孔を持つ台上に載せられた部分はシンメトリーな形状にはなっていない。これは製作途上の変形ではなく、意図して成形されたものである。584はジョッキ形土器の底部である。

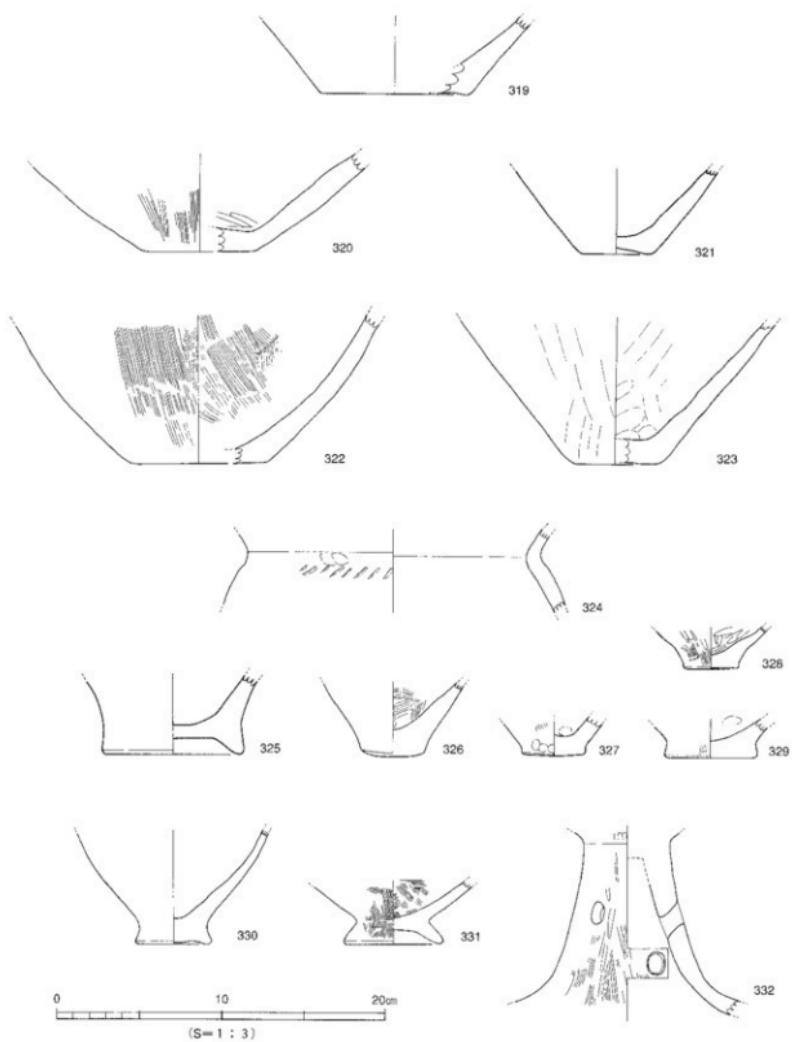
#### 土製品

**紡錘車 (585)** 一部を欠いており、現況で重量26.39 g、直径4.6cmを量る。最大厚1.4cmの断面紡錘形に近く成形された円板の中央に、直径0.6cmの孔を焼成前穿孔されている。

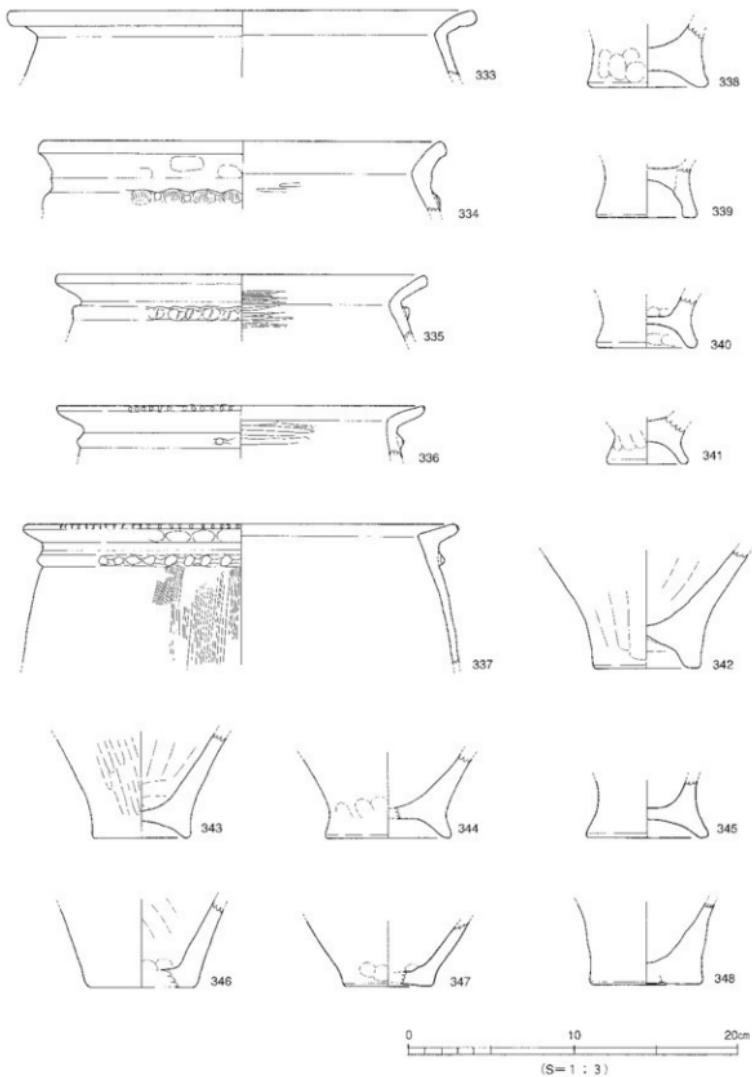
**勾 玉 (586)** 全長3.7cmを測る土製勾玉で、背部に刻み目を持つ。



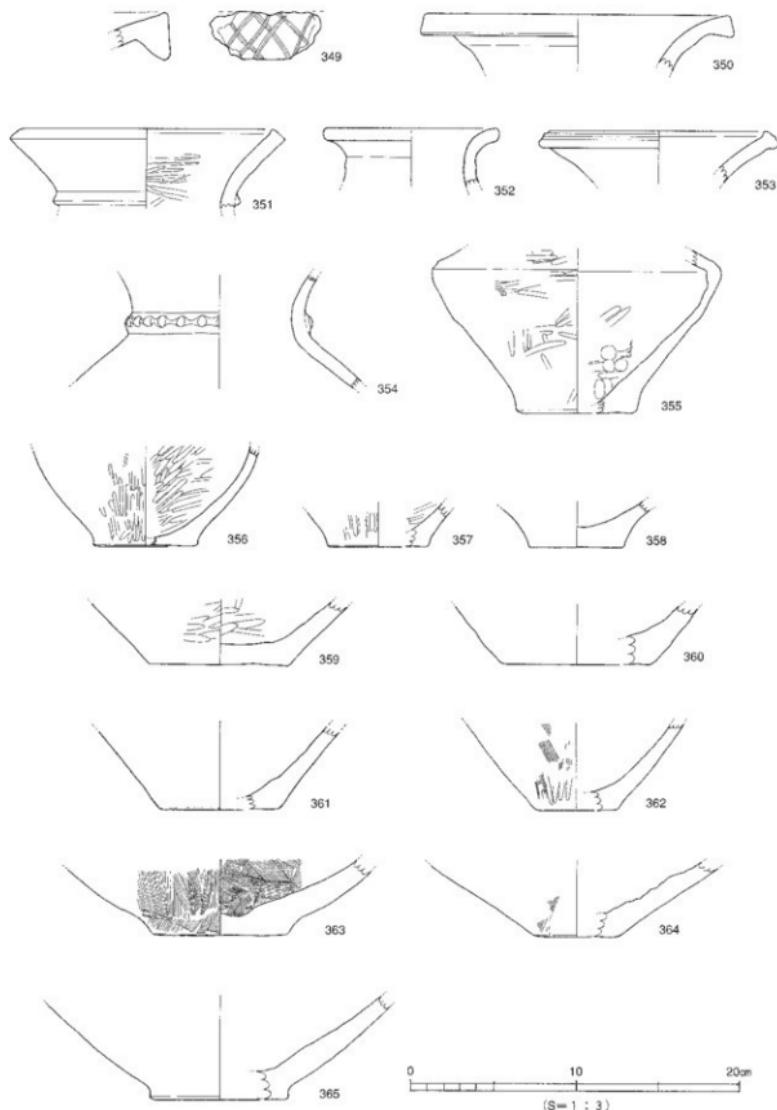
第57図 B1区第7層出土遺物実測図<sup>29</sup>



第58図 B1区第6・7層出土遺物実測図



第59図 B 1 区第 9 層出土遺物実測図(1)



第60図 B 1区第9層出土遺物実測図(2)

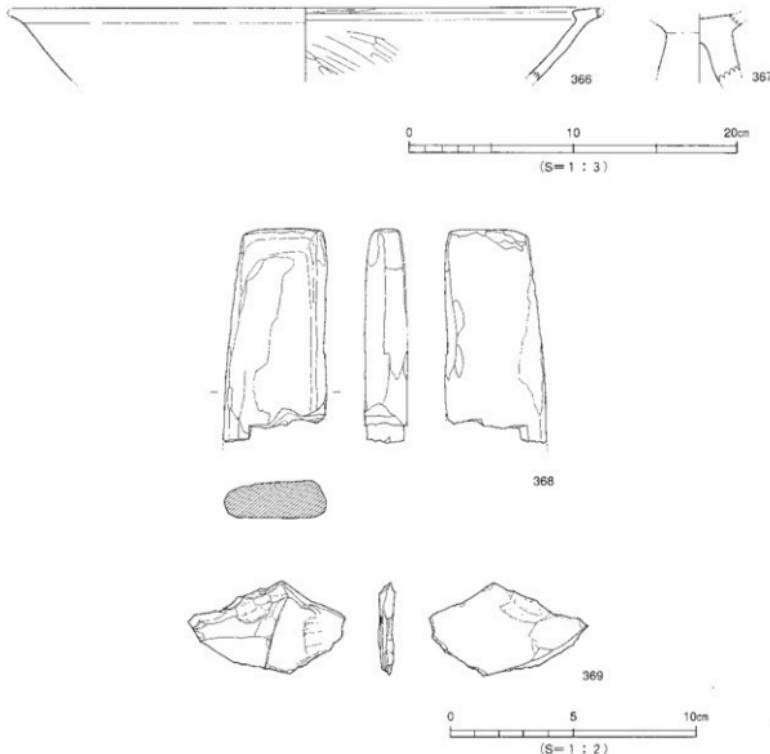
## 石器・石製品（第82・83図、図版44）

石 斧（587～591） 587・588は伐採斧のそれぞれ刃部、基部の片で、同質の緑色系の凝灰岩からなっているので、同一個体であるかもしれない。589～591は加工斧で、緑泥片岩を素材としている。589が扁平片刃の破損品、590が柱状片刃の小型品、591が大型品である。590は基部付近が僅かに剝離しているがほぼ完形で、全長9.4cm、重量32.05gを量る。

石庖丁（592・593） ともに緑泥片岩製。592は刃部の小破片で、穿孔の一部が確認できる。593は、ほぼ全体の形状を長方形に整え、刃部を敲打によりつくり出した段階の未製品である。

石 鋸（594） 赤色チャートを素材とする打製石鋸で、基部を欠く。現況重量1.63gを量る。

台石・産み石（595～597） 595は凝灰岩、596は砂岩を台石として利用したもので、595では両面を596では片面を擦っている。597は砂岩の産み石、片面と周縁の一部に敲打痕がみられる。



第61図 B1区第9層出土遺物実測図(3)

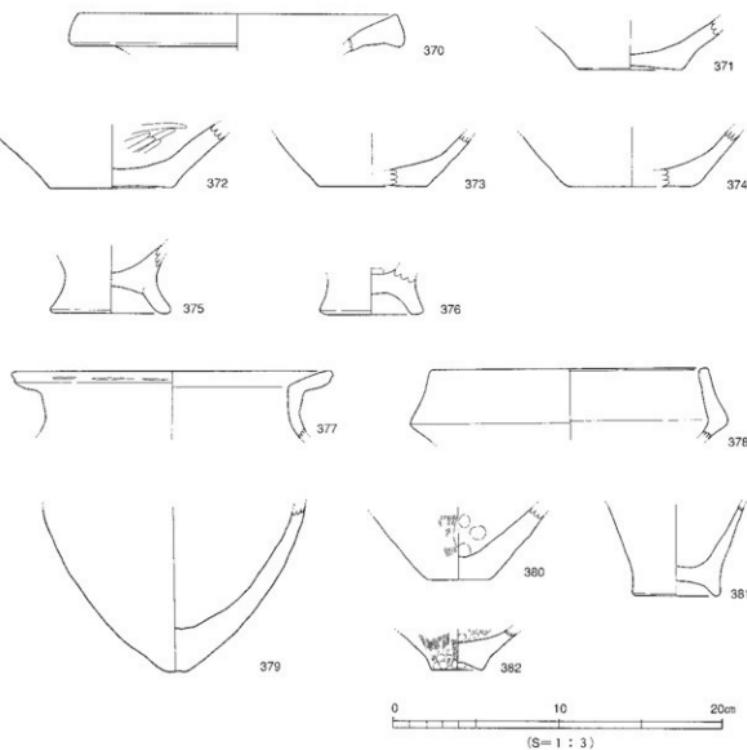
## S X 1 ~ 3 出土遺物 (第84・85図)

弥生土器 (598~604) 598・599はS X 1出土のもので、598が後期の複合口縁壺口頭部である。口縁屈曲部のタガではなく、頭部に断面三角形の突帯を1条持つ。599は中期の壺底部である。600・601はS X 2出土のそれぞれ中期、後期の壺底部である。602~606はS X 3出土のもの。中期の壺602・603のうち602は口縁部を短く外上方に折り曲げ、口端部を除く内外面の器面を入念に磨いている。壺604・605とともに中期のもの、606は後期の壺底部か。

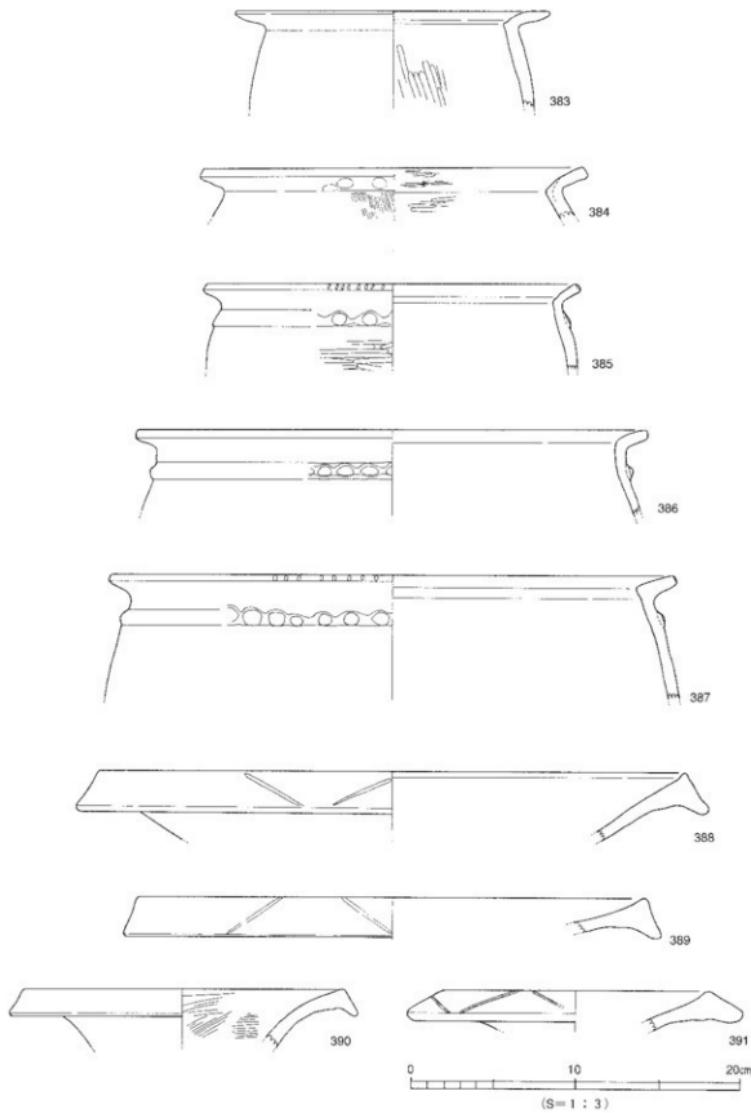
石 斧 (607) S X 3出土、扁平片刃石斧の刃部を欠いたもの。緑泥片岩製。

## 表採・出土層位不明遺物 (第86~88図)

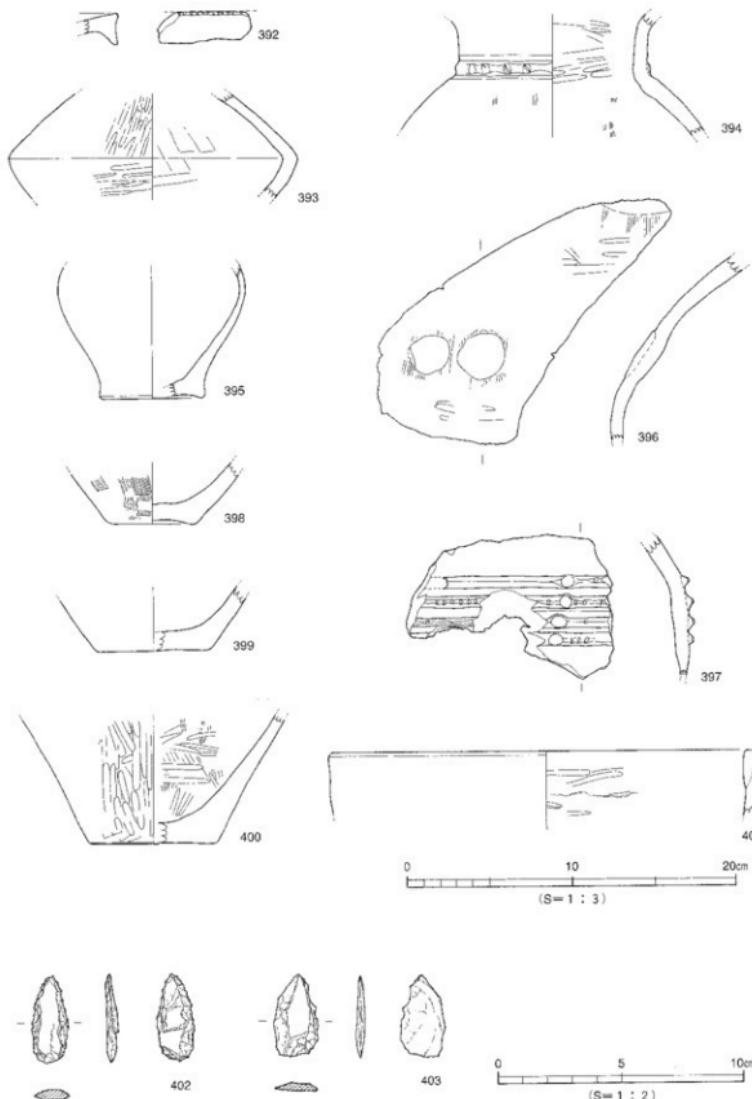
B 2 区においても、表採品、あるいは整理中に所属層位が不明になった弥生土器・石製品が若干あるが、この調査区では遺物のほとんどすべてが第9層から出土しているので、特に中期の弥生遺物は



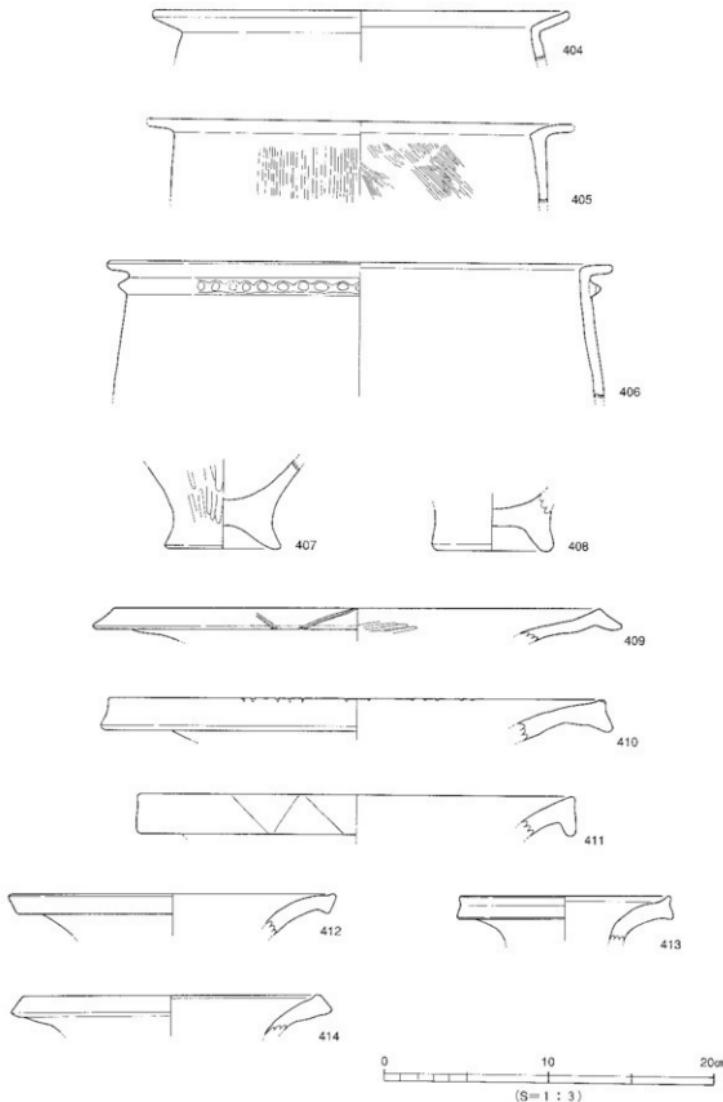
第62図 B 1区第7・8・9層出土遺物実測図



第63図 B 1 区第 9・10層出土遺物実測図(1)



第64図 B 1区第9・10層出土遺物実測図(2)



第65図 B 1 区第11層出土遺物実測図(1)

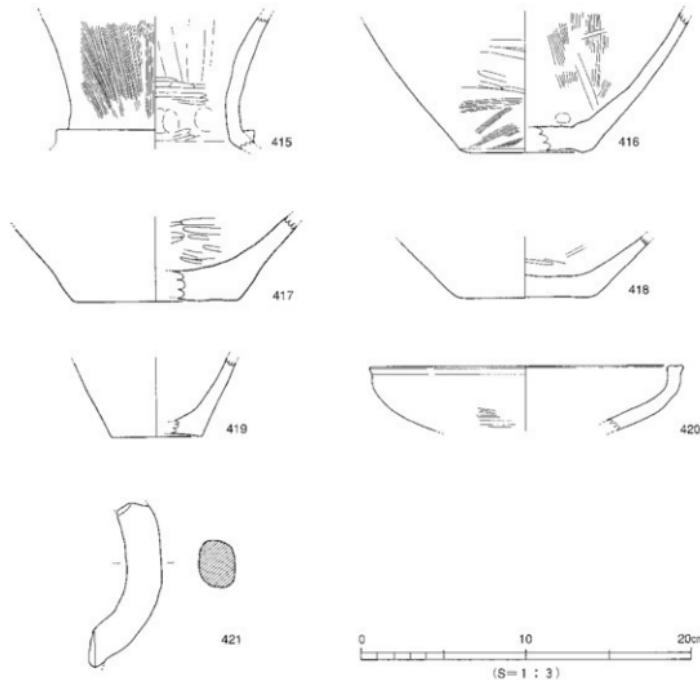
やはり第9層出土の可能性が高い。

#### 弥生土器

**壺 (608~614)** 後期の613を除いて、すべて中期のものである。圧痕文突帯や口端部刻み目を持つ有文のものと無文で水平に近く口縁を折り曲げられるものがある。後期の613は外上方に折り曲げられた口端部に面を持ち、内外面を刷毛目で調整されている。

**壺 (615~632)** 中期のものが615~625で、626~632が後期のものと考えられる。中期のものには、頭部圧痕文突帯や断面三角形突帯を貼りつけられたり、口縁面にヘラ描による施文を持ったり、底部では安定感のある平底であるところも、甕同様、第9層出土の壺群の特徴と変わることはない。後期の口縁部片2点は複合口縁、底部はやや突出した平底になるものや、小さな平底のものがある。

**高 壱 (633~636)** すべて脚部片で、後期の636を除いて中期のものである。633~634は無文であるが、635には4方向に割り付けられる透孔がある。形状からみて、三角形透孔の頂部が残存しているものと思われる。



第66図 B 1 区第11層出土遺物実測図(2)

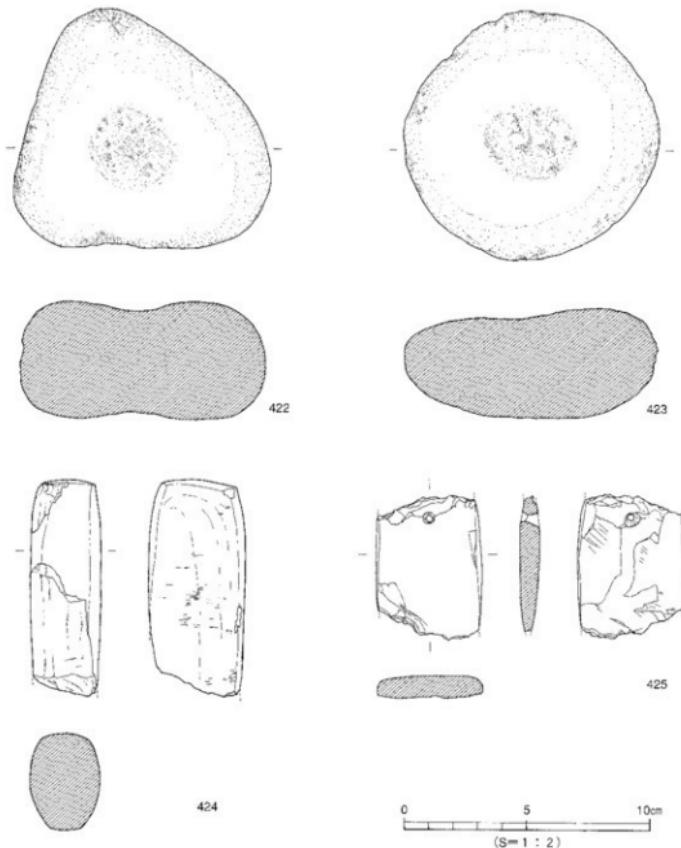
ジョッキ形土器 (637) 底部周縁に鋤状のタガが巡っている。復元底径27.4cmと大型のジョッキ底部と考えられる。

石器・石製品

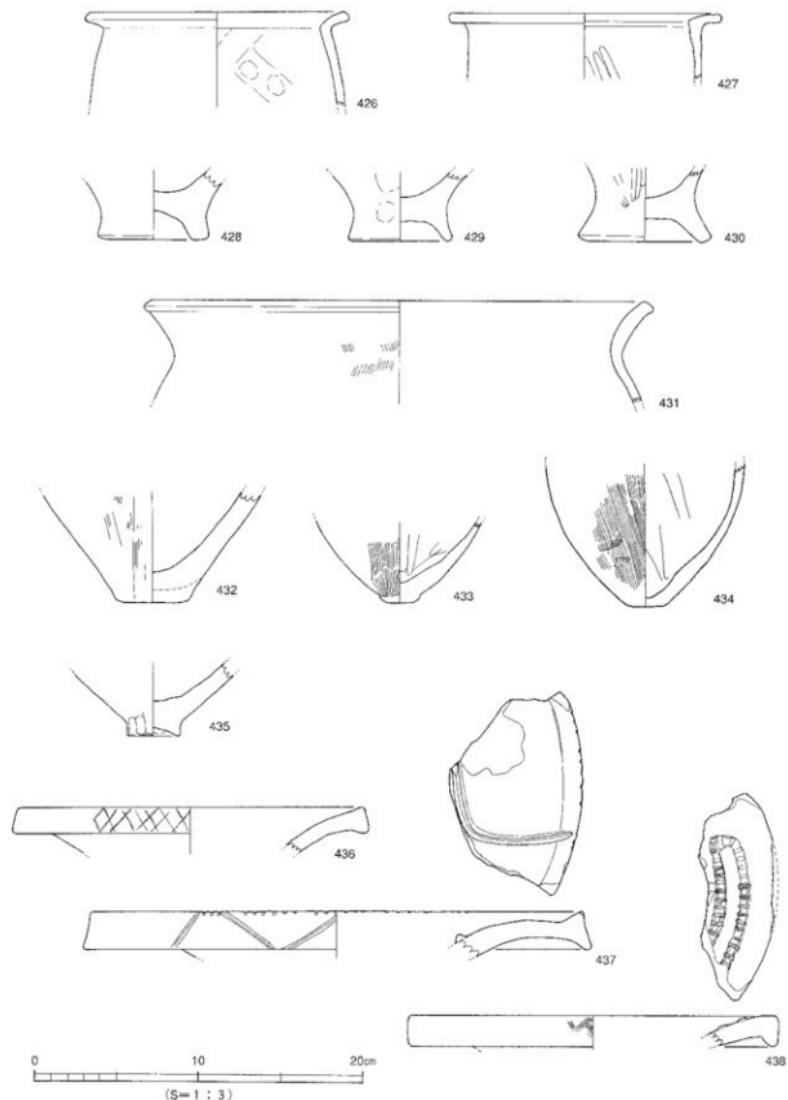
石 斧 (638) 緑泥片岩の素材剝片に敲打を加えて短冊状に成形している。扁平片刃石斧の未製品であろう。

石庵丁 (639) 緑泥片岩製石庵丁の背部周辺の破片で、穿孔の部分で破損している。穿孔途中で放棄された穿孔痕跡も残っている。

剥 片 (640) サヌカイトの剥片である。



第67図 B 1 区第11層出土遺物実測図(3)



第68図 B1区出土地点不明遺物実測図(1)

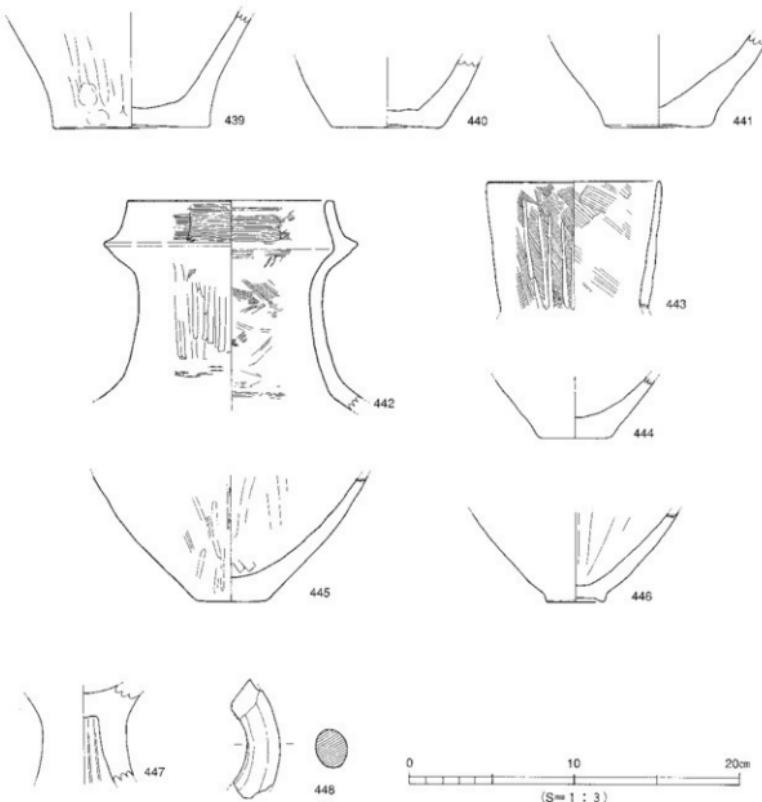
## (3) C 調査区の調査 (第17図)

B区の北方40m付近の竹林斜面に設定した試掘トレンチT15において若干の遺物の出土があったので、可能な限りトレンチ周辺を拡張掘削して遺構検出を実施したが、人為的な遺構は存在しなかったので、遺物のみを採集して調査を終えた。

## C調査区出土の遺物

## 弥生土器 (第89~92図、図版45)

壺 (641~670) □頭部でいえば641~651が中期中葉、652・653が後期のものである。中期のものでは頸部に突帯を持ったり、口端面にヘラ措施文を行われたり、口縁部内面に突帯や浮文を持つもの



第69図 B 1区出土地点不明遺物実測図(2)

など、B調査区の第9層出土の中期の壺と変わることはない。643では大きく開く口縁部内面に部分的に刻み目を施した渦巻き状の突帯を巡らせ、口端部上端も刻んでいる。また、口縁端の穿孔は焼成前に行われたものである。このような口縁部は、同一個体ではないが、多重突帯と縱方向の棒状浮文を持った651のような頸部と組み合うものと思われる。650では下方に拡張した口端面に3条の凹線を施している。底部では中期か、後期かはにわかに判別しがたいものがあるが663や668・669あたりが後期のものか。

**壺 (671~685)** 壺口頸部は無文のもので、やはり中期に属するものである。底部にもいろいろバリエーションがあるが概ね中期後半までにおさまるものであろう。

**高坏 (686~689)** すべて中期中葉のもの、686は直線的に外上方に開いた口縁部端部を内外方に拡張して、鋸先状に上端に水平な面をつくっている。687は口端を内面に肥厚させ外端部を刻み、なおかつ焼成前の穿孔を行っている。脚部689の透孔は、貫通する4方向の矢羽根状に復元できる。

**ジョッキ形土器 (690・691)** 口縁部と把手の2点が出土している。口縁部690は外表面ともに縦方向に入念に磨かれている。

#### 須恵器・土師器 (第92図)

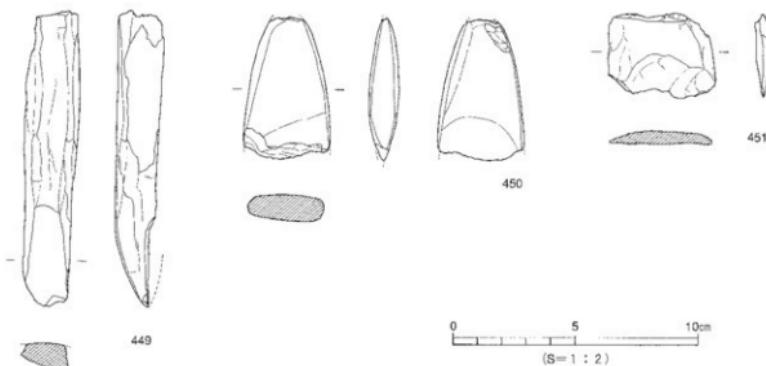
**須恵器坏 (692)** 蓋の破片で口縁部と天井部の境に鈍い棱を持つ。口端部は鈍い段を持って斜めに仕上げられている。

**須恵器壺 (693)** 復元口径19.8cmを測る口頸部片。

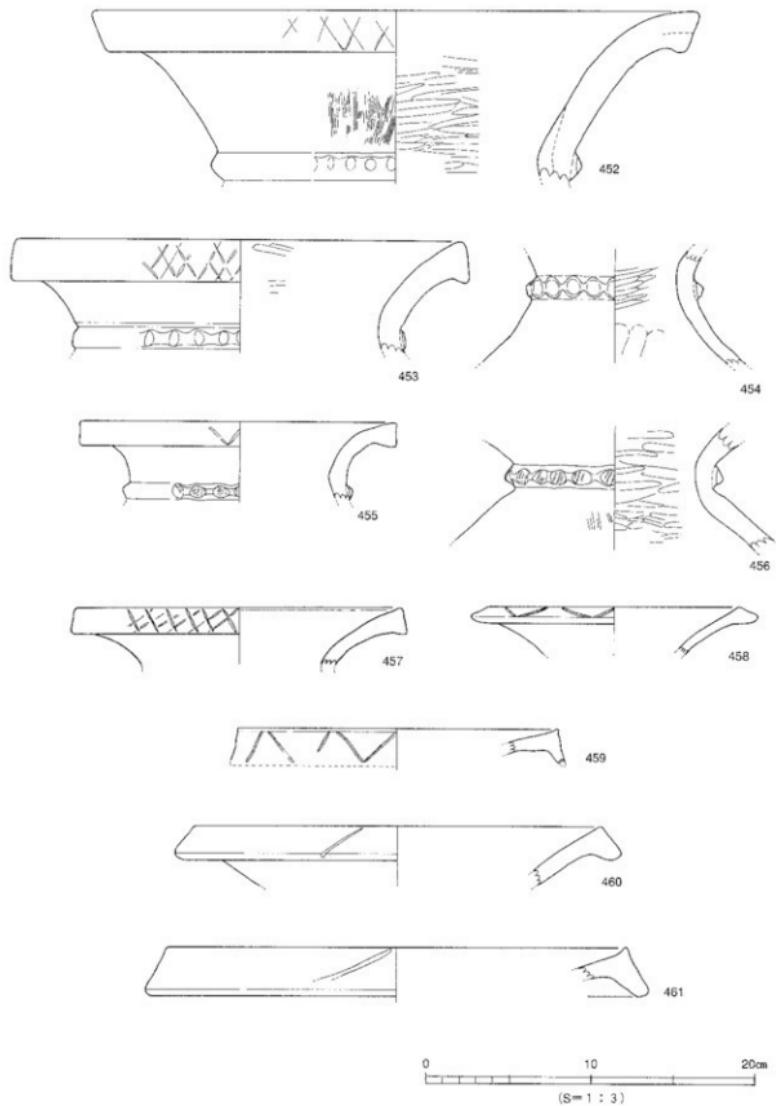
**土師器坏 (694・695)** 円盤高台を持つ坏底部2点。両者ともハラ切りの後切り離し痕をナデ消されている。

#### 石器・石製品 (第93・94図、図版45)

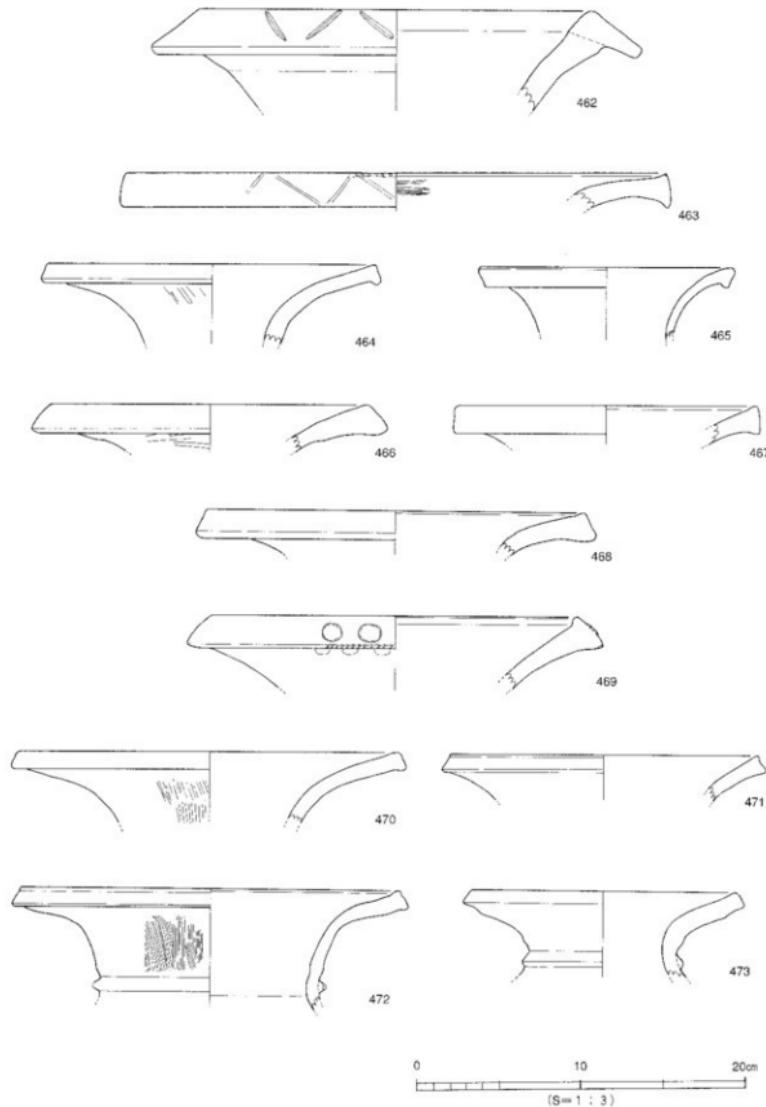
**石斧 (696~700)** 696~698は綠泥片岩、699・700が凝灰岩を素材とする。696・697は同型、同サイズの大型の柱状片刃石斧の刃部片。696は刃部を欠いているが、697は完存しており、使用痕が残っている。698の扁平片刃石斧は、自然縫の端部に刃つけを施しただけのような簡便なつくりである。



第70図 B 1 区出土地点不明遺物実測図(3)



第71図 B 2区第9層出土遺物実測図(1)



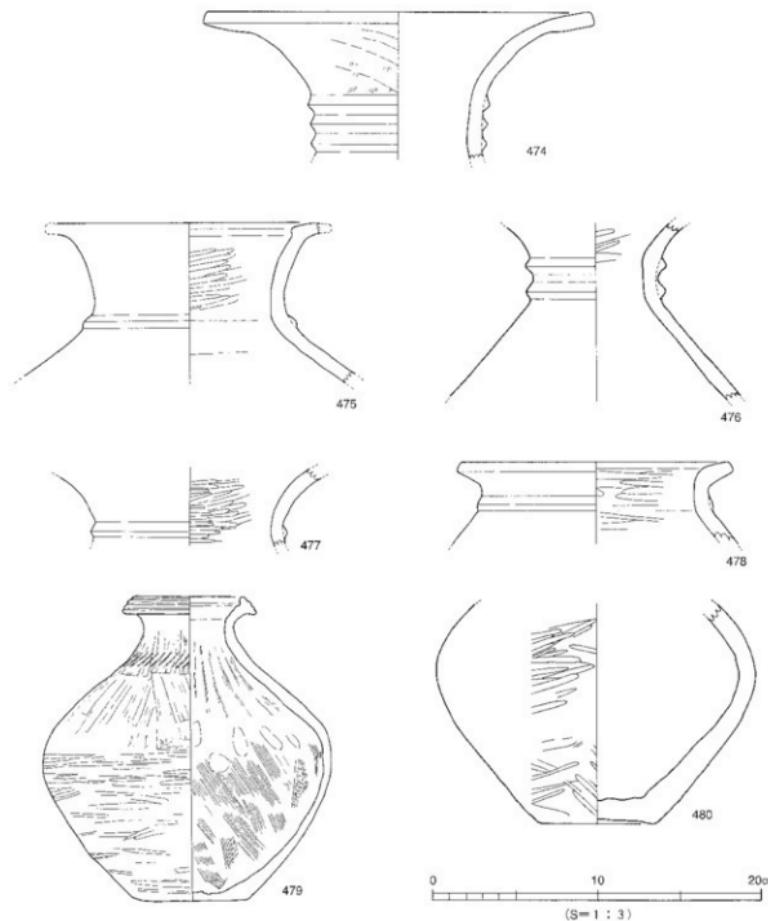
第72図 B2区第9層出土遺物実測図(2)

699・700は刃部を折損した伐採斧片で、現況で前者が544 g、後者が230 gを量る。

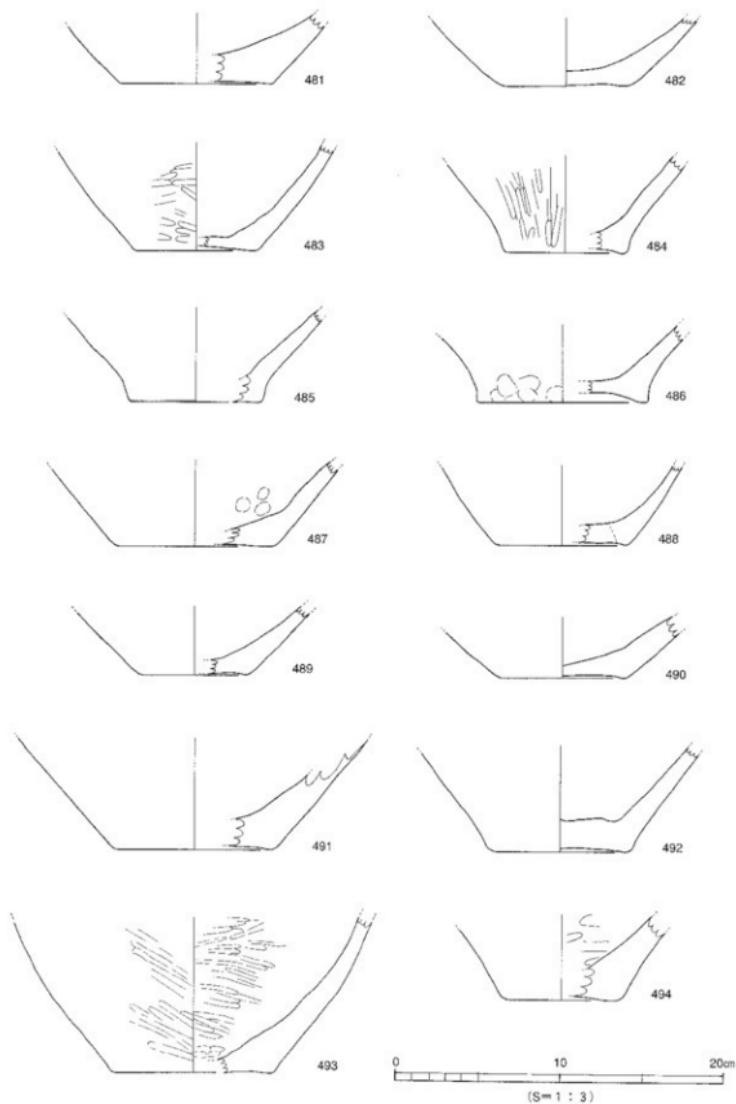
石庖丁 (701) 緑泥片岩製磨製石庖丁の刃部片。

敲石・砸み石 (702~704) 3者とも凝灰岩の転石を利用している。702・704は敲石、砸の側面を敲打に使用している。703は砸み石、敲打の砸みの部分で破損している。

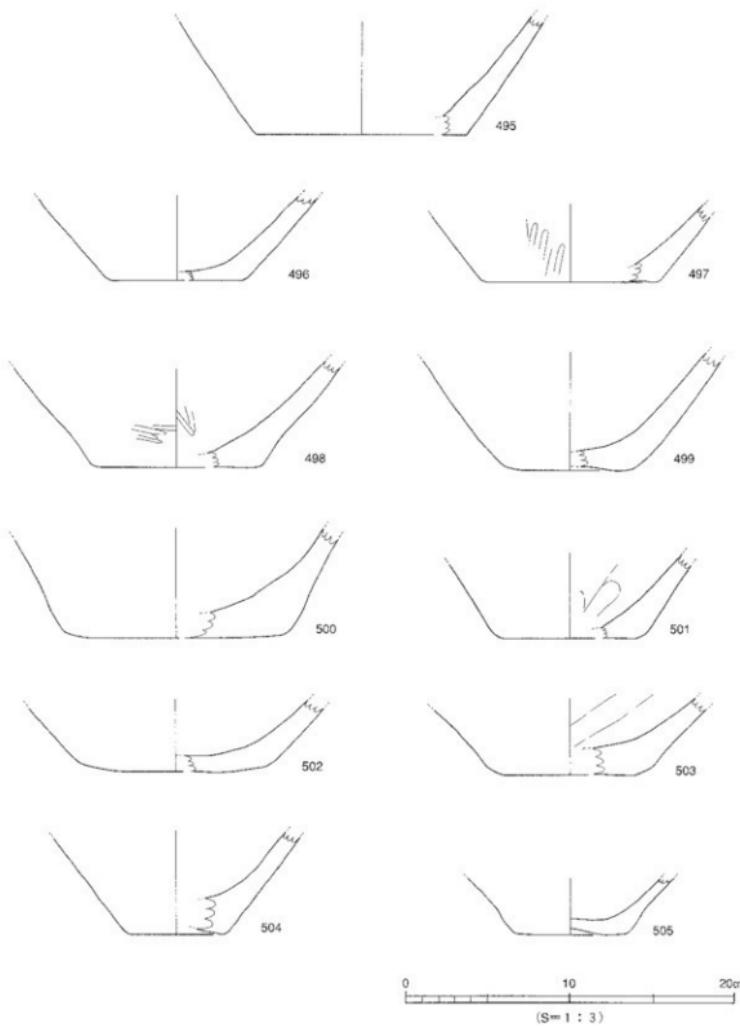
剥 片 (705) 大型の凝灰岩剥片である。



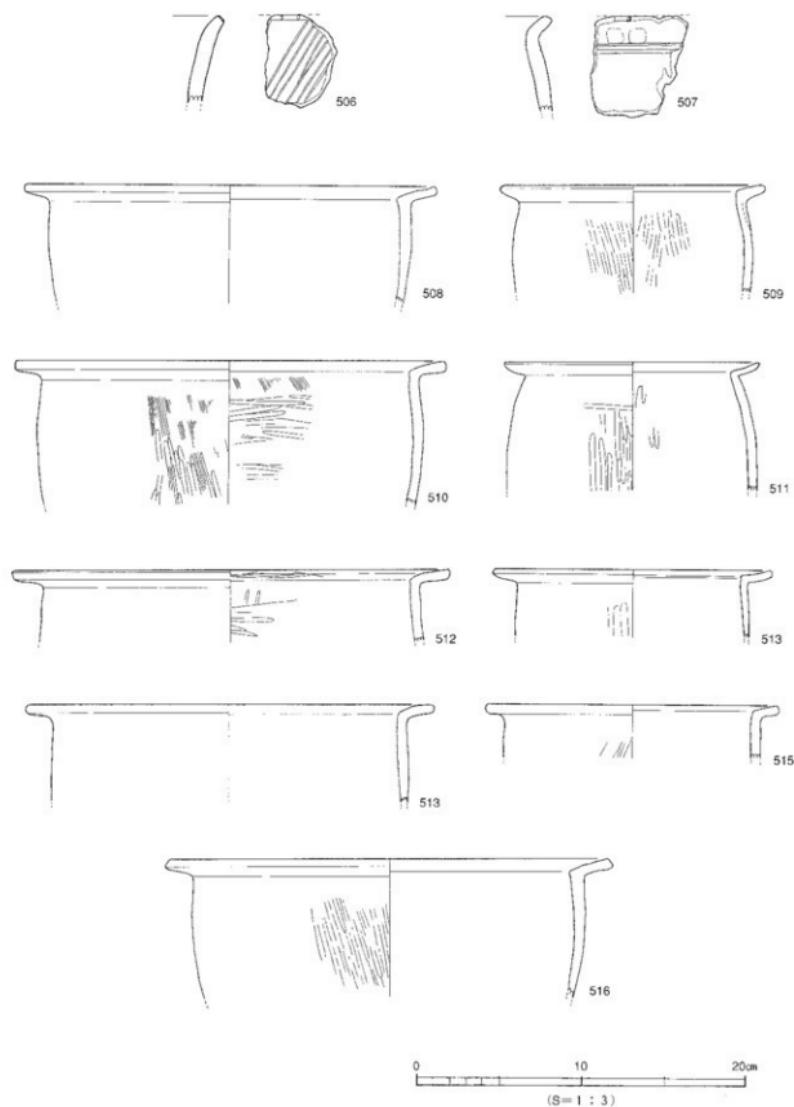
第73図 B 2区第9層出土遺物実測図(3)



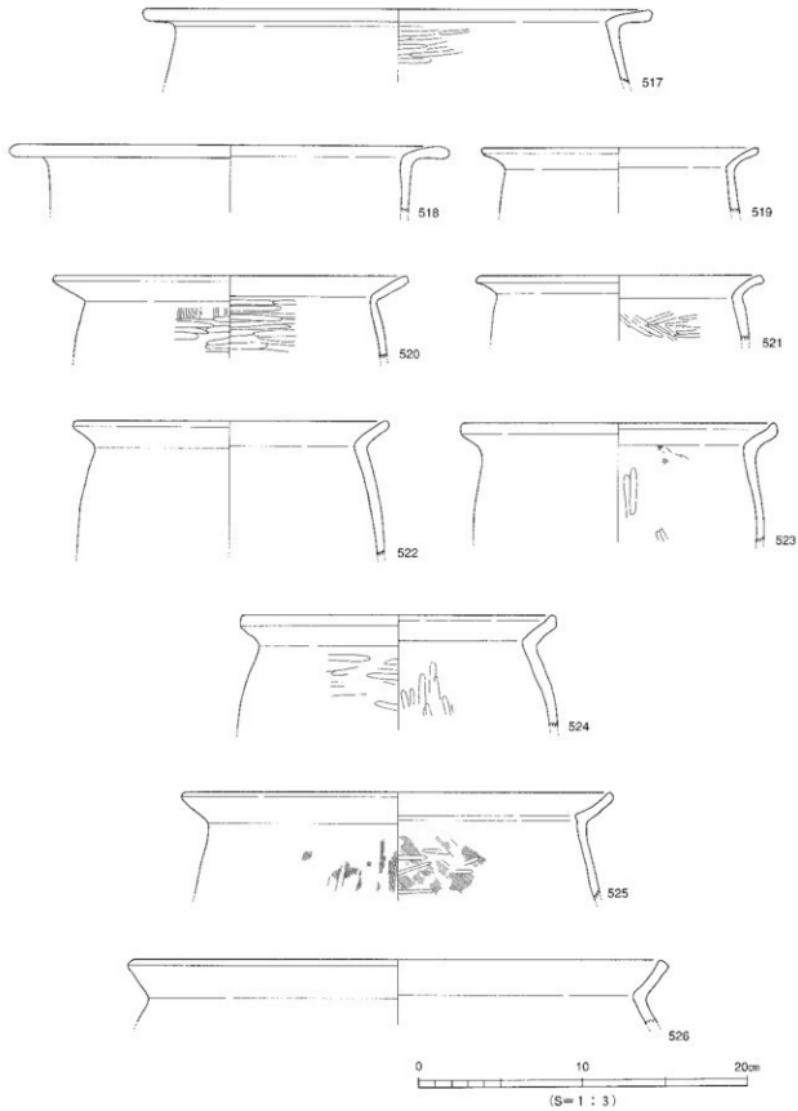
第74図 B2区第9層出土遺物実測図(4)



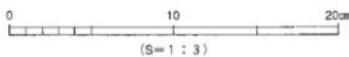
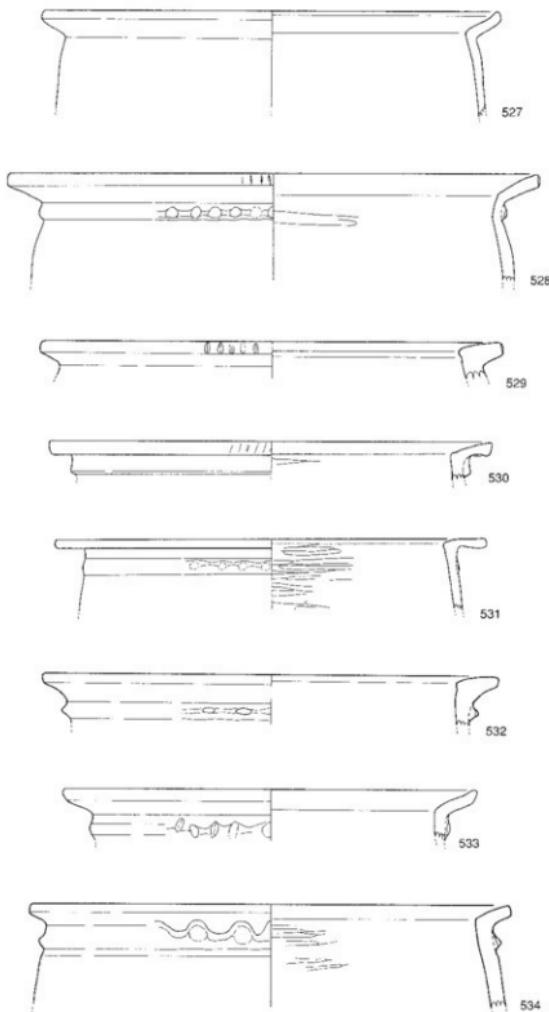
第75図 B 2区第9層出土遺物実測図(5)



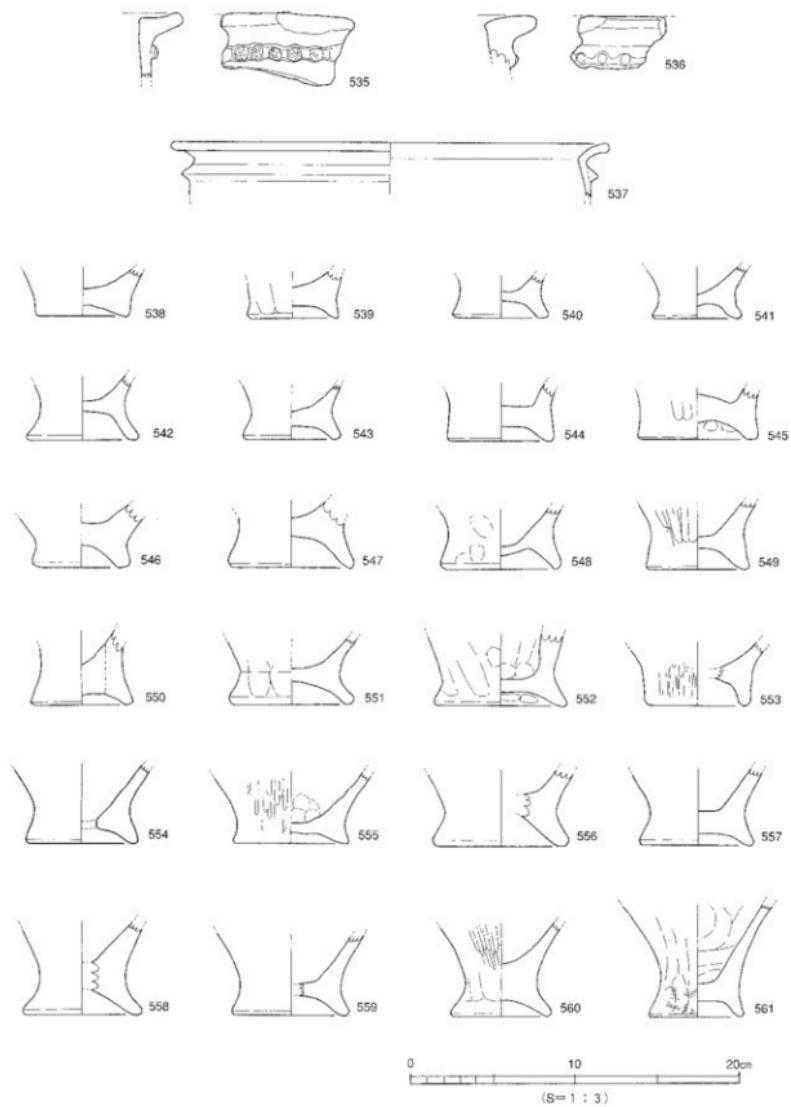
第76図 B2区第9層出土遺物実測図(6)



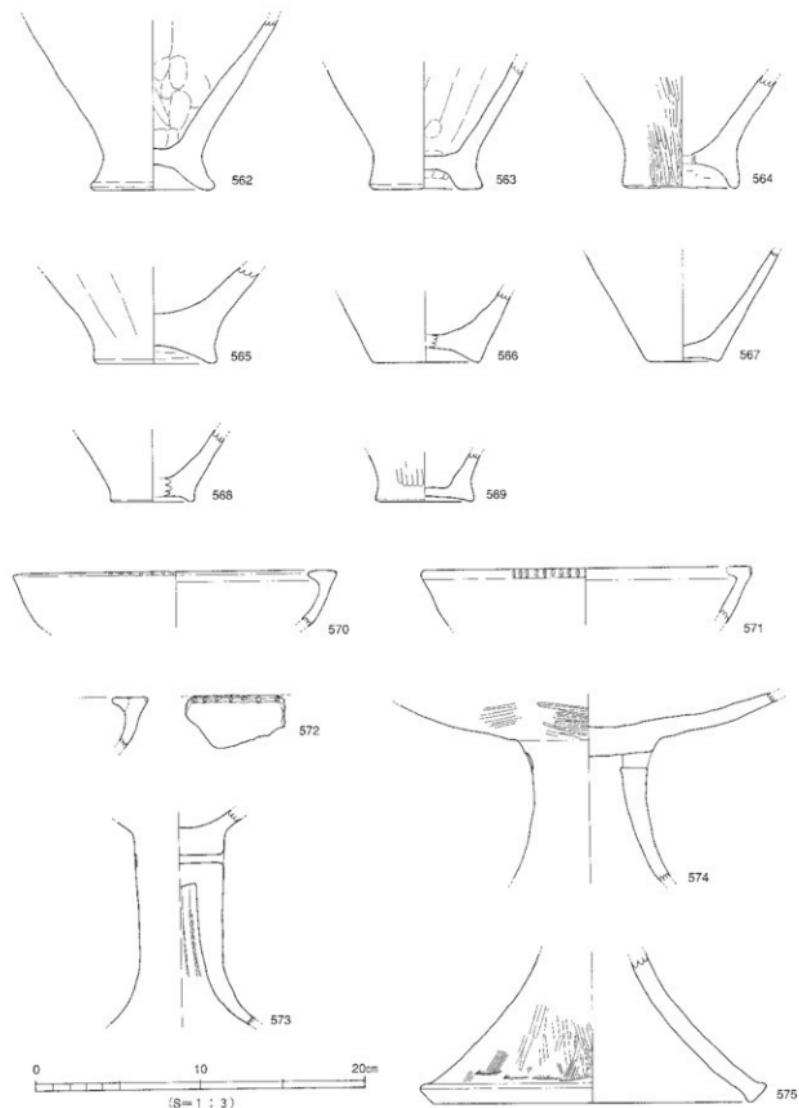
第77図 B 2 区第 9 層出土遺物実測図(7)



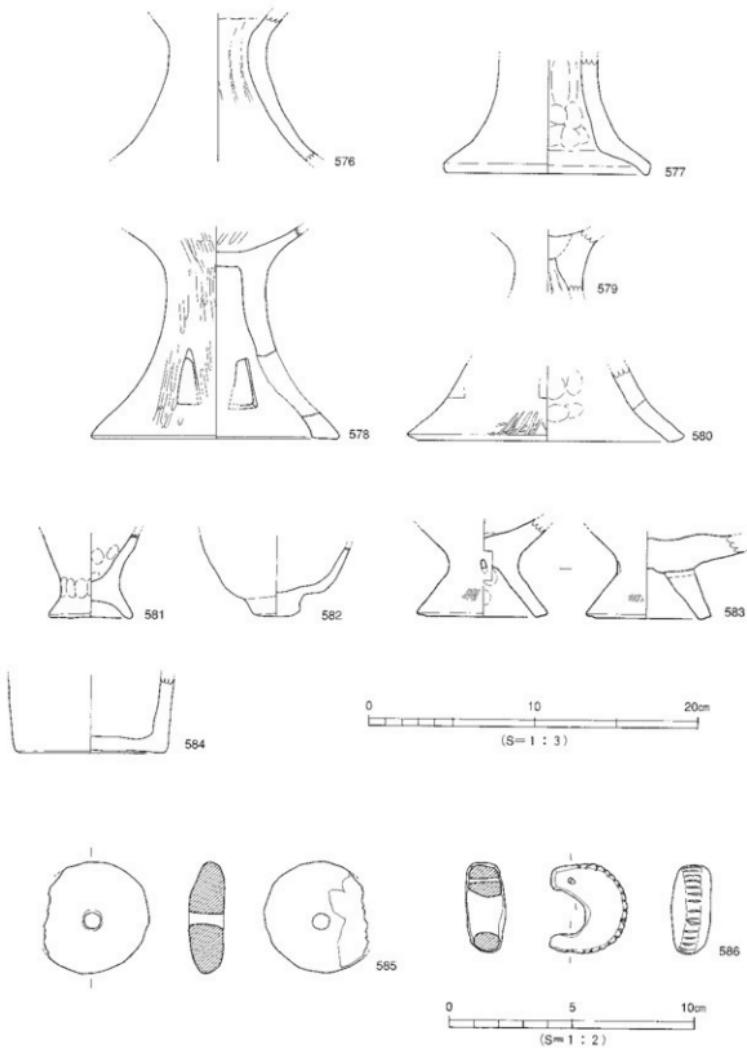
第78図 B2区第9層出土遺物実測図(8)



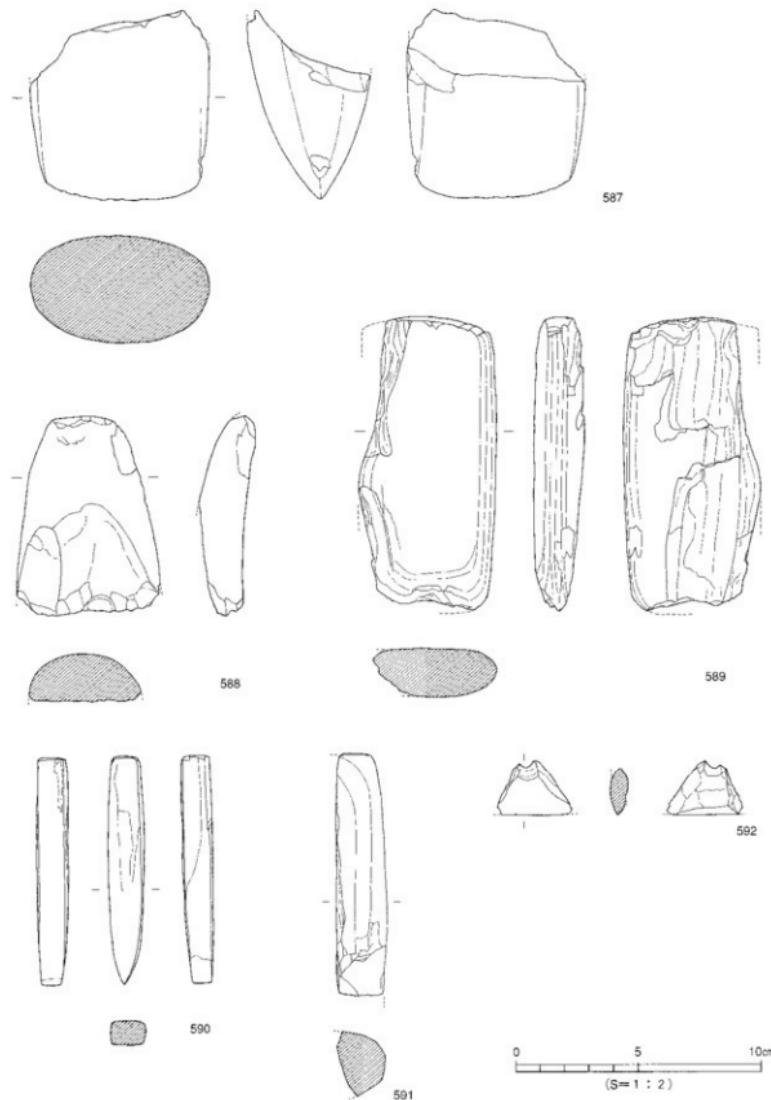
第79図 B2区第9層出土遺物実測図(9)



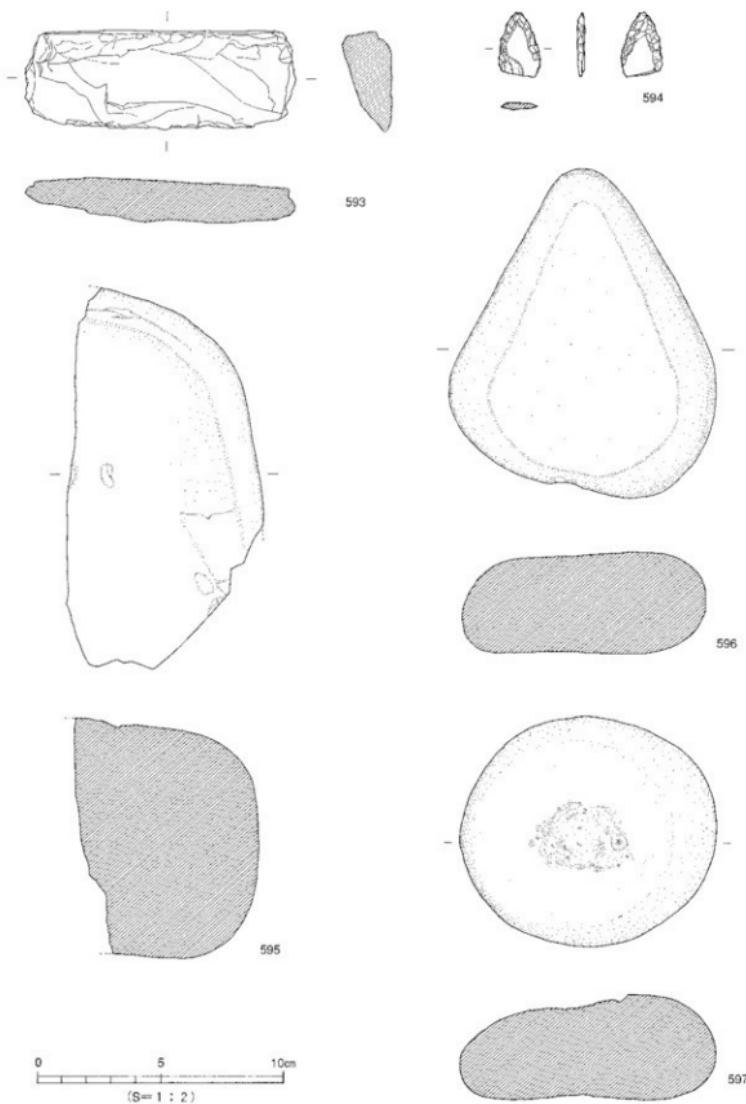
第80図 B 2 区第9層出土遺物実測図(10)



第81図 B 2区第9層出土遺物実測図(1)



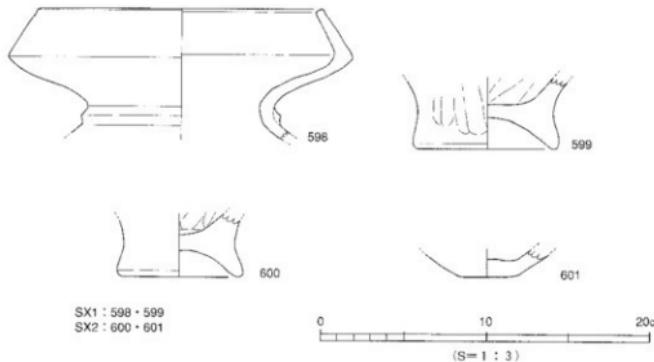
第82図 B 2区第9層出土遺物実測図(2)



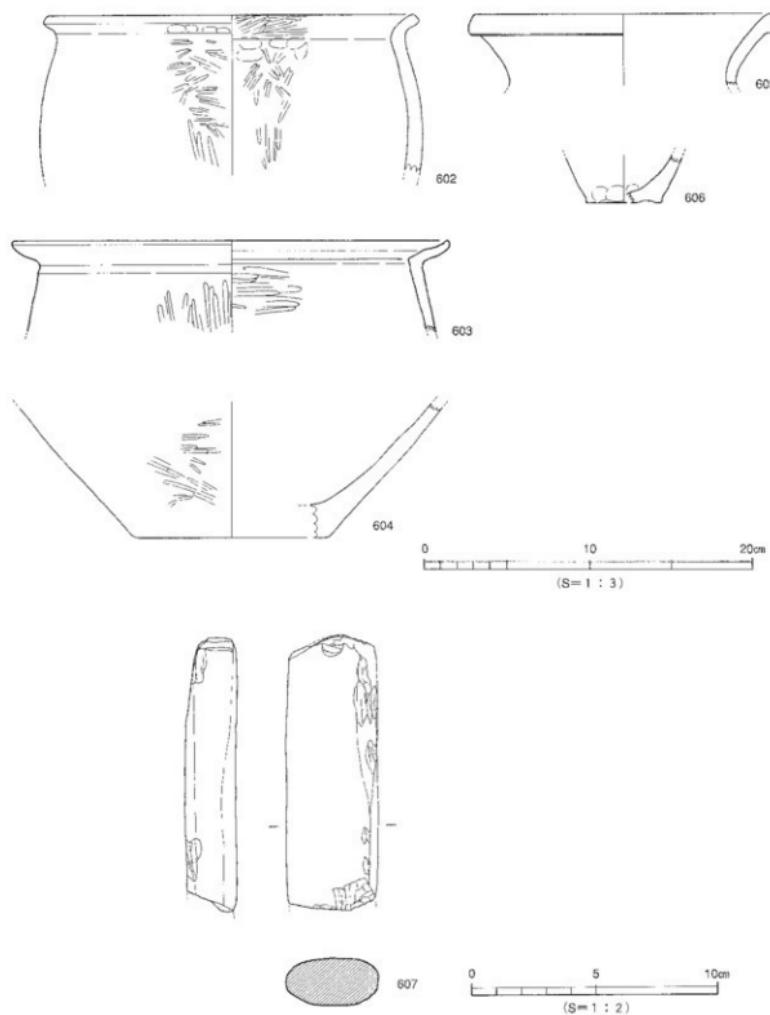
第83図 B 2 区第 9 層出土遺物実測図(13)

### 3. 小 結

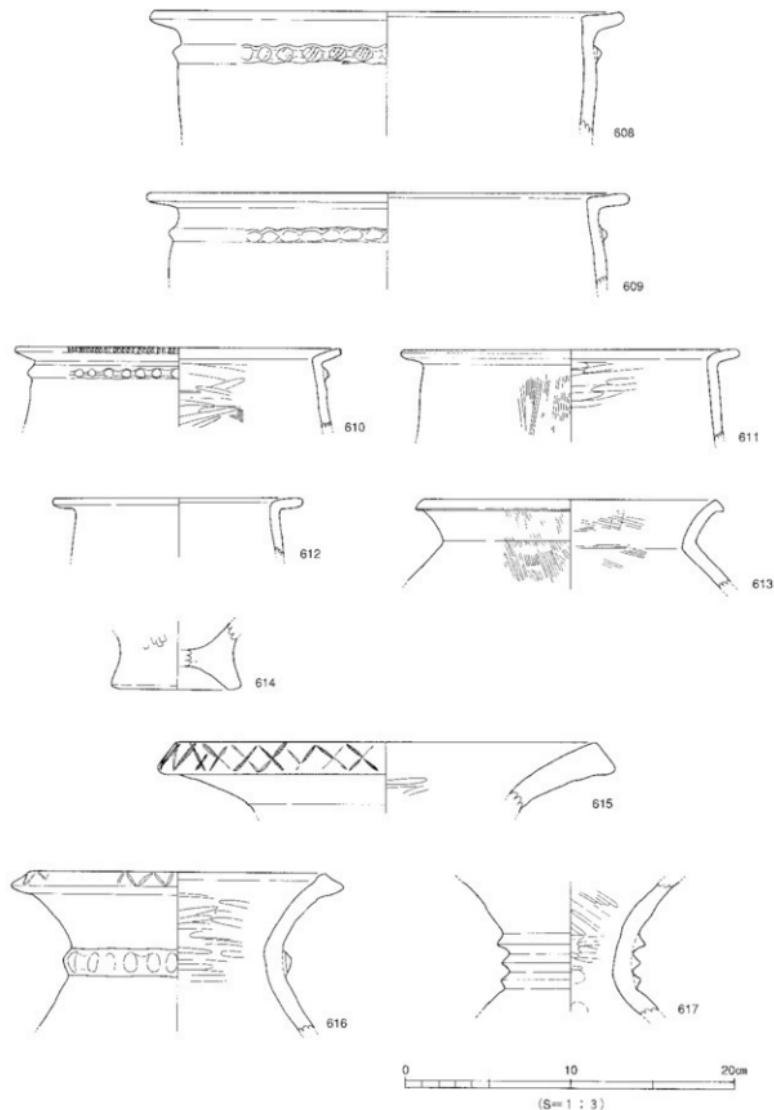
今回は、現松山総合公園、大峰ヶ台の東麓斜面における、主に弥生時代遺物を多く包含する地点での調査であった。遺物を多く出土した調査地点B調査区は、この丘陵の西から東へ聞く鞍部出口付近にあたり、人為的な造構は希薄ではあったが、この谷に堆積した土砂とともに弥生時代の遺物が出土した。遺物には大きくわけて2期あり、そのひとつは主に第9層から出土した中期の遺物群、またひとつは第7層から出土した後期の遺物群である。第9層と第7層の遺物の出土状況は、同じ谷からの出土とはいっても、若干異なっており、第7層の折り重なるように密集した状況と比較すると、第9層の遺物は破片がまばらに分布している状況で、その出土状況からみて谷を流下してきた土砂とともに運ばれて堆積したものと考えられる。遺物の時期は、中期中葉、梅木謙一の編年でいうⅢの段階のものである。この丘陵には、第1次調査や4次調査でわかっているように、頂上部に短期間存在した該期の集落が存在している。のことから、これらの遺物がこういった丘陵上に存在する集落から土砂とともに斜面を降り、麓の鞍部に堆積した可能性が高い。これに比較すると、第7層の遺物はその密集した状況からみて、この谷に投棄されたような状況を呈している。遺物の時期は後期中～後葉、梅木編年のV-3の段階のものである。現在のところ、この丘陵ではこの時期の遺構の確認例はないが、この丘陵麓をさらに降った近隣の平地部では、澤遺跡にみられるように何例か該期の遺構の確認例がある。こういったことや第7層からの出土状況から考えると、これらの遺物に関わる集落、もしくは遺構群が周辺の丘陵麓に存在していた可能性は高い。この谷はこれに伴う廃棄場所として存在していたものであろう。



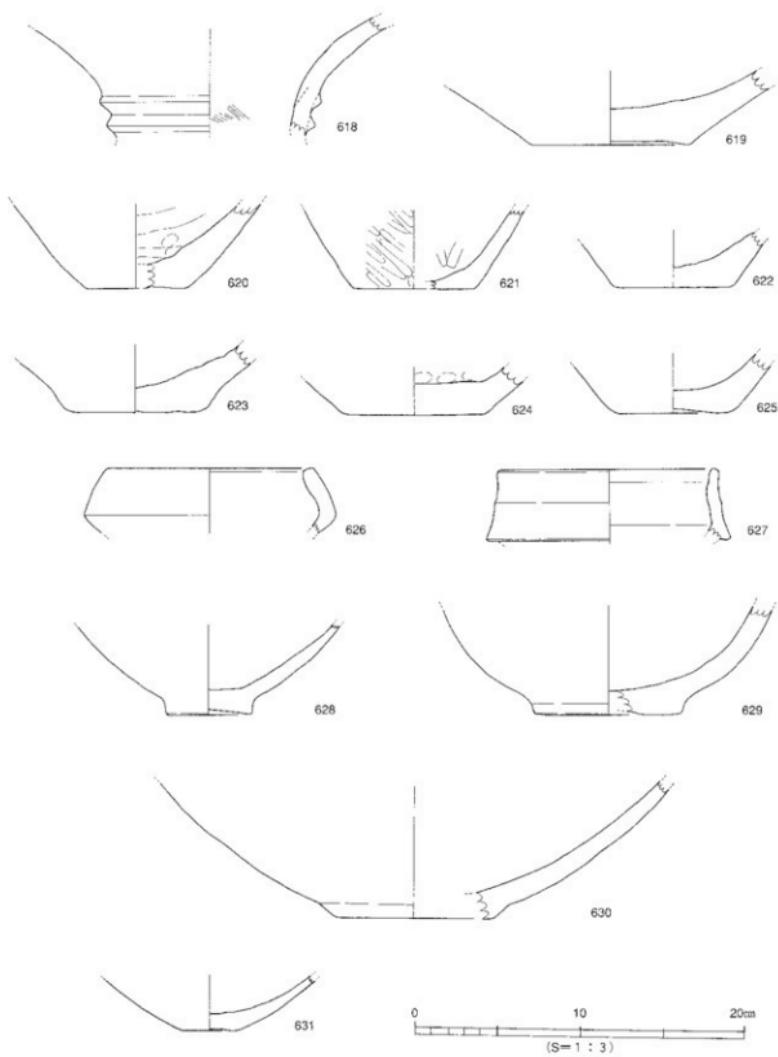
第84図 B 2 区 SX1・2 出土遺物実測図



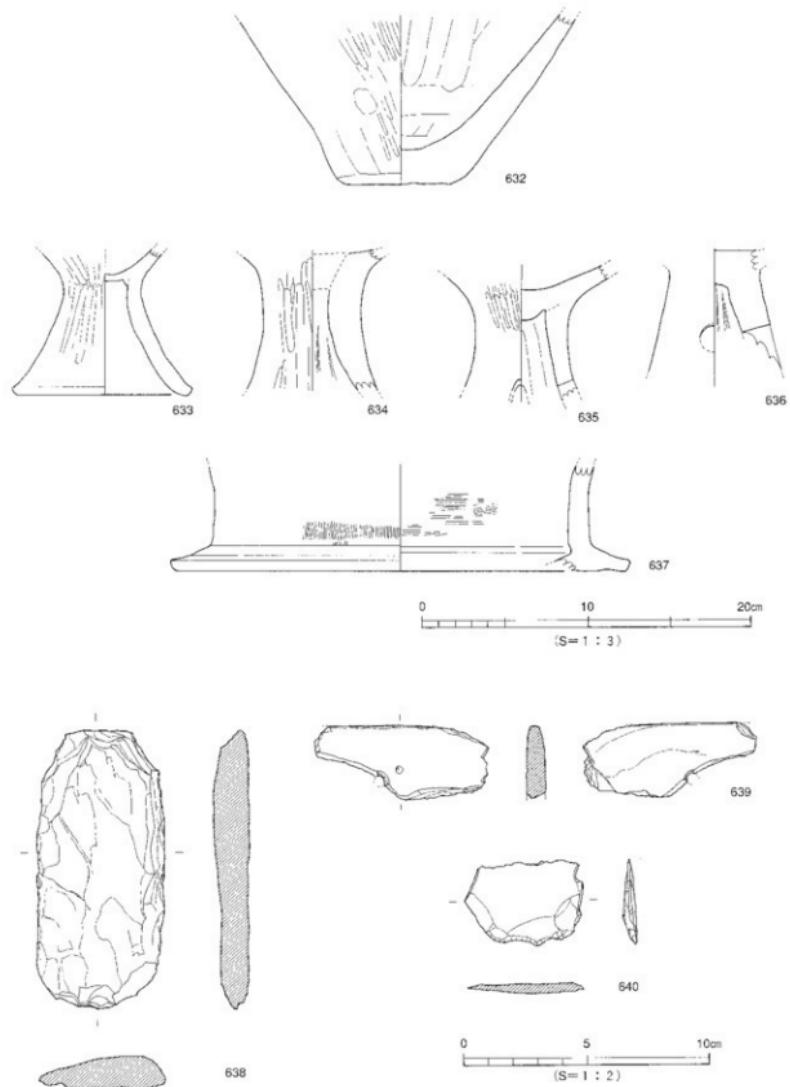
第85図 B 2区 S X 3出土遺物実測図



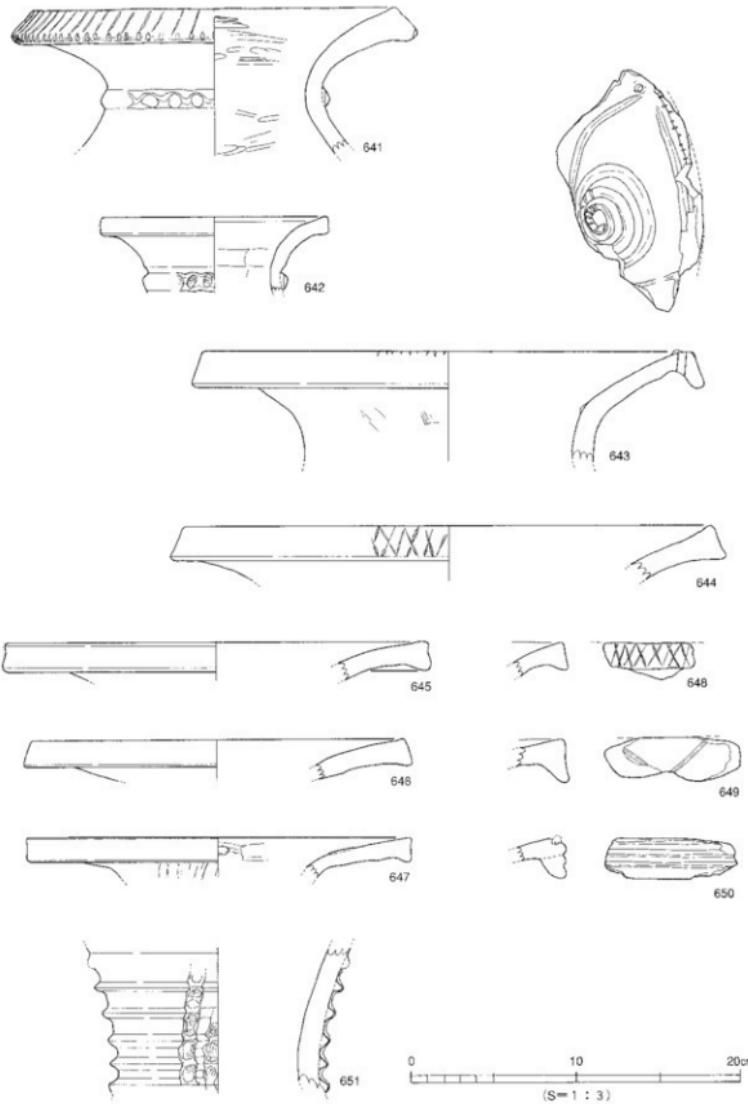
第86図 B2区出土地点不明遺物実測図(1)



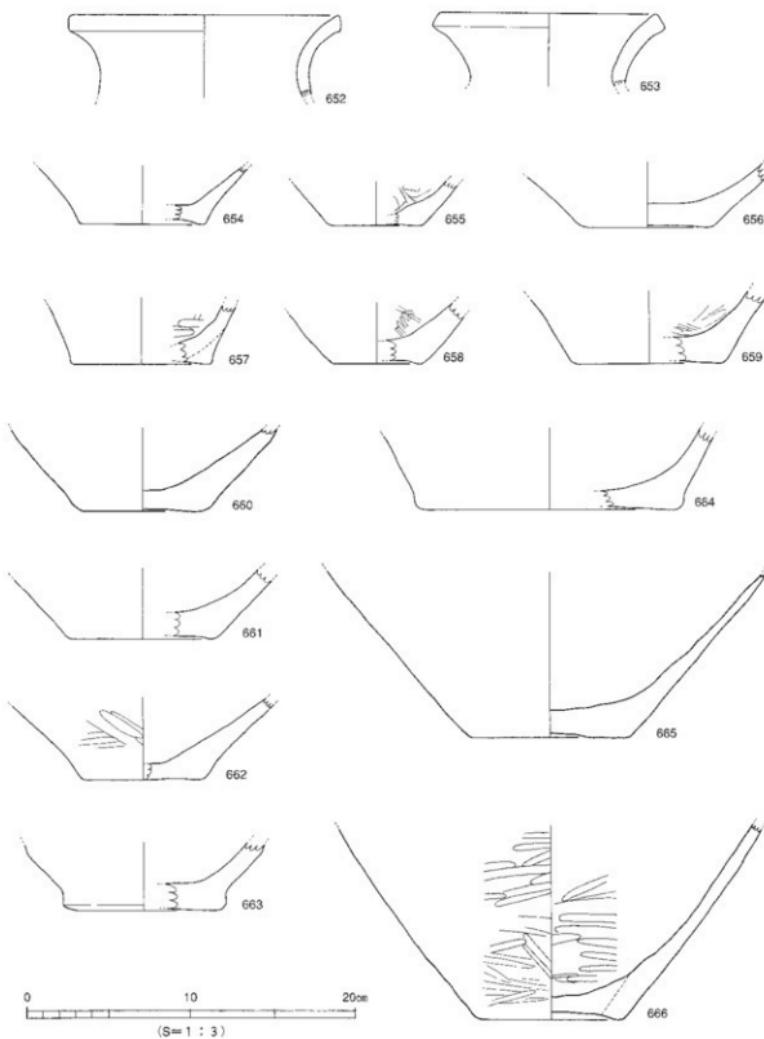
第87図 B 2 区出土地点不明遺物実測図(2)



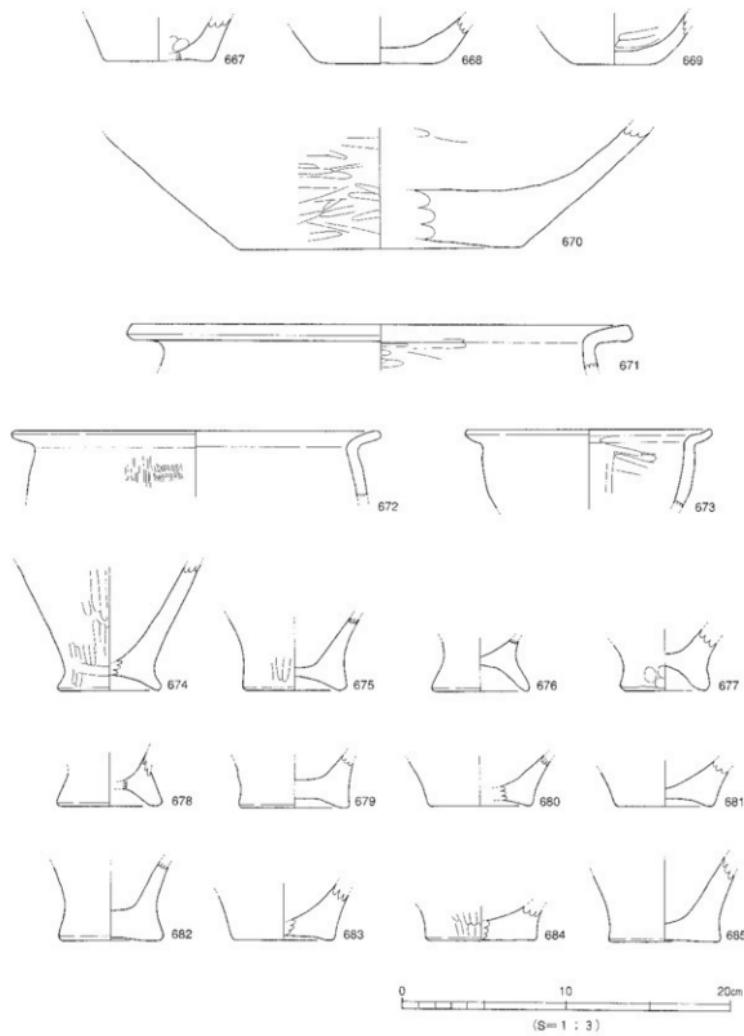
第88図 B 2 区出土地点不明遺物実測図(3)



第89図 C調査区出土遺物実測図(1)



第90図 C調査区出土遺物実測図(2)



第91図 C 調査区出土遺物実測図(3)

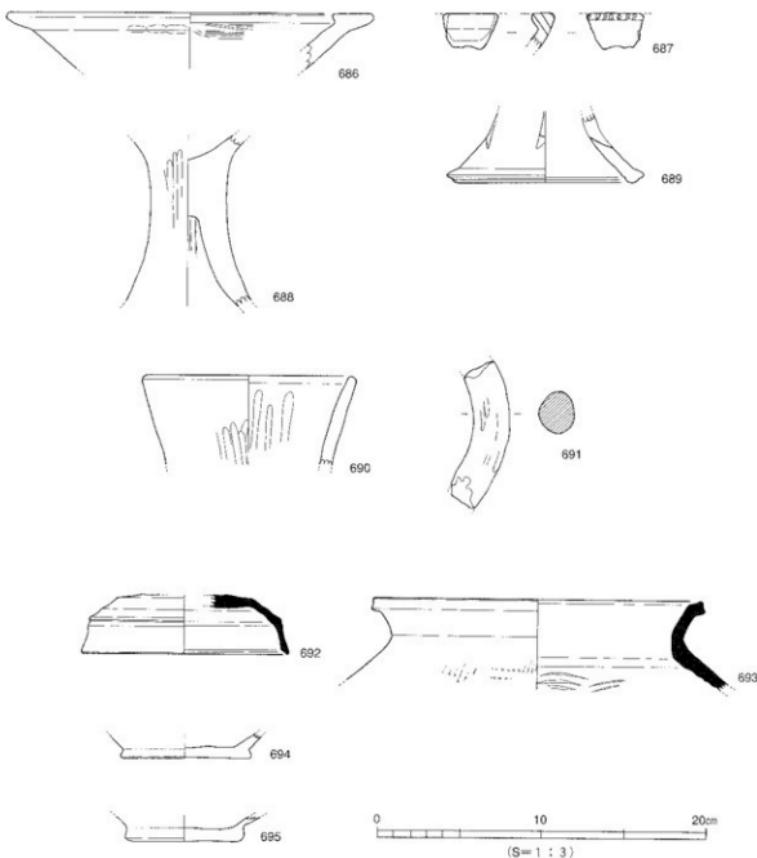
## 【文 献】

堀田茂敏「大峰ヶ台遺跡第4次調査」松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センター 1995

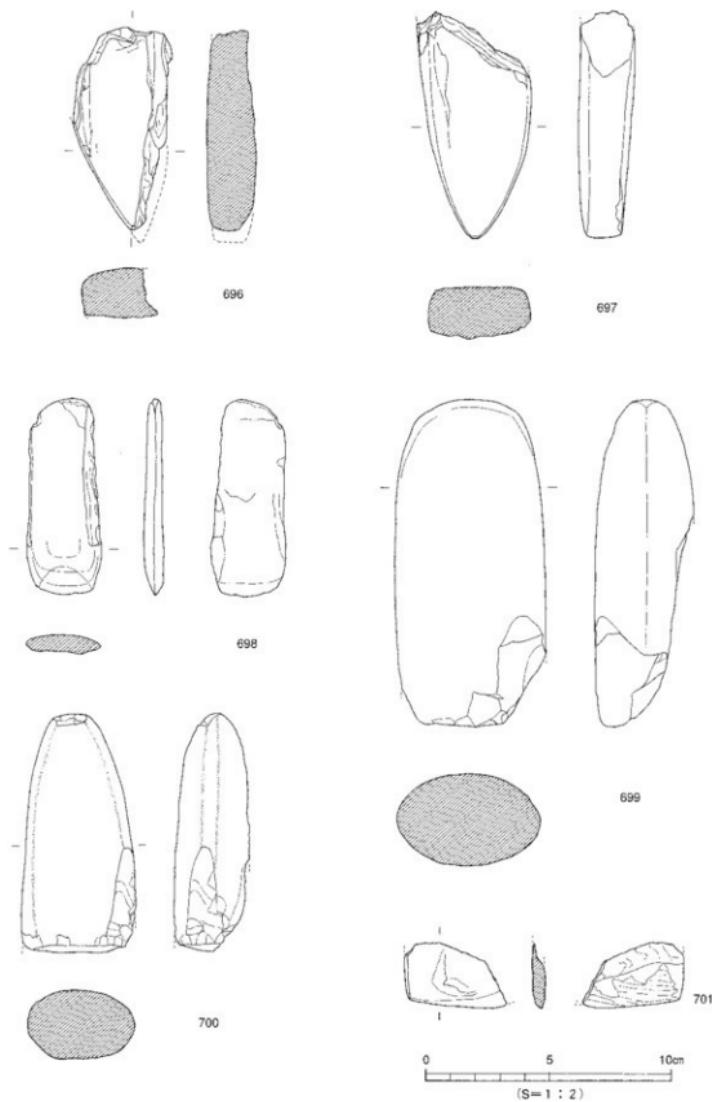
梅木謙一「伊予中部地域」『弥生土器の様式と編年・四国編』木耳社 2000

「大峰ヶ台の高地性住居址」『松山市史料集 第一巻 考古編』松山市教育委員会 1996

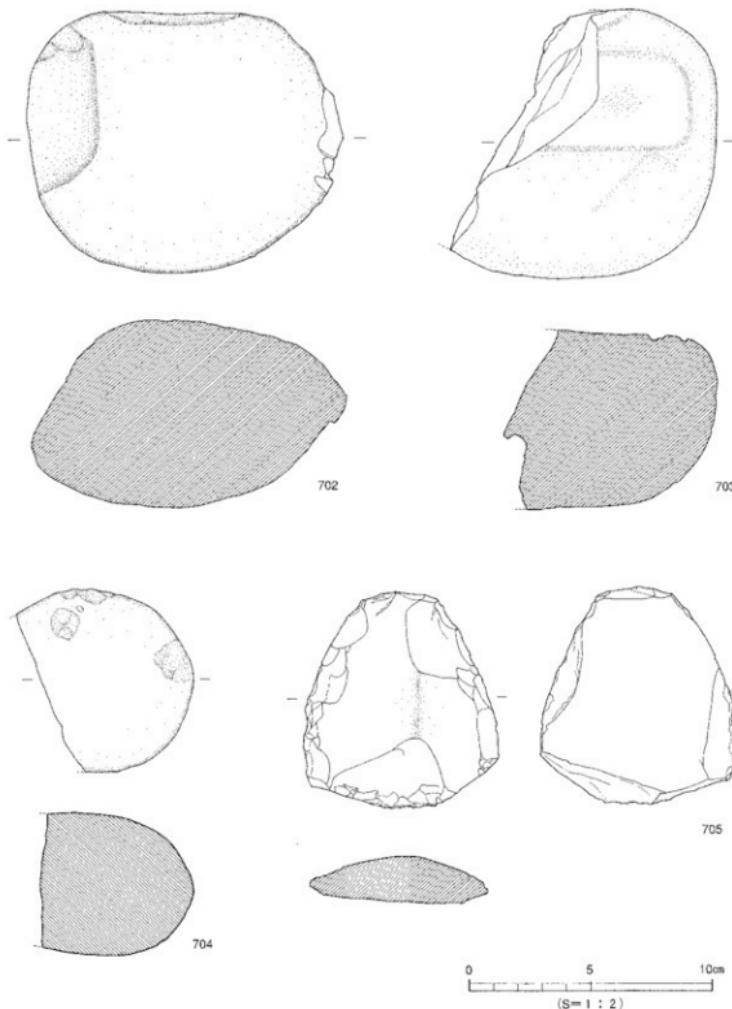
松村 浩「澤遺跡」『松山市文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会 1989



第92図 C 調査区出土遺物実測図(4)



第93図 C調査区出土遺物実測図(5)



第94図 C調査区出土遺物実測図(6)

表7 試掘調査出土遺物観察表 鉄製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	国版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1	鉢	完存	鉄	7.6	6.6	0.6	54.17		45

表8 試掘調査出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼成	備 考	国版
				外 面	内 面				
2	高環	残高 6.6	接合部。环部は深く窪んでいる。舞部は外方に伸びる。	マメツ	マメツ	灰白色 黒褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土紋 ○		
3	高環	残高 5.4	円筒。円孔が2方向まで確認できる。	ナデ	ナデ	浅黄褐色 橙色	石・長(1~2) ○		
4	壺	底径 8.0 残高 2.2	くびれを持つ上げ底。 (舞部底)	ナデ	ナデ	浅黄褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
5	壺	底径 (5.0) 残高 2.8	平底。大きく外反する脚部。	ナデ	ハケ(11本/cm) (指頭痕)	にぶい黄褐色 灰黃褐色	石・長(1~2) ○		
6	壺	口径 (18.0) 残高 4.3	「く」の字口縁。壺面上段に4条、下段に2条の波状文。	ナデ	ハケ→ナデ	にぶい黄褐色 浅黄褐色	石・長(1) ○		
7	壺	口径 (13.5) 残高 5.0	ゆるやかに外反する口縁部。端部は面をなす。	④ヨコナデ ④イカ(日本/古) (指頭痕)	ハケ	浅黄褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○		
8	壺	底径 (6.0) 残高 1.2	両台凹面。	ナデ	マメツ	灰白色 淡黄褐色	石・長(1) ○		
9	壺	残高 8.2	大きく外反する脚部。多量の三角形突起に伴う浮出文2組。	ヨコナデ	ナデ	淡黄褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		
10	高環	口径 (22.1) 残高 1.2	鏡口縁。舞部に円孔。壺に刻み。	ナデ (指頭痕)	ナデ	割褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		
11	壺蓋	口径 (15.8) 残高 4.0	天井部と口縁部の変形に複数をもつ。蓋部は丸く収める。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰色	蓋・長(1) ○		
12	高環	残高 3.9	口縁部片。厚みのある舞部。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	蓋(1) △		
13	ジワツ	底径 (17.0) 残高 7.0	厚みがあり張り出した縁部。	工具によるナデ	ナデ	浅黄褐色 灰白色	石・長(1) ○	黒塗	
14	壺	底径 (8.0) 残高 6.6	厚みのある底部。	ナデ	マメツ	灰褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
15	壺	底径 4.1 残高 3.1	上げ底。	マメツ	ナデ (指頭痕)	淡褐色 灰白色	石・長(1~2) ○		

表9 B1区包含層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 焼成	備 考	国版
				外 面	内 面				
16	壺	口径 (21.2) 残高 3.3	大きく外反する口縁部。口縁上端部に刻印。口	④ヨコナデ ④イカ(日本/古) ④ナデ→ハケ ④ミガキ	にぶい褐色	石・長(1) ○		5層	
17	壺	口径 (30.0) 残高 2.7	大きく外反する口縁部。内面酒杯状の凸凹文。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 褐色	石・長(1~2) △		5層
18	壺	口径 (25.2) 残高 5.2	折り曲げ口縁。	ハケ(5本/cm) (指頭痕)	マメツ	灰白色 暗灰色	石・長(1~3) ○		5層
19	壺	底径 (48.8) 残高 4.8	厚みのある上げ底。	ナデ (指頭痕)	マメツ	褐色 灰褐色	石・長(1~2) 赤色酸化土紋 ○		5層
20	壺	底径 (44.6) 残高 1.4	平底。	ハケ	マメツ	黄褐色 灰白色	石・長(1)ウンモ ○		5層
21	鉢	底径 (34.0) 残高 5.4	くびれをもつ平底。	マメツ	マメツ	灰白色 にぶい褐色	石(1~2) 赤色酸化土粒 ○		5層 黒塗
24	環甕	口径 (13.0) 残高 2.9	天井部と口縁部の境に、ゆるやかな棱をもつ。口縁部は外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 暗灰色	蓋○		5層
25	壺	底径 (66.6) 残高 1.4	わずかに高台を持つ底部。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰色	蓋○		5層
26	壺	口径 (21.4) 残高 4.0	外反する短い口縁部は壺部で厚され丸い。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	蓋○		5層
27	標鉢	口径 (36.6) 残高 6.5	外側する口縁部の壺部は上方に肥厚される。	回転ナデ	回転ナデ	灰褐色 灰褐色	蓋○ 灰褐色 オーバーカラ		5層

表10 B1区包含層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備 考	国版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
22	敲 石	完 形	砂 岩	7.47	7.52	6.4	654	5層	
23	打製石器	一部欠損	赤色チャート	1.55	1.5	0.35	0.07	5層	

表11 B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・造文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 烧成	備 考	圖版
				外 面	内 面				
28	壺	口径 (16.8) 残高 4.4	複合口縁。縁面上に4条、下段に2条の波状文。	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ (街頭痕) ハケ	褐色 にぶい・褐色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ○	6層	
29	壺	口径 (15.6) 残高 4.7	複合口縁。	マメツ	マメツ	にぶい・橙色 褐色	石・長(1~3) △	6層	
30	壺	口径 (22.0) 残高 4.2	複合口縁。縁面上段波状文8条、下段波状文2条以上。	ヨコナデ→ハケ	ヨコナデ (指頭痕)	浅黄褐色 暗灰色	石・長(1~3) ○	6層	
31	壺	口径 (12.0) 残高 5.3	ゆるやかに外反する口縁部。	ヨコナデ ハケ(日本/左) ナデ(指頭痕)	ヨコナデ ナデ	明黄色 にぶい・青色・翠色	石 (1) ○	6層	
32	壺	底径 18.8 残高 3.9	小さな平底。	ハケ	ナデ	にぶい・黃褐色 赤褐色	石 (1) 赤色酸化土粒 ○	6層 黒斑	
33	壺	底径 5.0 残高 3.0	平底。	工具によるナデ	ハケ(8本/cm)	にぶい・黃褐色 赤褐色	石・長 (1) ○	6層 黒斑	
34	支脚	底径 (13.0) 残高 8.0	ゆるやかに広がる底部。	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	浅黄褐色 淡褐色	石・長 (1) ○	6層	
35	壺	口径 (18.0) 残高 7.8	外反する口縁部。縁部は直をなす。	(上)ハケ (14本/cm) (左)ミガキ	ハケ	にぶい・黃褐色 にぶい・黃褐色	石・長(1~3) ○	7層	
36	壺	口径 (18.2) 残高 6.5	外反する口縁部。縁部は丸味をもつ。	ハケ(12本/cm)	ヨコナデ ナデ(指頭痕)	浅黄褐色 にぶい・褐色	石 (1) ○	7層	
37	壺	口径 (20.0) 残高 6.0	ゆるやかに外反する口縁部。底部は直下に口痕。	ハケ→ヨコナデ ハケ→ナデ	ハケ(10本/cm)	褐色 にぶい・橙色	石・長 (1) ウンゼ ○	7層	
38	壺	口径 (16.0) 残高 4.2	焼く外反する口縁部。縁部は直をなす丸味をもつ。	ヨコナデ ハケ(10本/cm)	ハケ→ナデ	灰黄褐色 にぶい・黃褐色	長 (1) ○	7層	
39	壺	口径 (35.0) 残高 6.5	大型品。「く」の字口縁。底部は直をなす。	ヨコナデ ハケ	マメツ	にぶい・橙色 浅黄褐色	石 (1~3) 赤色酸化土粒 ○	7層	
40	壺	口径 (25.0) 残高 14.5	外反する口縁部。縁部は直をなしづかに凹む。	ヨコナデ ハケ→ナデ	ヨコナデ ハケ	浅黄褐色 浅黄褐色	石 (1~3) 赤色酸化土粒 ウンゼ ○	7層	
41	壺	底径 2.4 残高 14.4	小型品。厚みのある平底。	ハケ (7本/cm)	マメツ	浅黄褐色 浅黄褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
42	甕	底径 2.4 残高 11.4	小型品。小さな平底。	ヨコナデ ハケ(10本/cm) ナデ	ヨコナデ ハケ ナデ	褐色 にぶい・橙色	石 (1) ○	7層 黒斑	33
43	甕	底径 (18) 残高 16.6	長方形の剖面。	ハケ(12本/cm) (左)ハクリ	ハケ	淡黄褐色 にぶい・黃褐色 淡黄褐色	石 (1) ウンゼ ○	7層 黒斑 煤	
44	甕	底径 4.0 残高 8.0	平底。	ハケ(12本/cm)	ナデ	にぶい・黃褐色 灰褐色	石 (1) ○	7層	
45	甕	底径 2.5 残高 10.2	厚みのある平底。	ハケ→工具によ るナデ	工具によるナデ	にぶい・橙色 にぶい・褐色	石・長(1~5) ○	7層 黒斑	
46	甕	底径 2.6 残高 10.5	平底。	ハケ (9本/cm)	ハケ→ナデ	灰黄褐色 浅黄褐色	石 (1) ○	7層 黒斑	
47	甕	底径 2.8 残高 10.6	平底。	ハケ(11本/cm)	ハケ→ナデ	にぶい・褐色 灰白色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
48	甕	底径 1.8 残高 12.9	平底。	ハケ	マメツ	褐色 灰白色	石・長(1~25) 赤色酸化土粒 △	7層	
49	甕	底径 3.6 残高 11.3	厚みのある平底。	ハケ	マメツ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石 (1~4) 赤色酸化土粒 ○	7層	
50	甕	底径 4.8 残高 17.4	平底。	(新)ヨコナデ ハケ (9本/cm)	(新)ヨコナデ ハケ (左)ミガキ	にぶい・褐色 にぶい・黃褐色	石・長 (1) ○	7層 黒斑	
51	甕	底径 5.0 残高 18.0	平底。	ハケ	ハケ	褐色 浅黄褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
52	甕	底径 1.4 残高 1.6	平底。	マメツ	指頭痕	にぶい・褐色 褐色	長 (1) ○	7層	
53	甕	底径 2.0 残高 2.3	平底。	ハケ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石 (1) ○	7層 黒斑	
54	甕	底径 1.8 残高 3.0	平底。	ハケ	ナデ	にぶい・褐色 淡黄褐色	石 (1) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
55	甕	底径 (3.2) 残高 3.4	平底。	ハケ	指頭痕	褐灰色 にぶい・褐色	石 (1) ○	7層	
56	甕	底径 3.2 残高 2.7	平底。厚壁が厚い。	ハケ	ナデ	灰黄褐色 にぶい・黃褐色	石・長(1~2) ○	7層	
57	甕	底径 2.2 残高 2.5	平底。	マメツ	マメツ	にぶい・褐色 淡黄褐色	石・長(1~5) ○	7層	
58	甕	底径 (2.6) 残高 3.3	平底。	マメツ	マメツ	浅黄褐色 にぶい・黃褐色	石 (1) ○	7層	

B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調(外面) (内面)	胎 燒	土 成	備 考	図版
				外 面	内 面					
59	甕	(26) 残高 42	平底。	ハケ	ナデ(指頭痕)	灰青褐色 灰青褐色	砂粒 ○	7層		
60	甕	(38) 残高 37	平底。	ナデ	ナデ	にぶい橙色 褐色	石・長(1~25) ○	7層		
61	甕	(30) 残高 43	平底。	ハケ	指ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石(3) ○	7層		
62	甕	32 残高 4.5	平底。	ナデ	ミガキ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑		
63	甕	底径 4.0 残高 5.0	平底。	ハケ	マメツ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ○	7層		
64	甕	(38) 残高 27	平底。	ハケ(10本/cm)	ナデ	にぶい褐色 浅黃褐色	砂粒 ○	7層		
65	甕	(40) 残高 3.0	厚みのある底部。	ナデ	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 灰褐色	石(1) ○	7層 黒斑		
66	甕	底径 3.6 残高 3.5	厚みのある底部。	マメツ	ナデ	褐色 黄褐色	石・長(1~15) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑		
67	甕	底径 4.4 残高 3.6	平底。	マメツ	マメツ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) △	7層 黒斑		
68	甕	底径 3.4 残高 4.7	平底。	ハケ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑		
69	甕	底径 4.8 残高 5.8	平底。	ハケ	ナデ(指頭痕)	浅黃褐色 褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑		
70	甕	底径 4.4 残高 6.1	平底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1~25) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑		
71	甕	底径 3.2 残高 4.2	平底。	ハケ	マメツ	褐色 にぶい褐色	石(1~4) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑		
72	甕	底径 3.0 残高 5.9	平底。	ハケ(12本/cm)	ナデ	にぶい黄褐色 褐灰色	石・長(1) ウンモ ○	7層		
73	甕	(27) 7.1	平底。	ハケ→ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層		
74	甕	底径 1.8 残高 8.1	平底。	ハケ	ナデ(指頭痕)	褐色 にぶい褐色	石(1~3) ○	7層		
75	甕	底径 2.6 残高 8.4	平底。	ハケ	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	長(1) ○	7層 黒斑		
76	甕	底径 1.8 残高 8.8	平底。	ハケ(12本/cm)	ナデ	にぶい褐色 浅黃褐色	石(1) ○	7層 黒斑		
77	甕	底径 4.4 残高 5.4	平底。	マメツ	ハケ(11本/cm)	明美褐色 浅黃褐色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑		
78	甕	底径 4.3 残高 2.9	平底。	ハケ→ナデ	ハケ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層		
79	甕	底径 5.0 残高 4.3	平底。	ハケ→ナデ	ハケ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1~3) ○	7層		
80	甕	底径 4.6 残高 6.1	やや丸みのある平底。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1) ○	7層 黒斑		
81	甕	底径 4.4 残高 13.7	平底。	ハケ→工具によ るナデ	マメツ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~5) ○	7層		
82	甕	(30) 5.0	平底。	ハケ(11本/cm)	マメツ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層 黒斑		
83	甕	底径 3.6 残高 5.2	厚みのある底部。やや上げ 底。	ハケ(指頭痕)	マメツ	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○	7層		
84	甕	(25) 10.6	平底。	ハケ(10本/cm)	ハケ→ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑		
85	甕	底径 4.0 残高 14.5	厚みがありくびれを持つ底 部。やや上げ底。	①ハケ(8本/cm) ②指頭痕	ハケ→ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑		
86	鉢	(354) 7.5	大型器。口縁階部は面をな す。	①マメツ ②ハケ(6本/cm)	マメツ	浅黃褐色 浅黃褐色	石(1) ○	7層		
87	鉢	底径 16.0	質く外反する口縁部。縁部 は丸くおさめられている。	ハケ	マメツ	にぶい褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) △	7層		
88	鉢	(40) 11.4	厚みのある器壁。やや上げ 底。	①ハケ→ミガキ ②指頭痕	ナデ	にぶい褐色 褐色	密・砂粒 ○	7層 黒斑		
89	鉢	底径 11.7	小さい底部。	ハケ(10本/cm)	①ハケ ②ナデ	にぶい褐色 褐色	長(1) ウンモ ○	7層 黒斑		
90	鉢	底径 2.6 残高 10.1	外反する口縁部。突出する 底。	①ハケ(13本/cm) ②ナデ	ナデ	浅黃褐色 浅黃褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑		

B 1区包含層出土遺物觀察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎土成 分	備 考	國版
				外 面	内 面				
91	鉢	底径 22 残高 118	ゆるやかに外反する口縁部。張りのある茎部。平底。	ハケ	マツツ	浅黄褐色 にぶい褐色	石(1~3) ○	7層 黒斑	
92	鉢	口径 178 底径 108 高さ 101	短く外反する口縁部。端部は丸味をもつ。張りのある茎部。小さい平底。	マツツ	ハケ→ミガキ	浅黄褐色 褐色	砂紋・ウンキ 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	33
93	鉢	口径 193 底径 28 高さ 86	大きく外反する口縁部。貼付の底部。	④ハケ ⑤ハケ(9本/cm) ⑥指頭痕→ミガキ ⑦ナデ	①ハケ・一部ナ デ ②ミガキ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	33
94	鉢	底径 42 残高 60	厚みのある上げ底。	マツツ	マツツ(指頭痕)	赤褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~4) ○	7層	
95	鉢	底径 30 残高 50	上げ底。	ハケ	マツツ	にぶい黄褐色 灰白色	石(1) ランモ ○	7層 黒斑	
96	鉢	底径(46) 残高 53	厚みのある上げ底。	ミガキ	マツツ	にぶい黄褐色 灰白色	石(1~4) ○	7層	
97	鉢	底径 36 残高 42	やや上げ底。	④ハケ ⑤指頭痕	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
98	鉢	底径 42 残高 38	厚みのある上げ底。	指ナデ	ミガキ	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
99	鉢	底径 36 残高 46	くびれのある上げ底。	ハケ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1) ウンキ ○	7層	
100	鉢	底径(62) 残高 39	平底。	ハケ	マツツ	にぶい褐色 明褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	7層	
101	鉢	底径 55 残高 37	つまみ出したような縁部。 やや上げ底。	ハケ(6本/cm) (指頭痕)	マツツ	褐色 灰白色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ○	7層	
102	鉢	底径 38 残高 34	わざかに上げ底。	ハケ	マツツ	褐色 褐色	石・長(1~3.5) ○	7層 黒斑	
103	鉢	底径 44 残高 73	やや上げ底。	④ハケ ⑤ナデ	マツツ	にぶい褐色 灰白色	石・長(1~3) ○	7層	
104	鉢	底径(42) 残高 51	上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
105	鉢	底径(46) 残高 62	やや上げ底	マツツ	ナデ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層	
106	鉢	底径 40 残高 36	平底。	マツツ	マツツ	褐色 にぶい褐色	石(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層	
107	鉢	底径 44 残高 33	平底。	ナデ	指ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	
108	鉢	底径 51 残高 7.0	くびれのある平底。底部は ひずんでいる。	ナデ(指頭痕)	ナデ	明褐色 明褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
109	鉢	(39) 底径 82	上げ底。	④⑤ハケ(8本/cm) ⑥指頭痕	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	7層	
110	鉢	口径(108) 底径(58) 高さ 92	口縁断面はやや面をなす。 厚みのある唇部。上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 褐色	石・長(1~2) ○	7層	
111	鉢	(16) 底径 43	ミニチュア土器。	マツツ	マツツ	褐色 鐵灰色	石・長(2) △	7層	
112	壺	口径(132) 底径 178	「く」の字口縁。口縁外周 に列点文。腹部に貼付凸唇 格子文。	④ヨコナデ ⑤ハケ ⑥ハケ→ミガキ (指頭痕)	③ヨコナデ ④ヨコナデ ⑤ハケ→ナデ (指頭痕)	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	7層	33
113	壺	口径(160) 底径 63	「く」の字口縁。口縁断面 は面をなす。	マツツ	マツツ	明褐色・浅黃褐色 明褐色	石(1~2) △	7層	
114	壺	口径(116) 底径 7.4	「く」の字口縁。端部は丸 味をもつ。	マツツ	マツツ	浅黃褐色・鐵灰色 にぶい黃褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層	
115	壺	口径(176) 底径 8.5	口縁断面は面をなす。腹部 に貼付凸唇格子文。	④ヨコナデ ⑤ヨコナデ ⑥ハケ→ナデ	③ヨコナデ ④ヨコナデ ⑤マツツ	にぶい黃褐色 褐色	石・長(1~3) ランモ ○	7層 黒斑	
116	壺	口径(120) 底径 7.5	口縁断面は丸味をもつ。 (ヨコナデ)	④ハケ(7本/cm) ⑤ハケ(10本/cm)	マツツ	褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層	
117	壺	口径(152) 底径 7.0	「く」の字口縁。端部は面 をなす。	マツツ (ヨコナデ)	マツツ	明黃褐色 黃褐色	石・長(1~3.5) ○	7層	
118	壺	口径(162) 底径 7.3	口縁接合部は下方へやや下 垂する。	④ヨコナデ ⑤ハケ	③ヨコナデ ④ヨコナデ ⑤ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	良(1~2) ウンモ ○	7層	
119	壺	口径 186 底径 135	「く」の字口縁。接合部は 明瞭な後をもつ。	ハケ(14本/cm)	ハケ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層	33
120	壺	口径(154) 底径 6.6	外反する口縁部。端部はや 面をもつ。	④⑤ハケ→ヨコナデ ④⑤ハケ	④⑤ハケ	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1) ○	7層	

B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	加 烧 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
121	壺	残高 7.4	外反する口縁部。接合部に 刺繡な接着部もつ。	ハケ(10本/cm) (指痕直)	①②ハケ→ヨコナデ ③④ハケ	浅黄褐色・黒褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ウンモ △	7層	
122	壺	口径 (34.6) 残高 9.7	大型品。「く」の字口縁。 外面に波状文5条以上。頂 部に貼付凸唇格子文。	ミガキ	マツツ	にぶい褐色・黒褐色 浅黄褐色	石(1~3) ○	7層 黒斑	
123	壺	口径 14.2 残高 11.1	口縁部は下方へ下垂す。 端面に波状文5条+波次文 3条。底部に貼付凸唇格子文。	①②ヨコナデ ③④ハケ(11本/cm)	①②ヨコナデ ③④ハケ ⑤ハケ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	長(1~3) ○	7層 黒斑	34
124	壺	口径 (12.8) 残高 10.6	「コ」の字口縁。端面に波状文 3条。底部に貼付凸唇格子文。	ハケ→ミガキ	マツツ	褐色 浅黄褐色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 ○	7層	34
125	壺	口径 14.0 残高 4.1	口縁部は前面をなす。口縁 外面に波状文4条。	マツツ	マツツ	褐色 黒褐色	石(1~3) ○	7層	
126	壺	口径 (13.6) 残高 7.3	「く」の字口縁。端部は丸味 をもつ。口縁外側に波状文3 条。	ヨコナデ ①②ハケ(11本/cm) ③④ミガキ	ヨコナデ ①②ハケ ③④ヨコナデ ⑤ハケ	にぶい褐色 黒褐色	石(1) ○	7層	
127	壺	口径 (19.0) 残高 5.5	口縁部は面をなす。口縁 外面に波状文5条+波状文3 条+波次文3条。上・ 下段は小さい波状文。	①②ヨコナデ ③④ヨコナデ ⑤ハケ	ヨコナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石(1~25) ウンモ △	7層	
128	壺	口径 (18.4) 残高 5.4	「コ」の字口縁。	①②マツツ ③④ヨコナデ ⑤ハケ	ヨコナデ	浅黄褐色 褐色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ○	7層	
129	壺	口径 (15.2) 残高 14.5	「コ」の字口縁。腹部は長い。 端部は下垂する。	①②ヨコナデ ③④ハケ→ナデ ⑤指痕直	①②ヨコナデ ③④ハケ→ナデ ⑤指痕直	浅黄褐色 浅黄褐色	長(1) ウンモ ○	7層 黒斑	34
130	壺	残高 3.9	「コ」の字口縁。波次文3条 +波状文3条。	ヨコナデ	ナデ(指痕直)	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層	
131	壺	口径 (13.8) 残高 7.1	短い口縁。端部は凹む。接 合部は下垂する。	①②ヨコナデ ③④ハケ(8本/cm) ⑤ハケ	①②ヨコナデ ③④ハケ→ナデ ⑤ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層	
132	壺	口径 (12.2) 残高 9.9	長腹型。短く外反する口縁。 頭部に貼付凸唇格子文。	ヨコナデ ①②ハケ(7本/cm) ③④ナデ ⑤ハケ	ヨコナデ ①②ハケ ③④ナデ	浅黄褐色 にぶい褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層	
133	壺	口径 (12.8) 残高 9.8	長腹型。短く外反し口縁端 面は面をなす。頭部に貼付 凸唇格子文。	①②ヨコナデ ③④ヨコナデ ⑤ヨコナデ ⑥ヨコナデ	①②ヨコナデ ③④ハケ(10本/cm) ⑤ヨコナデ ⑥ヨコナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石(1) ○	7層	
134	壺	口径 (23.2) 残高 26.4	長腹型。下垂口縁。頭部に 貼付凸唇。	マツツ (ハケ→ミガキ)	マツツ	褐色 浅黄褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層	34
135	壺	口径 (33.8) 残高 24.3	長腹型。口縁外側に竹管文 2段+円形文(ヘラ彫)。 腹部上に北緯文4条。頭部 に貼付凸唇格子文。	ハケ→ナデ	ハケ	浅黄褐色 褐色	石・長(1~35) 赤色酸化土粒 ○	7層	34
136	壺	口径 (15.4) 残高 3.3	口縁部は面をなす。	ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	石(1~4) ○	7層	
137	壺	口径 (17.6) 残高 5.3	口縁端部は凹む。	①②ヨコナデ ③④ハケ(12本/cm)	ハケ→ナデ	褐色 浅黄褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層	
138	壺	口径 (18.4) 残高 3.6	口縁端部は下垂気味。	マツツ	マツツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1~3) ○	7層	
139	壺	残高 6.4	頭部。貼付凸唇刻目文。	ハケ→ナデ	ナデ(指痕直)	浅黄褐色 浅黄褐色	石(1) ○	7層	
140	壺	残高 11.4	頭部。貼付凸唇格子文。	マツツ	マツツ	浅黄褐色 褐色	石・長(1~25) △	7層	
141	壺	残高 10.4	頭部。貼付凸唇格子文。	マツツ ①②ナデ ③④ハケ→ナデ ⑤ナデ(指痕直)	マツツ	にぶい褐色 灰白色・黒褐色	石・長(1~5) △	7層 黒斑	
142	壺	底径 9.0 残高 20.9	厚みのある底部。張りのあ る脚部。	ハケ→ミガキ	ハケ	浅黄褐色 明褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
143	壺	底径 (6.2) 残高 7.0	平底。	ハケ→ナデ	マツツ	にぶい褐色 明褐色	石・長(1~2) ○	7層	
144	壺	底径 (8.4) 残高 9.0	平底。	マツツ	マツツ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~3) ○	7層	
145	壺	底径 8.0 残高 11.0	平底。	ハケ(7本/cm)	ナデ	にぶい褐色 明褐色	石(1~3) ○	7層 黒斑	
146	壺	底径 (6.6) 残高 11.0	やや上げ底。	ハケ→ミガキ	ナデ(指痕直)	にぶい褐色 明褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
147	壺	底径 7.2 残高 9.6	平底。張りのある脚部。	ハケ(8本/cm) +ミガキ	ハクリ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
148	壺	底径 (7.2) 残高 4.0	平底。	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
149	壺	底径 6.0 残高 4.9	平底。	ナデ	ナデ	灰白色 褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	7層 黒斑	

B 1区包含層出土遺物觀察表 土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	開 築		色調(外面) (内面)	焼 土 成	備 考	四版
				外 面	内 面				
150	壺	底径 残高 62 65	平底。	ミガキ トデ	マメツ	にぶい褐色 灰白色	石・長(1~5) △	7層 黒斑	
151	壺	底径 残高 58 60	平底。	マメツ	マメツ	褐色 浅黄色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
152	壺	底径 残高 56 27	平底。	ミガキ	マメツ	褐色 灰褐色	石(1~2) ○	7層	
153	壺	底径 残高 62 74	平底。	マメツ(ハケ)	マメツ	浅黃褐色 黃褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
154	壺	底径 残高 60 76	平底。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい褐色 灰黃褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
155	壺	底径 残高 56 76	平底。	マメツ	マメツ	利黄褐色 利黄褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	
156	壺	底径 残高 74 57	厚みのある平底。	ミガキ	ハケ(10本/cm) (指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
157	壺	底径 残高 54 52	平底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 灰白色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
158	壺	底径 残高 62 116	平底。直立気味に立ち上がる脚部。	ミガキ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
159	壺	底径 残高 55 87	平底。	ハケ(9本/cm) →ミガキ	ハケ→ミガキ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
160	壺	底径 残高 68 49	平底。	ハケ(12本/cm)	ミガキ	にぶい褐色 褐色	吳(1) ○	7層	
161	壺	底径 残高 64 38	やや上げ底。厚みがある。	マメツ	マメツ	灰黃褐色 浅黃褐色	石・長(1~25) ○	7層	
162	壺	底径 残高 8.0 15.3	平底。器壁は薄い。	ハケ(10本/cm)	マメツ	褐色 淡黃褐色	石・長(2) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
163	壺	底径 残高 (60) 31	平底。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい褐色 灰白色	石(1) ○	7層 黒斑	
164	壺	底径 残高 45 29.8	平底。底部下位に施成後穿孔。	マツメ	マメツ	浅黃褐色 淡黃褐色・灰褐色	石・長(1~5) 赤色酸化土粒 △	7層 黒斑	33
165	壺	底径 残高 46 16.8	平底。	工具によるナデ	指ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
166	壺	底径 残高 5.0 10.2	平底。	ミガキ	マメツ	にぶい黃褐色 褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
167	壺	底径 残高 40 59	平底。	ミガキ	マメツ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~15) ○	7層 黒斑	
168	壺	底径 残高 63.0 44	平底。	マメツ	マメツ	褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 △	7層	
169	壺	底径 残高 3.6 31	平底。	ハケ(8本/cm)	ナデ	灰褐色 にぶい褐色	長(1) ウンモ ○	7層 黒斑	
170	壺	底径 残高 (4.0) 4.5	平底。	マメツ	マメツ	灰黃色 褐色	石・長(1) △	7層	
171	壺	底径 残高 42 4.4	平底。	ナデ	マメツ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
172	壺	底径 残高 (4.8) 87	平底。	ミガキ	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 灰褐色	長(1) ウンモ ○	7層 黒斑	
173	壺	底径 残高 (5.2) 6.4	平底。	ナデ	ハケ→指ナデ	褐色 褐色	石・長(1~25) ○	7層	
174	壺	底径 残高 4.0 16.2	平底。張りのある脚部。	ミガキ・工具によ るナデ	マメツ(指頭痕)	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~35) ○	7層 黒斑	
175	壺	底径 残高 4.6 14.5	平底。球状の脚部。	ミガキ→工具によ るナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1~4) ○	7層 黒斑	
176	壺	底径 残高 5.5 9.5	平底。	ハケ→ミガキ	指ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ○	7層 黒斑	
177	壺	底径 残高 4.6 11.5	平底。	工具によるナデ	工具によるナデ (指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
178	壺	底径 残高 3.4 8.1	平底。	ハケ→ナデ	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~25) ○	7層 黒斑	
179	壺	底径 残高 5.9 20.5	厚みのある小さな平底。球状の脚部。	ハケ(8本/cm) →ミガキ	指ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	
180	壺	底径 残高 2.8 12.2	厚みのある小さな平底。張りのある脚部。	ハケ→ミガキ	指ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
181	壺	底径 残高 (34) 7.3	厚みのある小さな平底。張りのある脚部。	ハケ→ナデ	指ナデ	浅黃褐色 褐色	石・長(1~2) ○	7層	

B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
182	壺	底径 残高 4.0 8.6	厚みのある小さい平底。張 りのある網目。	ミガキ ナデ	指ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) 赤色酸化土紋 ○	7層 黒斑	
183	壺	底径 残高 (4.0) 8.3	厚みのある平底。	ミガキ	マメツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) △	7層	
184	壺	底径 残高 5.6 7.4	平底。	ハケ(5本/cm)	マメツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	7層	
185	壺	底径 残高 (5.0) 6.1	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 灰白色	石・長(1~3) △	7層 黒斑	
186	壺	底径 残高 (6.2) 12.4	平底。	ハケ	マメツ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
187	壺	底径 残高 (6.2) 10.4	平底。	ハケ・タタキ→ ミガキ	ハケ(10本/cm) →ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	長(1) ウニモ ○	7層 黒斑	
188	壺	底径 残高 (4.8) 4.3	やや上げ底。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	
189	壺	底径 残高 (4.8) 4.3	平底。	ハケ→ナデ	ハケ(11本/cm) →ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石(1) ウニモ ○	7層 黒斑	
190	壺	底径 残高 (5.6) 5.5	厚みのある平底。	ハケ(8本/cm)	マメツ	灰黃褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
191	壺	底径 残高 6.0 5.4	丸味をもつ平底。	マメツ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石(1~4) ○	7層 黒斑	
192	壺	底径 残高 5.2 7.4	平底。	ハケ	マメツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1~3) ○	7層 黒斑	
193	壺	底径 残高 5.0 3.3	平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	黒褐色 褐色	石・長(1) ウニモ ○	7層	
194	壺	底径 残高 4.2 5.4	平底。	ハケ	指彫刷	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土紋 ○	7層 黒斑	
195	壺	底径 残高 3.4 11.5	丸味のある平底。	マメツ	マメツ	浅黃褐色 灰白色	石・長(1~4) 赤色酸化土紋 △	7層 黒斑	
196	壺	底径 残高 5.0 8.6	平底。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石・長(1~35) △	7層	
197	壺	底径 残高 (3.8) 8.2	丸味のある平底。	マメツ	工具によるナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
198	壺	底径 残高 5.0 9.5	丸味のある平底。	ハケ→ナデ	ハケ(8本/cm) ナデ	にぶい褐色 黒褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
199	壺	底径 残高 2.6 4.5	厚みがあり、くびれをもつ 平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	にぶい褐色 褐色	長(1) ○	7層	
200	壺	口径 (12.0) 9.1	折り曲げ口縁。底部は丸く おさめられている。	ヨコナデ タタキ→ナデ	ハケ(11本/cm) ナデ	にぶい黄褐色 灰褐色	石(1) ウニモ ○	7層	
201	壺	口径 (12.0) 2.7 19.0	外反する口縁部。張りのな い肩部。平底。	ヨコナデ ミガキ 工具によ るナデ	マメツ	明褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	35
202	壺	口径 (11.5) 2.5 22.1	短く外反する口縁部。底部 は丸味をもつ。	ハケ→ヨコナデ ミガキ 工具によ るナデ	ヨコナデ ハケ(指彫刷)	浅黃褐色 にぶい褐色	石(1~3) ウニモ ○	7層 黒斑	35
203	壺	口径 (7.1) 2.4 16.7	直立する口縁部。張りのあ る肩部。底部は丸味をもつ。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 褐色	石(1~5) ○	7層 黒斑	35
204	壺	口径 底径 残高 7.6 2.1 22.4	直立する口縁部。肩部は尖 る。底部は丸味をもつ。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 褐色	石(1~3) △	7層 黒斑	35
205	壺	底径 残高 20.2	直立する肩部。器壁は厚い 平底。	ハケ(11本/cm)	指ナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	35
206	壺	底径 残高 2.8 4.9	底面は凹む。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい黄褐色	石・長(1) ○	7層	
207	壺	底径 残高 3.4 6.0	平底。	ハケ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ウニモ ○	7層	
208	壺	底径 残高 2.4 5.2	平底。	ナデ	ナデ(漆黒)	にぶい黄褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○	7層	
209	壺	底径 残高 3.3 5.7	平底。	ナデ	ナデ	灰褐色 褐色	石・長(1~3) ○	7層	
210	壺	底径 残高 (3.2) 7.4	平底。	ナデ	指ナデ	褐色 褐色	砂粒 ○	7層	
211	壺	底径 残高 2.4 7.3	平底。	ハケ(11本/cm)	指ナデ	にぶい黄褐色 にぶい褐色	石(1) ウニモ ○	7層 黒斑	

B 1区包含層出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 焼 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
212	壺	底径 残高 (15) 6.4	小さい平底。	ハケ	マメツ	灰褐色 灰白色	石・長(1~3) ○	7層	
213	壺	底径 残高 1.1 6.8	小さく厚みのある平底。	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ (指顎帆)	にぶい・黄褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○	7層	
214	壺	底径 残高 12 5.0	小さい平底。器壁は厚い。	ハケ(15本/cm)	⑥ハケ ⑦シボリ痕	にぶい・褐色 にぶい・黄褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	
215	壺	丸底 残高 9.3	小型品。胴部は張る。	⑧ミガキ ⑨ハケズリ→ミ ガキ	ハケ(10本/cm) (指顎痕)	にぶい褐色 黒色	石・長(1) ○	7層 黒斑	35
216	壺	底径 残高 16 2.9	ボタン状の底部。	ミガキ	ミガキ	にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層	
217	壺	底径 残高 16 2.8	ボタン状の底部。	ハケ→ミガキ	ナデ(指顎痕)	にぶい・黄褐色 にぶい・褐色	石(1) ○	7層	
218	壺	底径 残高 16 2.7	ボタン状の底部。	ハケ(指顎痕)	ハケ→ナデ	にぶい・黄褐色 灰白色	石(1~15) ○	7層 黒斑	
219	壺	底径 残高 5.5 9.2	底部中央に凹み。踵部は突出する。	ハケ→ミガキ	ハケ(10本/cm) →ナデ	黄褐色 褐灰色	長(1) ウンモ ○	7層 黒斑	
220	壺	底径 残高 28 5.0	ぐりをもつ平底。	ハケ→ナデ	ナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石(2) ○	7層 黒斑	
221	器台	口径 底径 残高 16.4 17.4 15.8	口縁裏面は凹む。円孔5方 向2段(φ19cm)。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ(9本/cm) →ミガキ	ハケ→ミガキ (指顎痕)	褐色 褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	7層	36
222	器台	底径 残高 17.6 16.5	大きく外反する口縁部。円 孔5方向(φ14cm)。	マツツ (ハケ→ミガキ)	⑫ナデ →ナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石(1~4) ○	7層 黒斑	36
223	器台	残高 16.5	脚部。円孔3方向2段(φ14 cm)。	マメツ	マメツ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) 色化醸化土粒 ○	7層	
224	器台	残高 10.0	脚部。円孔4方向3段(φ18 cm)。	ハケ(7本/cm) →ミガキ	ナデ(指顎痕)	にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	石・長(1~25) ウンモ ○	7層	
225	器台	残高 21.9	脚部。大型品。円孔6方向5 段以上(φ23cm)。段下級 の円孔は2段。	ハケ(10本/cm)	⑬ナデ(指顎痕)	褐色 褐色	石・長(1~3) 赤色醸化土粒 ウンモ ○	7層 黒斑	
226	器台	残高 10.6	脚部。円孔3方向2段か? (φ17cm)。	ミガキ→ナデ	ナデ	浅黃褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層	
227	器台	残高 7.9	脚部。沈漫文6条・円孔3方向 以上。(φ12cm) + 沈漫文6条。	ハケ→ミガキ	マツツ (ハケ・ミガキ)	褐色 褐色	石・長(1~3) ○	7層	
228	器台	底径 残高 (142) 7.9	脚部は丸くおさめられて いる。上段の丸引2方向、 下段の円孔2方向(φ0.8cm)。	マツツ(ハケ)	マツツ (ハケ・ミガキ)	褐色 褐色	石・長(1~4) ○	7層	36
229	器台	口径 残高 (30.6) 22	大きく外反する口縁部。	マメツ	マメツ	浅黃褐色 褐色	石・長(1~3) △	7層	
230	高坏	底径 残高 17	口縁部。踵部は下垂する。 陶文は沈漫文1条・波次文1条。	ハケ→ミガキ	ヨコナデ	羽根状 灰褐色	砂粒 ○	7層	36
231	高坏	(26.6) 4.6	环部外面に棱をもつ。	ナデ	ミガキ	にぶい・黄褐色 浅黃褐色	石・長(1) ○	7層	36
232	高坏	口径 底径 残高 (26.2) 4.6	口縁部は雨をなす。外周 の段下級の円孔2方向(φ0.8cm)。 後をもつ。	⑭ヨコナデ ⑮マツツ(ナデ)	⑯ヨコナデ ⑰マツツ(ナデ)	浅黃褐色 浅黃褐色	石・長(1) ウンモ ○	7層 黒斑	36
233	高坏	残高 3.9	坏部。外周に棱をもつ。	ミガキ	不明	にぶい・黄褐色 褐色	石(1)・ウンモ 赤色醸化土粒 ○	7層	
234	高坏	残高 4.5	坏部。外周に棱をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石・長(1) ○	7層	
235	高坏	残高 3.8	坏部。外周に棱をもつ。	ヨコナデ	ナデ・ミガキ	浅黃褐色 褐灰色	石(1) ○	7層	
236	高坏	残高 5.3	接合部。器壁は厚い。	ナデ	⑯ナデ ⑰シボリ痕	淡褐色 褐色	石・長(1~2) ○	7層	
237	高坏	残高 7.7	脚部。大きく広がる柱脚。	ミガキ	⑯ナデ ⑰シボリ痕	にぶい・黄褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層	
238	高坏	残高 7.7	脚部。	ハケ	⑯ナデ ⑰ナデ	にぶい・褐色 灰白色	石・長(1~5) ○	7層	
239	高坏	残高 8.7	脚部。ゆるやかに広がる柱 脚。	ミガキ	⑯ナデ(指顎痕) ⑰シボリ痕・指 ナデ(指顎痕)	浅黃褐色 浅黃褐色	石・長(1~2) ○	7層	36
240	高坏	残高 8.7	脚部。厚みのある接合部。	ナデ	⑯ナデ ⑰ナデ	浅黃褐色 にぶい・黄褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	7層	
241	高坏	残高 9.8	脚部。円孔(方向上)。	ハケ(13本/cm)	⑯ナデ ⑰シボリ痕→ナデ	にぶい・褐色 浅黃褐色	石・長(1~3) ○	7層	36
242	高坏	残高 11.0	脚部。細長い柱脚。円孔3 方向3段(φ18cm)。	ミガキ	⑯ナデ ⑰シボリ痕(指 屈痕)	浅黃褐色 浅黃褐色	瓦(1) ○	7層	36
243	高坏	残高 13.2	脚部。円孔方向3段(φ19 cm)。	ハケ→ナデ	⑯ナデ ⑰ナデ(指顎痕)	にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	石・長(1~2) ○	7層	36

B 1区包含層出土遺物観察表 土製品

(8)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 算		色調 (外側) (内側)	加 烧 土 壤	備 考	図版
				外 面	内 面				
244	壺環	残高 7.7	肩部。円孔3方向。	ミガキ	滑ナデ	橙色 橙色	石・長(1~3) ○	7層	
245	壺環	残高 5.9	肩部。厚みのある器壁。円孔4方向。	ハケ→ナデ ④滑ナデ	滑ナデ ④滑ナデ	に赤い橙色 に赤い橙色	石・長(1~2) ○	7層	
246	壺環	残高 13.6	肩部。円孔3方向3段(φ22cm)。	ミガキ	滑ナデ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1~7) ○	7層	
247	壺環	残高 15.2	脚部。縦長い柱状。器壁は薄い。円孔4方向3段(φ23cm)。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 に赤い橙色	長(1) △	7層	
248	壺環	残高 6.9	印部。円孔上段3方向。下段1方向以上。	ハケ→ナデ ④マメツ(ナデ) ④滑頭楕	滑頭楕	淡黄色 淡黄褐色	石・(1) ○	7層	
249	壺環	底径(18.0) 残高 5.1	底部。円孔2方向以上。	ハケ→ミガキ	ココナデ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○	7層	
250	支脚	底径(6.7) 残高 7.0	中実。受部は向外傾き高い。	滑頭楕	ナデ	明褐灰色 明褐灰色	石・(1) ○	7層	
251	支脚	底径(15.4) 残高 4.2	底部。厚みのある器壁。	マメツ	マメツ(ハケ)	に赤い橙色 に赤い黄褐色	石・長(1) ○	7層	
252	支脚	底径(12.8) 残高 6.4	壠部は上方にやや肥厚されている。	滑頭楕	滑頭楕・ハケ	淡黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○	7層	
253	支脚	底径(8.0) 残高 8.6	中空。細長い柱状。	指頭楕・ナデ	ハケ→滑ナデ	に赤い黄褐色 褐灰色	石・(1) ○	7層	
254	支脚	底径(16.0) 残高 11.3	大きいく広がる壠部。	ハケ	ナデ(指頭楕)	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1) ○	7層	
255	支脚	底径(14.0) 残高 9.9	大きいく広がる壠部。	ナデ	④ナデ ④ハケ(5本/cm)	に赤い褐色 に赤い褐色	石(2) 赤色氧化土粒 ○	7層	
256	支脚	底径(15.6) 残高(13.0)	壠部は丸くおさめられている。	マメツ(ハケ)	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~25) △	7層	
257	支脚	底径(16.0) 残高 12.1	短く外反する壠部。	マメツ (ハケ・指頭楕)	マメツ	に赤い黄褐色 淡黄褐色	石(1~35) ○	7層 黒斑	
258	支脚	底径(9.1) 残高 9.2	「U」字状の受部。	指頭楕・ナデ	指頭楕・ナデ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~2) ○	7層	
259	支脚	底径 10.7 残高 3.2	「U」字状の受部。	指頭楕・ナデ	指頭楕・ナデ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
260	支脚	底径 9.9 残高 16.7	「U」字状の受部。厚い器壁。	タクキ→ナデ →滑ナデ	ハケ(11本/cm) →滑ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
261	支脚	受部径(12.6) 底径(14.6) 残高 14.2	「U」字状の受部。大きく外反する壠部。	ハケ(11本/cm) (2~3本/cm)	ハケ・ナデ	褐色に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○	7層	37
262	支脚	底径(12.1) 残高 9.6	「U」字状の受部。	指頭楕・ナデ	ハケ・滑頭楕	に赤い褐色 褐色	石・長(1~3) ○	7層	
263	支脚	残高 17.5	内窪し立ち上がる「U」字状の受部。柱部にくぎ跡をもつ。	ハケ・指頭楕	ハケ・指頭楕	淡黄褐色 に赤い褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	37
264	支脚	残高 10.9	「U」字状の受部。	マメツ	マメツ(ハケ)	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~35) 赤色氧化土粒 ○	7層 黒斑	
265	支脚	受部径 14.9 底径 13.2 残高 16.5	2ヶ所に「U」字状の受部。前方の受部は深く後方の受部は浅い。	ハケ(9本/cm) (指頭楕)	ハケ(指頭楕)	に赤い黄褐色 に赤い褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	37
266	支脚	残高 15.2	受部。2本の角状突起。	ナデ(指頭楕)	ハケ→滑ナデ	黒褐色 黒褐色	石・長(1~5) ○	7層	
267	支脚	残高 13.5	受部。2本の角状突起。	ハケ→ナデ (指頭楕)	指ナデ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~3) ○	7層 黒斑	
268	支脚	底径(16.4) 残高 16.6	ゆるやかに外反する壠部。	ナデ(指頭楕)	ナデ(指頭楕)	褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~6) ○	7層 黒斑	37
269	壺	口径(21.4) 器高 5.1	口縁部は面をなす。	④ヨコナデ ④ミガキ	④ヨコナデ ④ナデ	褐色 褐色	長(1) ○	7層	
270	壺	口径(24.0) 残高 5.2	口縁部は面をなす。	マメツ	マメツ	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~2) ○	7層	
271	壺	口径(26.0) 残高 12.7	長めの口縁部。	④ヨコナデ ④工によるナデ (指頭楕)	滑ナデ	褐色 明褐色	石・長(1~2) ○	7層	37
272	壺	残高 5.5	口縁部。頸部下に貼付凸帯刻文。	④ヨコナデ ④ハケ	滑ナデ ④ミガキ	に赤い黄褐色 褐色	石・長(1) ○	7層	37
273	壺	残高 3.3	口縁部。頸部下に貼付凸帯文。	マメツ	マメツ	褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ○	7層	37
274	壺	口径(28.0) 残高 4.8	口縁部は尖り気味。底部に貼付凸帯刻文。端部は丸味をもつ。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄褐色 に赤い黄褐色	石・長(1~2) ○	7層	37
275	壺	口径(28.7) 残高 2.9	口縁部は尖り気味。底部に貼付凸帯文。	ヨコナデ ④ハケ	ヨコナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	石・長(1) ○	7層	37

B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(9)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面 (内面)	粘 土 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
276	壺	口径 残高 4.2	ゆるやかに外反する口縁部。底部に貼付凸唇。	マメツ	①ココナツ ②ミガキ	にぶい褐色 褐色	石・長(1)	7層	37
277	壺	口径 残高 3.5	口縁部に貼付凸唇剥離。剥離は小さい。	マメツ	①マメツ ②ミガキ	褐色 浅黄褐色	石・長(1~4) 赤色酸化土粒 ○	7層	37
278	壺	口径 残高 4.2	屈曲し、外反する口縁部。底部は丸味をもつ。底部下に貼付凸唇剥離凹印。	ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○	7層	37
279	壺	底径 残高 3.5	平底。	ミガキ	マメツ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
280	壺	底径 残高 4.7	わずかに上げ底。	ミガキ	ミガキ・ナア	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1) ○	7層	
281	壺	底径 残高 5.0	わずかに上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい褐色 灰黃褐色	石(1) ○	7層	
282	壺	底径 残高 4.8	わずかに上げ底。	ミガキ	マメツ	褐色 にぶい褐色	石・長(1)	7層	
283	壺	底径 残高 6.7	やや上げ底。	ミガキ	マメツ	褐色 にぶい褐色	石(1~2) ウンセ ○	7層	
284	壺	底径 残高 8.4	やや上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい褐色 褐灰色	石・長(1~4) ○	7層	
285	壺	底径 残高 5.6	やや上げ底。	ミガキ	マメツ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
286	壺	底径 残高 5.4	やや上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○	7層	
287	壺	底径 残高 4.7	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	
288	壺	底径 残高 4.5	上げ底。	マメツ	マメツ	褐色 灰黃褐色	石(1~4) ○	7層	
289	壺	底径 残高 4.3	上げ底。	ミガキ→ナデ (指頭痕)	マメツ	にぶい褐色・褐色 にぶい褐色	石・長(1~25) 赤色酸化土粒 ○	7層	
290	壺	底径 残高 3.9	上げ底。	ナア	ナデ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ウンセ ○	7層	
291	壺	底径 残高 4.0	上げ底。	ミガキ	マメツ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ○	7層 黒斑	
292	壺	底径 残高 4.0	上げ底。	ナア	ナデ	にぶい褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ○	7層	
293	壺	底径 残高 5.2	上げ底。底面に焼成後穿孔。 ナデ(指頭痕)	ナデ	ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○	7層	
294	壺	底径 残高 4.3	上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~15) ウンセ ○	7層	
295	壺	底径 残高 4.1	上げ底。	マメツ	マメツ(ナデ)	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石(15) ウンセ ○	7層	
296	壺	底径 残高 3.3	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1) ○	7層	
297	壺	底径 残高 3.8	上げ底。	マメツ	マメツ	褐色 黒褐色	石・長(1~2) ○	7層	
298	壺	底径 残高 2.5	上げ底。	ナデ	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	
299	壺	口径 残高 2.3	口縁部分は下方に肥厚されている。	マメツ	マメツ	淡黃褐色 浅黃褐色	石(1~3) ○	7層	
300	壺	口径 残高 2.1	下垂口縁。口縁部内部に円形浮彫。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石(1~25) △	7層	38
301	壺	口径 残高 4.1	口縁部分は下方に肥厚されている。底面に格子文。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 美濃色	石・長(1~3) ○	7層	38
302	壺	口径 残高 4.4	ゆるやかに外反する口縁部。	ココナツ	ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層	
303	壺	口径 残高 8.2	口縁部分は下方にやや肥厚されている。筆面に墨子文。墨壁は厚い。	ココナツ ハケ(6本/cm)	ナデ	にぶい黃褐色 灰黃褐色	石(1~2) ○	7層	38
304	壺	底径 残高 4.2	やや上げ底。	ミガキ→ナデ	ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	7層	38
305	壺	底径 残高 6.1	平底。	ナデ	ハケ・ナデ	にぶい黃褐色 褐色	石・長(1) ○	7層 黒斑	38
306	壺	底径 残高 6.9	厚みのある底部。	マメツ	マメツ	淡黃褐色 褐色	石・長(1~4) ○	7層 黒斑	
307	壺	底径 残高 3.9	やや上げ底。	ミガキ	指ナデ	にぶい黃褐色 淡黃褐色	石(1) ○	7層 黒斑	38
308	壺	底径 残高 3.3	平底。	ミガキ	ナデ	にぶい黃褐色 淡黃褐色	石(1~15) ○	7層 黒斑	

B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(10)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎 土 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
309	壺	底径(8.0) 残高4.3	やや上げ底。	ミガキ・ハケ	ハケ・ナデ	褐色 褐色	石・長(1~25) ○	7層 黒斑	38
310	壺	底径(8.4) 残高3.6	平底。	工具によるナデ	ハケ→ナデ	淡黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~35) ウンモ ○	7層 黒斑	38
311	壺	底径(7.2) 残高4.6	やや上げ底。	ナデ	マメツ	にぶい褐色 褐色灰色	石・長(1~4) ○	7層	38

表12 B1区包含層出土遺物観察表 石製品

番号	器 種	残 存	材 質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
312	産み石	完形	砂岩	10.97	12.1	5.1	1035	7層	38
313	敲石	完形	砂岩	13.28	5.73	4.35	464	7層	38
314	磨石	完形	花崗岩	8.33	5.42	5.6	361	7層	
315	打製石器	一部欠損	サスカイト	(3.12)	2.5	0.5	249	7層	38
316	磨製石斧	欠損	錆泥片岩	(13.84)	3.02	(2.98)	144.46	7層 柱状片岩	
317	砥石	欠損	蛇紋岩	(10.69)	(5.2)	(5.7)	579	7層	
318	砥石	欠損	砂岩	(6.0)	(6.51)	(1.9)	54.82	7層	

表13 B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎 土 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
319	壺	底径(9.0) 残高4.8	平底。	マメツ	ナデ	割離灰褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○	6・7層	
320	壺	底径(6.4) 残高6.0	平底。	ハケ (10本/cm)	工具によるナデ	西黃褐色 灰白色	長(1) ○	6・7層 黒斑	
321	壺	底径(4.2) 残高5.2	わずかに上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色、褐色 灰白色	石(1~2) ○	6・7層	
322	甕	底径(8.2) 残高9.1	平底。内溝ぎみに立ち上がり る。	ハケ (8本/cm)	ハケ (7本/cm)	浅黃褐色 暗灰色	石(1) ○	6・7層	
323	甕	底径(4.8) 残高8.7	平底。	工具によるナデ	④ナデ(指揮柄) ⑤工具によるナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1~4) ○	6・7層	
324	甕	残高5.1	頭部に「ノ」の字状の刺突文。	ナデ(指揮柄)	マメツ	淡棕色 浅黃褐色	青・石(1~2) ○	6・7層	
325	甕	底径(8.2) 残高4.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	青・石・長(1) ○	6・7層	
326	甕	底径(3.8) 残高4.6	突出する平底。	マメツ	ハケ	浅黃褐色 にぶい褐色	石(1~3) △	6・7層 黒斑	
327	甕	底径(3.9) 残高2.4	くびれをもつ平底。	④⑥ナデ(指揮柄) ⑤ハケ	ナデ(指揮柄)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	6・7層	
328	甕	底径(3.4) 残高2.5	平底。	④⑥ナデ ⑤ハケ→ミガキ	ミガキ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1) ウンモ ○	6・7層 黒斑	
329	甕	底径(5.3) 残高2.4	くびれをもつ平底。	マメツ	ナデ(指揮柄)	にぶい黃褐色 褐色	石(1~2) ○	6・7層 黒斑	
330	鉢	底径(4.4) 残高7.0	くびれをもら、やや上げ底。	マメツ	ついねいなナデ	天白色 にぶい褐色	石・長(1) ○	6・7層	
331	鉢	底径5.8 残高3.9	大きく、くびれをもつ上げ 底。	④⑥ナデ(指揮柄) ⑤ハケ(11本/cm)	ハケ(11本/cm)	にぶい褐色 にぶい褐色	長(1) ○	6・7層	
332	高環	残高11.1	眞部・円孔3方向に刻目(φ1.4cm)	ハケ→ミガキ	ナデ	浅黃褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	6・7層	
333	甕	口径(27.9) 残高4.1	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1) ウンモ ○	9層	39
334	甕	口径(23.8) 残高4.3	折り曲げ口縁。眞部下に貼付凸墨布目押印文。	④ナデ ⑤ナデ→ミガキ	④ナデ ⑤ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	9層	39
335	甕	口径(22.0) 残高4.0	折り曲げ口縁。眞部下に貼付凸墨布+ヘタ工具による刻目。	ナデ	ミガキ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○	9層	39
336	甕	口径(22.4) 残高3.2	口縁周面に刻目。眞部下に貼付凸墨押印文。	ヨコナデ	ヨコナデ ミガキ	明赤褐色 褐色	石・長(1) ○	9層	39
337	甕	口径(25.9) 残高8.6	口縁面に刻目。眞部下に ヨコナデ(指揮柄) ヨコハケ(10本/cm)	マメツ		橙色 灰白色	石(1~2) ウンモ △	9層	39
338	甕	口徑(7.0) 残高3.9	厚みのある上げ底。	ナデ(指揮柄)	ナデ	褐灰色 褐灰色	石・長(1~2) ○	9層	
339	甕	底径6.0 残高3.2	上げ底。	④ケズリ→ナデ ⑤ナデ	ナデ	橙色 褐色	石・長(1~3) ○	9層	39

B1区包含層出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外側) (内面)	胎 土 焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
340	甕	底径 58 残高 3.3	上げ底。底部端面は丸い。	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	褐色 褐色	石・長(1~2) ○	気付差 9層	39
341	甕	底径 4.6 残高 2.2	くびれをもつ上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	にぶい・橙色	長(1) ○	9層	39
342	甕	底径(6.3) 残高 7.2	上げ底。	ナデ	工具によるナデ	にぬい・橙色 にぬい・赤褐色	石・長(1~5) ○	9層	
343	甕	底径(5.8) 残高 6.5	上げ底。	④ナデ ⑤ミガキ	ナデ	にぬい・橙色 にぬい・橙色	石・長(1~2) ○	9層	
344	甕	底径(7.5) 残高 5.2	くびれをもつ上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	橙色 橙色	石・長(1~4) ○	9層	
345	甕	底径(7.0) 残高 3.5	上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	にぬい・橙色・灰褐色 褐色	石・長(1) ○	9層	
346	甕	底径(6.2) 残高 5.4	平底。	ナデ	ナデ(指頭痕)	にぬい・暗赤 にぬい・橙色	石・長(1~2) ○	9層	
347	甕	底径(5.2) 残高 4.0	平底。	ナデ	ナデ(指頭痕)	にぬい・橙色 にぬい・橙色	石・長(1~2) ○	9層	
348	甕	底径(6.5) 残高 5.1	厚みのある平底。	マメツ	マメツ	暗赤褐色 褐色	石(1~4) ウンモ ○	9層	39
349	壺	底高 2.9	口縁部片。口縁端面に斜格子文。	ヨコナデ	ヨコナデ	利赤褐色 にぬい・橙色	石・共(1~2) ウンモ ○	9層	39
350	壺	口径(18.4) 残高 3.5	大きく外反する口縁部。	ナデ	マメツ	橙色 灰白色	石・長(1~2) △	9層	
351	壺	口径(15.1) 残高 4.9	外反する口縁。縁部に貼付凸唇。	ナデ	ミガキ	にぬい・褐色 明褐色	共(1) ○	9層	39
352	壺	口径(10.2) 残高 3.6	外反する口縁部。	ナデ	ナデ	にぬい・褐色 にぬい・赤褐色	石・共(1) ○	9層	39
353	壺	口径(13.2) 残高 3.1	大きく外反する口縁。端面に凹縫。	ナデ	ナデ	にぬい・褐色 にぬい・褐色	石・長(1) ○	9層	39
354	壺	底径 7.0	瓶部に貼付凸唇押印文。	マメツ	マメツ	貴賤色 貴賤色	石・長(1) △	9層	
355	壺	底径(6.8) 残高 10.0	平底。張りのある瓶部。	④ナデ ⑤ミガキ→ナデ	ナデ(指頭痕)	浅黄褐色 黒褐色	石・長(1~2) ○	9層 黒斑	39
356	壺	底径(6.4) 残高 6.1	平底。内湾する瓶部。	ミガキ	ミガキ	明褐色 明褐色	石(1) ウンモ ○	9層 黒斑	39
357	壺	底径(6.0) 残高 2.8	平底。	④ナデ ⑤ミガキ	ミガキ	浅黄褐色 褐色	石(1) ○	9層 黒斑	
358	壺	底径(5.8) 残高 2.9	平底。	ナデ	ナデ	にぬい・褐色 赤褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	9層 黒斑	39
359	壺	底径(8.4) 残高 3.9	平底。	ミガキ	ミガキ	にぬい・橙色 にぬい・橙色	共(1) ウンモ ○	9層 黒斑	
360	壺	底径(8.8) 残高 3.6	平底。	ナデ	マメツ	淡黄褐色 暗次黃色	石・長(1) ウンモ ○	9層	
361	壺	底径(6.9) 残高 5.1	平底。	マメツ	マメツ	淡褐色 にぬい・赤褐色	石・長(1~2) ○	9層	
362	壺	底径(4.8) 残高 5.4	平底。	④ナデ ⑤ハケ→ナデ	ナデ	にぬい・赤褐色 灰白色	石・長(1~2) ウンモ ○	9層	
363	壺	底径(8.2) 残高 4.7	わずかにくびれを持つ平底。	ハケ(9本/cm)	ハケ(9本/cm)	淡黄色 黒褐色	石(1) ウンモ ○	9層 黒斑	
364	壺	底径(5.0) 残高 4.7	大きく外反する平底。	ハケ→ナデ	マメツ	淡褐色 暗灰色	石・長(1~3) ○	9層	
365	壺	底径(8.0) 残高 6.4	わずかにくびれを持つ平底。	マメツ	マメツ	にぬい・褐色 にぬい・褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	9層	
366	高环	口径(36.0) 残高 4.4	内外に拡張して水平面をつくる口縁部。	マメツ	ミガキ	褐色 黒褐色・灰褐色	石(1~2) ウンモ ○	9層	
367	高环	残高 4.2	脚部片。	マメツ	ナデ	淡黄褐色 黒褐色 淡黃褐色	石(1) △	9層	

表14 B1区包含層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
368	石斧	欠損	緑泥片岩	(8.81)	(4.1)	(1.51)	114.68	9層 同平面	39
369	刮片		サスカイト	3.8	6.3	0.6	12.88	9層	39

表15 B1区包含層出土遺物觀察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	開 裂		色調(外面) 色調(内面)	胎 士 成	備考	図版
				外 面	内 面				
370	盃	口径 残高 (194) 22	大きく外反する口縁部。 ヨコナデ	マメツ		淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	7・8・9層	
371	盃	底径 残高 (64) 31	やや上げ底。	ナデ	ナデ	明褐色 にぶい橙色	石・長(1~4) ウンモ △	7・8・9層	
372	盃	底径 残高 (74) 39	平底。	ナデ	ミガキ	灰褐色 にぶい橙色	石・長(1) ウンモ ○	7・8・9層	
373	盃	底径 残高 (64) 32	平底。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ウンモ △	7・8・9層	
374	盃	底径 残高 (74) 36	平底。	マメツ	ナデ	淡黄色 褐色	石・長(1~3) 茶色酸化土粒 ○	7・8・9層	
375	甕	底径 残高 (70) 42	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色・灰褐色 灰白色	石・長(1~3) ○	7・8・9層	
376	甕	底径 残高 (64) 28	上げ底。	ナデ	ナデ(指頭痕)	にぶい橙色 褐色	石・長(1~2) ○	7・8・9層	
377	甕	口径 残高 41	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1) ウンモ ○	7・8・9層	
378	甕	口径 残高 (168) 44	「く」の字口縁。	マメツ	ヨコナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石(3) ○	7・8・9層	
379	甕	底径 残高 1.2 10.1	小さな底部。	⑨ハケメ ⑩マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石(1~2) ○	7・8・9層 黒灰	
380	甕	底径 残高 4.4 38.8	平底。	⑨マメツ ⑩ハケ	ナデ(指頭痕)	淡黄褐色 にぶい黄褐色	石(1) ○	7・8・9層	
381	甕	底径 残高 (50) 5.6	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色・灰褐色 灰白色	石・長(1~2) ○	7・8・9層 黒灰	
382	甕	底径 残高 (32) 25	上げ底。大きく外反する底 部。	⑨ナデ(指頭痕) ⑩ハケ(10本/cm)	ナデ	淡黄褐色 灰白色	石(1) ○	7・8・9層 黒灰	
383	甕	口径 残高 6.0 19.0	折り曲げ口縁。	ナデ	⑨ナデ ⑩ミガキ	にぶい橙色 程色	石(1~2) ○	9・10層	
384	甕	口径 残高 3.2 (228)	折り曲げ口縲。	⑨ナデ(指頭痕) ⑩ハケ	ミガキ	橙色 にぶい褐色・黑褐色	石・長(1~3) ○	9・10層	
385	甕	口径 残高 5.3 (24)	折り曲げ口縲。口縲部に刻 印。底部下に貼付凸帯押印文。	⑨マメツ ⑩ミガキ	マメツ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○	9・10層	
386	甕	口径 残高 5.3 (308)	折り曲げ口縲。頭部下に貼 付凸帯押印文。	マメツ	マメツ	橙色 黄褐色	石・長(1~2) △	9・10層	
387	甕	口径 残高 7.6 (31)	折り曲げ口縲。頭部下に貼 付凸帯押印文。	マメツ	マメツ	明黄褐色 明黄褐色	石・長(1~3) △	9・10層	
388	甕	口径 残高 4.2 (35.6)	大きく外反する下垂口縲。 口縲部に山形文。	マメツ	マメツ	灰褐色 浅黄褐色	石(1~2) ウンモ △	9・10層	
389	甕	口径 残高 2.4 (305)	大きく外反する下垂口縲。 山形文。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~5) ○	9・10層	
390	甕	口径 残高 (194) 36	大きく外反する下垂口縲。	ナデ	ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1) ○	9・10層	
391	甕	口径 残高 (160) 24	大きく外反する下垂口縲。 口縲部に山形文。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	9・10層	
392	甕	残高 1.9	口縲部。口縲部に刻印。ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	羽赤褐色 羽赤褐色	石・長(1) ○	9・10層	
393	甕	残高 6.5	枝をもつ頭部。	工具によるナデ	ミガキ	褐色 灰褐色 黒褐色	石・長(1~2) ○	9・10層	
394	甕	残高 2.5	腹部に貼付凸帯割印 文。	ミガキ→ナデ	⑨ミガキ ⑩ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	9・10層	
395	甕	底径 残高 (60) 8.1	上げ底。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石・長(1~3) △	9・10層	
396	甕	底径 残高 14.9	頭部片。腹部に浮文2種1種 以上。	⑨ナデ ⑩ミガキ	ミガキ	にぶい褐色 褐色・褐灰色	石・長(1~2) ウンモ ○	9・10層	
397	甕	底径 残高 9.0	頭部片。頭部凸音文4条。 一部押印文。	マメツ	マメツ	褐色 黄褐色	石・長(1) ウンモ ○	9・10層	
398	甕	底径 残高 (50) 3.8	わずかに上げ底。	ハケ(9本/cm)	マメツ	にぶい褐色 灰白色	長(1) ウンモ ○	9・10層 黒灰	
399	甕	底径 残高 (68) 3.9	平底。	マメツ	マメツ	浅褐色 浅褐色	石・長(1) △	9・10層	
400	甕	底径 残高 (76) 7.9	平底。	⑨ナデ ⑩ミガキ	ハケ→ミガキ	褐色 淡黄褐色	石(1) ○	9・10層 黒灰	
401	ジョコ	口径 残高 (259) 4.1	泥厚帯を持った口縲部。	ナデ	ミガキ	にぶい褐色 にぶい橙色	石(1) ウンモ ○	9・10層	

表16 B1区包含層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	国版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
402	打製石器	完形	サスカイト	3.6	1.52	0.5	275	9・10層	
403	剝片		サスカイト	3.38	1.8	0.34	192	9・10層	

表17 B1区包含層出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	測量		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	国版
				外 面	内 面				
404	甕	口徑(25.0) 残高3.2	大きく外反する口縁。	①ヨコナデ ②マツメ	マツメ	褐色 橙色	石・長(1~2) ○	11層	40
405	甕	口径(26.0) 残高4.9	折り曲げ口縁。	①ヨコナデ ②ナデ	マツメ ハケ(7本/cm)	灰白色 明赤褐色	石・長(1) ○	11層	40
406	甕	口径(30.8) 残高8.2	折り曲げ口縁。腹部に貼付 凸唇押印文。	マツメ	マツメ	明黄褐色 明赤褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	11層	40
407	甕	底径 残高7.1 5.4	上げ底。	ミガキ	ナデ	褐色・灰褐色 にぶい・褐色	長(1) ○	11層	40
408	甕	底径 残高7.4 3.5	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい・褐色 にぶい・黄褐色	石(1) ○	11層 黒斑	40
409	甕	口径(29.6) 残高2.0	下垂口縁。腹面に山形文。	ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ (指頭痕)	赤褐色 赤褐色	石・長(1~2) ○	11層	40
410	甕	口径(30.2) 残高2.5	下垂口縁。腹面に周目。	ヨコナデ	ヨコナデ (指頭痕)	赤褐色 にぶい・赤褐色	長(1) ○	11層	40
411	甕	口径(26.6) 残高2.5	下垂口縁。腹面に山形文。	マツメ	マツメ	浅米褐色 赤褐色	石(1) ウンモ ○	11層	40
412	甕	口径(19.8) 残高2.6	大きく外反する口縁。	マツメ	マツメ	褐色 褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	11層	40
413	甕	口径(12.8) 残高2.7	口縁裏面に凹をもつ。	ヨコナデ (指頭痕)	ヨコナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石(1~25) ウンモ ○	11層	40
414	甕	口径(18.2) 残高2.5	ゆるやかに外反する口縁。	ヨコナデ (指頭痕)	マツメ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○	11層	40
415	甕	底径 残高8.1	長窓櫛の脚部。腹部に凸唇 文1条。	①ハケ(9本/cm) ②ヨコナデ (指頭痕)	マツメ	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1) ○	11層	
416	甕	底径 残高7.0 8.5	わずかに上げ底。	①ヨコナデ ②ハケ	ハケ→ミガキ	赤褐色 褐色	石(1) ○	11層	
417	甕	底径 残高5.2	わずかに上げ底。	マツメ	ミガキ	にぶい・褐色 黄褐色	石・長(1~3) ウンモ ○	11層	
418	甕	底径 残高8.0 3.8	平底。	マツメ	ミガキ・ナデ	にぶい・褐色 黄褐色	石・長(1~3) ○	11層	
419	甕?	底径 残高5.4 4.8	やや上げ底。	ナデ	ナデ	灰褐色 にぶい・赤褐色	石(1~2) ○	11層	
420	高杯	口径(17.0) 残高4.0	環状・口縁は直立気味に立 ち上がり面部に凹をもつ。	ヨコナデ ハケ	ナデ	灰褐色 灰褐色	石・長(1) ○	11層	
421	ショッキ	底径 残高10.0	把っ手部。	マツメ	-	褐色 -	石・長(1) ○	11層	

表18 B1区包含層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	国版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
422	座み石	完形	砂岩	9.8	10.5	4.8	5780	11層	40
423	座み石	完形	砂岩	10.2	10.4	4.45	6100	11層	40
424	磨製石斧	欠損	緑泥片岩	(8.94)	(7.88)	(4.0)	1710	11層 柱状片刃	40
425	石斧	欠損	緑泥片岩	(5.91)	(4.31)	(0.9)	4287	11層 石斧丁鉈用品	40

表19 B1区出土地点不明遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	測量		色調(外面) (内面)	胎土 焼成	備考	国版
				外 面	内 面				
426	甕	口径(15.3) 残高5.8	折り曲げ口縁。	ナデ	ナデ(指頭痕)	明褐色 明褐色	石・長(1~2) ○		
427	甕	口径(16.0) 残高4.0	折り曲げ口縁。	①ヨコナデ ②ナデ(指頭痕)	指ナデ	浅黃褐色 浅黃褐色	石・長(1) ○	黒斑	
428	甕	底径 残高6.4 4.3	上げ底。	マツメ	マツメ	褐色 にぶい・褐色	石・長(1~25) ウンモ ○		
429	甕	底径 残高6.0 4.2	上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	褐色・灰褐色 灰褐色	石・長(1) ○		

B1区出土地点不明遺物觀察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎 土 烧成	備考	図版
				外 面	内 面				
430	甕	底径 残高 7.0 4.5	上げ底。	ミガキ→ヨコナ ヅ	ナテ	褐色・褐灰色 褐色	石・長(1) ○		
431	甕	口径 残高 (29.6) 6.3	ゆるやかに外反する口縁部。	ハケ	マメツ	浅黃褐色 灰白色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒○		
432	甕	底径 残高 (34) 6.8	平底。	ハケ→ミガキ	ナテ	褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		
433	甕	底径 残高 22 5.1	小さく突出する底部。	ハケ	ミガキ	褐色・灰白色 灰白色	石(1) ○	黒斑	
434	甕	底径 残高 (20) 8.8	平底。	ハケ	ナテ	灰白色 灰白色	長(1) ○	黒斑	
435	鉢	底径 残高 (32) 4.5	小さく突出する上げ底の底部。	マメツ(新鋸齒)	マメツ	浅黃褐色 浅黃褐色	石(1~15) △		
436	壺	口径 残高 (21.0) 2.8	口縁裏面に格子文。	マメツ	マメツ	褐色 橙色	石(1) △		
437	壺	口径 残高 (29.8) 2.8	下垂口縁。口縁端部に刻み 有。口縁裏面に山形文。内 面に凸凹文。	④ヨコナデ ⑤ナテ	ナデ	褐色 橙色	石・長(1~2) ○		
438	壺	口径 残高 (22.2) 1.9	下垂口縁。口縁端部に2条 の格子文。内面に棒状浮文 有。口縁裏面に目割記日。	④マメツ ⑤ヨコナデ ⑥ナテ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ウノモ ○		
439	壺	底径 残高 (9.4) 7.1	平底。	④ミガキ(指頭痕) ⑤ナテ	マメツ	浅黄褐色・褐灰色 褐灰色	石・長(1) ○	黒斑	
440	壺	底径 残高 (6.4) 4.3	平底。	マメツ	ナテ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~8) ○	黒斑	
441	壺	底径 残高 (5.8) 5.7	平底。	④マメツ ⑤ナテ	マメツ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石(1~4) ○	黒斑	
442	壺	口径 残高 (12.4) 13.0	くの字11縁。口縁端部は丸 みをなす。頸部は長い。	①ヨコナデ ②ハケ→ミガキ ③ハケ	②ヨコナデ ③ハケ	にぶい褐色 褐色	石・長(1) ○		
443	壺	口径 残高 (10.4) 7.9	長腹袋の口縁部。	ハケ→ミガキ (9本/cm)	ハケ(6本/cm)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		
444	壺	底径 残高 (4.0) 3.8	平底。	マメツ	マメツ	褐色 灰白色	石(1~3) 赤色酸化土粒 △		
445	壺	底径 残高 (4.2) 7.7	平底。	ハケ→ミガキ	ナテ	にぶい褐色 にぶい褐色・褐灰色	石(1~3) ○	黒斑	
446	壺	底径 残高 (3.6) 5.5	つまみ出したような底部。	マメツ	ナテ	灰白色 褐色	石・長(1) 赤色酸化土粒 ○	黒斑	
447	高环	残高 5.9	接合部。	マメツ	④ナテ ⑤シボリ楓	明赤褐色 明赤褐色	石・長(1~3) 赤色酸化土粒 ○		
448	ジョウカ	残高 7.2	把手。	ナテ	-	にぶい黄褐色 -	石・長(1~2) ○		

表20 B1区出土地点不明遺物觀察表 石製品

番号	器種	残 存	材 質	法 量				備 考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
449	磨製石斧	欠損	結泥片岩	(12.0)	(2.1)	(1.07)	67.71	柱狀片刃	
450	磨製石斧	欠損	黑色片岩	(5.9)	(3.53)		108	扁平片刃	
451	剥片		サスカイト	3.6	4.34	0.54	10.96		

表21 B2区第9層出土遺物觀察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)(内面)	胎 土 烧成	備考	図版
				外 面	内 面				
452	甕	口径 残高 (37.2) 10.3	口縁端面に格子文。頭部に 貼付凸膏押印文。	④ヨコナデ ⑤ハケ後ナデ ⑥ヨコナデ(1本/cm)	ミガキ	浅黄褐色 明黄褐色	石・長(1~3) ○		41
453	甕	口径 残高 (26.8) 6.9	口縁端面に格子文。頭部に 貼付凸膏押印文。	ヨコナデ	ミガキ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~3) ○		41
454	甕	残高 6.9	頭蓋片。頭部に貼付凸膏押 印文。	ナテ	ミガキ→ナテ (指頭痕)	羽状褐色 淡褐色	石・長(1~2) ○		
455	甕	口径 残高 (19.0) 4.8	口縁端面に山形文。頭部に 貼付凸膏布押印文。	ヨコナデ	ミガキ	淡褐色 にぶい褐色	石(1) 赤色酸化土粒		
456	甕	残高 7.5	頭蓋片。頭部に貼付凸膏布 吊による押印文。	④ヨコナデ ⑤ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		41
457	甕	口径 残高 (19.8) 3.5	口縁端面に格子文。	マメツ	マメツ	黄褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○		41
458	甕	口径 残高 (15.4) 2.9	口縁端面に山形文。	マメツ	マメツ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) ウノモ ○		

B2区第9層出土遺物觀察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	開 整		色調(外面) (内面)	粘 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
459	壺	口径(19.4) 残高(21)	口縁端面に山形文。下垂口縁。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石・長(1~3) ○		
460	壺	口径(24.8) 残高(3.6)	口縁端面に山形文。	ナデ(指痕痕)	ナデ	褐色 淡褐色	石(1) ○		
461	壺	口径(28.0) 残高(3.0)	口縁端面に山形文。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡褐色 褐色	石(1) ○		
462	壺	口径(24.0) 残高(6.1)	口縁端面に山形文。	ヨコナデ	マメツ	淡黄色 淡黃色	石・長(1~3) ウンモ ○	41	
463	壺	口径(32.8) 残高(2.1)	口縁端部に短目。口縁端面に山形文。	ナデ	ハケ	にぶい・褐色 褐色	石・長(1~3) ○	41	
464	壺	口径(20.0) 残高(4.9)	大きく外反する口縁部。	ミガキ	マメツ	褐色 淡黃褐色	赤色化土粒		
465	壺	口径(15.6) 残高(4.4)	口縁は下方に肥厚する。	マメツ	マメツ	明赤褐色 にぶい・褐色	石・長(1) ○		
466	壺	口径(19.4) 残高(2.8)	外反する口縁部。	①マメツ ②ミガキ	ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	石(1~35) ウンモ ○		
467	壺	口径(17.9) 残高(2.4)	外反する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黃褐色 にぶい・褐色	石・長(1) ○		
468	壺	口径(23.2) 残高(2.6)	外反する口縁部。	マメツ(指痕痕)	マメツ	にぶい・黃褐色 にぶい・黃褐色	石・長(1~3) ○		
469	壺	口径(22.0) 残高(4.4)	口縁端部に削り、口縁端上間に円形浮出2個確認できる。	①ヨコナデ ②ナデ	ヨコナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石・長(1~3) ○	41	
470	壺	口径(22.4) 残高(4.4)	大きく外反する口縁部。	①ナデ ②ハケ	ナデ	にぶい・褐色 褐色	石・長(1) ○		
471	壺	口径(18.8) 残高(2.8)	ゆるやかに外反する口縁部。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
472	壺	口径(23.0) 残高(7.4)	口縁端面は、上方にわずかに括張し、腹部に貼付凸部。	①ヨコナデ ②ハケ(8本/cm) ③ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい・褐色 褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	41
473	壺	口径(15.9) 残高(5.2)	ゆるやかに外反する口縁部。	ナデ	ナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石・長(1~2) ○		
474	壺	口径(23.1) 残高(9.4)	ゆるやかに外反する口縁部。	ハケ→ナデ	マメツ	にぶい・褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○	41	
475	壺	残高(9.8)	口縁部。腹部に貼付凸部。	ナデ	①ヨコナデ ②ミガキ ③ナデ	淡黃褐色 淡黃褐色	石・長(1) ○	41	
476	壺	残高(11.0)	頭部に貼付凸部2条。	マメツ	③ミガキ ④マメツ	にぶい・褐色 褐色・褐灰色	石・長(1~4) ○	41	
477	壺	残高(4.9)	頭部部。頭部に貼付凸部。	ナデ	ミガキ	灰白色 にぶい・褐色	石・長(1~3) ○		
478	壺	口径(16.2) 残高(5.1)	頭部に貼付凸部。	マメツ	⑤マメツ ⑥ミガキ	褐色 褐色	石・長(1~4) △		
479	壺	口径(6.5) 残高(18.8) 底径(6.4)	口縁端部に3条の凹瓶文。肩部に「ノ」の字状列点文。	⑦ヨコナデ ⑧ナデ ⑨ミガキ ⑩ナデ	⑪ヨコナデ ⑫シボリ痕 ⑬ハケ(指痕痕)	にぬ・紫褐色 灰白色	黄(1) ○	黒斑	41
480	壺	底径(7.0) 残高(13.6)	わざかな上げ底の底部。	⑭ヘラミガキ ⑮ナデ	ナデ(指痕痕)	弱黃褐色 弱黃褐色・黑褐色	石・長(2) ○	黒斑	
481	壺	底径(9.4) 残高(4.2)	平底。	ナデ	ナデ	にぶい・褐色 にぶい・褐色	石・長(1) ○		
482	壺	底径(7.4) 残高(4.1)	平底。	ナデ	ナデ	淡黃褐色 黑色	石(1~3) ○		
483	壺	底径(7.4) 残高(6.5)	わざかな上げ底の底部。底面に鉛丹痕。	ミガキ	ヨコナデ	淡黃褐色 淡褐色	石・長(1) ○	黒斑	
484	壺	底径(7.4) 残高(6.0)	わざかな上げ底。	ミガキ	ナデ	褐色・褪灰色 にぶい・褐色			
485	壺	底径(7.8) 残高(5.7)	平底。	マメツ	マメツ	褐色 褐色	石・長(1~3) 粉粒 △		
486	壺	底径(10.2) 残高(4.7)	上げ底。	ヨコナデ (指痕痕)	ヨコナデ	黑褐色 にぶい・黃褐色	石(1) ○		
487	壺	底径(9.6) 残高(5.2)	平底。	マメツ	マメツ(指痕痕)	にぶい・褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○		
488	壺	底径(8.0) 残高(4.8)	平底。	マメツ	マメツ	淡褐色 灰白色	石(1~3) ○	黒斑	
489	壺	底径(6.4) 残高(4.2)	平底。	マメツ	マメツ	にぶい・褐色 淡褐色	石・長(1~2) ○		
490	壺	底径(7.6) 残高(3.7)	わざかな上げ底。	マメツ	マメツ	明赤褐色 明赤褐色	石(1~2) ウンモ ○		

B2区第9層出土遺物觀察表 土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
491	盃	底径(9.4) 残高 6.8	わざかな上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・瓦(1~4) ウンモ ○		
492	盃	底径(8.0) 残高 6.5	わざかな上げ底。	ナデ	ナデ	褐色 灰褐色	石(1~25) ○		
493	盃	底径(9.6) 残高 9.5	平底。	ミガキ	ミガキ	灰白色 暗灰色	石・長(1) ○	黒斑	
494	盃	底径(6.6) 残高 5.2	わざかな上げ底。	マメツ	ナデ	黒褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		
495	盃	底径(12.7) 残高 7.2	平底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~5) ○		
496	盃	底径(8.0) 残高 5.2	平底。	マメツ	マメツ	灰白色 明黄褐色	石・瓦(1~3) ○		
497	盃	底径(10.2) 残高 4.7	平底。	⑩ミガキ ⑩ナデ	マメツ	灰褐色 暗灰色	石・長(1~3) ○		
498	盃	底径(9.6) 残高 6.5	平底。	⑩ミガキ ⑩ナデ	ミガキ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
499	盃	底径(7.6) 残高 7.2	わざかな上げ底。	マメツ	マメツ	明黄褐色 灰白色	石・長(1~4) ○		
500	盃	底径(13.8) 残高 6.7	平底。	マメツ	マメツ	浅黃褐色 にぶい墨色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 △		
501	盃	底径(8.0) 残高 5.2	平底。	ナデ	ナデ (指痕痕)	褐色 黑褐色 褐色	石・長(1~2) △ △ ○		
502	盃	底径(11.0) 残高 4.4	平底。	マメツ	マメツ	褐色 にぶい褐色、黒褐色	石・長(1~5) ○		
503	盃	底径(8.0) 残高 4.7	平底。	ナデ	ナデ	褐色、灰褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
504	盃	底径(5.8) 残高 6.3	わざかな上げ底。	マメツ	マメツ	浅黃褐色 淡黃色	石・長(1~25) ○		
505	盃	底径(6.8) 残高 3.5	わざかな上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい黃褐色 暗灰色	石(1~4) ○		
506	縁文 深鉢	口縁部。口縁端面に刻み 目。外縁に平行斜削紋。	ナデ	ナデ		淡橙色 灰白色	石・長(1~2) ウンモ ○	42	
507	盃	残高 5.8	口縁部。頭部に2条の光 線文。口縁端面に刻み目。	ナデ(指痕痕)	マメツ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	42	
508	盃	口径(24.5) 残高 7.2	折り曲げ口縁部。	ナデ	ヨコナデ	にぶい黃褐色 暗灰色	石・長(1) ○	42	
509	甕	口径(15.5) 残高 6.6	折り曲げ口縁。	⑩ナデ ⑩ミガキ	⑩ナデ ⑩ミガキ	にぶい褐色 明赤褐色	石・長(1~3) ○	42	
510	甕	口径(26.0) 残高 8.8	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑩ハケ→ミガキ	⑩ヨコナデ ⑩ハケ→ミガキ	淡橙色 褐色	石(1) ウンモ ○	黒斑	
511	甕	口径(15.4) 残高 7.8	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	にぶい褐色 暗灰色	石(3) ○	黒斑	42
512	甕	口径(26.6) 残高 4.4	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑩ハケ→ナデ	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	浅黃褐色 灰白色	石・長(1~3) ウンモ ○		
513	甕	口径(16.8) 残高 4.1	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	ヨコナデ	橙色 褐色	石・長(1) ○		
514	甕	口径(24.6) 残高 6.0	折り曲げ口縁。	マメツ	マメツ	明褐色 明褐灰色	石(1) ○		
515	甕	口径(17.6) 残高 3.3	折り曲げ口縁。	ハケ→ナデ	ナデ	淡黃褐色 淡黃褐色	石(1) ○		
516	甕	口径(26.3) 残高 8.5	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	ヨコナデ	にぶい赤褐色 暗灰色	石・長(1~2) ○		
517	甕	口径(30.5) 残高 4.5	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑩ナデ	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~5) ○		
518	甕	口径(25.2) 残高 4.0	折り曲げ口縁。口縁端面は 丸みをもつ。	マメツ	マメツ	淡黃褐色 淡黃褐色	石・長(1~5) ウンモ ○		
519	甕	口径(16.8) 残高 4.0	折り曲げ口縁。頭部内 面に沿るやかな傾。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 黄褐色、褪灰色	石・長(1) ○		
520	甕	口径(21.4) 残高 3.1	折り曲げ口縁。端面は丸み をもつ。	⑩ヨコナデ ⑩ハケ→ミガキ	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	にぶい褐色 褐色	石・長(1) ○		
521	甕	口径(16.8) 残高 4.0	折り曲げ口縁。	ナデ	⑩ヨコナデ ⑩ミガキ	灰黃褐色 褐色	石・長(1) ○	42	
522	甕	口径(19.0) 残高 8.3	折り曲げ口縁。	ナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 褐色	長(1) ○	黒斑	

B2区第9層出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	器		色調 (外側) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
523	甕	口径 (19.0) 残高 7.3	折り曲げ口縁。上方に溝有 ぎみ。端面にえみをもつ。	マツツ	◎ヨコナデ ◎ミガキ	灰白色 浅黃褐色	石・長(1~25) ○		42
524	甕	口径 (19.0) 残高 7.0	折り曲げ口縁。器部内面に あるやかな棱をもつ。	◎ヨコナデ ◎ミガキ	◎ヨコナデ ◎ミガキ	灰褐色 にぶい褐色	長 (1) ウンモ ○		
525	甕	口径 (26.0) 残高 6.6	折り曲げ口縁。上方に内溝 ぎみ。	◎ヨコナデ ◎ハケ	◎ヨコナデ ◎ハケ→ミガキ	にぶい褐色 にぶい橙色	石・長(1~2) ウンモ ○		
526	甕	口径 (31.7) 残高 4.0	折り曲げ口縁。内溝ぎみに 凹く。	ナデ	◎ヨコナデ ナデ	褐色 にぶい褐色	石・長 (1) ○		
527	甕	口径 (27.6) 残高 6.5	折り曲げ口縁。	◎ヨコナデ マツツ	◎ヨコナデ マツツ	橙色 橙色	石・長(1~2) ○		
528	甕	口径 (32.0) 残高 6.5	口縁端面に刻み目。頭部に 貼付凸唇押紋。	マツツ	◎ヨコナデ ◎ミガキ	棕色 棕色	石・長(1~2) ウンモ ○		42
529	甕	口径 (27.6) 残高 2.3	口縁端面に刻み目。	ヨコナデ	マツツ	にぶい褐色 淡黄色	石 (1~2) ○		42
530	甕	口径 (26.8) 残高 2.3	口縁端面に刻み目。頭部に 貼付凸唇。	マツツ	◎ヨコナデ ◎ミガキ	にぶい褐色 にぶい棕色	石・長 (1) ウンモ ○		42
531	甕	口径 (26.0) 残高 4.4	折り曲げ口縁。頭部下に貼 付凸唇押紋。	マツツ	◎マツツ ◎ミガキ	明褐色 灰褐色	石・長(1~2) △		42
532	甕	口径 (27.2) 残高 3.0	頭部下に貼付凸唇押紋。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石 (1~5) ○		42
533	甕	口径 (25.0) 残高 3.1	頭部下に貼付凸唇。工具に よる押紋。	ヨコナデ	◎ヨコナデ ◎マツツ	淡橙色 淡橙色	石・長 (1) ○		42
534	甕	口径 (28.8) 残高 6.3	頭部下に貼付凸唇押紋。	ナデ	◎ナデ ◎ミガキ	浅黃棕色 明褐色	石・長(1~3) 赤色化土粒 ○		42
535	甕	口径 3.5	口縁部片。頭部に貼付凸唇 押紋。	ナデ	ナデ	棕色 棕色	石・長(1~3) ○		
536	甕	口径 3.3	口縁部片。頭部に貼付凸唇 押紋。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡橙色 にぶい褐色・褐色	石・長(1~2) ウンモ ○		
537	甕	口径 (26.2) 残高 3.2	頭部下に貼付凸唇。	ヨコナデ	マツツ	棕色 棕色	石・長 (1) ○		
538	甕	底径 (5.4) 残高 2.9	上げ底。	マツツ	ナデ	浅黃棕色 浅黃褐色	石・長(1~3) ウンモ ○		
539	甕	底径 5.4 残高 2.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 黑褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
540	甕	底径 (5.4) 残高 2.6	上げ底。	ナデ	ナデ	灰白色・灰褐色 黑褐色	石・長 (1) ○		
541	甕	底径 (5.2) 残高 3.2	上げ底。	マツツ	マツツ	浅黃色・黒褐色 黃褐色	石・長(1~2) ○		
542	甕	底径 (6.4) 残高 3.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 灰褐色	石 (1) ○		
543	甕	底径 (5.6) 残高 3.3	上げ底。	◎マツツ ヨコナデ	マツツ	棕色 褐色	石・長(1~4) ○		
544	甕	底径 (6.2) 残高 3.5	上げ底。	マツツ	マツツ	棕色・黒褐色 灰褐色	石・長(1~2) ○		
545	甕	底径 (6.8) 残高 3.2	上げ底。	ナデ (滑頭底)	ナデ	灰白色・灰褐色 浅黃褐色	石・長 (1) ○		
546	甕	底径 (5.8) 残高 3.9	上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色・褐色 暗灰色	石・長 (1) ○		
547	甕	底径 7.4 残高 4.0	上げ底。	◎ヨコナデ ヨコナデ	ナデ	明褐色 にぶい褐色	石・長(1~5) ○		
548	甕	底径 (6.8) 残高 3.7	上げ底。	ナデ (滑頭底)	ナデ	要灰褐色 にぶい褐色	石 (1~3) ○		
549	甕	底径 (5.8) 残高 4.1	上げ底。	◎ミガキ (滑頭底) ヨコナデ	マツツ	棕色 灰褐色	石・長 (1) ○		
550	甕	底径 (5.8) 残高 4.7	厚みのある上げ底。	マツツ	マツツ	にぶい褐色 浅黃褐色	石・長(1~25) 赤色化土粒 ウンモ ○		
551	甕	底径 7.0 残高 4.0	上げ底。	マツツ (滑頭底)	マツツ	棕色 褐灰色	石・長(1~2) ○		
552	甕	底径 7.8 残高 4.5	上げ底。	ナデ (滑頭底)	ナデ (滑頭底)	にぶい褐色・褐色 にぶい褐色	石・長(1~5) 赤色化土粒 ○		
553	甕	底径 (5.8) 残高 3.9	上げ底。	ミガキ	ナデ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長 (1) ○		
554	甕	底径 (6.2) 残高 4.8	底部に後成株跡孔。	マツツ	マツツ	棕色・黒褐色 褐灰色	石 (4) ○		

B2区第9層出土遺物観察表 土製品

(5)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外側) (内面)	胎 土 焼	考 参	図版
				外 面	内 面				
555	甕	底径 残高 4.6 4.4	上げ底。	⑤ミガキ ⑥ナデ	ナデ (指頭痕)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○		
556	甕	底径 残高 7.8 4.7	上げ底。	マメツ	マメツ	明赤褐色 黒褐色	石・長(1) ○		
557	甕	底径 残高 6.5 4.7	上げ底。	ナデ	ナデ	にぬき褐色・墨褐色 黒褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
558	甕	底径 残高 6.7 5.7	上げ底。	マメツ	ナデ	淡橙色・暗灰色 淡黄褐色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ○		
559	甕	底径 残高 6.8 5.0	上げ底。	ナデ	ナデ	褐色・黒褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○		
560	甕	底径 残高 5.6 5.8	上げ底。	⑤ミガキ ⑥ナデ	ナデ	褐色 黒褐色	石・長(1~3) ○		
561	甕	底径 残高 5.5 6.9	上げ底。	ハケ→ナデ (指頭痕)	ミガキ→ナデ (指頭痕)	にぶい黄褐色 黒褐色	石・長(1) ○	黒斑	
562	甕	底径 残高 7.0 10.4	上げ底。	⑤マメツ (底面ナデ)	ナデ (指頭痕)	褐色 明褐色灰褐色	石・長(1) ○		
563	甕	底径 残高 6.3 7.8	上げ底。	ナデ (指頭痕)	ナデ (指頭痕)	淡黄褐色・黒褐色 灰褐色	石・長(1~5) ○		
564	甕	底径 残高 6.6 6.9	上げ底。	⑤ミガキ (底面ナデ)	ナデ	にぬき褐色・灰褐色 黒褐色	石・炎(1~3) ○		
565	甕	底径 残高 7.2 5.9	上げ底。	ナデ	ナデ	明褐色灰褐色 淡黄褐色	石・炎(1~2) ○	黒斑	
566	甕	底径 残高 6.4 4.4	上げ底。	マメツ	マメツ	褐色 褐灰色	石・長(1) ○		
567	甕	底径 残高 4.2 6.7	わずかな上げ底。	ナデ	ナデ	灰白色 淡黄褐色	石・長(1) ○		
568	甕	底径 残高 5.0 4.5	わずかな上げ底。	マメツ	マメツ	褐色 黒褐色	石(1) ○		
569	甕	底径 残高 5.6 3.0	わずかな上げ底。	⑤ミガキ ⑥ナデ	ナデ	灰白色・黒褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
570	高坏	口径 残高 17.0 3.5	口縁端部内方に肥厚。	ナデ	ナデ	浅黄褐色 灰白色	石・長(1~3) ○		43
571	高坏	口径 残高 18.0 3.5	口縁端部内方に肥厚。	ナデ	マメツ	にぶい褐色 明褐色灰褐色	石・長(1) ○		43
572	高坏	残高 3.2	坏部片。底部に刻み目。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい棕色	砂粒 ウンモ ○		43
573	高坏	残高 13.1	脚部片。2方向から中心へ の穿孔。(φ0.8cm)	ミガキ	ナデ (指頭痕) シボリ痕	にぶい褐色 淡橙色・灰褐色	石(1~15) 赤色酸化土粒 ○		43
574	高坏	残高 11.5	接合部。一定方向に向けて の穿孔。(φ1.0cm)	⑤ミガキ ⑥マメツ	マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) ○		43
575	高坏	底径 残高 19.0 9.1	脚部。脚部抜張。	ハケ→ミガキ	マメツ	にぶい褐色 褐色	石(1) ○		
576	高坏	残高 9.1	脚部片。	ナデ	ナデ シボリ痕	褐色 黄褐色	石・長(1~3) ○		
577	高坏	底径 残高 12.2 7.0	脚部。	マメツ	ナデ (指頭痕)	黒褐色 黒褐色	石・長(1) ○		
578	高坏	底径 残高 14.8 13.0	三角透かし6方向。	ミガキ	⑤ミガキ ⑥ナデ	灰褐色 にぶい褐色	石・長(1~15) ウンモ ○		43
579	高坏	残高 3.8	接合部。	ナデ	ナデ	灰褐色 棕色	石・長(1~3) ○		
580	高坏	底径 残高 15.4 4.6	三角透かし2方向以上。	ミガキ	マメツ (指頭痕)	淡黄褐色・黑色 淡黄褐色・黑色	石・長(1) ○		
581	鉢	底径 残高 4.9 5.2	上げ底。	ナデ (指頭痕)	ナデ (指頭痕)	褐色 黄褐色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ○		43
582	鉢	底径 残高 1.8 5.0	突出する底部。ひずんでい る。	マメツ	マメツ (指頭痕)	にぬき褐色・深褐色 明褐色灰褐色	石・長(1~45) △	黒斑	43
583	不規	底径 残高 6.5 6.0	白漆上端に2方向の円孔。	ハケ→ナデ	ナデ (指頭痕)	にぶい褐色 黒褐色	石・長(1~2) ○		43
584	ジョコ	底径 残高 8.6 4.3	直立する底部。	マメツ	マメツ	褐色 暗褐色	石・長(1~35) ○		43
585	指輪車	直径 14.5cm 0.6	直径 0.6	マメツ	—	明赤褐色 —	石・長(1) ○		44
586	勾玉	底径 残高 3.7 1.6	底面開口部。 底面開口部 大きさ 最大厚 1.6	ナデ	—	にぶい褐色 —	座 ○		44

表22 B2区第9層出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
587	磨製石斧	欠損	凝灰岩	(7.8)	(7.22)	(4.4)	303.64	伐採斧	44
588	磨製石斧	欠損	凝灰岩	(8.2)	(5.76)	(1.97)	137	伐採斧	44
589	磨製石斧	一部欠損	綠泥片岩	(12.0)	5.57	(2.0)	193.02	扁平刃	44
590	磨製石斧	一部欠損	綠泥片岩	9.4	1.48	1.0	32.05	柱状刃	44
591	磨製石斧	欠損	綠泥片岩	(9.98)	(2.1)	2.57	85.85	柱状刃	
592	石庵丁	欠損	綠泥片岩	(3.05)	(2.21)	(0.52)	5.83		44
593	石庵丁本製昌		綠泥片岩	11.06	4.1	1.9	137.57		44
594	打製石錐	完形	赤色チャート	2.67	1.7	0.32	1.63		44
595	台石	欠損	凝灰岩	(15.68)	(8.02)	(9.4)	1450		
596	台石	完形	砂岩	13.53	10.85	3.7	861		44
597	輝み石	完形	砂岩	9.5	10.45	4.3	835		44

表23 B2区SX出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	測量		色調(外面) (内面)	胎焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
598	甕	口径 残高 8.0	「く」の字口縁。頭部に貼付 付凸帯。	マメツ	マメツ	褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) △	SX1	
599	甕	8.4 残高 4.4	上げ底。	⑩ヨコナデ ⑪ヨコナデ	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○	SX1	
600	甕	7.2 残高 3.9	上げ底。	⑩ヨコナデ ⑪ヨコナデ	ナデ(指頭痕)	灰褐色 灰褐色	石・長(1) ○	SX2	
601	甕	6.5 残高 1.7	平底。	マメツ	ナデ(指頭痕)	明黄褐色 暗灰色	石・長(1) ○	SX2 黒斑	
602	甕	22.0 残高 9.8	折り外反する口縁部。	ミガキ	ミガキ(指頭痕)	にぶい褐色 黑色	石・長(1) ○	SX3	
603	甕	26.4 残高 5.6	内側するU1縫合。頭部内面 に縫をもつ。	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	灰黃褐色 明褐色	石・長(1~15) ○	SX3	
604	甕	11.6 残高 8.2	平底。	ミガキ	マメツ	明褐色 灰白色	石・長(1~3) ○	SX3 黒斑	
605	甕	17.8 残高 4.4	口縁端面はわずかに拡張す る。	マメツ	マメツ	褐色 淡褐色	石(1) ウンモ ○	SX3	
606	甕	4.4 2.9	つまみ出しの底部。	ナデ(指頭痕)	ナデ(指頭痕)	にぶい褐色 黒褐色	石(1) ○	SX3	

表24 B2区SX3出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法量				備考	図版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
607	磨製石斧	欠損	綠泥片岩	(11.3)		38	19	181	扁平刃

表25 B2区出土地点不明遺物観察表 土製品 (1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	測量		色調(外面) (内面)	胎焼成	備考	図版
				外 面	内 面				
608	甕	口径 残高 7.6	折り曲げ口縁。頭部に貼付 凸唇部と押圧印。	マメツ	マメツ	明褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
609	甕	28.6 残高 5.8	折り曲げ口縁。頭部に貼付 凸唇部に押圧印。	ナデ	マメツ	にぶい褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○		
610	甕	19.6 残高 4.9	口縁端面に網目。頭部に 貼付凸唇部と押圧印。	ヨコナデ	⑩ヨコナデ ⑪ミガキ	にぶい褐色 にぶい褐色	石(1) ○		
611	甕	20.2 残高 5.6	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑪ハケ	ミガキ	赤褐色 赤褐色	石・長(1) ○		
612	甕	15.1 残高 3.6	折り曲げ口縁。	⑩ヨコナデ ⑪ナデ	⑩ヨコナデ ⑪ナデ	褐色 褐色	石(1) ウンモ ○		
613	甕	17.7 残高 5.5	口縁下部剥落。	⑩ハケ→ヨコナデ ⑪ハケ	ハケ→ナデ	にぶい褐色 淡黃褐色	長(1) ○		
614	甕	6.7 残高 4.2	上げ底の底部。	⑩ミガキ ⑪ナデ	ナデ	栗褐色に赤褐色 にぶい赤褐色	石・長(1) ○		
615	甕	25.4 残高 4.4	口縁端面に格子文。	ヨコナデ	ミガキ	栗褐色に赤褐色 にぶい赤褐色	砂粒 ○		
616	甕	17.8 残高 9.9	口縁端面に山形文。頭部に 貼付凸唇部と押圧印。	マメツ	ミガキ	明褐色 明褐色	石・長(1~25) ○		
617	甕	残高 8.2	頭部。頭部に貼付凸唇部 3条以上。	ナデ	ミガキ(指頭痕)	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・長(1~3) ウンモ ○		
618	甕	残高 7.2	大きく外反する口縁部。頭 部に凸唇文2条以上。	マメツ	マメツ(ハケ)	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		

B2区出土地点不明遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	測 葺		色調 (外側) (内面)	胎 烧	備考	図版
				外 面	内 面				
619	壺	底径 (9.4) 残高 4.5	平底。	ナデ	ナデ	淡黄褐色 褐色	石・長(1~35) ○		
620	壺	底径 (6.0) 残高 5.2	平底。	⑩(1)ケズリ ⑪ミガキ	工具によるナデ (指痕焼)	にぶい褐色 褐色	石・長(1) ○	黒斑	
621	壺	底径 (7.4) 残高 4.8	平底。	⑫(1)ナデ ⑬ミガキ	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(2) ○	黒斑	
622	壺	底径 (7.2) 残高 3.3	平底。	マメツ	マメツ	灰黃褐色 灰白色	石・長(1~4) ○		
623	壺	底径 (7.4) 残高 4.1	平底。	ナデ	マメツ	淡黃褐色 褐灰色	長(1) ○	黒斑	
624	壺	底径 (8.6) 残高 3.0	平底。	ナデ	ナデ (指痕焼)	にぶい黃褐色 にぶい褐色	石(1) ○		
625	壺	口径 (6.6) 残高 3.6	やや上げ底。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 淡黃褐色	石(1~3) ○	黒斑	
626	壺	口径 (12.3) 残高 4.0	「く」の字口縁。	マメツ	マメツ	褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○		
627	壺	口径 (13.0) 残高 4.3	複合口縁。	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	長(1) ウンモ ○		
628	壺	底径 (5.0) 残高 5.5	やや上げ底。	マメツ	マメツ	淡褐色 黄褐色	石・長(1) △		
629	壺	底径 (8.8) 残高 6.4	平底。	ナデ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
630	壺	底径 (9.3) 残高 8.6	平底。	マメツ	ナデ	明褐色 明青褐色	石・長(1~3) ○		
631	壺	底径 (3.2) 残高 3.3	やや上げ底。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 灰白色	石・長(1~25) 赤色風化土粒 △		
632	壺	底径 6.3 10.4	平底。	⑩(1)ナデ ⑪ミガキ→ナデ (指痕焼)	ナデ	にぶい褐色 褐色	石・長(1~5) 赤色風化土粒 ○		
633	高坏	底径 (10.4) 8.9	脚部。広がる壺部。	⑫(1)ナデ ⑬ミガキ	マメツ	淡黃褐色、半褐色 にぶい褐色	石・長(1~4) ○		
634	高坏	残高 8.6	脚部。	ミガキ	ナデ(シボリ痕)	にぶい褐色、褐色 灰褐色	石・長(1) ○		
635	高坏	残高 8.3	脚部。三角透かし方向。	⑭(1)ナデ ⑮ミガキ	ナデ(シボリ痕)	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
636	高坏	残高 7.5	脚部。円孔。	ハケ→ナデ	ナデ(シボリ痕)	にぶい褐色 淡黃褐色	石(1) ○		
637	ジョッキ	底径 (27.4) 6.5	底部周縁に焼付したタガ。 ⑯ヨコナデ ⑰ハケ(8cm) ⑱ナメツ	⑯ヨコナデ ⑰ハケ(8cm) ⑱ナメツ	⑯ヨコナデ ⑰ナデ	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	黒斑	

表26 B2区出土地点不明遺物観察表 石製品

番号	器種	残 存	材 質	法 量				備 考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
638	石斧	未製品	綠泥片岩	11.42	5.28	1.44	189.85	扁平刀	
639	石磨丁	欠損	綠泥片岩	(7.1)	(3.07)	(0.78)	23.16	未製品	
640	スレザイバー		セヌカイト	3.53	4.65	0.39	8.42		

表27 C 調査区出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	測 葺		色調 (外側) (内面)	胎 烧	備考	図版
				外 面	内 面				
641	壺	口径 (21.9) 残高 9.0	大きく外反する口縁部。口縁 晴白に削痕。口縁端部に 削痕。頭部に貼付凸面押正文。	⑩(1)ヨコナデ ⑪ミガキ	マメツ	後青褐色 淡青褐色	石・長(1~3) ○		45
642	壺	口径 (13.7) 残高 4.6	大きく外反する口縁部。頭 部に貼付凸面帶有目押正文。	⑫(1)ヨコナデ ⑬ナデ	工具によるナ デ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1)ウンモ 赤色風化土粒 ○		
643	壺	口径 (29.2) 残高 6.7	大きく外反する下垂口縁。 口縁端部に削痕。口縁内面 に溝窓状の凸蓋文。	⑭(1)ナデ ⑮ハケ→ナデ	マメツ	灰白色 にぶい黃褐色	石(1~3) ○		45
644	壺	口径 (32.0) 残高 3.3	大きく外反する口縁端面に 格子文。	ナデ	ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	石・長(1) ○		
645	壺	口径 (25.8) 残高 2.8	大きく外反する口縁部。	⑯(1)ナデ	マメツ	灰白色 灰白色	石(1~3) ○		
646	壺	口径 (22.8) 残高 2.4	大きく外反する口縁部。	マメツ	ナデ	にぶい褐色 にぶい黃褐色	石・長(1~2) ○		
647	壺	口径 (23.0) 残高 2.5	大きく外反する口縁部。内 面に円形浮文。	⑰(1)ヨコナデ ⑱工具によるナデ	工具によるナデ	にぶい褐色 灰白色、黒褐色	石・長(1) ○		
648	壺	残高 2.1	下垂口縁部。口縁端面に 格子文。	マメツ	マメツ	にぶい褐色 灰白色	石・長(1~2) ウンモ ○		45

C 調査区出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	種類	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	勘 上成	備考	図版
				外 面	内 面				
649	壺 残高	26	下垂口縁部。口縁端面に山形文。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~3) ○		
650	壺 残高	24	下垂口縁部。口縁端面に三条の直規文。	マメツ	マメツ	にぶい銀色 にぶい橙色	石・長(1) ウンモ ○	45	
651	壺 残高	8.9	底部。口帶6条以上+腰万向の棒状浮文2条1組(有目)。	ココナデ	マメツ	灰白色・銀色 灰褐色	石(2) ○		45
652	口沿(16.2) 残高 5.0		短く外反する口縁部。	マメツ	マメツ	浅銀褐色 浅黃褐色	石(1~2) ○		
653	口径 残高	(13.0) 14.5	短く外反する口縁部。 <small>(15.5)ヨコナデ (15.5)トテ</small>	ヨコナデ	マメツ	にぶい銀色 にぶい銀褐色	長(1) ○		
654	壺 蓋(6.4) 残高 3.6		上げ底。	マメツ	マメツ	褐灰色 褐次色	石・長(1~2) 赤色酸化土粒 ○		
655	壺 底径(5.4) 残高 2.7		平底。	ナデ	工具によるナデ	灰白色 褐灰色	長(1) ○		
656	壺 底径 残高	(7.2) 4.0	平底。	ナデ	マメツ	褐色 褐灰色	石・長(1~2) ○	黒斑	
657	壺 底径(8.3) 残高 3.6		平底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	灰白色 褐灰色	石・長(1) ○	黒斑	
658	壺 底径(5.4) 残高 3.8		やや上げ底。	<small>(15.5)ナデ (15.5)マメツ</small>	ミガキ	褐色 褐銀色	石・長(1~2) ○		
659	壺 底径(8.7) 残高 4.4		平底。	ナデ	ミガキ	褐銀色にぬい褐色 にぶい銀色	石・長(1~4) ○		
660	壺 底径(7.2) 残高 5.0		丸みのある平底。	ナデ	ナデ	浅銀褐色 黒褐色	石(1~3) ○	黒斑	
661	壺 残高 4.3		わざかに上げ底。	マメツ	ナデ	美銀色 にぶい銀色	石(1~2) ○	黒斑	
662	壺 底径(7.0) 残高 3.0		平底。	<small>(15.5)ナデ (15.5)指頭痕</small>	マメツ	にぶい銀色 にぶい銀褐色	石・長(1~2) ウンモ ○	黒斑	
663	壺 底径(8.2) 残高 3.6		平底。	ナデ	マメツ	にぶい銀色 褐色	石(1~2) ○		
664	壺 底径(15.0) 残高 5.0		平底。	ナデ	マメツ	灰白色 黄褐色	石(1~2) ○	黒斑	
665	壺 底径(9.6) 残高 10.1		やや上げ底。	マメツ	マメツ	赤褐色 黄褐色	石・長(1~2) △		
666	壺 底径(8.2) 残高 12.0		上げ底。	<small>(15.5)ナデ (15.5)ミガキ</small>	ミガキ	にぶい銀色 黒褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
667	壺 底径(6.4) 残高 3.6		平底。	マメツ	ナデ(指頭痕)	明褐色・黒褐色 灰白色	石・長(1~3) ○		
668	壺 底径(6.6) 残高 2.8		平底。	マメツ	マメツ	鵝灰色 にぶい黄褐色	石・長(1~2) ○		
669	壺 底径(4.8) 残高 3.1		平底。	マメツ	ナデ(指頭痕)	淡黄褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○		
670	壺 底径(17.2) 残高 7.3		厚みのある上げ底。	ミガキ	ミガキ	赤褐色 褐褐色	長(1) ○		
671	口径(30.0) 残高 2.7		折り曲げ口縁。	ナデ(指頭痕)	<small>(15.5)ナデ (15.5)ミガキ</small>	浅黃褐色・褐灰色 浅黃褐色	石(1) ○		
672	壺 口径(21.8) 残高 4.1		折り曲げ口縫。	<small>(15.5)ヨコナデ (15.5)ハケ→ナデ</small>	ヨコナデ	灰黃褐色 明褐色	石(1) ○		
673	口径(14.8) 残高 4.8		折り曲げ口縫。	ナデ	<small>(15.5)ヨコナデ (15.5)ナデ</small>	にぶい銀銀色 にぶい銀色	石(1) ○		
674	壺 底径(6.1) 残高 7.7		くびれをもつ上げ底。	ナデ	ナデ	利赤褐色・黒褐色 にぶい褐色	石・長(1~2) ○		
675	壺 底径(5.8) 残高 4.3		上げ底。	ミガキ	マメツ	淡褐色・褐灰色 褐灰色	石(1~3) ○		
676	壺 底径(5.6) 残高 3.2		上げ底。	マメツ	マメツ	褐色 灰褐色	石・長(1~3) ○		
677	壺 底径(4.8) 残高 3.8		上げ底。	ナデ(指頭痕)	ナデ	灰色 暗灰色	石(2) ○		
678	壺 底径(6.0) 残高 3.3		上げ底。	マメツ	マメツ	浅銀褐色 浅黃褐色	石・長(1~2) ウンモ ○		
679	壺 底径(6.4) 残高 3.2		上げ底。	ナデ(指頭痕)	ミガキ	にぶい褐色 にぶい銀色	石・長(1) ○		
680	壺 底径(6.0) 残高 3.2		やや上げ底。	ミガキ	ナデ	明褐色・灰褐色 灰褐色	石・長(1~2) ウンモ ○		
681	壺 底径(6.8) 残高 2.8		くびれを持つ平底。	マメツ	ナデ	浅銀褐色 褐灰色	石・長(1~3) ウンモ ○		
682	壺 底径(6.0) 残高 4.9		やや上げ底。	ナデ	マメツ	赤褐色・褐灰色 褐灰色	石・長(1) ○		

C 調査区出土遺物観察表 土製品

(3)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 塗		色調 (外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	国版
				外 面	内 面				
683	甕	底径 残高 (5.8) 3.4	やや上げ底。	④ナデ ⑤ミガキ	マメツ	浅黄褐色 褐灰色	石 (1) ○	黒鹿	
684	甕	底径 残高 (6.4) 2.1	平底。	⑥ナデ ⑦ミガキ	マメツ	浅黄褐色 黄褐色	石 (1~2) ○	黒鹿	
685	甕	底径 残高 (6.6) 5.2	平底。	ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	石・灰 (1~4) ○	黒鹿	
686	高坏	口径 残高 (21.6) 3.5	集先状の口徑。	ハケ	ハケ→ナデ (指 距離)	灰白色 にぶい黄褐色	石・灰 (1) ○		
687	高坏	残高 2.3	环部片。口標端部削且+穿 孔。	ヨコナデ	ヨコナデ	黒褐色 にぶい黄褐色	灰 (1) ○		
688	高坏	残高 10.5	接合部は厚い。	ミガキ	⑧マメツ 朝シボリ痕	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	石・瓦 (1~3) 赤色化粧土粒 ○		
689	高坏	底径 残高 (11.0) 4.3	矢洞清かし2方向上。	マメツ	マメツ	灰白色 明黄色	石・長 (1~2) ○		
690	ジョウキ	口径 残高 (12.4) 5.5	外反する口経部。	⑨ヨコナデ ⑩ミガキ	⑪ヨコナデ ⑫ミガキ	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	長 (1) ○		
691	ジョウキ	残高 8.9	把手。	ミガキ→ナデ		明黄褐色	石・長 (1) ○		
692	环造	口径 残高 (12.8) 3.6	口縁は外反し、天井部と口 縁部の間に鋸い縫をつた。 須恵器。	⑬回転ハラケズリ ⑭回転ヨコナデ	回転ヨコナデ	暗赤褐色 暗褐色	審 ○		
693	甕	口径 残高 (13.0) 5.5	外汚する口縁部。須恵器。	⑮回転ヨコナデ ⑯タキ	⑯タキ	灰白色 灰白色	石・長 (1~2) ○		
694	坏	底径 残高 (7.8) 1.5	土師器。高台円盤。	マメツ	ナデ	にぶい橙色 浅黄褐色	石 (1) カモ老色化粧土 ○		
695	坏	底径 残高 7.0 1.5	土師器。高台円盤。	マメツ	ナデ	灰白色 灰白色	石・灰 (1) ○		

表28 C 調査区出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備 考	国版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
696	磨製石斧	欠損	綠泥片岩	(5.11)	(8.33)	(1.99)	90.77	柱状片刃	45
697	磨製石斧	欠損	綠泥片岩	(9.32)	(4.61)	(2.14)	143.56	柱状片刃	45
698	磨製石斧	完形	綠泥片岩	8.08	3.02	0.72	28.56	扁平片刃	45
699	磨製石斧	欠損	鶴灰岩	(13.4)	(4.06)	(3.8)	544	伐採斧	45
700	磨製石斧	欠損	鶴灰岩	(9.86)	(4.72)	(2.85)	230	伐採斧	
701	石甕丁	欠損	綠泥片岩	(4.12)	(2.69)	(0.5)	7.27		
702	甕石	完形	鶴灰岩	10.73	13.0	7.72	1455		
703	甕み石	欠損	鶴灰岩	(11.05)	(10.98)	(7.75)	990		
704	甕石	欠損	鶴灰岩	(7.5)	(7.3)	(5.91)	392		
705	側片		鶴灰岩	8.9	8.0	1.9	185		

## 第4章 大峰ヶ台遺跡8次調査地

### 1. 調査の経過

#### (1) 調査・報告の経緯 (第95図)

本調査は、南江戸五丁目15-8における宅地開発に伴う緊急発掘である。調査対象地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『33 大峰ヶ台弥生遺跡B・大峰ヶ台古墳群B』内にあり、周知の遺跡内にある。

1989(平成元)年に関係者から当該地における埋蔵文化財確認願の申請が提出されたことを受け、遺跡の有無と範囲確認のために試掘調査を行い、当地での遺跡の遺存を確認した。この結果から関係者は協議を行い、開発によって失われる部分に対して記録保存のための発掘調査を実施することとした。対象とする土地は複数の所有者がいることから、調査は2区画に分けて実施し北側地をA区、南側地をB区とした。A区は1989年2月に伊藤重夫・中岡義明・丹下義房の各氏から、B区は1989年7月に株式会社愛媛建築研究所から松山市教育委員会文化教育課に埋蔵文化財確認願が申請されている。本格調査は平成元年7月に2区画同時で実施した。整理と報告書作成は2004(平成16)年度に行ない、報告書の刊行に至っている。

なお、本遺跡の遺跡名は概要報告で「辻遺跡2次調査地」としていたが、その後の検討で「大峰ヶ台遺跡8次調査地」と変更されたので、本報告書では変更名称を使用している。

#### (2) 調査組織

調査地 松山市南江戸五丁目 A区：1544-1・同-2・同-3、1545-1・同-2・同-3  
B区：1538-1・同-3・同-4・同-5

遺跡名 大峰ヶ台遺跡8次調査地

調査期間 平成元年7月15日～同年7月31日

調査面積 A区501m<sup>2</sup>、B区595m<sup>2</sup>

調査担当 西尾幸則

栗田正芳(現：松山市教育委員会文化財課)

松村 淳(退職)

調査協力 伊藤重夫・中岡義明・丹下義房・高橋写真館

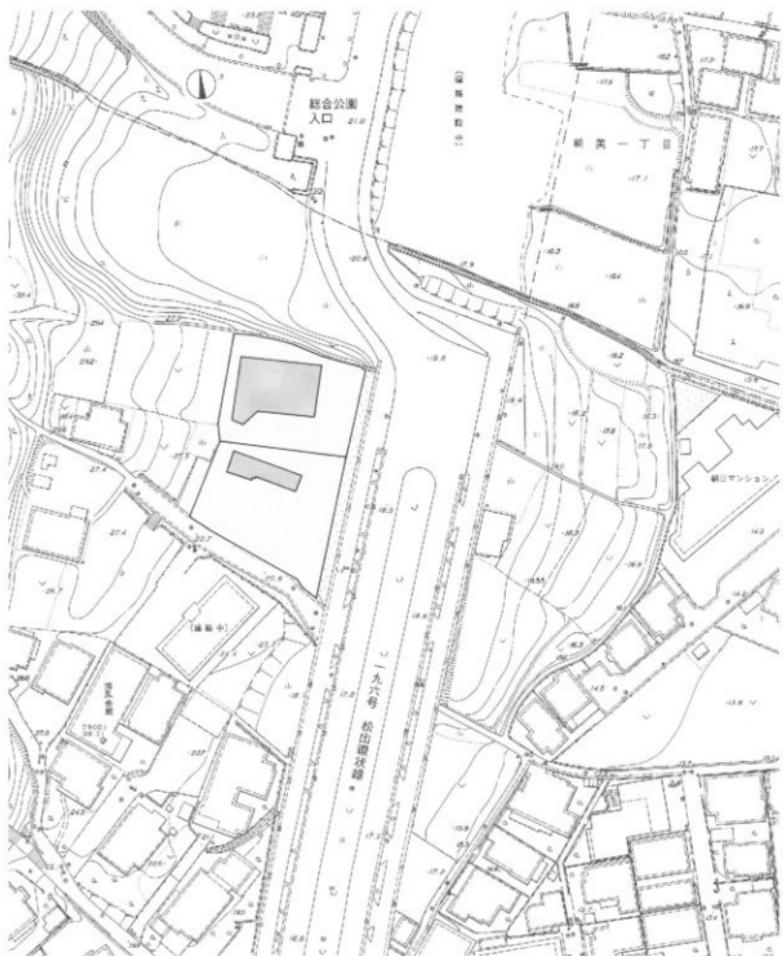
栗林廣八・株式会社愛媛建築研究所

### 2. 層位 (第96図)

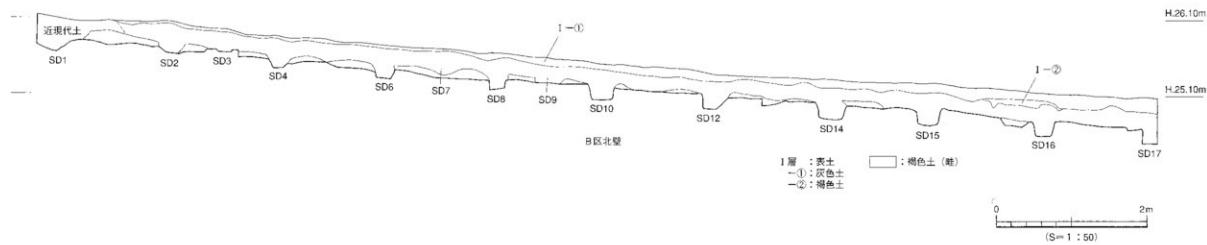
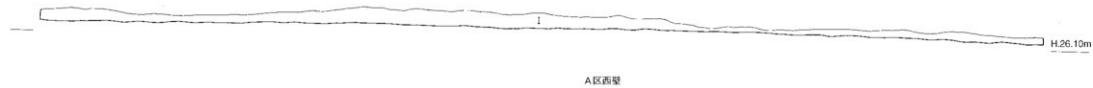
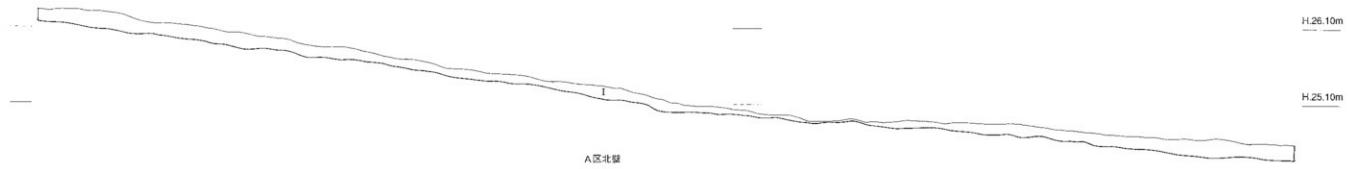
調査地は大峰ヶ台丘陵の南西山麓の傾斜地にあり、標高は21.4～23.8mである。傾斜は西高東低で標高差2.1m、北高南低で標高差2.6mとなる。

土層は対象地全域が近現代の開墾の影響をうけ、表土下は地山であり、したがって、遺構に伴う上層以外は近現代層である。近現代層のI層はB区で灰色土(第96図I-①)や褐色土(第96図I-②)の土壤が検出されている。また、B区の上層壁面には畑の畝となる褐色土(第96図スミアミ)と畑溝の埋土が確認できる。

大峰ヶ台遺跡 8次調査地



第95図 調査位置図 ( $S = 1 : 1,000$ )



第96図 A・B区土層図

層位



第97図 A・B区遺構配置図

### 3. A区の遺構と遺物（第97・98図、図版46）

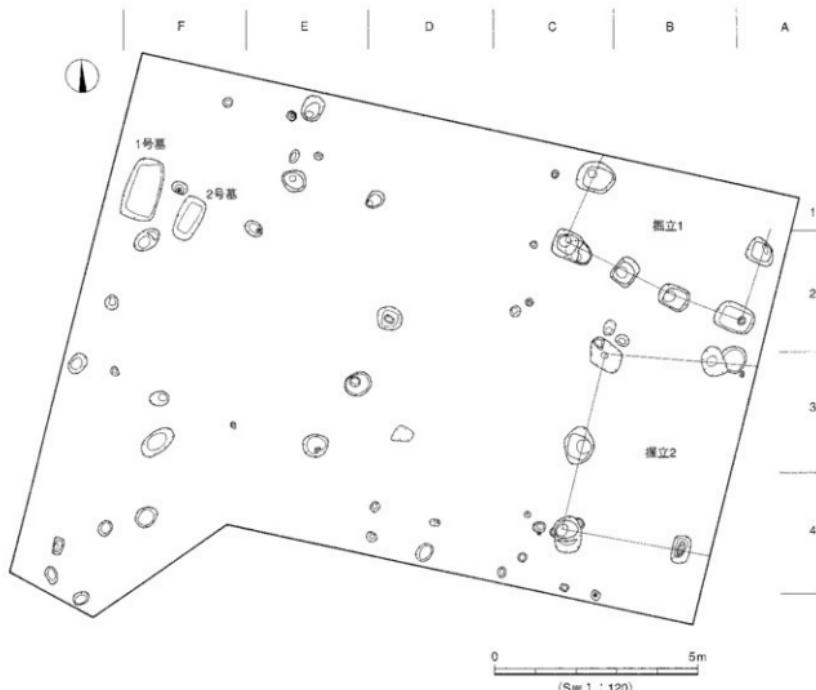
A区では古墳時代後期～中世の遺構を検出し、遺構には掘立柱建物址2棟、土坑2基、ピット46基がある。

#### (1) 掘立柱建物址

1号掘立柱建物址（掘立1、第99図、図版46・47）

建物は調査区の北東隅、グリッドA～C-1～2で検出し、北に続く。規模は東西が3間で4.70m、南北が2間以上で1.80mとなり、検出床面積は8.46m<sup>2</sup>となる。柱の掘り方は正方形～長方形を呈し、柱穴5基に柱痕跡がある。柱痕は径が20～30cmであり、柱間は1.30～1.80mである（表29）。掘り方埋土は暗茶褐色で、幾つかの柱穴では須恵器や土師器の小破片が少量出土している。時期の判明する破片は第99図の5点に限られ、1～4が須恵器の壺蓋で、5が土師器のコシキの把手部分である。これらの出土品は丘陵周辺にある古墳群や集落跡からの流入品の可能性が高い。

時期：築造時期は埋土や周辺遺跡の状況から古墳時代後期とする。



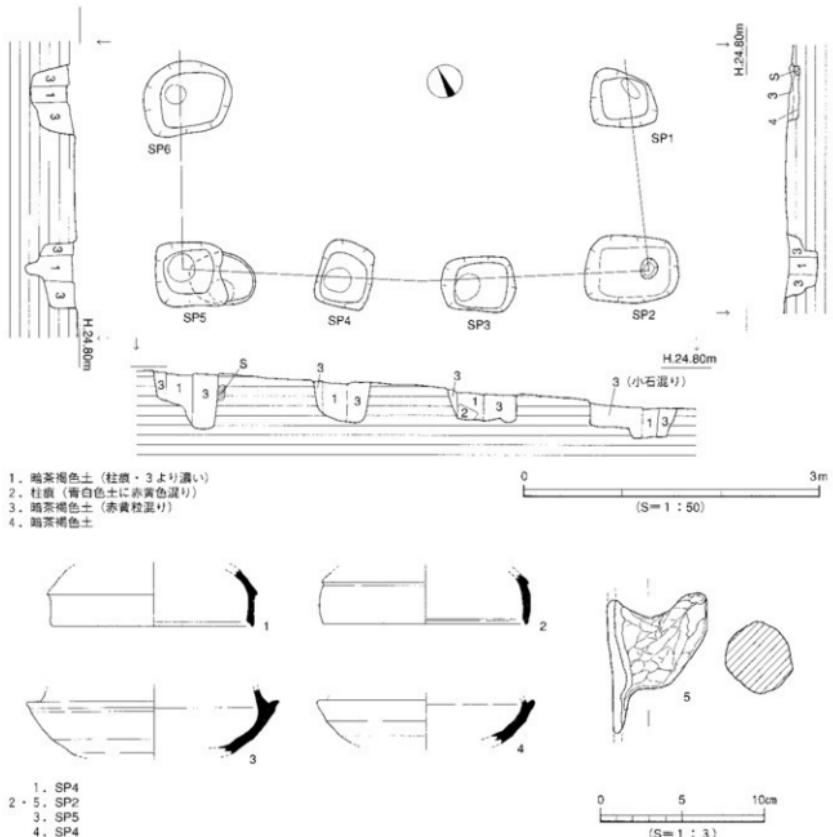
第98図 A区遺構配置図

A区の遺構と遺物

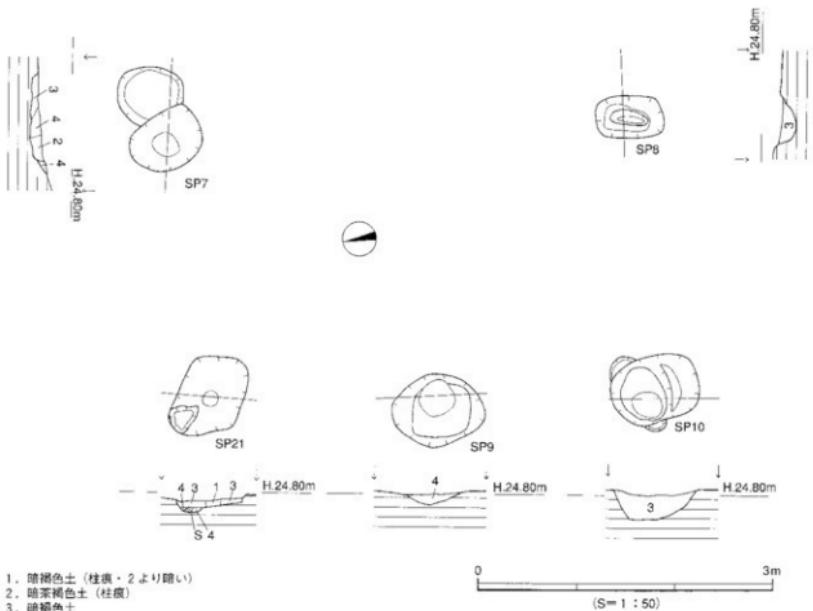
2号掘立柱建物址（掘立2、第100図、国版46・47）

建物は調査区の東端、グリッドB～C-3～4で検出し、東に続く。規模は南北が2間で4.45m、東西が2間以上で2.65mとなり、検出床面積は11.79m<sup>2</sup>となる。柱の掘り方は概ね四角形を呈し、柱穴2基に柱痕跡がある。柱痕は径が18～22cmであり、柱間は2.25～2.65mである（表29）。掘り方埋土は暗～茶褐色土であり、出土遺物はない。

時期：築造時期は埋土や周辺遺跡の状況から古墳時代後期とする。



第99図 掘立1測量区・出土遺物実測図



第100図 掘立2測量図

## (2) 墓

### 1号墓 (第101図、図版47)

1号墓は調査区の北東、グリッドF 1で検出する。平面形状は長方形で南北1.36m、東西0.77m、断面形状は逆台形で深さ0.16mである。基盤面の3辺には凹みがあり、箱型の木棺痕跡を推定させる。埋土は明黄色土の單一層で、中央部床面から土師器の小皿と疊が各1点出土している。小皿は内湾して立ち上がる口縁部で、外面には回転ナデの痕跡をもつ。特徴から14~15世紀に比定する。

時期：出土品から14~15世紀とする。

### 2号墓 (第101図、図版47)

2号墓は調査区の北東、グリッドF 1で検出し、1号墓の南東0.7mに並列してある。平面形状は北西部が乱れるが、本来は長方形と見られ南北1.20m、東西0.45mを測る。断面形状は膨らみをもつ逆台形で、深さ0.25mである。埋土は明黄色土の單一層で、出土遺物はない。

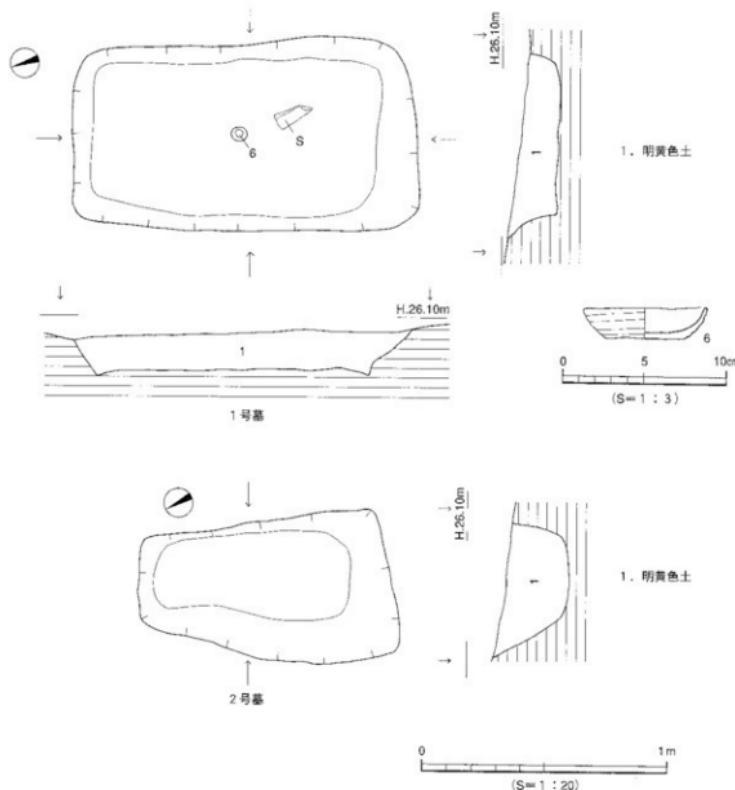
なお、本上坑は1号墓に隣接かつ並列し、埋土が大差ないため墓として報告した。

時期：1号墓と同時期とし14~15世紀とする。

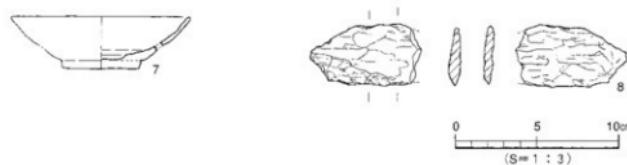
## (3) その他

第102図にはA区出土の遺物2点を掲載した。7は土師器の壺で、円盤高台をもつ。8は石器で、緑色片岩の剥片である。

A区の遺構と遺物



第101図 1・2号墓測量図・出土遺物実測図



第102図 出土地点不明遺物実測図

#### 4. B区の遺構と遺物（第97・103図、図版48）

B区では古代～中世と近世の遺構を検出している。遺構には溝19条とピット33基があり、第103図の下段には古代～中世の遺構配置、上段には近世の遺構配置を掲載した。

##### (1) 古代～中世 溝1条とピット33基がある。

S D18：調査区の東端、グリッドD 8～9にあり、調査区外に続く。ピットP28を切り、P30に切られる。検出長は2.90m、幅は0.40mで、出土遺物には第104図13・14がある。13・14は古墳時代の須恵器片であるが、ここでは流れ込み品として理解した。切り合いの関係にある遺構も時期が特定されず、細かな時期判断ができない。

ピット：大小さまざまなピットが33基検出された。このうちP17・P25（第104図9・10）からは古墳時代須恵器の壊・蓋片が出土しているが、周辺地からの流入品と考えられ、遺構の時期決定には有効な資料と言えない。その他のピットも細かな時期や性格は判断できない。

##### (2) 近世 溝18条がある（第103図）。

S D 1～17：S D 1～17は並列し、調査区土層壁面の観察からは溝の両側で褐色土壤が検出されていることから（第96図）畑址と推定される。検出長は0.70～4.50m、溝幅は0.26～0.46m、深さは0.06～0.60m、畝幅（溝と溝の間）は1.0～0.3mである。S D 6・14（第104図11・12）の埋土からは古墳時代の須恵器片が出土しているが、周辺地からの流入品と考えられる。畑址の細かな時期判断はできない。

S D19：S D 1～17に切られ、それらと直交する位置関係にある。検出長は9.34m、幅は0.40mであり、出土遺物はない。したがって、細かな時期判断ができない。

その他：調査区内からは第104図15・16の須恵器片と、17の土製品が出土している。

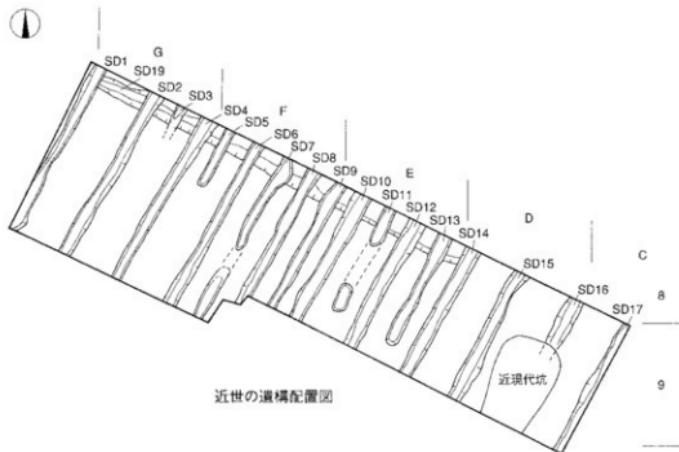
#### 5. 小結

今回の調査では古墳時代～近世の遺構や遺物を検出した。隣接する遺跡の資料を加味して、調査のまとめをする。

(1) 古墳時代 挖立柱建物址は隣接の辻遺跡第3調査区で16棟検出されているが、A区掘立1のように長方形の掘り方で柱並びの整った建物址は認められず、埋土も異なることから、古墳時代後期の建物と考えた。一方、遺構から出土した須恵器片は、本調査区の東側にある辻遺跡第3調査区に展開する古墳時代集落や、丘陵上部に築かれた古墳（岡田 1994）からの流入品と理解しておく。

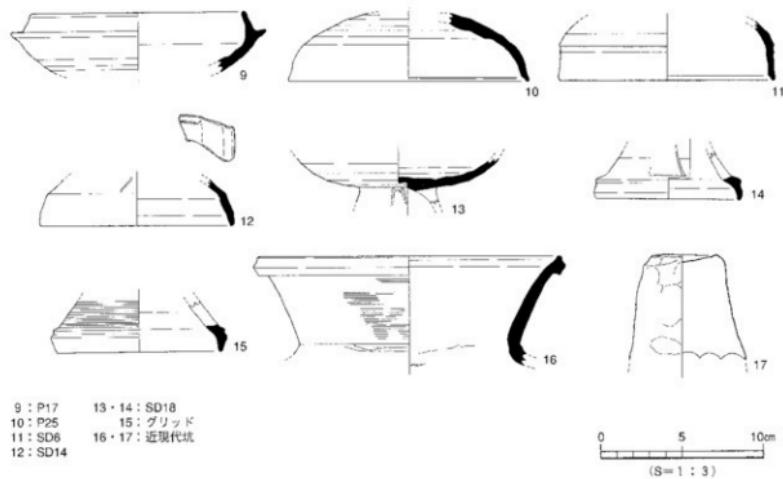
(2) 古代～中世 明確に古代に限定される資料はないが、時期比定を最大限の範囲で考えたために、古代～中世の時間幅を設けた。1・2号墓は中世に比定される。周辺の地域では、本書掲載の南江戸桑田遺跡や隣接の辻遺跡第3調査区で近世墓が検出され、一帯に近世墓の事例が多いが、中世墓の検出は少なく、稀少資料と言える。

(3) 近世 B区では畑址を検出したが、溝の直交する切り合い関係からは畠地の大きな土地改良が知られる。近世の畠地遺構は調査例が少なく、基礎資料を得たことで成果と言える。



第103図 B区遺構配置図

大峰ヶ台道路8次調査地



9 : P17      13・14 : SD18  
10 : P25      15 : グリッド  
11 : SD6      16・17 : 近現代坑  
12 : SD14

第104図 B区出土遺物実測図

## 遺構一覧

## 遺構・遺物一覧 一凡例一

(1) 以下の表は、本調査地検出の遺構・遺物の計測値及び観察一覧である。

(2) 遺物観察表の各掲載について

法量欄( )：復元推定値

調整欄 土器の各部位名称を略記した。

例) 口→口縁部、胴→胴部、天→天井部、脚→脚部、体→体部、底→底部。

胎土・焼成欄 胎土欄では混和剤を略記した。

例) 長→長石、石→石英、密→精製土。( )中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 砂・長(1~4) → 「1~4mmの大砂粒・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良。

表29 堀立柱建物址一覧

掘立	規模(箇)	方位	粉行		礫行		床面積(m <sup>2</sup> )	時期	備考
			実長(m)	柱間寸法(m)	実長(m)	柱間寸法(m)			
1	3×(2)	南北	4.7	16・13・18	18	18	8.46	6C後半	
2	2×(2)	東西	4.45	22・22.5	26.5	26.5	11.29	6C後半	

表30 墓一覧

墓	平面形	断面形	規模(m) 長さ(長径)×幅(短径)×深さ	床面積(m <sup>2</sup> )	埋土	出土遺物	時期	備考
1	長方形	逆台形	1.36×0.77×0.16	1.04	明黄色	石・土師	14~15C	
2	長方形	逆台形	1.20×0.45×0.25	0.54	明黄色		14~15C	

表31 溝一覧

溝(SD)	地区	規模(m) 長さ×幅×深さ	方向	出土遺物	時期	備考
1	H7・8	4.5×0.3×	南北		近世	
2	G7・8	4.5×0.3×0.32	南北		近世	
3	G7	0.7×0.3×0.06	南北		近世	
4	F7・8	4.5×0.38×0.45	南北		近世	
5	F7	1.5×0.26×	南北		近世	
6	F7・G8	4.5×0.24×0.42	南北	須恵	近世	
7	F7・8	(4.5)×0.3×0.22	南北		近世	
8	F7・8	3.5×0.3×0.05	南北		近世	
9	F7・8	3.2×0.3×0.12	南北		近世	
10	E8	3.5×0.44×0.52	南北		近世	
11	E8	(2.7)×0.34×	南北		近世	
12	E8・9	3.5×0.46×0.54	南北		近世	
13	E8・9	3.5×0.46×0.54	南北		近世	
14	E8・9	3.5×0.42×0.6	南北	須恵	近世	
15	D8・E9	3.5×0.34×0.5	南北		近世	
16	D8・9	1.2×0.4×0.5	南北		近世	
17	C8・D9	3.5×(0.26)×0.6	南北		近世	
18	D8・9	2.9×0.4×	北~東	須恵	古代~中世	
19	E8~G7	9.34×4.0×	東西		近世	

表32 A区出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	区版
				外 面	内 面				
1	环蓋	口径 (12.0) 残高 3.4	口縁端部は内傾し、凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 暗灰色	密 ○	獨立1 SP4	
2	环蓋	口径 (12.2) 残高 3.1	口縁端部は内傾し、凹面をなす。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	獨立1 SP2	
3	环身	残高 4.1		②回転ナデ ⑤回転へラ削り	回転ナデ	灰色 青灰色	密 ○	獨立1 SP5	
4	环身	残高 2.7		②回転ナデ ⑤回転へラ削り	回転ナデ	白灰色 白灰色	密 ○	獨立1 SP4	
5	こしき	残高 9.0	断面が長楕円形を呈す。	ナデ	ナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1~2) ○	獨立1 SP2	
6	皿	口径 7.3 器高 2.0 底径 4.7	完形品。多段のナデ。	②回転ナデ ⑤マツフ	マツフ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1) ○	1号墓 48	
7	环	口径 (10.8) 器高 (3.2) 底径 4.8	點り付け高台。	②マツフ ⑤回転糸切り	マツフ	淡茶色 淡茶色	密 ○	出土地 不明	

表33 A区出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備 考	区版
				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
8	板状剥片		緑色片岩	6.7	3.8	0.7	23.10	出土地不明	

表34 B区出土遺物観察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	区版
				外 面	内 面				
9	环身	口径 (12.2) 残高 3.9	たちあがり端部は丸い。	②回転ナデ ⑤回転へラ切り →ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	P17	
10	蓋	口径 (14.4) 残高 4.1	口縁端部は内傾し凹面をもつ。	②回転ナデ ⑤回転へラ削り	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	P25	
11	环蓋	口径 (13.0) 残高 3.6	口縁端部は内傾する。	②回転ナデ ⑤回転へラ削り	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	SD6	
12	环蓋	口径 (11.6) 残高 2.8	口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○	SD14	
13	高环	残高 2.8	三方透かし。	④回転へラ削り 一部タタキ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 ○	SD18	
14	高环	底径 残高 (8.7) 3.0	透かし一ヶを看取。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	SD18	
15	高环	底径 残高 (9.8) 3.1	脚端部はたちあがり、上部がナデ凹む。	③カキ目 ⑤回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○	グリッド	
16	甕	口径 (18.1) 6.7	口縁端部は上下抵張。	①回転ナデ ②カキ目→回転ナデ ナデ	①回転ナデ ②タタキ	暗灰色 暗灰色	密 ○	近現代 坑	
17	支脚	残高 6.4	受部がわざかに凹む。	ナデ		淡茶褐色	石・長(1~3) 金 ○	近現代 坑	

## 第5章 北斎院遺跡

### 1. 調査の経過

#### (1) 調査・報告の経緯

昭和50年6月、松山市北斎院町379-1・379-2で宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。該当地は、松山市が指定する松山市埋蔵文化財包蔵地『156 北斎院遺物包含地』内にある。調査は、松山市教育委員会社会教育課が開発者の株森田住宅(森田政志)の協力を得て、昭和50年7月に実施した。

整理等作業と報告書作成は、平成16年度に松山市教育委員会の委託を受け、財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センターが実施した。報告書作成では、調査から29年余り経過し、担当者の不在や基礎資料の損失があり、それを補うために関係者には聞き取り調査を行い、資料の充実に努めた。執筆は、3-2)が宮内、残りは梅木が担当した。

#### (2) 調査組織

調査地 松山市北斎院町379-1・379-2

遺跡名 北斎院遺跡

調査期間 昭和50年6月18日～同年7月17日

調査面積 600m<sup>2</sup>

調査担当 森 光晴（退職）

調査協力 (株)森田住宅 (森田政志)



第105図 調査地位置図 (S = 1 : 1,000)

## 2. 層位 (第107図、図版49)

調査地は、宮前川で形成された沖積低地にあり、東側後背には標高111mの岩子山がある。標高は現在の地表面で10.0m、包含層上面で約9.0mとなり、宮前川河口までは約4.0km、西方の伊予灘までは標高129mの弁天山を越え約3.0kmの位置となる。

基本層位は8層で、部分的に3つの土壤が検出されている。

第Ⅰ層：宅地造成土で、厚さ約40cm。

第Ⅱ層：造成前の耕作土で、厚さ10~30cm。

第Ⅲ層：褐色粘土で、厚さ20~30cm。

第Ⅳ層：茶褐色土で、厚さ40~70cm。

第Ⅴ層：小礫混じりの砂層で、砂層の部分が多い箇所があり、厚さ20~40cm。

第Ⅵ層：砂礫層で、厚さ2~5cm。

第Ⅶ層：黒色粘土で、西側に厚く堆積し、厚さ10~60cm。

第Ⅷ層：青色粘土で、厚さ約10cm。

このうち、第Ⅲ層上面は調査地中央で段差があり、近現代の耕地整備の跡が認められる。第Ⅴ層上面と第Ⅶ層上面は調査地東側で段差があり、第Ⅳ層と第Ⅵ層との堆積前に掘削された様子が見て取れ、かつ各段差部分には土壤①の砂層があることから、当地が水田・畑地であった可能性を推定させていく。なお、第Ⅳ層～第Ⅶ層で遺物が出土している。ただし、現状では出土物と層位との関係は判断できない。

## 3. 遺構と遺物 (第106図)

遺構は柱穴・小穴が50基、杭が25基以上あり、第Ⅶ層上面で検出されている。

柱穴・小穴は、平面形態は円形が主体で、少数の隅丸四角形がある。規模は径・辺が0.8~40cmで、深さは不明である。構造物を想定する組み合わせは判断できなかった。杭は調査地の西部・中央部北・東部南の3地点で集中的に検出されているが、構造物を判断するには至っていない。杭の大きさは長さ60cm前後である。出土遺物は顯著なものはないが、現状では特定出来ない。

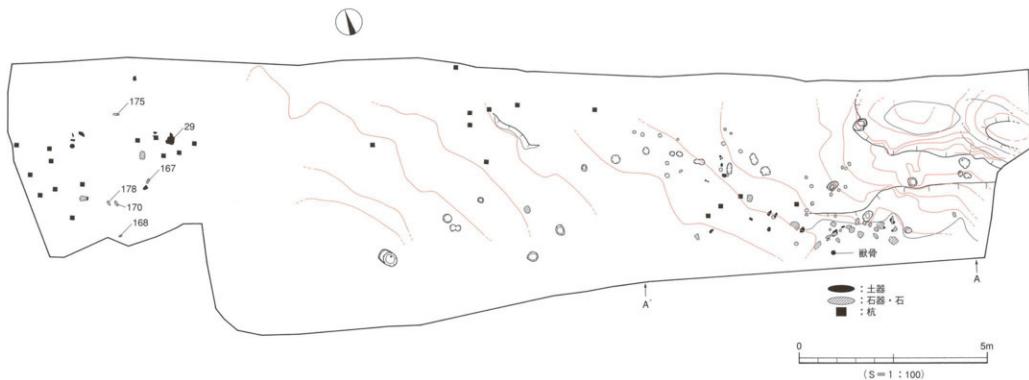
調査区からの出土遺物には、土器・石器・杭があるが、出土地点が明確でないために、ここでは土器は時期毎に、石器は時期区分せずに掲載する。杭は現状では保管されていない。

### (1) 土器

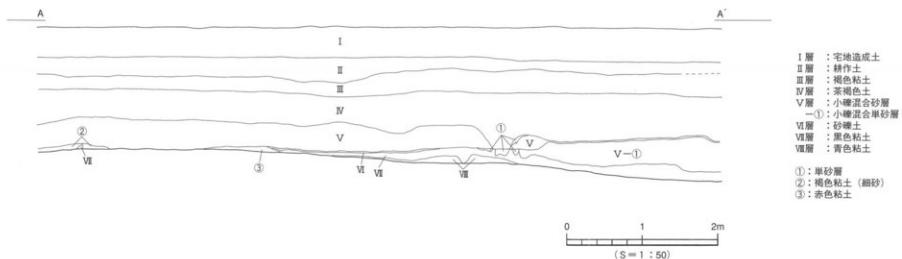
#### 1) 弥生時代～古墳時代初頭 (第108・109図、図版50)

1~7は弥生時代中期に属するもので、1・2は壺、3・5~7は壺、4は高杯になる。8~20は後期後葉から古墳時代初頭までに属するもので、8~10は壺、11~16は壺、17~20は鉢である。

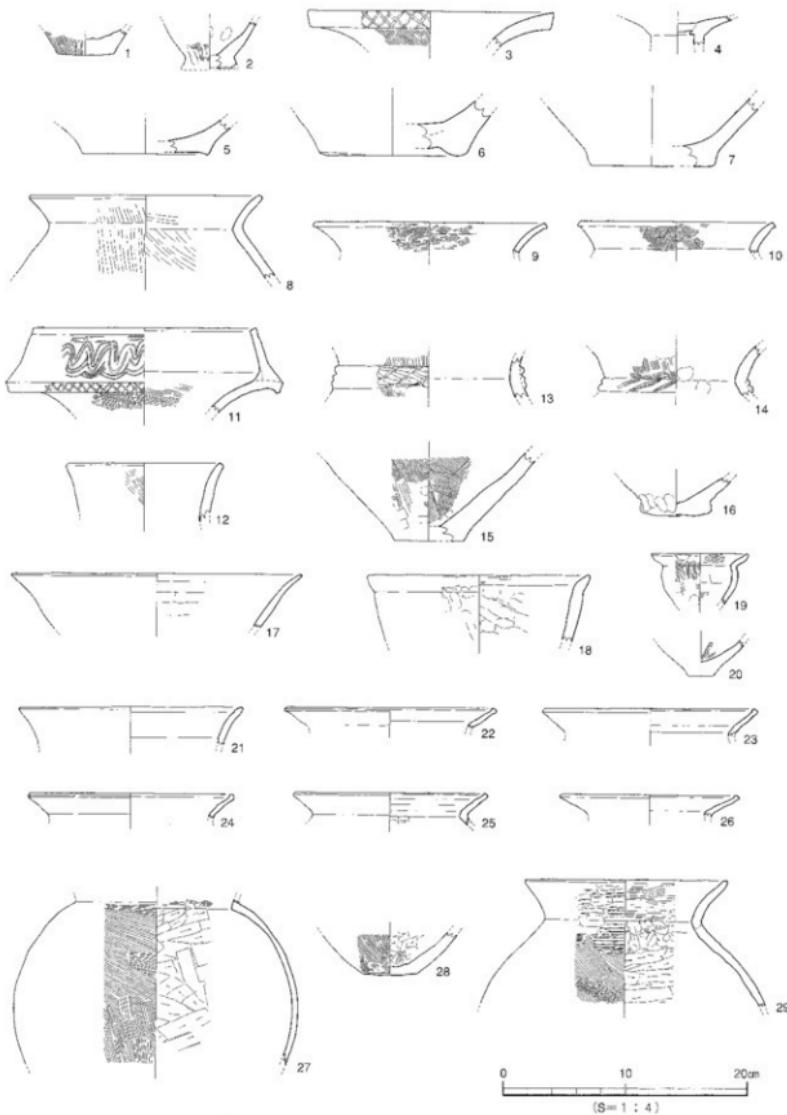
21~58は古墳時代初頭に比定され、いわゆる外来系上器である。21~32は壺になり、21~26はL縁壺部が内方に小さく拡張する近畿系壺の特徴をもつ。27~29は口縁～胴部片で、内面にヘラケズリ痕が見られる。30~32はL縁端部の拡張はなく、内面にはヘラケズリ痕があり、ずいぶんと在地化された壺である。33~36は壺で、33は加飾の著しい二重口縁壺、34~36は直口壺、37~39はいわゆる小型丸底土器である。40~46は鉢で、45と46は厚手になる。47~52は高杯、53は脚台付鉢、54・55は小型器台、56・57は脚付き鉢である。58は山陰系鼓型器台で、模倣品である。



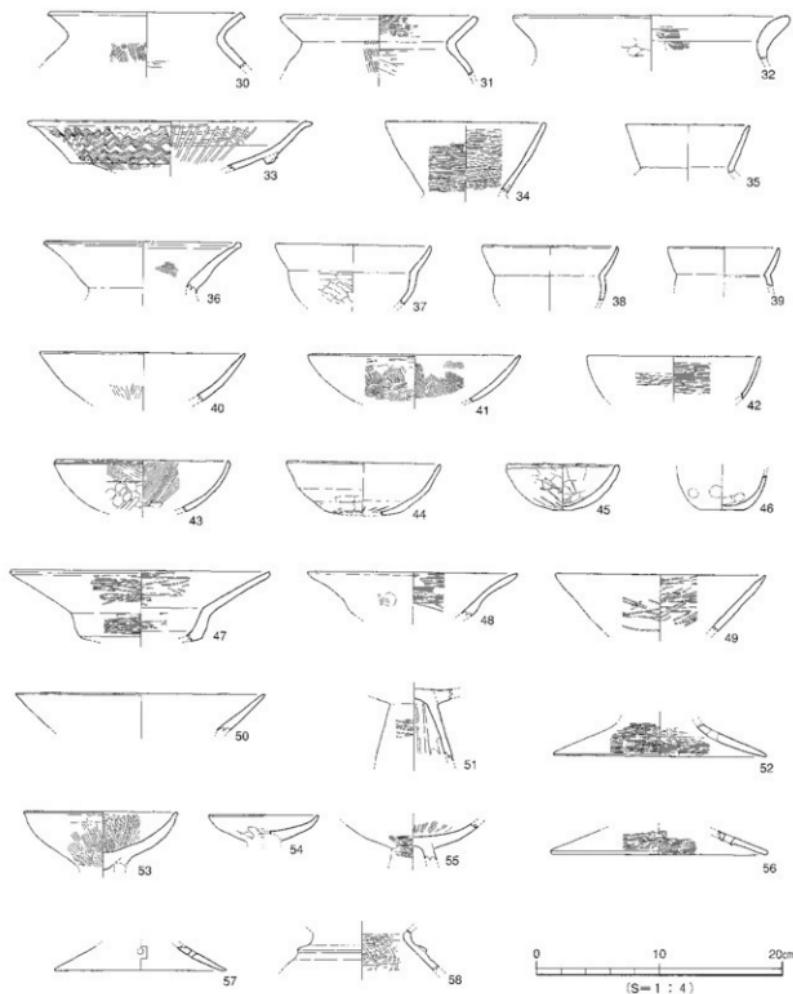
第106図 遺構配置図・遺物出土状況



第107図 土層図



第108図 出土遺物実測図(1)



第109図 出土遺物実測図(2)

## 2) 古墳時代中期～古代（第110～115図、図版50・51）

## ① 須恵器

**蓋坏**（59～104）：59～66は坏Gの蓋。59は天井部と口縁部の境界に凹線状の凹みが巡る。60・61は天井部と口縁部との境界が不明瞭であり、口縁端部は尖り気味に丸い。62～64は天井部からなだらかな弧を描き口縁部に下がり、口縁端部は尖り気味に丸い。62の口縁端部には刻目を施す。65・66はかえりをもつ坏蓋。かえりは口縁部より下がり、端部は尖り気味となる。67は坏Gの身。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に丸い。底部外面は回転ヘラキリ後、未調整となる。59～61は6世紀後半、62～64は7世紀前半、65～67は7世紀後半。

68～72は坏H身。68・69はたちあがりを欠損する。底部外面1/2前後に回転ヘラケズリ調整を施す。70はたちあがりが低く内傾し、たちあがり端部は尖り気味に丸い。71はたちあがりが内傾し、たちあがり端部は尖り気味に丸く仕上げる。72はたちあがりが太く短く内傾し、たちあがり端部は尖る。68～71は6世紀後半、72は7世紀前半。

73～79は坏。73は体部が直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。74は平底の底部から体部が直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。75～79は底部片。底部の切り離しは回転ヘラキリ技法による。78・79は円盤高台の坏で、79は窄まりながら突出する底部である。73・74は8世紀前半、75～78は9世紀、79は10世紀前半。

80～91は坏Bの蓋。80・81は扁平な頂部からなだらかな弧を描き口縁部に下がり、口縁部は下方に屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。82～84は笠形の頂部から口縁部に下がり、口縁端部は下方に屈曲する。口縁端部は丸く仕上げる。85～87は扁平な頂部から口縁部に至り、口縁部は下外方に屈曲する。口縁端部は尖り気味に仕上げ、口縁端面は凹む。88は口縁部がS字状となり、下外方に屈曲する。89～91は坏蓋のつまみ。すべて中央部が突出する。80～84は8世紀前半、85～88は8世紀後半、89～91は8世紀代。

92～104は坏B。92・93は体底部付近に高台が付き、高台は細く直立する。94は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁部は直立する。体底部境界は丸みをもち、高台は低く外傾する。底部外面に回転ヘラキリ痕を残す。95～99は体底部付近に高台が付き、高台は外方に短く開く。96・98は底部外面に回転ヘラキリ痕を残す。100・101は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。高台は体底部境界に付き、やや外方に開く。100の底部外面に回転ヘラキリ痕を残す。102は高台が体底部境界よりやや内側に付き、外方に開く。103は高台が下内方に、104は下方に下がる。102・104の底部外面は回転ヘラケズリ調整を施す。97は7世紀後半、94・95・97・99・100は8世紀前半、その他は8世紀後半。

**皿**（105～110）：105～108は皿A、109・110は皿B。105・106は底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。口縁端部は105が平坦、106・107は外傾する。108は口縁端部内面に浅い凹線状の凹みが巡る。109は大型品で、高台は細く角張り平坦面で接地する。110は体底部境界に明瞭な稜をもち、高台は太く下内方に肥厚する。109・110の底部外面に回転ヘラケズリ調整を施す。110は8世紀前半、105～109は8世紀後半。

**高坏**（111～119）：111は無蓋高坏。坏部は楕形を呈し、脚端部は下方に屈曲する。112は脚裾部。111と同様、脚端部は下方に屈曲する。113は柱裾部境界に凸線が巡り、透かしをもつ。114～117は柱部。116の柱部中位に2条の沈線が巡る。117は器壁が厚く、粘土紐の巻き上げ痕が顯著に残る。

118・119は有蓋高杯の蓋。118は中央部が凹み、119は中央部がやや突出する。113は6世紀前半、118・119は6世紀代、111・112・114～117は7世紀前半。

**椀** (120) : 120は台付椀。体部は内湾し、体部中位に1条の沈線が巡る。6世紀後半。

**壺** (121～129) : 121～124は長頸壺。121は口縁部片で、口縁端部は丸く仕上げる。122は肩胴部片。肩部に刺突文と沈線を施す。123・124は台付壺の底部。高台はやや外方に開き、124は端部が肥厚する。125は広口壺。口縁端部内面はやや肥厚する。126は直口壺。肩部の張りは強く、肩胴部境界に明瞭な稜をもつ。127は四耳壺。把手は断面方形を呈し、径5mmの大円孔を穿つ。128は小型壺、129は短頸壺の蓋。129の口縁端部に刻目を施す。128・129は6世紀後半、122は7世紀前半、123～126は8世紀前半、127は8世紀後半。

**平瓶** (130) : 130は肩胴部片で肩部の張りは強く、胴部との境界に明瞭な稜をもつ。8世紀前半。

**甕** (131～136) : 131～133は口縁部が短く外反し、131・132は口縁端部が内方に肥厚する。133は口縁端部が面をもつ。134は長く外反する頸部をもち、頸部中位に1条の沈線が巡る。口縁端部は上下方に肥厚し、端面は凹む。135は頸部が短く外反し、口縁端部は上下方に肥厚する。136は口縁部が直立し、口縁端部は内方に肥厚する。131・132は7世紀後半、133～136は8世紀。

## ② 土器類

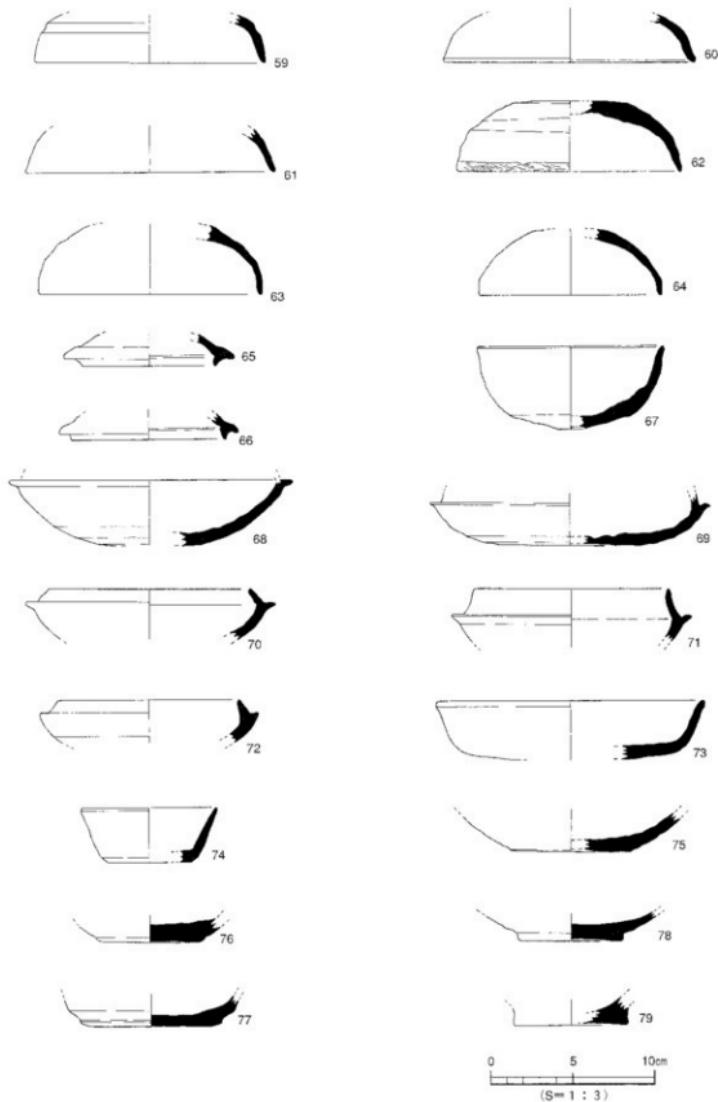
**蓋壺** (137～154) : 137～140は壺A。口縁部は内方へ折り曲げられ、口縁部内面に浅い凹みをもつ。137の体部内面には左下がりの放射状暗文を施す。口縁部外面はすべてヨコナデ調整、底部外面は138のみ回転ヘラキリ痕を残す。137・138・140は内外面共に赤色塗彩を施す。141～148は壺C。141は体部が内湾し、口縁端部は尖る。体底部内面に暗文を施す。外面はヘラミガキ調整を施す。142は体部内面に右下がりの放射状暗文、底部内面にらせん状の暗文を施す。外面に赤色塗彩を残す。143は口縁端部を尖り気味に仕上げ、体部内面に右下がりの放射状暗文を施す。144は口縁部が外反し、体部内面に右下がりの暗文を施す。底部外面にはヘラ状工具による線刻を施す。145・146は口縁部内面に浅い凹みが巡り、145の体部内面に暗文を施す。146は赤色塗彩を施す。147・148は体部が内湾し、口縁部を尖り気味に仕上げる。149は体部中位に稜をもち、口縁部は外反する。147・149は赤色塗彩を施す。141は7世紀前半、142・149は7世紀後半、143～146は8世紀前半、137～140は8世紀後半、147・148は時期不明。

150は壺B蓋。天井部は扁平で、口縁部は丸みをもつ。151～153は高台の付く壺B。151は太く丸みのある高台をもち、体底部境界に稜をもつ。152・153は体底部境界が丸みをもつ。150・152・153は内外面共に赤色塗彩を施す。154は円盤高台の壺。底部の切り離しは回転ヘラキリ技法による。150～153は8世紀前半、154は10世紀後半。

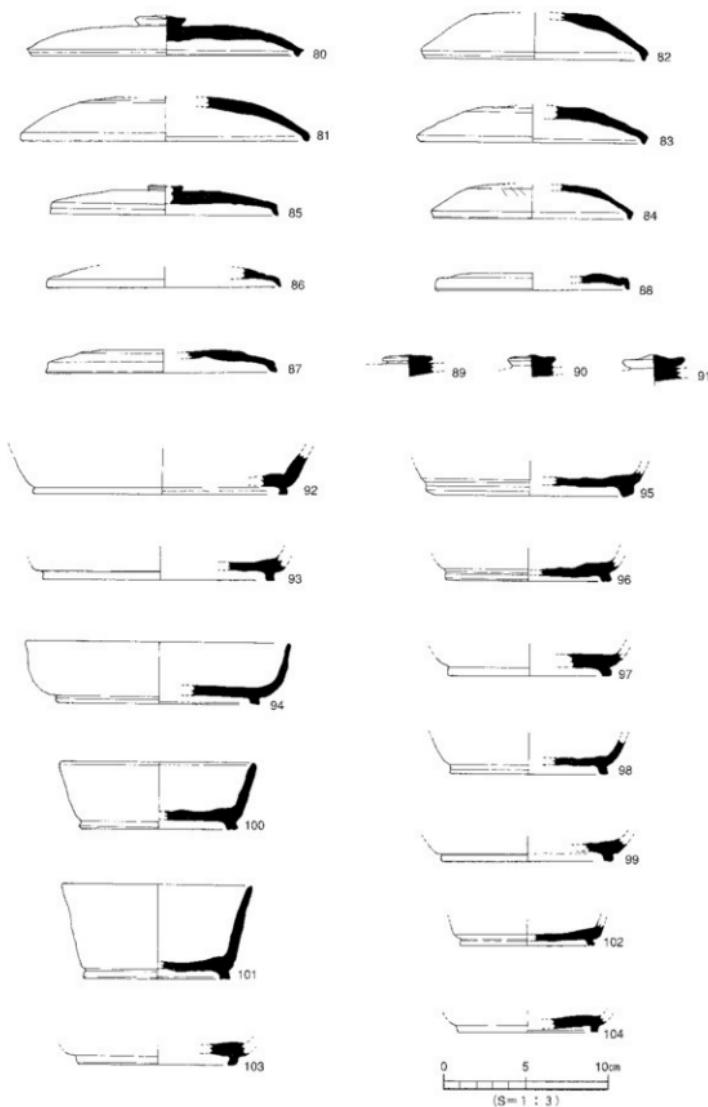
**皿** (155～157) : 155・156は口縁部内面に浅い凹みが巡る。157は口縁端部を尖り気味に仕上げる。すべて赤色塗彩を施す。8世紀前半。

**高壺** (158・159) : 158は高壺の壺部。壺部内面に右下がりの放射状暗文を施す。内外面共に丁寧なヘラミガキ調整を施す。159は脚部片。ヘラ状工具により10面に面取りされる。8世紀前半。

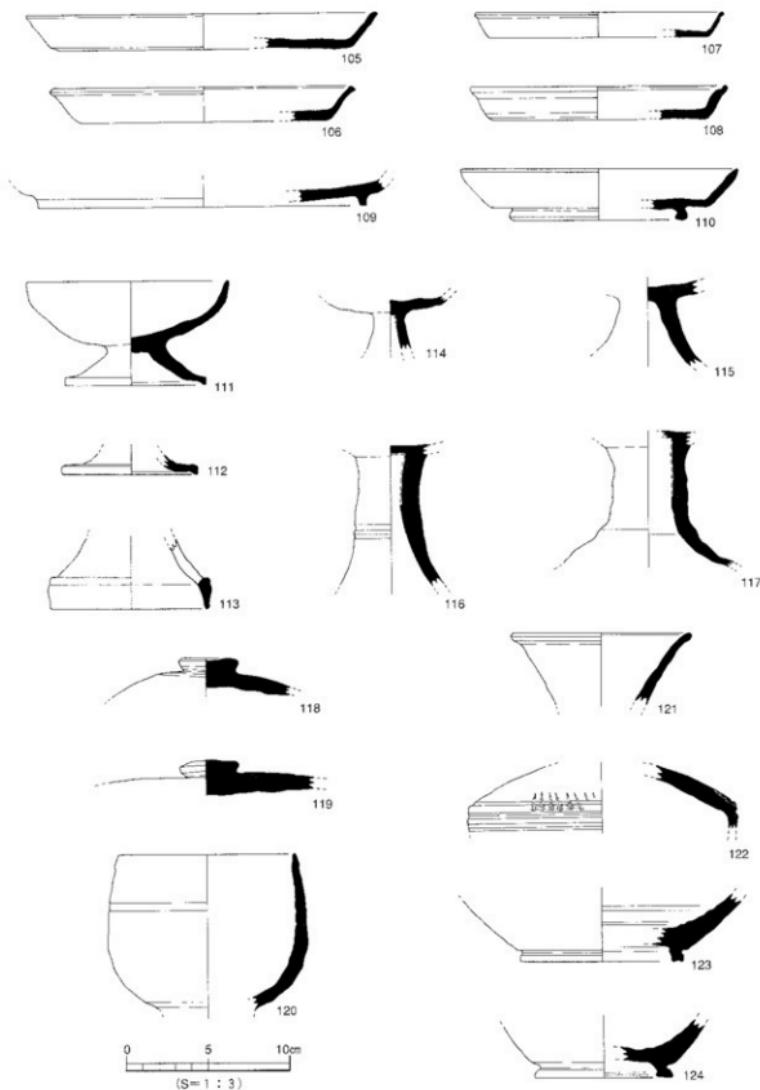
**甕** (160～166) : 160は口縁部は直立し、端部はわずかに外反する。161は口縁部は短く外反し、口縁端部を丸く仕上げる。162～165の口縁部は内湾し、162・163は口縁端面がやや凹む。164の口縁端部は平坦面をもち、165は内傾する面をもつ。166は口縁中位がやや肥厚し、口縁端部は内傾する面をもつ。165・166の胴部外面には粗いハケメ調整を施す。7～8世紀。



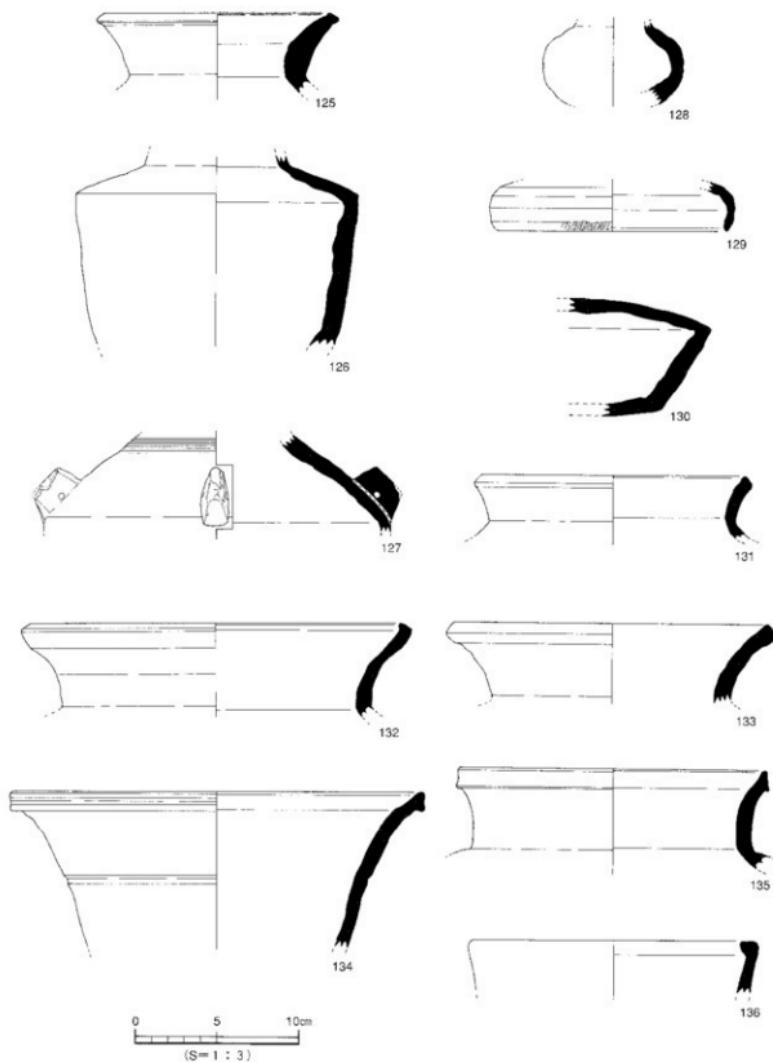
第110図 出土遺物実測図(3)



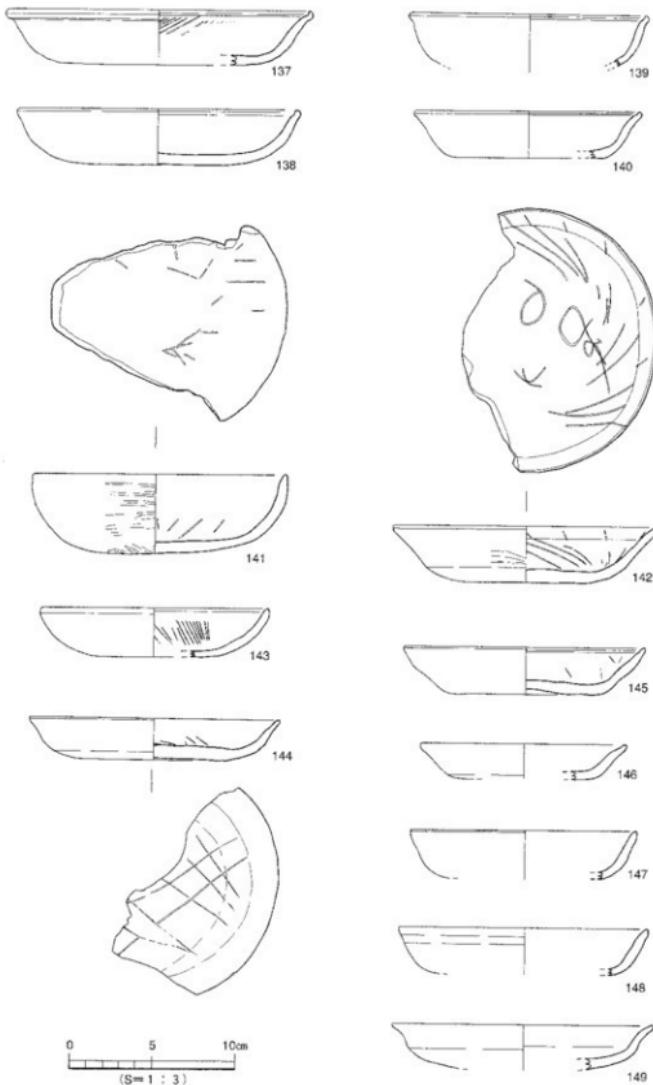
第111図 出土遺物実測図(4)



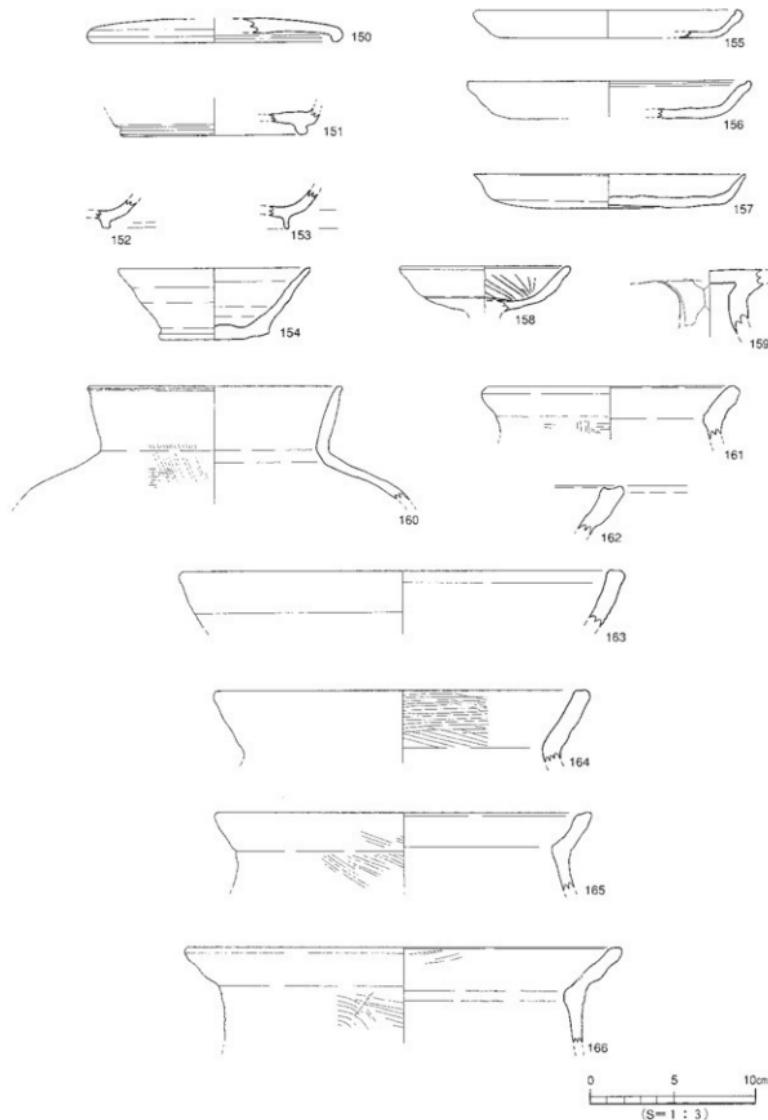
第112図 出土遺物実測図(5)



第113図 出土遺物実測図(6)



第114図 出土遺物実測図(7)



第115図 出土遺物実測図(6)

### 3) 石 器 (第116・117図)

167は緑色片岩製の石庵丁未製品、168・189は砥石、170は完存の安山岩製の叩き石。171は完存の磨き石で、敲き痕をもつ。172は完存の凹石で、擦り痕あり。173は2分の1残存の石皿、174は4分の1残存の砂岩製台石、175～178は用途不明品で、175は完存の砂岩製品である。

### 4) 骨

179 (図版51) は獸齒である。このほかに数点の獸齒の出土がある。

## 4. 小 結

北斎院遺跡の調査では、杭列や柱・小穴等の生活および生産に関連する遺構を確認し、弥生時代から古代までの遺物が得られた。

基本土層からは古墳時代以前、遅くとも古代以前に水田ないし畑地であったことは明らかである。また、第Ⅳ層以下が砂礫層であることから、古代まで居住地としては適さなかったことも分かる。このことは、検出遺構が杭や小さい穴に限られることからも裏付けられよう。一方古墳時代～古代の周辺地には集落遺跡の宮前川遺跡群があり、当遺跡もその一部に含まれると見られ、宮前川遺跡群の居住域の東限を示す資料が得られたことになる。

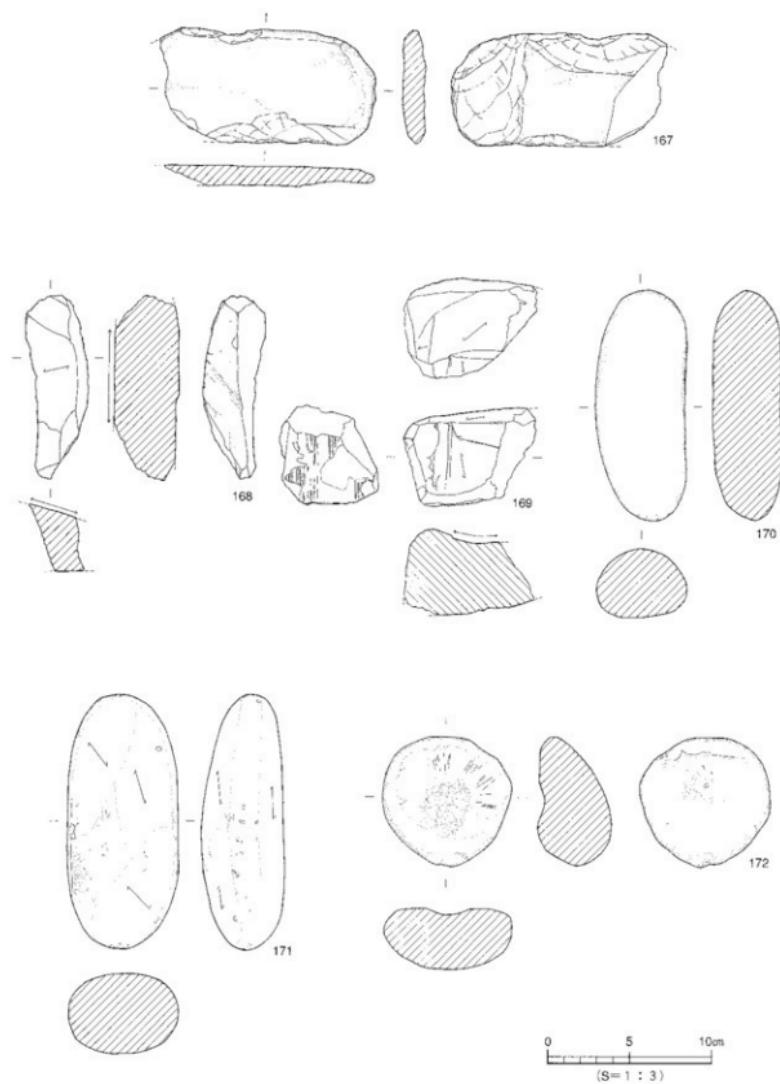
遺物では、古墳時代初頭の近畿系・山陰系土器は宮前川遺跡群内で製作したものと見られるが（山崎 1995・作田 1998）、これまでに出土した土器との比較では、壺の口縁端部の肥厚が典型的な形状よりは小さい点に特徴がある。

さて、注目は古代の土器群であり、特に8世紀代の赤色塗彩や暗文つき土師器は平野内でも類例が少なく、貴重な資料である。ただし、その内容には在地品・搬入品等幾つかのものがあり、搬入元は中部瀬戸内地方に求められるものもある。

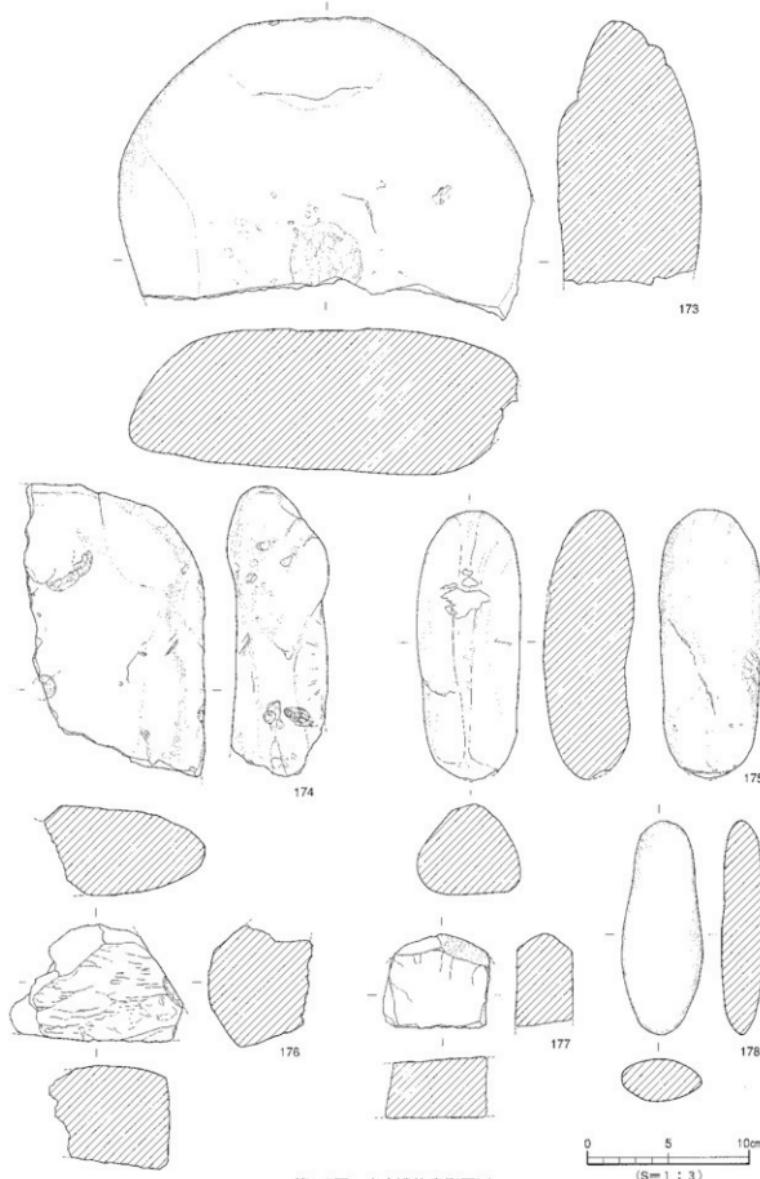
以上、北斎院遺跡の調査の報告をした。狭い調査範囲ではあるが、当地の古墳時代までの集落域や古墳時代と古代の外米系土器が得られたことで、一定の成果が得られたと言える。

## 参考文献

- 作田一耕編 1998 「斎院・古照」財團法人愛媛県埋蔵文化財調査センター  
 山崎 博之 1995 「瀬戸内における弥生時代社会と交流」『古代工藝と交流6』名著出版



第116図 出土遺物実測図(9)



第117図 出土遺物実測図(10)

表35 出土遺物観察表 土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 沈	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
1	壺	底径 残高 4.5 2.1	外傾する立ち上がりをもつ。	ハケ	ナデ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ○	黒度		
2	壺	底径 残高 (4.4) 3.7	立ち上がりをもつ。上げ底。	マメツ (一部ハケ)	ナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) 金 ○	漆付着		
3	壺	口径 残高 (20.0) 2.9	口縁端部に斜格子目文。	ハケ	マメツ	黄褐色 褐色	石・長(1~2) ○			
4	高壺	残高 2.5	环底部。組み合わせ手法。	マメツ	マメツ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) 金 ○			
5	壺	底径 残高 (10.4) 2.9	わずかに上げ度になる。	ミザキ (マメツ)	ナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) ○			
6	壺	底径 残高 (12.0) 3.3	輪台状の上げ底。	マメツ	マメツ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) ○			
7	壺	底径 残高 (10.0) 4.8	外傾する立ち上がりをもつ。	マメツ	マメツ	灰褐色 墨褐色	石・長(1~2) 金 ○			
8	壺	口径 残高 (18.2) 6.8	「く」の字口縁。	ハケ	ハケ	淡黃褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○			
9	壺	口径 残高 (18.6) 2.5	口縁端部はあいまいな面をなす。	ハケ	ハケ	乳白色 淡褐色	石・長(1) 金 ○			
10	壺	口径 残高 (15.8) 2.6	口縁端部は面をなす。	ハケ	ハケ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) ○	漆付着		
11	壺	口径 残高 (18.0) 6.8	6条のクシ彫き波状文。木口押 压の斜格子目文。	⑩ハケ→施文 ⑪ハケ	マメツ ハケ	灰褐色 灰白色	石・長(1~2) ○			
12	壺	口径 残高 (12.0) 4.8	長巻壺の口縁部。	ハケ (マメツ)	マメツ	灰黃褐色 黃褐色	石・長(1~2) ○			
13	壺	残高 3.4	本口押圧の斜格子目文。	ハケ	マメツ	黄褐色 淡黃褐色	石・長(1~4) ○			
14	壺	残高 4.2	本口押圧の斜格子目文。	ハケ	マメツ	淡黃褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○			
15	壺	底径 残高 (5.6) 6.7	中型品底部。	ハケ→一部板ナ デ	ハケ	黄褐色 黑褐色	石・長(1) 金 ○			
16	壺	底径 残高 3.0 3.1	中型品底部。	ナデ	ナデ	黄褐色 褐色	石・長(1~2) 金 ○			
17	鉢	口径 残高 (23.6) 4.5	口縁端部は丸い。	ヨコナデ (一部マメツ)	ヨコナデ	淡黃褐色 黃褐色	石・長(1~2) 金 ○			
18	鉢	口径 残高 (18.0) 5.4	口縁端部は折く丸い。	ナデ	ナデ	橙褐色 棕褐色	石・長(1~3) 金 ○			
19	鉢	口径 残高 (7.8) 4.2	口縁端部は折く丸い。	⑩ハケ→ヨコナデ ⑪ハケ (一部ナ デ)	⑩ハケ ⑪ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) 金 ○			
20	鉢	底径 残高 2.0 2.5	突出する底部。	マメツ	ハケ	灰白色 灰白色	石・長(1~2) 金 ○			

## 遺物観察表

出土遺物観察表 土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
21	甕	口径 残高 3.0	口縁内端部がわずかに丸く肥厚。	ヨコナデ	ヨコナデ	明褐色 明褐色	石・長(1) 金○		
22	甕	口径 残高 1.6	口縁内端部がわずかに丸く肥厚。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗褐色 淡褐色	石・長(1~4) ○	様付着	
23	甕	口径 残高 2.2	口縁内端部がわずかに丸く肥厚。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳白色 乳白色	石金(1) ○		
24	甕	口径 残高 2.0	口縁部分が直立ぎみに立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1) 金○	様付着	
25	甕	口径 残高 2.6	口縁内端部がわずかに立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ ケズリ	乳白色 乳褐色	石・長(1) 金○		
26	甕	口径 残高 1.8	口縁内端部がわずかに立ち上がる。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡黄色 淡黄色	長(1) ○		
27	甕	残高 13.6	球形の胴部。	ハケ	ケズリ	素褐色 素褐色	石・長(1~2) 金○	黒斑 様付着	
28	甕	底径 残高 4.6 3.5	平底。屈曲部に接縫あり。	ハケ	ケズリ	暗灰褐色 淡褐色	石・長(1~2) 金○	黒斑	
29	甕	口径 残高 10.2	口縁部はやや長く、腹部は丸い。	ヨコナデ タタキ→ヨコナデ タタキ→ハケ	ヨコナデ ハケ→ヨコナデ ケズリ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~4) 金○		
30	甕	口径 残高 4.5	口縁端部は面をなす。	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ→ヨコナデ ケズリ	淡黄褐色 淡褐色	長(1) ○		
31	甕	口径 残高 5.0	口縁部は内湾して立ち上がる。	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ ケズリ	灰黃褐色 淡黃褐色	長(1) ○	様付着	
32	甕	口径 残高 3.4	口縁部は脊椎が厚い。古墳中・後期の可能性もある。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	橙褐色 橙褐色	石・長(1~2) 金○		
33	甕	口径 残高 4.0	8条のクシ描き波状文3段。竹管文入り円形小浮文。	ヨコナデ 施文 ミガキ	ミガキ	淡棕色 淡棕色	石・長(1) 金○ (多)		50
34	壺	口径 残高 5.8	直口壺。精製品。小型品。	ヨコナデ ミガキ→ヨコナデ ミガキ	ヨコナデ→ミガキ 今	茶褐色 茶褐色	石・長(1) 金○	漆付着	
35	壺	口径 残高 4.0	直口壺。小型品。	ヨコナデ	ヨコナデ	灰黃褐色 灰白色	石・長(1) 金○		
36	壺	口径 残高 4.2	直口壺。口縁内端部が小さく肥厚。	ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	淡黃褐色 灰白色	石・長(1~2) 金○	黒斑	
37	鉢	口径 残高 5.0	小笠丸底鉢。	ヨコナデ 板ナデカ	ヨコナデ	淡茶褐色 黃棕色	石(1) ○		
38	鉢	口径 残高 4.5	小笠丸底鉢。	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ	淡黃褐色 灰白色	長(1) ○		
39	鉢	口径 残高 3.2	小笠丸底鉢。精製品。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡棕色 淡棕色	石・長(1) ○		
40	鉢	口径 残高 4.0		ヨコナデ ハケ	ヨコナデ	淡黃褐色 淡黃褐色	石・長(1~2) ○		

出土遺物觀察表 土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調査		色調 (外側) (内側)	胎 燒成	備考	(3) 図版
				外 面	内 面				
41	鉢	口径 残高 (17.0) 3.8	直口鉢。口縁部は細く尖る。	①ハケ→ヨコナデ ②ハケ	④⑤ハケ→ヨコナデ ⑥ハケ	黄褐色 黄褐色	石・長(1) ○	焼付着	
42	鉢	口径 残高 (14.0) 3.4	直口鉢。	①②ヨコナデ ③ヨコナデ→ミガキ	④⑤ヨコナデ ⑥ヨコナデ→ミガキ	乳褐色 黄褐色	石・長(1) 金○		
43	鉢	口径 残高 (14.0) 4.0	直口鉢。精製品。	①②ヨコナデ→ハケ ③④ナデ→ミガキ	ヨコナデ→ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1) 金○		
44	鉢	口径 残高 12.4 4.3	直口鉢。精製品。	①②ヨコナデ ③板ナデ状	ヨコナデ (工具痕有)	茶褐色 茶褐色	石・長(1) ○		
45	鉢	口径 溶着 底径 9.0 3.7 1.2	直口鉢。精製品。	ナデ (板ナデ痕有)	ナデ (板ナデ痕有)	茶褐色 茶褐色	細砂 ○		
46	鉢	底径 残高 3.6 3.0	大きな平底。	ナデ	ナデ	灰褐色 灰褐色	密金 ○	黒底	
47	高環	口径 残高 (21.0) 5.7	有段高环。精製品。	ミガキ	ミガキ	茶褐色 茶褐色	密金 ○		
48	高環	口径 残高 (17.0) 3.6	口縁部はわずかに内湾する。	マメツ	ハケ	黄褐色 黄褐色	長(1) 金○		
49	高環	口径 残高 (17.0) 4.7	口縁部は直線的に開く。精製品。	ミガキ	ミガキ	淡褐色 淡褐色	密 ○		
50	高環	口径 残高 (20.1) 3.0	口縁部は直線的に開く。	ナデ	ナデ	淡黃褐色 淡黃褐色	密金 ○		
51	高環	残高 5.9	組み合わせ式。	ミガキ	④⑤ミガキ ⑥シボリ痕	淡黄色 淡黄色	密 ○		
52	高環	底径 残高 (17.2) 2.7	縁部は直線的。	ハケ→ミガキ	ハケ (一部ヨコナデ)	茶褐色 茶褐色	密金 ○	黒底 焼付着	
53	脚付 鉢	口径 残高 (12.2) 4.7	直口口縁部。組み合わせ式。	ハケ	ミガキ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1~3) 金○		
54	小型 器台	口径 残高 9.0 2.0	直口口縁部は端部が細る。	①ヨコナデ ②板ナデ状	③ヨコナデ ④マメツ	淡褐色 茶褐色	石・長(1~2) ○	焼付着	
55	小型 器台	残高 2.9		ミガキ	⑤ミガキ ⑥ナデ	黄褐色 褐色	密金 ○		
56	脚付 鉢	底径 残高 (17.2) 2.0	脚部片。直径0.8cmの円孔。	ミガキ	ハケ	淡茶褐色 淡茶褐色	密金 ○	黒底	
57	脚付 鉢	底径 残高 (14.0) 2.0	脚部片。直径0.5cmの円孔。	ミガキ	ナデ	茶褐色 茶褐色	密 ○	焼付着	
58	鐵形 器台	残高 3.4	突巻状の段部をもつ。	ヨコナデ	ケズリ状→ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) 金○		
59	坏蓋	口径 残高 (14.0) 2.9	天井部と口縁部との境界に凹槽状の凹み。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
60	坏蓋	口径 残高 (15.0) 2.9	天井部と口縁部との境界にはわずかに不明顯な枝をもつ。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	褐灰色 褐灰色	密良 (1) ○		

## 遺物観察表

出土遺物観察表 土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面) (内面)	焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
61	坏蓋	口径 残高 (150) 26	小片、天井部と口縁部との境界 は不明瞭で、口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
62	坏蓋	口径 残高 13.5 42	扁平な天井部。口縁端部に丸目 があり。	④回転ヘラケズ リ1/3 ⑤回転ナデ	回転ナデ	オリーブ灰 オリーブ灰	密 長(1~5) ○	50	
63	坏蓋	口径 残高 (13.5) 42	天井部からならだらかなカーブを 描き1様式に至る。口縁端部は 丸い。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 ○		
64	坏蓋	口径 残高 (10.9) 39	丸みのある天井部から、ならだら かなカーブを描き口縁部に至る。 口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 暗灰色	密 ○		
65	坏蓋	口径 残高 (10.4) かえり往(8.1) 残高 1.9	かえりは口縁部より下方に下が り、かえり端部は尖り気味に丸 い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
66	坏蓋	口径 残高 (10.9) かえり往(9.4) 残高 1.6	口縁部は短く下外方にのび、か えり端部は尖り気味に丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
67	坏身	口径 残高 (11.2) 器高 5.0	口縁部はわずかに外反し、底部 は丸底。底部外表面は回転ヘラキ リ後、尖調整。	①回転ナデ ②回転ヘラキリ ③回転ナデ ④回転ナデ ⑤ナデ	①回転ナデ ②回転ナデ ③ナデ	深色 灰色	密 長(1) ○		
68	坏身	受部径(17.0) 残高 4.0	受部は短く水平にのび、底部は 丸みをもつ。	④回転ナデ ⑤回転ヘラケズ リ1/2	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
69	坏身	受部径(16.9) 残高 3.2	受部は短く水平にのび、底部は 平底風。	④回転ナデ ⑤回転ヘラケズ リ1/3	④回転ナデ ⑤ナデ	青灰色 青灰色	密 長(1~3) ○		
70	坏身	たちあがり径 (12.0) 受部径(15.0) 残高 3.1	たちあがりは内傾し、たちあが り端部は丸い。受部は短く水平 にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
71	坏身	たちあがり径 (11.7) 受部径(14.5) 残高 3.3	たちあがりは内傾し、たちあが り端部は尖り氣味。受部は短く 上外方にのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
72	坏身	たちあがり径 (10.9) 受部径(13.2) 残高 2.6	たちあがりは短く内傾し、底部 は尖り氣味に丸い。受部は太く、 上外方に短くのびる。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
73	坏	口径 残高 (16.0) 3.6	体部は直線的に立ち上がり、口 縁部はわずかに外反する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
74	坏	口径 残高 (8.2) (5.2) 3.3	体部は直線的に立ち上がり、口 縁端部は尖り氣味、底部は平底。	④回転ナデ ⑤回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長(1~2) ○		
75	坏	底径 残高 (7.1) 2.4	体部は内傾氣味に立ち上がり、 底部は平底。	④回転ナデ ⑤回転ヘラキリ ⑥ナデ	④回転ナデ ⑤ナデ	灰白色 灰白色	密 長(1) ○		
76	坏	底径 残高 (6.0) 1.4	底部外表面に「×」状のヘラ記号 あり。	④回転ナデ ⑤回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(1) ○		
77	坏	底径 残高 (8.6) 1.9	体底部境界は囁み、底部は平底。	④回転ナデ ⑤回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長(1~9) ○		
78	坏	底径 残高 6.3 1.8	円錐高台の坏。穿まりながら突 出する近部。底部切り離しは回 転ヘラキリ。	④回転ナデ ⑤回転ヘラキリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長(1~2) ○		
79	坏	底径 残高 (6.8) 1.7	円錐高台の坏。穿まりながら突 出する近部。底部切り離しは回 転ヘラキリ。	④回転ナデ ⑤回転ヘラキリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		
80	坏蓋	口径 つまみ(16.2) 器高 25	天井部からゆるやかな弧を描い て下がり、口縁部は下内方へ屈 曲する。	②回転ナデ ③回転ヘラケズリ1/2 ④回転ナデ	②ナデ ③回転ナデ	灰白色 灰白色	密 ○		

出土遺物觀察表 土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調 (外) (内面)	胎 土 成	備考	図版
				外 面	内 面				
81	坏蓋	口徑 残高 (17.3) 26	天井部からゆるやかな弧を描いて下がり、口縁部は下方へ彎曲する。口縁部は丸い。	②圓板ヘラケズ リ1/3 ③回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○		
82	坏蓋	口徑 残高 (13.5) 28	笠形の天井部をもち、口縁部は下方に彎曲する。口縁外端面はわずかに凹む。		回転ナデ	灰色 灰色	密○		
83	坏蓋	口徑 残高 (13.8) 22	笠形の天井部をもち、口縁部は下方に彎曲する。	③回転ヘラケズ リ1/3 ④回転ナデ	回転ナデ	灰色 青灰色	密長○ (1)		
84	坏蓋	口徑 残高 (12.0) 21	笠形の天井部をもち、口縁部は下方に彎曲する。天井部外側に線刻あり。	③圓板ヘラケズ リ1/3 ④回転ナデ	②ナデ ③回転ナデ	灰色 灰色	密長○ (1)		
85	坏蓋	口徑 つまみ紐(2.1) 残高 18	扁平な天井部をもち、口縁部は下方外方に彎曲する。口縁外端面は凹む。	②回転ナデ ③圓板ヘラケズ リ1/3 ④回転ナデ	⑤ナデ ⑥回転ナデ	灰色 青灰色	密○		
86	坏蓋	口徑 残高 (14.2) 12	扁平な天井部から、わずかに棱をもち口縁部に至る。口縁部は下方に彎曲する。小片。		回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密長○ (1)	
87	坏蓋	口徑 残高 (14.0) 14	扁平な天井部から、わずかに棱をもち口縁部に至る。口縁部は下方外方に彎曲し、口縁外端面は凹む。	③圓板ヘラケズ リ1/2 ④回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密長○ (1)		
88	坏蓋	口徑 残高 (11.8) 10	扁平な天井部からS字状に彎曲し、口縁部は下方に彎曲する。		回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密長○ (1)	
89	坏蓋	つまみ紐 3.0 残高 13	頂部がわずかに突出するつまみ。		回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密長○ (1)	
90	坏蓋	つまみ紐 2.9 残高 13	頂部が突出するつまみ。		回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密長○ (1)	
91	坏蓋	つまみ紐 3.7 残高 16	頂部が突出するつまみ。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○		
92	坏	底径 15.4 高台径 14.9 残高 2.3	体部は直線的に立ち上がり、体底部境界は丸味をもつ。高台は細く、平底面で後池ある。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○		
93	坏	底径 14.8 高台径 14.1 残高 0.8	体底部境界は丸味をもち、高台は低く直立する。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰白色	密全○		
94	坏	口徑 15.8 高台径 12.3 脇高 3.7	体部は内湾気味に立ち上がり、体底部境界は丸味をもつ。高台は外端面で接地。	①回転ナデ ②回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 灰白色	密全○		
95	坏	底径 (13.0) 高台径 (11.6) 残高 1.6	体底部境界は明瞭な棱をもつ。高台は太く外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰白色	密石・長○ (1)		
96	坏	底径 (10.4) 高台径 (10.0) 残高 1.5	体底部境界は丸味をもち、高台は太く外方に開く。	③回転ナデ ④回転ヘラキリ	回転ナデ	灰色 青灰色	密長○ (1)		
97	坏	高台径 9.1 残高 1.1	体底部境界は丸味をもち、高台は太く外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密○		
98	坏	底径 (10.0) 高台径 (9.6) 残高 2.1	体底部境界は棱をもち、高台は角張り外方に開く。	④回転ナデ ⑤回転ヘラキリ	④回転ナデ ⑤ナデ	青灰色 青灰色	密長○ (1)		
99	坏	底径 (10.8) 高台径 (10.3) 残高 1.1	体底部境界は棱をもち、高台は丸味をもつ外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○		
100	坏	口徑 (11.8) 高台径 (9.7) 脇高 4.1	体部は直線的に立ち上がる。高台は体底部境界付近につき、下方外方に斜く開く。	②回転ナデ ③回転ナデ ④回転ヘラキリ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密○		

## 遺物観察表

出土遺物観察表 土製品

(6)

番号	形種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外面)	胎 烧	土 成	備考	図版
				外 面	内 面					
101	环	口径 (11.3) 高台径 (9.0) 器高 3.7	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反す。高台は底部境界付近につき、下外方へ窪く開く。	①回転ナデ ②斜板ナデ ③不明	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○			
102	环	高台径 (8.2) 残高 1.5	高台は底部境界より内側に付き、短く下外方へ圓く。	④回転ナデ ⑤斜板ヘラケズリ	⑥回転ナデ ⑦ナデ	灰色 灰色	密○			
103	环	高台径 (9.6) 残高 1.4	底部境界は丸味をもち、高台は下内方へ開く。	⑧斜板ナデ ⑨不規	回転ナデ	灰白色 灰白色	密長 (1) ○			
104	环	高台径 (8.5) 残高 1.0	高台は底部境界付近につき、短く下方へ下がる。	⑩回転ナデ ⑪回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密○			
105	皿	口径 (21.2) 底径 (18.4) 器高 2.2	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は平面面をもつ。	⑫回転ナデ ⑬斜板ヘラケズリ	回転ナデ	青灰色 灰白色	密○			
106	皿	口径 (18.0) 底径 (15.0) 器高 2.1	体部は外反し、口縁部は外傾する面をもつ。	⑭回転ナデ ⑮斜板ヘラケズリ	回転ナデ	褐灰色 褐灰色	密長 (1~3) ○			
107	皿	口径 (14.8) 底径 (13.4) 器高 1.5	体部は内凹気に立ち上がり、口縁部は外反す。	⑯回転ナデ ⑰回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密長 (1) ○			
108	皿	口径 (15.6) 底径 (12.8) 器高 2.0	口縁部は外溝し、底部内面に凹縞の凹みをもつ。	⑱回転ナデ ⑲斜板ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密長 (1) 金 ○			
109	皿	高台径 (20.0) 残高 1.1	底部境界は丸味をもち、高台は直立する。	⑳回転ナデ ㉑斜板ヘラケズリ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○			
110	皿	口径 (16.8) 高台径 (10.4) 器高 3.1	体部は直線的に立ち上がり、底部境界に明顯な溝をもつ。高台は内側に凹溝する。	㉒回転ナデ ㉓斜板ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰白色	密長 (1~2) ○			
111	高环	口径 (12.1) 脚底径 (8.0) 器高 6.3	輪形の环部。口縁部は直立し、脚底部は尖り気味に丸い。脚底部は下方に屈曲する。	㉔回転ナデ ㉕斜板ナデ	㉖回転ナデ ㉗ナデ	灰色 灰色	密全○			
112	高环	脚底径 (8.2) 残高 1.2	脚底部は下方に屈曲し、脚底部は凹む。	㉘回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密長 (1) ○			
113	高环	脚底径 (9.4) 残高 4.3	脚底部は下方に屈曲し、脚底部に凸縞が並ぶ。透かし有り。	㉙回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密長 (1) ○			
114	高环	残高 3.2	継身の柱部。	㉚回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密○	自然施		
115	高环	残高 4.2	低窪の高环脚部片。	㉛回転ナデ ㉜斜板ナデ	㉝ナデ ㉞回転ナデ	青灰色 青灰色	密全○			
116	高环	残高 8.5	長脚高环の脚部片。柱部中位に沈縞2条が通る。	㉟ナデ ㉟回転ナデ	㉟ナデ ㉟回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密長 (1~2) ○			
117	高环	残高 8.3	高环の柱部。器壁は厚い。	㉛回転ナデ	㉛回転ナデ	灰色 青灰色	密全○			
118	高环	つまみ径 3.7 残高 2.4	有蓋高环の蓋。つまみ中央部が凹む。	㉜回転ナデ ㉝斜板ヘラケズリ ㉞回転ナデ	㉟ナデ ㉟回転ナデ	灰色 灰色	密長 (1~5) ○			
119	高环	つまみ径 3.6 残高 2.2	有蓋高环の蓋。つまみ中央部が突出する。	㉟回転ナデ	ナデ	灰白色 灰白色	密長 (1~3) ○			
120	碗	口径 (10.4) 残高 9.5	台付碗。体部は内溝し、中位に沈縞1条が通る。	㉟回転ナデ	㉟回転ナデ	青灰色 灰白色	密石・長 (1~2) ○			

出土遺物観察表 土製品

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調 整		色調(外側) (内面)	焼 成	備考	図版
				外 面	内 面				
121	壺	口径 残高 4.6 4.4	長頸壺の口縁部。口縁端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	半 ○		
122	壺	残高 4.1	肩部端部に沈線1条が造り、肩部に網突文と沈線を施す。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 良 ○ (1) 金		
123	壺	高台径 残高 9.8 3.7	台付壺の底部。高台は太く直立し、接触面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 暗灰色	密 良 ○		
124	壺	高台径 残高 8.2 2.4	台付壺の底部。高台端部は肥厚し、平坦面で接する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	半 良 ○		
125	壺	口径 残高 13.6 4.8	口縁部は外反し、腹部内面はわずかに上方に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	半 ○	自然釉	
126	壺	残高 11.2	直口壺の肩部。肩部は明瞭な棱をもち、肩部は直線的に立ち上がる。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 良 ○ (1)	自然釉	
127	壺	残高 5.9	四耳壺。前面方代表の耳孔を貼付。径0.5cm大の円孔を穿つ。	⑤回転カキメ ⑤回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1~2) ○		
128	壺	残高 5.0	小口壺。扁球形の胸部。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰黄色	半 ○		
129	壺	口径 残高 13.8 2.9	短頸壺の蓋。口縁部は内済し、口縁端部に刻目を施す。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 良 ○ (1~2)		50
130	平底	残高 7.2	平底の胸部。肩部端部に明瞭な後をもつ。	⑤回転ナデ ⑤回転ヘラケズリ	回転ナデ	灰色 灰色	密 長 (1) ○		
131	壺	口径 残高 16.0 3.8	短く外反する口縁部。口縁端部は内方に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 良 ○ (1)		
132	壺	口径 残高 20.4 5.7	口縁部は内済し、口縁端部内面は内方に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 灰白色	密 長 (1) ○	自然釉	
133	甕	口径 残高 19.0 4.8	口縁部は外反し、口縁端部外面は頭をもつ。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 石・長 (1~2) ○	自然釉	
134	甕	口径 残高 24.8 9.5	やや外反する口縁部。頭部外面に沈線1条が造る。口縁端部は上下方に肥厚し、端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	暗灰色 灰色	密 良 ○ (1)	自然釉	
135	甕	口径 残高 18.6 6.0	短く外反する口縁部。口縁端部は上下方に肥厚し、端面は凹む。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 石・良 (1) 金 ○		
136	甕	口径 残高 15.6 3.2	直立する口縁部。口縁端部は内側に肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 灰色	密 良 ○		
137	坏	口径 底径 (18.2) (13.6) 器高 3.3	口縁端部をわざかに内方に折り曲げる。丸味をもつ平底の底部。赤色塗形。	⑤ココナデ ⑤不明	ココナデ	乳白色 乳白色	半 長 (1) 金 ○	暗文	
138	坏	口径 底径 (16.7) (8.5) 器高 3.3	口縁端部をわざかに内方に折り曲げる。丸味をもつ平底の底部。赤色塗形。	⑤ココナデ ⑤回転ヘラキリ	ココナデ	乳色 乳白色	半 石・淡・金 ○		
139	坏	口径 残高 (14.0) 3.1	口縁端部を内方に折り曲げる。赤色塗形。	ココナデ	ココナデ	乳橙色 乳橙色	半 石・長 (1~2) 金 ○		
140	坏	口径 残高 (13.2) 2.8	口縁端部を内方に折り曲げる。端面内面に浅い凹みが造る。	⑤ココナデ ⑤不明	ココナデ	乳灰色 乳灰色	半 良 (1) ○		

## 遺物観察表

出土遺物観察表 土製品

(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	開 整		色調(外側) (内面)	胎 土 燒 成	備考	図版
				外 面	内 面				
141	环	口径 底径 残高 (15.1) (7.5) 4.8	体部は内湾し、口縁部は直立する。底部外側に施文あり。	⑩ココナデ ⑪ヘラミガキ ⑫ヘラミガキ	ココナデ	乳褐色 乳棕色	密金 ○	暗文	50
142	环	口径 底径 残高 (15.8) (7.6) 3.4	口縁部は外反し、底部は丸い。内面に右下よりの施文あり。底部内面にせん状文を施す。赤色施文。	⑬ヘラミガキ ⑭ナデ ⑮ナデ	ヘラミガキ	乳棕色 乳棕色	密石・長(1~2)金 ○	暗文	51
143	环	口径 底径 残高 (13.6) (7.3) 2.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は丸い気味に丸い。体部内面に右下よりの施文あり。	マメツ	ミガキ?	乳黄色 乳黄褐色	密長(1~2)金 ○	暗文	
144	环	口径 底径 器高 (15.0) (9.0) 2.5	体部中位でやや外反し、口縁部は丸い。体部内面に右下よりの施文あり。	⑩ヘラミガキ ⑪ヘラミガキ ⑫ナデ	ミガキ	乳棕色 乳白色	密石・長(1)金 ○	暗文	51
145	环	口径 底径 器高 (14.6) (9.6) 2.8	体部中位に凸凹をもつ。口縁部は丸い。体部内面に浅い凹みが進る。体部内面に施文あり。	⑩ヘラミガキ ⑪ヘラミガキ ⑫ナデ	ミガキ	乳棕色 乳棕色	密長(1)金 ○	暗文	
146	环	口径 底径 残高 (12.4) (8.0) 2.1	体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに内方へ斜り進げる。赤色施文。	⑬ココナデ ⑭ココナデ ⑮マメツ	マメツ	赤褐色 褐色	密石・長(1~2) ○		
147	环	口径 残高 (13.6) 2.9	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は丸い気味に丸い。赤色施文。	マメツ(ミガキ)	マメツ	乳棕色 乳棕色	密長(1)金 ○		
148	环	口径 残高 (15.0) 2.8	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、底部は丸い気味。	マメツ(ミガキ)	ヨコナデ	乳棕色 乳棕色	密長(1)金 ○		
149	环	口径 残高 (15.7) 2.7	底部中位に凸をもつ。口縁部は外反する。口縁部は丸い。赤色施文。	⑬ヨコナデ ⑭ナデ	ヨコナデ	赤褐色 赤褐色	密 ○		
150	环底	口径 残高 (14.8) 1.9	扁平な天井部。口縁部は下方に膨出し、底部は丸い。赤色施文。	ヨコナデ	ヨコナデ	赤褐色 赤褐色	密金 ○		
151	环	高台径 残高 (11.0) 1.5	体底部境界は丸く、高台は大きく下外方に開く。	マメツ	マメツ	乳棕色 乳白色	密長(1)金 ○		
152	环	残高 1.5	体底部境界は丸く、下方に細く。小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳棕色 乳棕色	密 ○		
153	环	残高 2.4	体底部境界は丸く、下方にびびる。小片。赤色施文。	ヨコナデ	ミガキ	褐色 褐色	密長(1)金 ○		
154	环	口径 底径 器高 11.6 6.6 4.3	円錐高台の环。口縁部は直立し、口縁部は丸い。底部の切り縫しは回転ハカリ技法による。	⑬ヨコナデ ⑭圓盤ヘラカリ	ヨコナデ	黄褐色 黄褐色	密石・長(1~2) ○		
155	三	口径 底径 残高 (15.4) (12.8) 1.6	体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は内方へ斜り進げる。赤色施文。	マメツ	ヨコナデ	乳赤褐色 乳棕色	密長(1) ○		
156	三	口径 底径 残高 (16.7) (11.8) 2.3	口縁部は外反し、口縁部内面に浅い凹みが進る。赤色施文。	マメツ	ヨコナデ	乳棕色 乳棕色	密 ○		
157	三	口径 底径 器高 (16.3) (11.8) 2.1	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は丸い気味に丸い。底部は丸くのある平底。赤色施文。	マメツ	マメツ	乳棕色 乳棕色	密反(1) ○		
158	裏环	口径 残高 (10.2) 2.7	环部中位外面に圓盤状の凹みが造り、环部内面に右下がりの施文を施す。	⑯ミガキ ⑰ヘラミガキ	ヘラミガキ	黄褐色 茶褐色	密石・長(1~3)金 ○	暗文	
159	高环	残高 3.9	柱部はヘラにより10面の削取りが施されている。	⑯ミガキ ⑰ヘラ	ナデ	乳棕色 乳棕色	密長(1) ○		51
160	裏	口径 残高 (15.2) 7.0	口縁部は直立気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外方に肥厚する。	⑬ヨコナデ ⑭ナメツ (4~5本/cm)	ヨコナデ	乳黄色 乳白色	長(1)金 ○		

出土遺物観察表 土製品

(9)

番号	器種	法量 (cm)	形態・施文	調 整		色調 (外面) (内面)	胎 土 燒 成	備 考	図版
				外 面	内 面				
161	甕	口徑 残高 (14.8) 33	くの字状に折れ曲がる口縁部。 器壁は厚く、口縁端部は丸く仕上げる。	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	長 (1~2) ○		
162	甕	残高 3.0	内湾する口縁部。口縁端部は凹む。小片。	ヨコナデ	ヨコナデ	乳褐色 乳褐色	長 (1~3) ○		
163	甕	口径 残高 (25.3) 34	内湾する口縁部。口縁端部は外に肥厚し、口縁端面は凹む。	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長 (1~4) ○		
164	甕	口径 残高 (21.2) 4.1	わずかに内湾する口縁部。口縁端部は平坦面をもつ。	ヨコナデ	ハケ (4本/cm)	褐色 褐色	石・長 (1~4) ○		
165	甕	口径 残高 22.6 4.6	わずかに内湾する口縁部。口縁端部は内傾する。	ヨコナデ ハケ (5本/cm)	ヨコナデ	褐色 褐色	石・長 (1~2) ○		
166	甕	口径 残高 (26.1) 5.9	S字状の口縁部。口縁端部は内傾する。瓶部外側に長いハケメ 調整を施す。	ヨコナデ ハケ (4本/cm)	ハケ→ナデ ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長 (1~6) ○		

表36 出土遺物観察表 石製品

番号	器種	残存	材質	法 量				備 考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
167	石施丁	3/4	緑色片岩	(13.0)	6.9	1.3	765	未製品	
168	砥石			(11.2)	(3.7)	4.9	163		
169	砥石			6.1	(8.1)	5.3	290	舞型転用?	
170	叩石	完存	安山岩	14.0	5.5	4.3	495		
171	磨石	完存		15.5	6.8	4.9	878	敲打痕有り	
172	凹石	完存		7.9	7.7	4.5	350	擦痕有り	
173	石皿	1/2		(25.0)	18.4	8.6	5800		
174	台石	1/4	砂岩	(17.9)	(11.0)	5.6	1565		
175	用途不明品	完存	砂岩	16.4	6.3	5.45	220		
176	用途不明品	完存		13.0	4.9	2.65	215		
177	不明品			(7.2)	(10.2)	6.1	705		
178	不明品			(5.8)	6.4	3.7	245		

## 第6章 調査の成果と課題

これまでの本書では四遺跡の調査について事実とその成果を提示してきた。最後に、遺跡間の関連性や、遺跡が所在する大峰ヶ台丘陵東麓域と、宮前川下流域での調査成果を整理し、報告のまとめとする。

### 1. 大峰ヶ台丘陵東麓域での成果

南江戸桑田遺跡、大峰ヶ台遺跡6次調査地（旧、辻遺跡）、同8次調査地（旧、辻遺跡2次調査地）の三遺跡は大峰ヶ台丘陵東麓域にある。現在までに、この地域では弥生時代～近世の集落や墳墓の存在が判明してきている。

弥生時代では、大峰ヶ台遺跡6次調査地における中期～後期の大量な遺物は第3章の小結で述べられているように大峰ヶ台丘陵の山頂部や中腹以上に営まれた集落の廃棄品と見て良かろう。ただし、大峰ヶ台丘陵山頂部およびその付近での明確な集落関連遺構は中期に限られることから、後期集落の遺構の確認が今後の課題になる。遺物では、2点が注目される。一つ目は中期中葉の上製勾玉586（第81図）であり、松山平野での土製勾玉の出土例は17点（松山市埋蔵文化財センター保管分）と少なく、さらには背部に刻み目をもつ勾玉は初例である。二つ目は後期後葉の壺2点（第37図134・135）で、拡張される口縁端部は器台の受端部形状に類似し、135では文様も同様である。器種間での形状や文様の共通性が知られる資料である。

古墳時代では、8次調査地と隣接する調査地とで20棟弱もの竪穴式住居址が検出され、後期の居住区の範囲が分かってきた。また、8次調査地の掘立柱建物址は竪穴式住居址群から少し離れ、規模が大きいことで、その機能が注目される。しかしながら、詳細な時期を決定できないことから、住居址群との関係を明らかにすることが出来ず、課題になった。

近世では、南江戸桑田遺跡の墳墓群は本報告の最重要資料である。近世の墳墓域は南江戸桑田遺跡とその周辺地に広がり、30例前後の墳墓が存在すると推定される。検出された各墓は遺存の良好なものが多く、棺の埋設方法や古人骨研究にとって、新しい資料が得る結果となった。棺の埋設では桶棺を横倒し埋めており、西日本地域でも珍しい事例であろう。また、古人骨については松下孝幸先生に鑑定を依頼し、多くの結果と所見を頂いている。その詳細な報告は紙面の都合上、「宮前川流域の遺跡II－写真図版・分析編一』にて行うが、ここでは事実報告として、その要約部分を下記しておく。

#### 「南江戸桑田遺跡出土人骨について－要 約－」

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 館長 松下 孝幸

- 1) 南江戸桑田遺跡から出土した近世人骨は合計15体である。そのうち成人骨は11体で、男性骨は6体、女性骨は5体である。また、幼小児骨は4体（29.7%）であった。
- 2) この15体の人骨は、考古学的所見より、近世に属する人骨である。
- 3) 頭蓋長幅示数が算出できたのは女性2例のみで、1例は81.25となり、短頭型に、もう1例は70.31となり、長頭型に属していた。
- 4) 顔面頭蓋の観察や計測はできなかった。

- 5) 鼻根部の観察もできなかった。
- 6) 上腕骨は、男女とも細い。男性では骨体の扁平性はあまり強くないが、女性骨体はやや扁平である。
- 7) 大腿骨は、男性の骨体はやや細い方で、矢田平山ほど太くない。女性骨体もやや細いが、矢田平山よりはわずかに大きい。男性には骨体向側面が後方へ発達したものがみられたが、女性では粗線も骨体両側面の後方への発達はみられない。また、男性では骨体上部の扁平性は弱いが、女性はかなり扁平である。
- 8) 脛骨の大きさは男女とも中程度で、矢田平山ほど太くはない。また、骨体の扁平性は男女ともに認められない。
- 9) 男性の推定身長値は159.20cm（橈骨からの推定値）となり、近世人としては高身長に属している。女性は144.46cm（上腕骨からの推定値）、143.92cm（脛骨からの推定値）となり、低身長値である。男女ともに大腿骨からの推定値を算出することができなかつたが、他の資料とも検討してみたところ、大腿骨からの推定値もこの推定値と大差ないものと推定され、男性はやや高身長、女性は低身長と思われる。
- 10) 左側股関節の骨折例が1例みられた（8号墓入骨、男性）。

## 2. 宮前川下流域での成果

北斎院遺跡は古墳時代～古代の造構面で、杭列や小穴が検出され、宮前川遺跡群の居住域や生産域を知るひとつの情報が得られた。宮前川遺跡群は東に岩子山・御産所の独立丘陵、西に西山・弁天山の独立丘陵があり、その間（300～500m）に宮前川が流れ、それを避けて沖積低地に集落を営まれる。古墳時代～古代の流路は揃めていないが、今回の集落関連造構の検出は旧流路の位置を求める際の一資料になる。また、包含層からは土器・石器等の資料が得られている。古墳時代初頭の土器は近接する宮前川遺跡群の時期と同じだが、僅かに部分形状が異なることは注意を要する。具体的には壺の口縁端部形状が異なるものであり、今後の土器研究上で解決して頂きたい。古代の土器には注目されるものが含まれていた。8世紀代の土器は、松山平野でも出土数が少なく、そのうえ赤色塗彩や暗文土師器は稀であり、稀少な資料が得られたと言える。これらの外來系土師器には在地窯と搬入品とが見られ、搬入元も複数カ所が上げられ、さらなる分析が必要である。

以上で、四遺跡の調査報告を終える。今回の報告では松山平野西部の宮前川中～下流域の遺跡を取り扱った。宮前川流域には、全国的に著名な古墳時代前期の堰が発見された古照遺跡、西日本地域における古墳時代初頭土器の好資料を出土した宮前川遺跡群があり、注目される遺跡が展開している。今回の成果はこれらの遺跡、特に集落立地を考える資料が得られており、一定の評価が与えられるであろう。

なお、本報告書は二分冊で構成されており、分析・観察表・写真図版は松山市文化財調査報告書第107集を見ていただきたい。

## 抄 錄

ふりがな	みやまえがわりゅういきのいせき						
書名	宮前川流域の遺跡 —本文編—						
副書名	南江戸桑田、大峰ヶ台6次・8次、北斎院						
卷次							
シリーズ名	松山市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第102集						
編著者名	梅木謙一・栗田茂絵・宮内慎一・大西朋子						
編集機関	松山市教育委員会・財団法人松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター						
所在地	市教委:〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1 TEL(089)948-6605 埋文:〒791-8032 松山市南斎院町乙67-6 TEL(089)923-6363						
発行年月日	西暦2005年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
南江戸桑田	南江戸5丁目 770他	38201	33° 50' 17"	132° 44' 50"	19880809～ 19881012	2,881	宅地開発
大峰ヶ台6次	朝日ヶ丘1丁目 1376他	38201	33° 50' 26"	132° 44' 37"	19880511～ 19900228	3,000	総合公園整備
大峰ヶ台8次	南江戸5丁目 1544-1他	38201	33° 50' 21"	132° 44' 48"	19890715～ 19890731	1,096	宅地開発
北斎院	北斎院町379-1 他	38201	33° 50' 06"	132° 43' 56"	19750618～ 19750717	600	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
南江戸桑田	近世墓	近世	近世墓群	土師皿・櫛・錢貨 漆器碗	横倒埋納の箱 棺		
大峰ヶ台6次	集落	弥生時代		弥生土器・土製勾玉			
大峰ヶ台8次	集落	古墳時代	掘立柱建物址 墓	須恵器 上鏡器			
北斎院	集落	弥生時代 古墳時代 古代		弥生土器・土師器 須恵器・石器 木杭	外来系土器		

松山市文化財調査報告書 第102集

## 宮前川流域の遺跡 —本文編—

---

平成17年3月31日 発行

編集  
発行 松山市教育委員会  
〒790-0003 松山市三番町6丁目6-1  
TEL(089)948-6605

財團法人 松山市生涯学習振興財團  
埋蔵文化財センター  
〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6  
TEL(089)923-6363

印刷 七キ株式会社  
〒790-8686 松山市湊町7丁目7番地1  
TEL(089)945-0111

---

